六　救命艇ノ周圍ニハ救命索ヲ備フヘシ

第六十三條　總噸數百噸未滿ノ船舶ニ在リテハ檢査官吏ノ見込ニ依リ第四號表ニ掲クル端艇ノ代リニ又總噸數百噸以上ノ船舶ニ在リテハ第四號表中當該噸數ニ對スル端艇ノ容積ト一段下級ノ噸數ニ對スル端艇ノ容積トノ差ニ相當スル端艇ノ代リニ端艇鉤ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環若ハ救命浮帶有スルモノヲ備フヘシ

總噸數百噸以上ノ船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ端艇鉤ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環又ハ救命浮帶ヲ代用スルトキハ端艇鉤ヲ備フヘキ端艇ノ數ハ其ノ容積ニ應シ第四號表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

端艇鉤ヲ備フヘキ端艇ノ數ハ最少艇數十箇以上ヲ要スル船舶ニ在リテハ其ノ定數ヨリ二箇以内、六箇以上ヲ要スル船舶ニ在リテハ一箇ヲ減スルコトヲ得

第六十四條　旅客船ニ非サル船舶ニ在リテハ平水航路ノ船舶ヲ除クノ外旅客定員及船員各一人ニ對シ十立方呎ノ割合ヲ以テ第六十一條第一號及第四號乃至第十號ノ規定ニ從ヒ端艇ヲ備ヘ且迅速安全ニ水面ニ卸シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ但シ其ノ一箇ハ總噸數三百噸以上ノ近海航路ノ汽船及遠洋航路ノ船舶ニ在リテハ第六十二條ニ規定シタル構造ノ救命艇ト爲スコトヲ要ス

旅客船ニ非サル總噸數百噸未滿ノ船舶ニ在リテハ檢査官吏ノ見込ニ依リ前項ノ規定ニ從ヒ備フヘキ端艇鉤ノ代リニ端艇鉤ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環又ハ救命胴衣ヲ用ウルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ端艇又ハ救命筏ノ總容積及救命浮環又ハ救命胴衣ノ數ハ旅客船ニ要スルモノヨリ多キコトヲ要セス

第六十五條　端艇ニ代用スヘキ救命筏ノ空氣箱ハ三立方呎、救命浮環、救命浮帶ハ各一箇ヲ以テ端艇容積ノ十立方呎若ハ十立方呎未滿ニ相當スルモノトス

端艇ニ代用スヘキ救命筏ハ檢査官吏ノ適當ト認ムル構造ニシテ其ノ空氣箱三立方呎ニ付一人ノ割合ヲ以テ算定シタル人員ニ對シ救命筏ノ定員ヲ備フヘシ

第六十六條　救命筏ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　削除

二　救命艇ノ容積十立方呎ニ付一立方呎以上ノ割合ヲ以テ水密ナル空氣箱ヲ備ヘ若空氣箱ノ容積不足ナルトキハ「コーク」其ノ他ノ浮泛物ヲ入レタル完全ノ浮袋ヲ以テ之ヲ補フヘシ但シ「コルク」一、二立方呎ハ空氣箱ノ一立方呎ト同效力トス又鋼製救命艇ニ在リテハ特ニ艇體ノ重量ニ對シ空氣箱ノ容積ヲ適當ニ增スヘシ

三　木製救命艇ノ空氣箱ハ鋼製又ハ黃銅製ト爲スヘシ但シ本令施行前ノ製造ニ係リ檢査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

四　鋼製救命艇ニ在リテハ空氣箱ヲ亞鉛鍍鋼製ト爲スヘシ但シ救命艇ノ外板ト密接セシメサルトキハ空氣箱ヲ銅製又ハ黃銅製ト爲スコトヲ得又特ニ保存上及檢査上差支ナキ構造ト爲ストキハ鋼製區劃ヲ以テ空氣箱ニ代用スルコトヲ得

五　空氣箱ハ艇首、艇尾又ハ兩側ニ設置シ其ノ覆板ヲ固著スルニハ鋼製又ハ黃銅製ノ螺釘ヲ用ウルコトヲ要ス

d＝3√((L×B×D)/(40(H/3+S)))

d ハ端艇鉤ノ徑（吋ニテ）

L ハ端艇ノ長（呎ニテ）

B ハ端艇ノ幅（呎ニテ）

D ハ端艇鉤上部支點ヨリノ高（呎ニテ）

H ハ端艇鉤上部突出ノ徑（呎ニテ）

S ハ端艇鉤上部突出ノ徑（呎ニテ）

明治三十四年一月一日以前ニ製造シタル船舶ニ在リテハ端艇鉤ノ徑ハ前項ニ依リ定メタル徑ノ五分ノ四以上ナルトキハ之ヲ合格ト看做ス

第六十七條　消防具其ノ他ノ屬具ハ航路定限ノ種別ニ依リ第五號表ニ照シ之ヲ備フヘシ

第六十八條　救命浮環ハ船名ヲ記載シ上甲板ニ於テ衆人ノ認メ易ク且投入ニ便宜ナル場所ニ容易迅速ニ取放シ得ヘキ樣配置スヘシ

救命浮環中二箇以上ハ長十五尋以上ノ索ヲ取附ケ置クヘシ

第六十九條　遠洋航路及近海航路（第一區ノミヲ航路定限ト爲ス場合ヲ除ク）ノ船舶ハ近海航路第一區ノ汽船及旅客帆船竝沿海航路ノ旅客船員ニハ旅客船員及船員ニ非スシテ船內ニ於テ職務ヲ行フ者一人ニ付一箇ノ割合ヲ以テ救命胴衣ヲ備ヘ之ヲ容易ニ使用シ得ヘキ樣旅客室、船員室其ノ他適當ノ場所ニ明瞭ナル標示ヲ爲スヘシ

一　船ニ備フル救命胴衣ノ種類ハ二種ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十條　船燈、信號器及救命具ハ朝鮮船燈信號器救命具取締規則ニ依リ檢印ヲ附シタルモノヲ備ヘ且船燈ニ在リテハ其ノ船名及備附年月日ヲ記載シタル檢定證明書ヲ船內ニ保管シ救命胴衣ニ在リテハ旅客室每ニ其ノ著用法說明書ヲ揭ケ置クヘシ但シ朝鮮船舶檢査令第四條第三號ニ掲クル船舶ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

電氣船燈ハ檢査官吏ノ適當ト認ムルモノヲ備フヘシ

第七十條　船燈ノ備附ニ付テハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　燈筒ヲ使用スル船燈ヲ備フル船舶ニ在リテハ船燈一種ニ付沿海航路ノ船舶ナルトキハ三箇以上、近海航路以上ノ船舶ナルトキハ五箇以上ノ豫備燈筒ヲ備フヘシ

二　船燈ハ其ノ射光ニ妨ナキ適當ノ場所ニ之ヲ裝置シ其ノ燈光ヲ甲板上ニ發射セシメサルコトヲ要ス

三　近海航路以上ノ船舶ニシテ綠紅ノ挿込硝子ヲ使用スル舷燈ヲ備フルモノニ在リテハ綠紅各二箇ノ豫備挿込硝子ヲ備フヘシ

四　舷燈ヲ當平架ニ裝置スルトキハ其ノ支點ハ透鏡ノ中心ト同一水平面內ニ在ルコトヲ要ス

五　電氣船燈ヲ常用トスル船舶ニ於テハ屬具表ノ規定ニ依リ舷燈ニ在リテハ一對其ノ他ノ船燈ニ在リテハ各一箇ノミヲ要スル場合ト雖之ニ代用スヘキ油燈ヲ始備スヘシ

六　削除

七　舷燈二對ヲ備フル場合ニ於テハ該燈ハ何レモ隔板ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第七十一條　舷燈ノ隔板ハ左ノ規定ニ從ヒ燈心ヨリ三呎以上前方ニ突出スヘキ長ニ作リ之ヲ船舷又ハ其ノ他ノ固定物ニ取附クヘシ一隔板ノ縱絲ハ船ノ首尾線ニ竝行ナルコ

ル座席ニ充分ナル面積ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ救命筏ニハ錨一箇、錨索二十尋、櫂、救命索其ノ他必要ナル屬具ヲ備ヘ且船名、船籍港及搭載シ得ヘキ人員ヲ表示スヘシ

第六十六條　本令ニ依リ備フヘキ端艇ニハ揚卸ニ適當ナル端艇鉤又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ備フヘシ

端艇鉤ハ沿海航路以上ノ汽船ニ在リテハ鋼製ト爲シ端艇ノ長一呎ニ付五分ノ一吋ノ割合又ハ左ノ算式ニ依リ其ノ徑ヲ定ムヘシ但傳馬船其ノ他ノ艀舟ニハ備フル端艇鉤ノ徑ハ檢査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ定ム

d＝3√((L×B×D)/(40(H/3+S)))

d ハ端艇鉤ノ徑（吋ニテ）

L ハ端艇ノ長（呎ニテ）

B ハ端艇ノ幅（呎ニテ）

D ハ端艇ノ深（呎ニテ）

H ハ端艇鉤上部支點ヨリノ高（呎ニテ）

S ハ端艇鉤上部突出ノ徑（呎ニテ）

十　救命艇ニハ各艇ニ又第四號表ニ掲クル普通端艇若ハ之ニ代用スヘキ傳馬船其ノ他ノ艀舟ニハ其ノ半數以上ニ各一組ノ橈及帆ヲ備ヘ又端艇一隻ナルトキハ必ス之ヲ備フヘシ

第六十二條　救命艇ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　削除

二　救命艇ノ容積ハ十立方呎ニ付一立方呎以上ノ割合ヲ以テ水密ナル空氣箱ヲ備ヘ若空氣箱ノ容積不足ナルトキハ「コーク」其ノ他ノ浮泛物ヲ入レタル完全ノ浮袋ヲ以テ之ヲ補フヘシ但シ「コルク」一、二立方呎ハ空氣箱ノ一立方呎ト同效力トス又鋼製救命艇ニ在リテハ特ニ艇體ノ重量ニ對シ空氣箱ノ容積ヲ適當ニ增スヘシ

三　木製救命艇ノ空氣箱ハ鋼製又ハ黃銅製ト爲スヘシ但シ本令施行前ノ製造ニ係リ檢査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

四　鋼製救命艇ニ在リテハ空氣箱ヲ亞鉛鍍鋼製ト爲スヘシ但シ救命艇ノ外板ト密接セシメサルトキハ空氣箱ヲ銅製又ハ黃銅製ト爲スコトヲ得又特ニ保存上及檢査上差支ナキ構造ト爲ストキハ鋼製區劃ヲ以テ空氣箱ニ代用スルコトヲ得

五　空氣箱ハ艇首、艇尾又ハ兩側ニ設置シ其ノ覆板ヲ固著スルニハ鋼製又ハ黃銅製ノ螺釘ヲ用ウルコトヲ要ス

第六十三條　總噸數百噸未滿ノ船舶ニ在リテハ檢査官吏ノ見込ニ依リ第四號表ニ掲クル端艇ノ代リニ又總噸數百噸以上ノ船舶ニ在リテハ第四號表中當該噸數ニ對スル端艇ノ容積ト一段下級ノ噸數ニ對スル端艇ノ容積トノ差ニ相當スル端艇ノ代リニ端艇鉤ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環若ハ救命浮帶有スルモノヲ備フヘシ

總噸數百噸以上ノ船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ端艇鉤ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環又ハ救命浮帶ヲ代用スルトキハ端艇鉤ヲ備フヘキ端艇ノ數ハ其ノ容積ニ應シ第四號表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

端艇鉤ヲ備フヘキ端艇ノ數ハ最少艇數十箇以上ヲ要スル船舶ニ在リテハ其ノ定數ヨリ二箇以内、六箇以上ヲ要スル船舶ニ在リテハ一箇ヲ減スルコトヲ得

第六十四條　旅客船ニ非サル船舶ニ在リテハ平水航路ノ船舶ヲ除クノ外旅客定員及船員各一人ニ對シ十立方呎ノ割合ヲ以テ第六十一條第一號及第四號乃至第十號ノ規定ニ從ヒ端艇ヲ備ヘ且迅速安全ニ水面ニ卸シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ但シ其ノ一箇ハ總噸數三百噸以上ノ近海航路ノ汽船及遠洋航路ノ船舶ニ在リテハ第六十二條ニ規定シタル構造ノ救命艇ト爲スコトヲ要ス

旅客船ニ非サル總噸數百噸未滿ノ船舶ニ在リテハ檢査官吏ノ見込ニ依リ前項ノ規定ニ從ヒ備フヘキ端艇鉤ノ代リニ端艇鉤ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環又ハ救命胴衣ヲ用ウルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ端艇又ハ救命筏ノ總容積及救命浮環又ハ救命胴衣ノ數ハ旅客船ニ要スルモノヨリ多キコトヲ要セス

第六十五條　端艇ニ代用スヘキ救命筏ノ空氣箱ハ三立方呎、救命浮環、救命浮帶ハ各一箇ヲ以テ端艇容積ノ十立方呎若ハ十立方呎未滿ニ相當スルモノトス

端艇ニ代用スヘキ救命筏ハ檢査官吏ノ適當ト認ムル構造ニシテ其ノ空氣箱三立方呎ニ付一人ノ割合ヲ以テ算定シタル人員ニ對シ救命筏ノ定員ヲ備フヘシ

第六十六條　救命筏ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　削除

二　救命艇ノ容積十立方呎ニ付一立方呎以上ノ割合ヲ以テ水密ナル空氣箱ヲ備ヘ若空氣箱ノ容積不足ナルトキハ「コーク」其ノ他ノ浮泛物ヲ入レタル完全ノ浮袋ヲ以テ之ヲ補フヘシ但シ「コルク」一、二立方呎ハ空氣箱ノ一立方呎ト同效力トス又鋼製救命艇ニ在リテハ特ニ艇體ノ重量ニ對シ空氣箱ノ容積ヲ適當ニ增スヘシ

三　木製救命艇ノ空氣箱ハ鋼製又ハ黃銅製ト爲スヘシ但シ本令施行前ノ製造ニ係リ檢査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

四　鋼製救命艇ニ在リテハ空氣箱ヲ亞鉛鍍鋼製ト爲スヘシ但シ救命艇ノ外板ト密接セシメサルトキハ空氣箱ヲ銅製又ハ黃銅製ト爲スコトヲ得又特ニ保存上及檢査上差支ナキ構造ト爲ストキハ鋼製區劃ヲ以テ空氣箱ニ代用スルコトヲ得

五　空氣箱ハ艇首、艇尾又ハ兩側ニ設置シ其ノ覆板ヲ固著スルニハ鋼製又ハ黃銅製ノ螺釘ヲ用ウルコトヲ要ス

d＝3√((L×B×D)/(40(H/3+S)))

d ハ端艇鉤ノ徑（吋ニテ）

L ハ端艇ノ長（呎ニテ）

B ハ端艇ノ幅（呎ニテ）

D ハ端艇ノ深（呎ニテ）

H ハ端艇鉤上部支點ヨリノ高（呎ニテ）

S ハ端艇鉤上部突出ノ徑（呎ニテ）

明治三十四年一月一日以前ニ製造シタル船舶ニ在リテハ端艇鉤ノ徑ハ前項ニ依リ定メタル徑ノ五分ノ四以上ナルトキハ之ヲ合格ト看做ス

第六十七條　消防具其ノ他ノ屬具ハ航路定限ノ種別ニ依リ第五號表ニ照シ之ヲ備フヘシ

第六十八條　救命浮環ハ船名ヲ記載シ上甲板ニ於テ衆人ノ認メ易ク且投入ニ便宜ナル場所ニ容易迅速ニ取放シ得ヘキ樣配置スヘシ

救命浮環中二箇以上ハ長十五尋以上ノ索ヲ取附ケ置クヘシ

第六十九條　遠洋航路及近海航路（第一區ノミヲ航路定限ト爲ス場合ヲ除ク）ノ船舶ハ近海航路第一區ノ汽船及旅客帆船竝沿海航路ノ旅客船員ニハ旅客船員及船員ニ非スシテ船內ニ於テ職務ヲ行フ者一人ニ付一箇ノ割合ヲ以テ救命胴衣ヲ備ヘ之ヲ容易ニ使用シ得ヘキ樣旅客室、船員室其ノ他適當ノ場所ニ明瞭ナル標示ヲ爲スヘシ

一　船ニ備フル救命胴衣ノ種類ハ二種ヲ超ユルコトヲ得ス

第七十條　船燈、信號器及救命具ハ朝鮮船燈信號器救命具取締規則ニ依リ檢印ヲ附シタルモノヲ備ヘ且船燈ニ在リテハ其ノ船名及備附年月日ヲ記載シタル檢定證明書ヲ船內ニ保管シ救命胴衣ニ在リテハ旅客室每ニ其ノ著用法說明書ヲ揭ケ置クヘシ但シ朝鮮船舶檢査令第四條第三號ニ掲クル船舶ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

電氣船燈ハ檢査官吏ノ適當ト認ムルモノヲ備フヘシ

第七十一條　船燈ノ備附ニ付テハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　燈筒ヲ使用スル船燈ヲ備フル船舶ニ在リテハ船燈一種ニ付沿海航路ノ船舶ナルトキハ三箇以上、近海航路以上ノ船舶ナルトキハ五箇以上ノ豫備燈筒ヲ備フヘシ

二　船燈ハ其ノ射光ニ妨ナキ適當ノ場所ニ之ヲ裝置シ其ノ燈光ヲ甲板上ニ發射セシメサルコトヲ要ス

三　近海航路以上ノ船舶ニシテ綠紅ノ挿込硝子ヲ使用スル舷燈ヲ備フルモノニ在リテハ綠紅各二箇ノ豫備挿込硝子ヲ備フヘシ

四　舷燈ヲ當平架ニ裝置スルトキハ其ノ支點ハ透鏡ノ中心ト同一水平面內ニ在ルコトヲ要ス

五　電氣船燈ヲ常用トスル船舶ニ於テハ屬具表ノ規定ニ依リ舷燈ニ在リテハ一對其ノ他ノ船燈ニ在リテハ各一箇ノミヲ要スル場合ト雖之ニ代用スヘキ油燈ヲ始備スヘシ

六　削除

七　舷燈二對ヲ備フル場合ニ於テハ該燈ハ何レモ隔板ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第七十一條　舷燈ノ隔板ハ左ノ規定ニ從ヒ燈心ヨリ三呎以上前方ニ突出スヘキ長ニ作リ之ヲ船舷又ハ其ノ他ノ固定物ニ取附クヘシ一隔板ノ縱絲ハ船ノ首尾線ニ竝行ナルコ

トヲ要ス

二　隔板ニ取付クル隔障ノ外端ヨリ透鏡ノ前部ノ內緣ヲ貫キ火口ノ內緣ニ引キタル線ハ船ノ首尾線ニ竝行ナルコトヲ要ス

第七十二條　燈塔ヲ取附クルトキハ左ノ規定ニ依ル

一　燈塔ノ窓ノ幅ハ射光角度百十二度半以上ヲ照シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

二　燈塔ノ窓ニハ無色透明ナル硝子ヲ使用スヘシ

三　燈塔ノ窓ニ使用スル硝子ハ二枚以上ノ板ヲ以テ組成スルトキハ竪線ト四十五度ノ角度ニ於テ斜ニ纖合セ其ノ幾ノ幅ハ八分ノ三吋ヲ超ユヘカラス但シ二箇以上ノ燈心ヲ備フル燈塔內ニ使用スルトキハ幾ノ幅ヲ增加シ且其ノ角度ヲ減少スルコトヲ得

四　燈塔內ニ使用スヘキ鞏燈ハ燈塔ノ窓ニ取附ケタル硝子ノ爲其ノ光力ヲ減殺セラルルモ尙規定以上ノ光達距離ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

五　燈塔ニハ隔板ト焰穗トノ位置ヲ檢査シ得ヘキ爲徑一吋半以上ノ孔ヲ穿ツヘシ

第七十三條　汽船及機關ヲ有スル帆船ニハ音響ノ妨ナキ適當ノ場所ニ汽笛若ハ汽角又ハ適當ノ音響信號器ヲ裝置スヘシ

第七十四條　削除

第七十五條　削除

第七十六條　沿海航路以上ノ船舶ニハ其ノ航行スヘキ航路及港灣ノ海圖ヲ備フヘシ

海圖ハ水路部ノ最近刊行ニ係ルモノヲ使用スヘシ但シ最近ノ刊行ニ非サルモ改正ノ廉ヲ記入シタルモノ又ハ外國出版ノ海圖ニシテ最近ノ刊行ニ係ルモノハ之ヲ代用スルコトヲ得

第五章　旅客室及船員常用室

第七十七條　朝鮮船舶檢査令施行規則附錄旅客定員算出表及臨時旅客定員算出表ニ掲クル旅客室ハ檢査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ定ム

一　通路

二　艙口ノ上面

三　艙口ノ周圍一呎十吋マテノ場所

四　載貨門ノ前後各一呎二吋ノ所ヨリ其ノ幅ニテ艙口ノ周圍一呎十吋マテノ場所

五　其ノ他檢査官吏ニ於テ客席ニ不適當ト認ムル場所

第七十八條　削除

第七十九條　沿海航路以上ノ船舶ニハ其ノ航行スヘキ航路及港灣ノ海圖ヲ備フヘシ

海圖ハ水路部ノ最近刊行ニ係ルモノヲ使用スヘシ但シ最近ノ刊行ニ非サルモ改正ノ廉ヲ記入シタルモノ又ハ外國出版ノ海圖ニシテ最近ノ刊行ニ係ルモノハ之ヲ代用スルコトヲ得

第五章　旅客室及船員常用室

第八十條　朝鮮船舶檢査令施行規則附錄旅客定員算出表及臨時旅客定員算出表ニ掲クル旅客室ハ檢査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ定ム

一　通路

二　艙口ノ上面

三　艙口ノ周圍一呎十吋マテノ場所

四　載貨門ノ前後各一呎二吋ノ所ヨリ其ノ幅ニテ艙口ノ周圍一呎十吋マテノ場所

五　其ノ他檢査官吏ニ於テ客席ニ不適當ト認ムル場所

第八十一條　旅客室ノ高ハ六呎以上ナルニ非サレハ客席ヲ二層ト爲スコトヲ得ス

第八十二條　旅客室ハ假設ノ梁上ニ之ヲ設クルコトヲ得ス又旅客甲板ハ梁ニ固著シ塡隙シタルモノナルコトヲ要ス但シ朝鮮船舶檢査令施行規則第六十七條ノ規定ニ依リ漁夫ノ移住民又ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニハ檢査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ適用セサルコトヲ得

前二項ノ規定ハ平水航路及沿海航路ノ船舶ニハ檢査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキニ限リ之ヲ適用セス

第八十三條　客席ニハ縫、疊其ノ他旅客ノ坐臥ニ適スヘキ敷物ヲ備フヘシ

第八十四條　雜居客室ニハ出入口ニ通スル幅一呎十吋以上ノ通路ヲ適當ニ設クヘシ但シ客席ヲ一層ト爲ス場合ニ於テ客席ノ面積ノ六分ノ一ヲ通路ニ充ツルトキ又ハ長及幅十二呎以下ノ客室ニシテ他室ノ通路ニ當ラサルトキハ別ニ通路ヲ設ケサルコトヲ得

第八十五條　左ニ揭クル場所ハ客室ニ充ツルコトヲ得ス

一　外車汽船ノ車覆

二　船首隔壁ノ前方但シ船首材ノ內面ヨリ長最大船幅ノ二分ノ一ニ達スルマテノ場所

三　幅若ハ長一呎十吋未滿ノ場所

四　汽鑵室ノ周圍一呎十吋マテノ場所但シ防熱裝置ヲ施シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

五　其ノ他檢査官吏ニ於テ旅客ノ起臥動作ニ不適當ト認ムル場所

第八十六條　左ニ揭クル場所ハ客室ノ面積ニ算入スルコトヲ得ス

一　通路

二　艙口ノ上面

三　艙口ノ周圍一呎十吋マテノ場所

四　載貨門ノ前後各一呎二吋ノ所ヨリ其ノ幅ニテ艙口ノ周圍一呎十吋マテノ場所

五　其ノ他檢査官吏ニ於テ客席ニ不適當ト認ムル場所

第八十七條　船舶ニ在リテハ艙口ノ上面、周圍及載貨門ノ內側ヲ客席ニ算入スルコトヲ得

艙口ヨリ載貨門ニ至ル除去面積ヲ算出スルニ當リ艙口ト載貨門ノ位置併列セサルトキハ載貨門ノ中央ヨリ艙口ノ中央ニ至ル距離ヲ載貨門ノ幅ニ二呎四吋ヲ加ヘタルモノトヲ相乘シ其ノ積ヲ除去面積ト爲スヘシ

第八十八條　甲艙間機關室ノ前後ニ於ケル雜居客室ノ容積ハ每室其ノ前甲後ノ三箇所ニ於テ上中下ノ幅ヲ測リ前後上下ノ幅各四倍ト中央ノ中幅十六倍トヲ加ヘ之ヲ三十六ニテ除シタルモノヲ平均ノ幅ニ長ヲ乘シ總面積ヲ之ヨリ其ノ室內ニ於ケル蔽圍ノ場所ノ平均幅ニ長ヲ乘シタルモノヲ減シ其ノ殘リ面積ニ平均ノ高ヲ乘シタルモノトス

機關室ノ兩側、甲板上其ノ他ノ場所ニ於ケル客室ノ容積ハ平均ノ幅ニ長、高ヲ乘シ若其ノ室內ニ蔽圍ノ場所アルトキハ其ノ長、幅、高ヲ乘シタル積ヲ減シタルモノトス

船尾斜曲ナル場所ノ容積ヲ算出スルニハ其ノ長（矢）幅（弦）ノ二分ノ一以下ノ所マテハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ又其ノ後部ノ內ノ高ノ中央ニ於ケル第二項ノ規定ニ依リ又其ノ後部ノ高ノ中央ニ於ケル測リ其ノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ最大幅ト高トヲ乘スヘシ

第八十八條　甲板間機關室ノ前後ニ於ケル雜居客室ノ面積ハ每室客席ニ充ツヘキ甲板又ハ棚ノ上面ニ於テ前甲後三箇所ノ幅ヲ測リ前後ノ幅ニ中央ノ幅四倍ヲ加ヘ之ヲ六ニテ除シ平均ノ幅ト中ノ幅トヲ加ヘ之ヲ二ニテ除シ總面積トシ之ヨリ第八十六條ニ揭ケタル除去スヘキ場所ノ面積ヲ減シタルモノトス

機關室ノ兩側、甲板上其ノ他ノ場所ニ於ケル客席ハ平均ノ幅ニ長ヲ乘シ前項ニ準シ通路等ノ面積ヲ減シタルモノトス

船尾斜曲ナル場所ノ面積ヲ算出スルニハ其ノ長（矢）幅（弦）ノ二分ノ一以下ノ所マテハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ又其ノ後部ハ長ノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ最大幅ヲ乘スヘシ

第八十九條　旅客定員ヲ算出スルニハ第八十

七條ノ規定ニ依リ算出シタル旅客室容積及前條ノ規定ニ依リ算出シタル旅客室面積ヲ船舶ノ航路定限及客室ノ等級ニ應シ朝鮮船舶檢查令施行規則附錄旅客定員算出表又ハ臨時旅客定員算出表ニ規定シタル旅客定員一人分最小容積及面積ヲ以テ除シ其ノ容積ト面積トニ依リ算出シタル員數ヲ比較シ其ノ少數ヲ以テ該室ノ旅客定員トス

檢查官吏ハ船舶ノ復原力前項ノ規定ニ依リ算出シタル旅客員數ヲ搭載スルニ不充分ナリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス適當ニ旅客定員ヲ制限スヘシ

第九十條　甲板間ニ旅客室ノ設アルトキハ甲板上ニ出入シ得ヘキ出入口ヲ設ケ之ニ梯子ヲ備フヘシ

沿海航路以上ノ船舶ニ在リテハ前項ノ出入口ハ天候ノ如何ニ拘ラス何時ニテモ甲板上ニ出入シ得ヘキ裝置ト爲シ又其ノ梯子ハ旅客定員五十人未滿ナルトキハ幅一呎十吋以上ノモノ一箇以上若ハ幅一呎十吋以上ノモノ二箇以上又百人以上ナルトキハ五人ニ付二吋ノ割合ノ總幅ヲ有スルモノヲ備フヘシ

同リ梯子又ハ勾配急ニ段面狹クシテ梯欄ニ依ラサレハ昇降シ難キ梯子ハ其ノ幅ノ三分ノ二ヲ以テ出入口ニ近ク梯子ヲ架シタル場合ニ於テ出入口ノ幅カ梯子ノ幅ヨリ狹キトキハ該出入口ノ幅ヲ以テ又梯子ノ下部ニ於テ之ニ面スル壁又ハ他ノ梯子迄ノ距離不充分ニシテ昇降ニ不便ナルトキハ檢查官吏ノ適當ト認ムル幅ヲ以テ前項ノ規定ニ依ル梯子ノ幅ヲ看做ス

朝鮮船舶檢查令施行規則第六十七條ニ該當スル船舶ニ在リテハ檢查官吏ノ見込ニ依リ前二項ノ規定ニ合格セサル梯子ヲ使用スルコトヲ得

梯子ハ成ルヘク前後ノ方向ニ置キ甲板ト六十度以内ノ角度ニ据ヘ欄欄ヲ附シ其ノ後面ニ板ヲ張ルヘシ

第九十一條　旅客室及船員常用室ニハ明取リ及空氣流通ノ爲相當ノ窓ヲ設クヘシ

第九十二條　近海航路以上ノ船舶ノ上甲板下ニ於ケル雜居客室ニハ舷窓、出入口、艙口、天窓其ノ他甲板諸口ヲ除クノ外通風管ヲ上下層旅客甲板ニ各別ニ設ケ其ノ截面ハ旅客定員一人ニ付出口入口ト各二平方吋半ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ機關室ノ兩側ニ於ケル雜居客室ニ於テハ其ノ三分ノ一ヲ增加スヘシ

屈曲セル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ屈曲ノ度ニ應シ各屈曲ニ對シ百分ノ五乃至十其ノ截面ヲ增加スヘシ又屈折セル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ屈折ノ度ニ應シ各屈折ニ對シ百分ノ十六乃至三十六其ノ截面ヲ增加スヘシ

船樓内又ハ甲板室内ニ在ル上甲板口ヲ通シ雜居客室ニ通風シ得ル場合、機械的ノ通風ノ裝置アル場合又ハ雜居客室内ノ容積ニ餘剩アル場合ニ於テハ檢查官吏ノ見込ニ依リ通風管ノ截面ヲ減少スルコトヲ得

朝鮮船舶檢查令施行規則第六十七條ニ該當スル船舶ニ在リテハ通風管ハ檢查官吏ノ見込ニ依リ第一項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第九十三條　船員常用室ハ其ノ船舶ノ航路定限ニ應スル旅客室ニ準シ之ヲ設クヘシ但シ該常用室ハ之ヲ船首隔壁ノ前方ニ設クルコトヲ得

平水航路ノ船舶、旅客船ニ非サル沿海航路ノ船舶及晝間ノ航行ノミニ供スル沿海航路ノ旅客船ニ在リテハ檢查官吏ニ於テ差支ナシト認ムル範圍内ニ於テ船員常用室ノ積量ヲ減スルコトヲ得

第九十四條　朝鮮船舶檢查令施行規則第六十七條ニ該當スル船舶ニシテ高三呎以上ノ舷檣又ハ欄欄ヲ有シ且完全ノ天幕ヲ備フルモノハ其ノ航行豫定時間十二時間未滿ノモノニ限リ上甲板ニ於テ適當ノ場所ヲ限リ旅客ノ搭載スルコトヲ得

航行豫定時間三時間ヲ超エサル平水航路ノ船舶ハ上甲板上又ハ其ノ他閉塞セサル場所ニ於テ檢查官吏ノ適當ト認ムル部分ニ限リ旅客ヲ搭載スルコトヲ得

第九十五條　第九十四條ノ場合ニ於テハ檢查官吏ハ其ノ船舶ノ航路定限ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ旅客ノ搭載ヲ制限スヘシ

一　平水航路ノ船舶ニ在リテハ檢查官吏ノ適當ト認ムル數

二　沿海航路ノ船舶ニ在リテハ檢查官吏ノ適當ト認ムル數

三　晝間ノ航行ニ從事スル船舶ニ在リテハ檢查官吏ノ適當ト認ムル數

第九十六條　移民船ニ在リテハ乙種船舶檢查證書ニ揭クヘキ旅客定員ニ對シ朝鮮ノ港ヨリ初テ到達スヘキ外國ノ港マテノ航行豫定日數ニ應シ第六號表ニ依リ食料及飲用水ヲ備フヘシ

第九十八條　旅客船ニ在リテハ旅客定員及船員ヲ併セ大約五十人ニ付一箇ノ割合ヲ以テ大便所ヲ設クヘシ但シ人員三百人以上ナルトキ又ハ沿海航路以下ノ船舶ナルトキハ檢查官吏ニ於テ其ノ割合ヲ斟酌スルコトヲ得

一　等室用若ハ船員用ノ大便所ヲ區別シテ設クルトキハ一等室定員又ハ船員ヲ除キ其ノ殘餘ノ人員ニ對シ前項ノ割合ヲ以テ之ヲ設クヘシ

朝鮮船舶檢查令施行規則第六十七條ニ該當シ其ノ航行豫定時間十二時間未滿ノ船舶ニ在リテハ特ニ大便所ヲ增備スルコトヲ要セス

第九十九條　旅客船ニ在リテハ上甲板上又ハ上甲板上諸室ノ頂部ニ於テ旅客ノ運動ニ適當ニシテ且安全ナル場所ヲ設クヘシ

移民船ニ在リテハ乙種船舶檢查證書ニ揭クヘキ旅客定員一人ニ付五平方呎ノ割合ヲ以テ前項ノ運動場ヲ設クヘシ

前項ノ場所ハ其ノ形狀ニ從ヒ第八十八條ノ規定ニ依リ面積ヲ算出スヘシ

第百條　旅客船ニ在リテハ高三呎以上ノ舷檣又ハ欄欄ヲ堅牢ニ取附クヘシ但シ第三級船以下ノ船舶又ハ朝鮮船舶檢查令施行規則第六十七條ノ規定ニ依リ漁夫又ハ出稼人ノミヲ搭載スル船舶ニ在リテハ檢查官吏ニ於テ安全ト認ムルトキハ舷檣又ハ欄欄ノ高ヲ減スルカ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

欄欄ノ横棒ハ其ノ距離九吋ヲ超ユルコトヲ得ス但シ之ニ帆布又ハ綱ヲ取附ケ又ハ檢查官吏ニ於テ安全ト認ムルトキハ此ノ限リニ在ラス

第百一條　旅客船ニハ沿海航路以下ノ船舶ニシテ檢查官吏ニ於テ必要ナシト認ムルモノヲ除クノ外適當ノ舷梯ヲ旅客ノ危險又ハ不便ヲ感セサル位置ニ設ケ且堅牢ナル舷梯鉤ヲ備フヘシ

前項ノ舷梯ニハ欄欄ヲ附シ且其ノ裏面ニ板又ハ帆布ヲ張ルヘシ

第百一條ノ二　主トシテ熱帶地方ヲ航行スル船舶ニハ旅客及船員ニ對スル適當ノ防熱設備ヲ爲スヘシ

第三編　機關部

第一章　檢查準備

第百二條　定期檢查ニ於テハ左ノ準備ヲ爲スヘシ

一　吸錘ノ彈環、滑車「タービン」汽機ノ外筐上半、發動機ノ噴油嘴、吸入瓣竝排出瓣等ヲ取外シ排氣喇叭筒、循環喇叭筒、給水喇叭筒、盛水喇叭筒、送油喇叭筒等ノ諸瓣ヲ取外シ冷汽器ヲ開キ置クコト又主軸ニ於テハ曲拐栓黃銅ヲ取外シ主軸受、中間軸受、進力受臺等ノ上半及發動機ノ反轉裝置ヲ取外シ置クコト

二　機關室ノ盛水ヲ排除シ底部ヲ掃除シ泥箱ヲ開キ弄除ヲ床板上ニ取出シ各艙ニ於ケル蒸汽喇筒吸水管ノ弄除ヲ露出シ置クコト

三　正汽鑵、副汽鑵ハ水ヲ「排除シ」入孔其ノ他ノ諸孔ヲ開キ火床火橋ヲ取出シ燃燒室、煙部、水部、汽兜、加熱器ヲ掃除シ燃油器、安全瓣、制限瓣及正壓汽瓣ヲ取外シ置

クコト

四　屬具ヲ適宜ノ場所ニ陳列シ置クコト

第百三條　特別檢查ニ於テハ前條ニ揭ケタル準備ノ外左ノ準備ヲ爲スヘシ

一　補助汽機ヲ開キ置クコト

二　推進器ヲ取外シ螺旋軸ヲ拔取リ置キ又汽機汽鑵ノ要部ニ屬スル鞴、喞子及水線以下ニ於テ船外ニ通スル瓣、喞子ヲ開放シ置クコト

三　吸錘及接續錘ヲ取外シ置クコト

四　正汽管ノ包被並機關室ヨリ各艙ニ通スル諸管ノ包被ヲ取除キ置クコト

五　「タービン」汽機ノ「ロートル」ヲ取外シ置クコト

六　「ギヤード、タービン」汽機ノ減速齒車裝置ノ外筐上半ヲ取外シ置クコト

七　發動機ノ空氣壓搾機及氣槽ヲ開キ置クコト

八　其ノ他檢查官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スコト

第百四條　移民船檢查及臨時檢查ニ於テハ檢查官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第二章　汽機及發動機

第百五條　朝鮮船舶檢查令施行規則第四條第二項ノ規定ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢查ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ

一　汽管、氣管「タービン」汽機ノ外筐及「ホールル」、冷汽器、喇筒、船尾管等ヲ鑄造シタルトキ並仕上ヲ了リタルトキ

二　諸軸、諸錘及「タービン」汽機ノ「ロートル」ノ粗削ヲ爲シタルトキ

三　「ギヤード、タービン」汽機ノ減速齒車ヲ削リタルトキ

四　諸軸、汽管及氣管ノ中心線ヲ定ムルトキ並「タービン」汽機ノ「ロートル」及減速齒車ノ組立ヲ了リタルトキ

五　發動機ノ氣槽ハ各部ノ突緣又ハ鍛接ヲ爲シタルトキ並燒鈍ヲ行ヒタルトキ

六　發動機ノ氣槽各部ノ組立ヲ爲シ鉸釘孔ヲ精穿シタルトキ並全體ノ構造ヲ了リタルトキ

七　汽機及發動機ヲ船内ニ据附クルトキ

八　水壓試驗執行ノトキ

九　其ノ他檢查官吏ノ必要ト認ムルトキ

第百六條　檢查官吏必要ト認ムルトキハ汽機及發動機ノ要部ヲ雛形セシムヘシ

第百七條　汽管及氣管ハ朝鮮船舶檢查令施行規則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢查ヲ執行スルトキハ大修繕ヲ行ヒタルトキ又ハ其ノ現狀ニ依リ檢查官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　單式汽機ニ在リテハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍

二　二聯成汽機ニ在リテハ高壓汽管ハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍、低壓汽管ハ最大汽壓ニ〇、五ヲ乘シタルモノ

三　三聯成汽機ニ在リテハ高壓汽管ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、中壓汽管ハ最大汽壓ニ〇、七五ヲ乘シタルモノ、低壓汽管ハ最大汽壓ニ〇、三ヲ乘シタルモノ

四　四聯成汽機ニ在リテハ高壓汽管ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、第一中壓汽管ハ最大汽壓、第二中壓汽管ハ最大汽壓ニ〇、五ヲ乘シタルモノ、低壓汽管ハ最大汽壓ニ〇、二五ヲ乘シタルモノ

五　「アーセル」式發動機ノ氣管及氣管蓋ハ最大氣壓ノ二倍、水包室ハ每平方吋五十封度

瓣匣、收汽室、收汽管、汽包室、汽管蓋及瓣匣ハ其ノ附屬スル汽管ト同一ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

第百八條　朝鮮船舶檢查令施行規則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢查ヲ執行スルトキハ「タービン」汽機ノ外筐ハサルトキハ該孔ヲ改造セシムヘシ

第百八條ノ二　發動機ノ氣槽及油槽ハ特別檢查ニ於テ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　新ニ使用スル氣槽ハ鉸釘接合ノモノニ在リテハ每平方吋ノ最大氣壓三百封度以上ナルトキハ之ニ二百封度ヲ加ヘタルモノ、三百封度未滿ナルトキハ其ノ一倍半ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ、鉸釘接合以外ノモノニ在リテハ每平方吋ノ最大氣壓ノ二倍

二　既ニ使用シタル氣槽ハ鉸釘接合ノモノニ在リテハ每平方吋ノ最大氣壓三百封度以上ナルトキハ之ニ百封度ヲ加ヘタルモノ、三百封度未滿ナルトキハ其ノ一倍三分ノ一、鉸釘接合以外ノモノニ在リテハ最大氣壓ノ一倍半

三　壓力ヲ受ケサル油槽ハ附屬具ヲ取附ケタル儘十五吋以上ノ水高壓力

四　壓力ヲ受クル油槽ハ附屬具ヲ取附ケタル儘其ノ受クル最大壓力ノ二倍但シ十五吋ノ水高壓力ヨリ少カルヘカラス

既ニ使用シタル氣槽又ハ油槽ニシテ其ノ大部分ヲ改造シタル場合ニ於テハ新ニ使用スル氣槽又ハ油槽ニ準シ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

朝鮮船舶檢查令施行規則第三條第二項ニ揭クル船舶ノ氣槽又ハ油槽ハ初メテ使用スルトキ及以後六箇年每ニ前二項ニ依リ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

定期檢查又ハ臨時檢查ニ於テ檢查官吏カ必要ト認ムルトキハ前各項ニ依リ氣槽又ハ油槽ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

第百九條　冷汽器ハ朝鮮船舶檢查令施行規則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢查ヲ執行スルトキハ冷汽管ヲ取附ケ前ニ每平方吋二十封度ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行シ之ヲ取付ケタル後適當ノ水高壓力ヲ以テ其ノ漏否ヲ檢查スヘシ

前項以外ノ檢查ニ於テ檢查官吏必要ト認ムルトキハ適當ノ水高壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

内部ヲ窺知シ能ハサル表面冷汽器ハ細管ノ幾分ヲ拔出サシメ之ヲ檢查スヘシ

第百十條　船尾管支面材ノ磨耗其ノ内徑ノ二十分ノ一若ハ十六分ノ五吋ニ及フトキハ之ヲ整調スヘシ

第百十一條　削除

第百十二條　削除

第百十三條　削除

第三章　汽鑵

第百十四條　檢查官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ汽鑵包被ノ全部若ハ幾分ヲ取離シ又ハ汽鑵ヲ移動セシムヘシ

小汽鑵、加熱器、汽兜ニシテ狹隘ノ爲檢查スル能ハサルトキハ支柱、焰管等ヲ適宜取除カシメ又人孔狹小ニシテ内部ヲ檢查スル能ハサルトキハ該孔ヲ改造セシムヘシ

第百十五條　朝鮮船舶檢查令施行規則第四條第二項ノ規定ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢査ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ

一　突緣又ハ鍛接シタルトキ

二　燒鈍法ヲ行ヒタルトキ

三　各部ノ組立ヲ爲シ鋲釘孔ヲ精穿シタルトキ

四　全體ノ構造ヲ了リタルトキ

五　水壓試驗執行ノトキ

六　汽罐ヲ船內ニ据附クルトキ

七　其ノ他檢査官吏ノ必要ト認ムルトキ

第百十六條　檢査官吏必要ト認ムルトキハ鉚釘ノ若干ヲ拔取ラシメ又ハ鑛板ヲ錐揉セシムヘシ

第百十七條　削除

第百十八條　人孔及泥孔ハ長徑六吋以上ノモノニ在リテハ相當ノ補强環又ハ突緣ヲ備フヘシ

第百十九條　鍛合シタル鋼板ハ伸張ヲ受クル場所ニ之ヲ使用スルコトヲ得但シ明治三十一年七月一日以前ヨリ使用シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第百二十條　削除

第百二十一條　汽罐ハ特別檢査ニ於テ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　新ニ使用スル汽罐ハ每平方吋ノ最大汽壓百封度ヲ超ユルトキハ其ノ一倍半ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ、百封度以下ナルトキハ其ノ二倍

二　既ニ使用シタル汽罐ハ每平方吋ノ最大汽壓百封度ヲ超ユルトキハ之ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ、百封度以下ナルトキハ其ノ一倍半

既ニ使用シタル汽罐ニシテ其ノ大部分ヲ改造シタル場合ニ於テハ新ニ使用スル汽罐ニ準シ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

朝鮮船舶檢查令施行規則第三條第二項ニ揭クル船舶ノ汽罐ハ初メテ使用スルトキ及以後六箇年每ニ前二項ニ依リ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

定期檢查又ハ臨時檢查ニ於テ檢查官吏カ必要ト認ムルトキハ前各項ニ依リ汽罐ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

暴露甲板ノ機關室口、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋若ハ蓋板及覆布竝適當ノ締具ヲ備ヘ又ハ水密トナルヘキ其ノ他ノ裝置ヲ爲スヘシ但シ檢查官吏ニ於テ水密ト爲スヘキ必要ナシト認ムル甲板口ハ此ノ限ニ在ラス

第百二十二條　削除

第百二十三條　削除

第百二十四條　削除

第百二十五條　削除

第百二十六條　削除

第百二十七條　削除

第百二十八條　削除

第百二十九條　削除

第百三十條　削除

第百三十一條　削除

第百三十二條　正汽管及給水管ハ特別檢查ニ於テ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　新ニ使用スルモノニ在リテハ鍜ヲ取附ケ仕上ヲ爲シタル後銅製汽管ハ最大汽壓ノ二倍、鋼製給水管ハ最大汽壓ノ二倍牛、鐵製又ハ鋼製汽管ハ最大汽壓ノ三倍、鐵製又ハ鋼製給水管ハ最大汽壓ノ四倍

二　既ニ使用シタルモノハ最大汽壓ノ二倍汽罐、正汽管及給水管ニ附屬スル瓣匣膨脹接合及鑄造接合管ハ新ニ使用スルトキハ最大汽壓ノ二倍ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

朝鮮船舶檢查令施行規則第三條第二項ニ揭クル船舶ノ正汽管及給水管ハ初メテ使用スルトキ及以後六箇年每ニ本條第一項ニ依リ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

定期檢查又ハ臨時檢查ニ於テ檢查官吏カ必要ト認ムルトキハ前各項ニ依リ正汽管及給水管ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

第百三十四條　燃油裝置ハ新ニ使用スルトキ又ハ檢查官吏ニ於テ特ニ必要ト認ムルトキハ左ノ壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　送油管、加熱器及其ノ附屬具ハ船內取付後最大壓力ノ二倍但シ每平方吋四百封度ヲ下ルコトヲ得ス

二　前號以外ノ油管ニシテ機關室內ニ在ルモノハ之ヲ取附ケタル後每平方吋三十封度

燃料油ノ接觸スル加熱用蒸氣管ハ船內取附後最大壓力ノ二倍

第百三十五條　削除

第百三十六條　削除

第百三十七條　削除

第百三十八條　削除

第百三十九條　削除

第百四十條　削除

第百四十一條　驗壓器ハ特別檢查又ハ定期檢查ノトキ及檢查官吏ノ必要ト認ムルトキハ驗壓標準器ニ照シ其ノ適否ヲ檢查スヘシ

第百四十二條　削除

汽壓制限ヲ減少シタル爲安全瓣ノ面積ヲ造船規程第二編第五章第七十八條ニ依リ算出シタルモノヨリ小ナルトキハ第百四十九條ノ規定ニ合格シタルトキニ限リ其ノ安全瓣ヲ改造スルニ及ハス

第百四十三條　削除

第百四十四條　削除

第百四十五條　削除

第百四十六條　削除

第百四十七條　削除

第百四十八條　削除

安全瓣ハ塞汽瓣ヲ閉チ充分ニ焚火シ十五分間以上蒸氣ヲ溢出セシメ汽壓ノ昇騰尙汽壓制限ノ十分ノ一ヲ超エサルモノナルコトヲ要ス

第百五十條　屬具ハ第八號表又ハ第九號表ニ依リ之ヲ備フヘシ但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ平水航路ニ關スル規定ニ依ル

第百五十一條　削除

第百五十二條　削除

第百五十三條　削除

第五章　削除

附則

本令ハ朝鮮船舶檢查令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮船舶檢查令施行規則第八十九條ニ揭クル船舶ニ付テハ檢查官吏ハ第八條第一項ノ標準ニ拘ラス特別檢查期間ヲ二年以上三年未滿ノ範圍內ニ於テ定ムヘシ

附　則（大正十一年十一月總令第百四十七號）

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮鐵鋼船檢查規程及ヒ朝鮮機關檢查規程ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ船舶檢查證書又ハ假證書ヲ受有スル船舶ハ其ノ航行期間滿了迄又現ニ定期檢查ヲ申請セル船舶ハ次回定期檢查ヲ申請スル迄從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ノ船體及ヒ機關ノ構造竝ニ鍋重等ヲ定ムル數ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

本令施行ノ際製造中ノ船舶ニ最初ニ備附クヘキ錨、錨鎖、鋼索、操舵鎖及ヒ操舵鋼索ニ付テハ第五十七條第十二號及ヒ第五十九條第五項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

本令施行後最初ニ受クヘキ船底又ハ螺旋軸檢查ノ期日ハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船ニシテ本令施行前六箇年以內ニ發動機ノ氣槽及ヒ油槽、汽鑵、正氣管又ハ給水管ノ水壓試驗ヲ執行シタルコトナキモノ又ハ本令執行後最初ニ申請スル定期檢查ニ於テ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

本令施行後ト雖檢查官吏ニ於テ本令ノ規定ニ依リ救命胴衣ヲ備フルコトヲ得サル事由アリト認メタルトキハ本令施行後遠洋航路及近海航路（第一區ノミヲ航路定限ト爲ス場合ヲ除ク）ノ船舶ニ在リテハ三年內、近海航路第一區ノ船舶ニ在リテハ四年內、沿海航路ノ船舶ニ在リテハ五年內ニ限リ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

附　則（大正十四年十月總令第百一號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依リ第一級船又ハ第二級船ノ資格ヲ失フヘキ木製汽船ニ付テハ本令施行ノ際現ニ有スル船體特別檢查期間ノ滿了迄該資格ヲ存續セシムルコトヲ得

本令ニ依リ第一級船又ハ第二級船ノ資格ヲ失フヘキ木製汽船ニシテ地方ニ於ケル交通狀況其ノ他ノ事情ニ依リ已ムコトヲ得スト認ムルモノアルトキハ管海官廳ニ於テ朝鮮總督府遞信局長ノ指揮ヲ受ケ一定期間ニ限リ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

●朝鮮漁船檢查規程

大正三年五月
總令第七十三號

朝鮮漁船檢查規程左ノ通定ム

朝鮮漁船檢查規程

第一編　總則

第一條　檢查官吏漁船ノ特別檢查ヲ執行シタルトキハ左ノ種別ニ從ヒ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ

一　第一級漁船
二　第二級漁船
三　第三級漁船
四　第四級漁船

第二條　船體要部カ本令ノ規定ニ合格スル漁船ニ在リテハ左ノ標準ニ依リ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ

第一級漁船
- 汽船　上甲板下噸數百噸以上　最强速力八節以上
- 帆船　上甲板下噸數卅噸以上

第二級漁船
- 汽船　上甲板下噸數壹噸以上　最强速力五節以上
- 帆船　上甲板下噸數五噸以上

第三級漁船
- 汽船　上甲板下噸數無制限　最强速力無制限
- 帆船　上甲板下噸數無制限

第四級漁船

船體要部ノ或部分本令ノ規定ニ合格セサル漁船ニ在リテハ檢查官吏カ航行ニ差支ナシト認ムルトキハ檢查官吏ノ相當ト認ムル資格ヲ定ムヘシ

第三條　檢查官吏漁船ノ特別檢查ヲ執行シタルトキハ左ノ標準ニ依リ船體又ハ機關ノ特別檢查期間ヲ定ムヘシ

船體及機關（鍛鉄製ノモノ）
- 製造後十年未滿ノモノ　五年
- 製造後十年以上十八年未滿ノモノ　四年
- 製造後十八年以上ノモノ　三年

製造中檢查ヲ受ケ製造シタル船體又ハ機關ハ年齡十五年未滿ノモノニ限リ各特別檢查ノ期間ヲ一年ツツ延長スルコトヲ得

第四條　第二條ニ揭ケタル船體要部ト雖外板、甲板肋骨、梁及以上各部ノ固著方竝固著

釘ヲ謂フ

第五條　漁船ノ航路定限ハ其ノ資格ニ依リ左ノ標準ニ從ヒ之ヲ定ム

第一級漁船　遠洋航路、近海航路、沿海航路、平水航路

第二級漁船　近海航路、沿海航路、平水航路

第三級漁船　沿海航路、平水航路

第四級漁船　平水航路

第三級漁船ハ特ニ朝鮮總督府遞信局長官ノ認可ヲ受ケ期間ヲ限リ沿海航路外ノ漁場ニ航行スルコトヲ得

第六條　檢查官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ總噸數五十噸未滿又ハ積石數五百石未滿ノ漁船及沿海航路ノ漁業帆船ハ据船ノ上又總噸數二十噸未滿ノ漁船及平水航路ノ漁船ハ碇泊ノ儘特別檢查ヲ執行スルコトヲ得

第七條　漁船ノ檢查ニ關シ本令ニ規定ナキ事項ニ付テハ朝鮮船舶檢查規程ヲ適用ス

第八條　漁船ノ檢查ニ關シ本令及朝鮮船舶檢查規程ニ規定ナキ事項ニ付テハ檢查官吏ノ漁業ノ種類ニ依リ航行ノ適否ヲ標準シ船體、機關、屬具、船員常用室及船員ニ關スル設備ヲ檢查スヘシ

第二編　船體部

第一章　船體

第九條　上甲板下噸數二百噸以上ノ鋼製汽船及上甲板下噸數五百噸以上ノ木製汽船ニ在リテハ機關室ヨリ船尾管ニ通行シ得ヘキ車軸隧道ヲ設クヘシ但シ船尾ニ機關室ヲ有スル漁船ニシテ船尾ニ於テ適當ノ構造ヲ有スト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條　上甲板ニ設クル機關室口、艙口、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ノ緣材ハ其ノ高ヲ甲板上面ヨリ第一級漁船ニ在リテハ九吋以上、第二級漁船ニ在リテハ六吋以上ト爲スヘシ但シ直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於ケルモノ若シ水密裝置ヲ備フルモノハ緣材ノ高ヲ減シ又ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

第十一條　上甲板ニ設クル汽機室口及汽鑵室口ニハ甲板上面ヨリ第一級漁船ニ在リテハ二呎以上、第二級漁船ニ在リテハ一呎半以上高チ有スル圍壁ヲ取附ケ汽機室口ノ上端ニ天窓ヲ設クヘシ

內厚板ヲ取附ケサルコトヲ得

第二十條　彎曲部縱通材ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スコトヲ得

第二十一條　梁厚材ノ寸法ハ之ヲ取附クル梁ノ兩端ノ截面ニ於ケル幅ハ梁ノ幅ヨリ大ナラシムヘシ

第二十二條　第二數五千未滿ノ漁船ニ在リテハ梁受板、梁厚材、船鍔、彎曲部縱通材及側內厚板ノ取扱接ノ長ハ用材ノ二倍以上ト爲シ適當ノ固著釘ヲ以テ之ヲ固著スヘシ

第二十三條　第二數一萬未滿ノ漁船ニ在リテハ梁厚材ヲ以テ船鍔ヲ兼用スルコトヲ得

第二十四條　甲板梁ノ心距朝鮮木船檢查規程第六十三條ニ揭クルモノヨリ小ナルトキハ心距ノ割合ニ應シ梁ノ寸法ヲ減スルコトヲ得

梁柱ノ數ヲ增ストキハ適當ニ梁ノ寸法ヲ減スルコトヲ得

第二十五條　木製梁柱ノ截面ハ船ノ幅ト深ノ和毎一呎半ニ付一平方吋ノ割合ト爲スヘシ

第二十六條　深五呎未滿ノ漁船ニ在リテハ船首肘材ノ數ハ一箇ト爲シ船尾肘材ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十七條　第二數四千四百未滿ノ漁船ニ在リテハ汽機室口、汽鑵室口、長五呎以上ノ艙口兩端梁及檣ノ前後ノ梁ノ外梁曲材ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條　第二數一萬二千五百未滿ノ漁船ニ在リテハ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル場合ト雖梁曲材ニ用ウル敲釘ハ外板マテ貫通セシムルコトヲ要セス

第二十九條　第二數四千未滿ノ漁船ニ在リテハ外部腰板ヲ設クルコトヲ要セス

第三十一條　長、深ノ八倍ヲ超ユル力又ハ長、幅ノ四倍ヲ超ユル漁船ニ在リテハ梁厚材及舷側厚板ハ十分ノ一以上、內龍骨ハ五分ノ一以上過當比例ニ從ヒ適當ニ其ノ截面ヲ增スカ又ハ之ニ代ルヘキ補强構造ヲ爲スヘシ

第三十二條　低船首樓甲板又ハ低船尾樓甲板及上甲板ノ梁厖材竝梁受材又ハ梁受板ハ第二數八千八百未滿ノ漁船ニ在リテハ肋骨ノ心距ノ三倍以上、第二數四千二百未滿ノ漁船ニ在リテハ肋骨ノ心距ノ二倍以上相異ヌヘシ

第三十三條　汽機室口及汽鑵室口ノ兩側ハ堅材ノ木甲板ヲ張ルコトヲ要セス

第二數八千五百未滿ノ漁船ニ在リテハ汽機室口及汽鑵室口ノ牛梁ニ附スル橫梁曲材ハ適當ニ其ノ數ヲ減スルコトヲ得

第三十四條　長十呎未滿ノ機關室口ニハ朝鮮木船檢査規程第百二十九條ニ規定スル構造ヲ爲ササルコトヲ得

第三十五條　雙曲部縱通材ハ各材ノ幅五吋未滿ナルトキハ肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ之ヲ固著スルコトヲ得

第三十六條　梁受材又ハ梁受板ハ其ノ幅七吋未滿ナルトキハ肋骨毎ニ敲釘一箇ヲ以テ之ヲ固著スルコトヲ得

第三十七條　內部腰板及各層梁ノ副梁受板ノ固著敲釘ハ外板マテ貫通セシメサルコトヲ得

第三十八條　第二數五千未滿ノ漁船ニ在リテハ船舷ト舷側厚板トノ固著ニハ打込釘ノミヲ用ウルコトヲ得

第三十九條　梁曲材ノ兩腕ニ於ケル固著釘ノ總數ハ五箇迄之ヲ減スルコトヲ得

第四十條　外板ハ其ノ幅八吋半未滿ナルトキハ肋骨毎ニ二箇、幅八吋半以上十吋半未滿ナルトキハ肋骨毎ニ三箇、幅十吋半以上十一吋半未滿ナルトキハ肋骨毎ニ四箇ノ釘ヲ以テ之ヲ固著スヘシ但シ外板ノ幅十吋半以上ナルトキト雖單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル漁船及肋骨毎ニ木釘ヲ用ウル漁船ニ在リテハ肋骨毎ニ三箇ヲ用ウルコトヲ得

第四十一條　舵心材ノ寸法ハ檢査官吏ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ減少スルコトヲ得

第四十二條　第二數五千未滿ノ漁船ニ在リテハ船底包板ハ最大喫水線上六吋ノ所ニ止ムルコトヲ得

第四十三條　「スクーナー」形漁船ノ「ガフ」ノ徑ハ長五呎ニ付一吋ト爲スコトヲ得

第三章　鋼製漁船

第四十四條　第二級漁船ニシテ漁業上輕快ナル動作ヲ要スルモノニ在リテハ第二數五千未滿ノモノニ限リ檢査官吏ニ於テ適當ノ構造ヲ有スト認ムルトキハ左ノ規定ニ從ヒ各部ノ寸法ヲ減少スルコトヲ得

一　正肋材及副肋材ノ橫逸ノ幅ヲ各二分ノ一吋減少シ且肋骨ノ心距ヲ二十四吋マテニ爲スコト

二　船底鋭形ナル漁船ニ於テ肋板ノ高又ハ厚ヲ增加スルトキハ二箇ノ內龍骨用山形材ヲ以テ中心線內龍骨ヲ構成スルコト

三　梁ヲ肋骨毎ニ取附クルトキハ其ノ寸法ハ正肋材ノ寸法ト均シクシ又梁上側板、梁上帶板、梁上側板ニ附スル山形材ノ寸法ハ之ヲ朝鮮鐵鋼船檢査規程ニ定ムル寸法ノ四分ノ一以內減少スルコト

四　舵心材及舵針ノ寸法ハ檢査官吏ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ減少スルコト

第四章　屬具

第四十五條　近海航路以上ノ帆船ニハ左ノ豫備帆ヲ備フヘシ

スクーナー　テースル　フオールス　ケツチ　スループ	一箇
橫帆ヲ備ヘサル船　カツター　テースル　フオールス　ラツガー	一箇
橫帆ヲ備フル船	フオースル又ハメインスル　一箇 フオールステースル　一箇 トツプスル　一箇

第四十六條　總噸數三十噸以上又ハ積石數三百石以上ニシテ沿海航路以上ノ漁船ニハ其ノ噸數及業務ノ種類ニ應シ左ノ規定ニ從ヒ第一號表ニ依リ漁艇ヲ備フヘシ此ノ場合ニ於テハ朝鮮船舶檢査規程ニ定ムル端艇ヲ備フルコトヲ要セス

第五十六條　屬具ハ第三號表及第四號表ニ依リ之ヲ備フヘシ但シ平水航路ノ漁業汽船ニ在リテハ朝鮮船舶檢査規程第八號表、漁業發動機船ニ在リテハ同第九號表ニ依ル

附則

本令ハ朝鮮船舶檢査令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

第一號表

漁艇表

總噸數	最少艇數一隻ノ最小容積	摘要
三十噸以上五十噸未滿	一七十立方呎	臘虎、腦肭獸獵船ハ二隻以上ヲ要ス
五十噸以上百噸未滿	一八十立方呎	臘虎、腦肭獸獵船ハ二隻以上ヲ要ス、旋網帆船ハ二隻以上ヲ要ス
百噸以上二百噸未滿	一八十立方呎	鯨獵帆船、旋網帆船及流網帆船ハ二隻以上、延繩帆船ハ三隻以上、臘虎、腦肭獸獵船ハ五隻以上ヲ要ス

二　漁艇ニハ必要ナル所屬品ノ外豫備トシテ櫂、櫂架、放水口ノ栓、淦杓及鉤竿各一箇以上ヲ備フヘシ

三　漁艇ニハ適當ナル揚卸裝置ヲ備フヘシ但シ容積百立方呎未滿ノ漁艇ハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

第四十七條　屬具ハ第二號表ニ依リ之ヲ備フヘシ

第五章　船員常用室

第四十八條　近海航路以上ノ漁船ニ在リテハ船員常用室ハ檢査官吏ノ適當ト認ムル場所ニ之ヲ設クルコトヲ得

第四十九條　近海航路以上ノ鰹釣漁船ニ在リテハ船員總數ノ三分ノ一カ必要ノ場合ニ休息シ得ヘキ船室ヲ甲板下ニ有スルトキハ別ニ船員常用室ヲ設ケサルコトヲ得

第五十條　近海航路以上ノ漁船ノ船員常用室ニハ適當ノ通風管ヲ設ケ其ノ截面ハ船員常用室ノ定員一人ニ付二平方吋半ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十一條　近海航路以上ノ漁船ノ船員ヲ算出スルニハ船員室ノ容積及面積ヲ漁船ノ航路定限ニ應シ朝鮮船舶檢査令施行規則附錄旅客定員算出表ニ規定シタル三等旅客定員一人分最小容積及面積ヲ以テ除シ其ノ容積ト面積トニ依リ算出シタル員數ヲ比較シ其ノ少數ヲ以テ該室ノ船員定員トス

第三編　機關部

第一章　汽機、汽鑵及發動機

第五十二條　朝鮮船舶檢査令施行規則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢査ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ

一　汽機ノ汽管、冷汽器、唧筒、船尾管等ノ仕上ヲ了リタルトキ及諸軸、諸錨ノ組創ヲ爲シタルトキ

二　汽鑵各部ノ組立ヲ爲シ鉸釘孔ヲ精穿シタルトキ

三　發動機ノ汽筒、吸錢、諸軸、諸錨及推進器逆轉機又ハ推進器轉翅機ノ仕上ヲ了リタルトキ

四　瓦斯發生爐及瓦斯洗滌器ノ組立ヲ了リタルトキ

五　水壓試驗執行ノトキ

六　其ノ他檢査官吏ノ必要ト認ムルトキ

第五十三條　朝鮮機關檢査規程第六條乃至第十一條、第十五條、第十八條及第十九條ノ規定ハ之ヲ漁船ノ機關ニ適用セス

第二章　機關室ニハ正給水唧筒及正淦水唧筒各一箇ヲ備フヘシ

第五十四條　機關室ニハ正給水唧筒及正淦水唧筒各一箇ヲ備フヘシ

第五十五條　上甲板下ノ噸數百噸未滿ノ近海航路以上ノ漁船ニ在リテハ朝鮮船舶檢査規程第百二十五條ノ裝置ヲ備フルコトヲ要セス

第五十六條　屬具ハ第三號表及第四號表ニ依リ之ヲ備フヘシ但シ平水航路ノ漁業汽船ニ在リテハ朝鮮船舶檢査規程第八號表、漁業發動機船ニ在リテハ同第九號表ニ依ル

附則

本令ハ朝鮮船舶檢査令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二百噸以上三百噸未滿	二八十立方呎	一本釣帆船ハ三隻以上、鯨獵帆船及延繩帆船ハ四隻以上、臘虎、腦肭獸獵船ハ六隻以上ヲ要ス又鯨獵汽船ニトロール漁船、流網汽船、延繩汽船、漁獲物處理運搬船ハ一隻ニ減スルコトヲ得此ノ場合ニハ漁艇ノ容積ヲ適當ニ增スヘシ
三百噸以上四百噸未滿	二九十五立方呎	
四百噸以上五百噸未滿	二百二十五立方呎	
五百噸以上	三百五十立方呎	

備考

旋網帆船及鯨獵帆船ニ在リテハ各艇ノ容積百五十立方呎以上ナルコトヲ要ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石數十石ヲ總噸數一噸ニ換算シテ本表ヲ適用ス

第二號表

船體部屬具表

名稱 / 航路定限	遠洋航路	近海航路	沿海航路	平水航路	摘要
	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船 帆船
救命浮環	四	四	二	二	一
救命焰	二	二	一	一	一
檣燈	一	一	一	一	一
舷燈	一對	一對	一對	一對	一對
碇泊燈	一	一	一	一	一
漁業燈	一揃	一揃	一揃	一揃	一揃
紅燈	二	二	二	二	一
黑球	二	二	二	一	一
火箭又ハ星火テ發スル榴彈	六	六	二	二	一
霧中號角	一	一	一	一	一
號鐘	一	一	一	一	一
國旗	二	二	一	一	一
信號旗	一組	一組	一組	二旗	一旗
信號書	一	一	一	一	一
船名錄	一	一	一	一	一
時計	二	一	一	一	一
時辰儀	一	一	一	一	一
六分儀	一	一	一	一	一
手用測程具	一	一	一	一	一
砂漏計	一	一	一	一	一
手用測鉛	一	一	一	一	一
晴雨計	一	一	一	一	一
寒暖計	一	一	一	一	一
雙眼鏡	一	一	一	一	一
航海曆	一	一	一	一	一
消防用手桶	四	四	四	二	二
斧	二	二	一	一	一

總噸數百五十噸未滿及石數ヲ以テ積量ヲ表示スル帆船竝總噸數五十噸未滿ノ汽船ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ漁船ニ在リテハ一箇ト爲スコトヲ得

總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ漁船ニ在リテハ兩色燈ヲ以テ代用スルコトヲ得

總噸數百五十噸未滿及石數ヲ以テ積量ヲ表示スル帆船竝總噸數五十噸未滿ノ汽船ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

二箇ヲ備フヘキ船ニ在リテハ一箇ヲ天象岬角ヲ測リ得ヘキ器具ヲ備フルコトヲ要ス又近海航路ノ帆船ニ在リテハ漁場ニ依リ日本形磁石ヲ用ウルコトヲ得

總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ漁船ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

總噸數四十噸未滿ノ汽船ハ之ヲ備フルコトヲ要セス

總噸數四十噸未滿ノ汽船ニハ之ヲ備フルコトヲ要セス

總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ漁船ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

海水ヲ測ルニ適當ナルモノナルコトヲ要ス

總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ漁船ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

第三號表

機關部屬具表

名稱 / 員數	遠洋航路	近海航路以下	摘要
吸錢彈環	各吸錢ニ付一組	〃	同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組ニ止メ又機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルコトヲ得
吸錢發條	各吸錢ニ付一組	同上	同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組ニ止ムルコトヲ得
吸錢螺釘及母螺	總數ノ四分ノ一	同上	

滑　鉾	各滑鉾ニ付一箇ツヽ	機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルコトヲ得
接續鉾上下ノ螺釘	上下各一組	同上
主軸受螺釘及母螺	一組	機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルコトヲ得
接軸鍔螺釘及母螺	一組	同上
冷汽管	總數ノ三十分ノ一	但シ十本ヲ最少ノ限度トス
冷汽管塡充總數ノ二十分ノ一		但シ三十箇ヲ最少ノ限度トス 木製ナルトキハ塡充器ヲ添フヘシ
排氣喞筒鉾	一組	單鉾裝置ナルトキ
半	同上	多鉾裝置ナルトキ
循環喞筒鉾	一組	單鉾裝置ナルトキ
半	同上	多鉾裝置ナルトキ
給水喞筒鉾及座	二組	護謨製ナルトキ
一	同上	金屬製ナルトキ
制限鉾及座	一組	同上
逸水喞筒鉾及座	二組	同上　護謨製ナルトキ
一	同上	金屬製ナルトキ
安全鉾發條	一箇	同上
火床　梁	總數ノ五分ノ一	同上　但シ四箇ヲ最少ノ限度トス
驗水器硝子	各鐘ニ付四箇	同上
管擴器	一箇	同上
管　塞　器	八箇	同上　但シ其ノ內半數ハ煮鐵前面ニ於テ直ニ使用シ得ヘキモノナルコトヲ要ス
滑車及綱	一組	—
		機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルコトヲ得
螺旋切道具	一組	同
雜孔器	一箇	同上
据附萬力	一箇	同上
鐵　板	若干	同
鐵　棒	若干	—
螺釘及母螺	若干	同上
機關室用小道具	一揃	同上
驗　鹽　器	一箇	同上
寒暖計	一箇	同上

備考

汽機二臺以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ表中ノ吸鎲彈環乃至淦水喞筒鉾及座ハ汽機一臺分ノ外之ヲ備ヘサルコトヲ得

第四號表

發動機屬具表

種類 / 名稱	電氣點火式	火管點火式	自然點火式
吸鎲彈環	氣筒二箇毎ニ一組	同上	同上
吸入鉾	氣筒二箇毎ニ一箇	同上	同上
排出鉾	氣筒一箇毎ニ一箇	同上	同上
發條	各種一揃	同上	同上
給油喞筒鉾	給油喞筒一箇毎ニ一組	同上	同上
冷管喞筒鉾	氣筒二箇毎ニ一組	同上	同上
點火器	—	氣筒一箇毎ニ一箇	氣筒一箇毎ニ一箇
電氣點火器	氣筒二箇毎ニ一箇	—	—
發電子	一箇	—	—
電池	四箇	—	—
起動用燈	發動機一臺毎ニ一箇	同上	氣筒ノ數二箇又ハ一箇毎ニ一箇、氣筒ノ數一箇又ハ一箇ヲ加フル毎ニ一箇ヲ加フ
同火口	燈一箇毎ニ一箇	同上	同上
接續鉾上下螺釘	一組	同上	同上
螺釘及母螺	各種若干	同上	同上
機關室用小道具	一揃	同上	同上

備考

發電子ハ發電機ヲ以テ點火スル發動機ニ限リ之ヲ備フヘシ

起動用燈ハ自然點火式發動機ニ在リテハ本表ニ揭クルモノヽ外常用トシテ氣筒一箇毎ニ一箇ヲ備フヘシ

◉佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ檢査ニ關スル件

大正十五年一月　總令第七號

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ檢査ニ關スル件左ノ通定ム

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ檢査ニ關シテハ大正十四年遞信省令第八十六號ニ依ル但シ同令中船舶檢査法施行細則トアルハ朝鮮船舶檢査令施行規則、船舶檢査規程第四號表トアルハ朝鮮船舶檢査規程第四號表、船舶檢査規程第五十八條トアルハ朝鮮船舶檢査規程第六十二條、滿載吃水線トアルハ船舶滿載吃水線法ニ依リ標示シタル滿載吃水線、附錄書式甲、乙（備考欄ヲ除ク）及丙中大正十四年遞信省令第八十六號トアルハ大正十五年朝鮮總督府令第七號トス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年十二月　遞令第八十六號

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ檢査ニ關スル件左ノ通定ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　佛蘭西國（其ノ殖民地及管治地域ヲ含ム）ニ航行セムトスル日本船舶カ別種檢査證書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ヨリ附錄書式甲ニ依リ管海官廳ニ別種定期檢査ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ船舶檢査手帖ヲ添附スヘシ

別種檢査證書ヲ受有スル船舶ハ其ノ證書ノ有效期間ト雖繰上ケ別種定期檢査ヲ申請スルコトヲ得

第二條　前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢査官吏ヲシテ當該船舶ヲ檢査セシメ第三條及第四條ノ規定ニ適合スト認メタルトキハ附錄書式乙ノ別種檢査證書ヲ交付スル別種檢査證書ハ船舶ノ航行期間滿了ノ日ヲ以テ其ノ有效期限トス但シ當該船舶カ船舶檢査法施行細則ノ規定ニ依リ回航認可證書ヲ受有スル場合ニ於テハ該證書ノ有效期間內仍之ヲ有效トス

第三條　旅客船ノ端艇及救命設備ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス

一　船舶檢査規程第四號表中當該船舶ノ總噸數ニ對シ定ムル所ヨリ一段下級ノ總噸數ニ對シ定ムル所ニ從ヒ端艇鉤ヲ有スル端艇ヲ備フルコトヲ要ス

二　端艇鉤ヲ有スル端艇ノ數及容積カ第一號ニ依リ備フヘキ端艇ノ數及容積ニ足ラサルモ現ニ之ヲ備フル船舶ノ旅客定員及船員ノ總員數ヲ一人ノ容積〇・二八三立方（一〇立方呎）ノ割合ヲ以テ搭載シ得ルトキハ其ノ不足ハ之ヲ補充スルコトヲ要セス

三　第一號ニ依リ備フヘキ端艇鉤ヲ有スル端艇カ現ニ之ヲ備フル船舶ノ旅客定員及船員ノ總數ヲ一人ノ容積〇・二八三立方（一〇立方呎）ノ割合ヲ以テ搭載シ得サルトキハ其ノ不足ヲ以テ搭載シ得ルトキハ其ノ不足ハ檢査官吏ニ於テ適當ト認メタル端艇、曇込端艇又ハ救命筏ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ要ス但シ此ノ場合ニ於テ救命筏ノ空氣箱容積〇・〇八五立方（三立方呎）ノ端艇容積〇・二八三立方（一〇立方呎）ノ割合ヲ以テ搭載シ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

四　第一號ニ依リ備フヘキ端艇鉤ヲ有スル端艇ノ數及容積ノ二分ノ一以上ハ船舶檢査規程第五十八條ニ定ムル救命艇ト爲スコトヲ要シ其ノ他ノ端艇ハ同條ノ規定ニ對シ二分ノ一ノ浮泛力ヲ有スル救命艇又ハ二艘以內ヲ限リ普通端艇ト爲スコトヲ得

第四條　大正十五年一月二十九日以後ニ龍骨ヲ据附クル船舶ノ旅客室、船員室、病室等ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス

一　等及二等ノ旅客室ハ旅客一人ニ付三・五立方（一二三・六立方呎）以上ノ容積ヲ要ス但シ此ノ容積ノ算定ニ付テハ寢臺其ノ他附屬品ノ占ムル容積ヲ控除スルコトヲ要セス

二　三等旅客室ハ滿載吃水線ノ直下ノ甲板ヨリ下方ニ設クルコトヲ得ス

三　港間ノ直航時間カ通常四十八時間ヲ超ユル航海ヲ爲ス船舶ニ於テハ三等旅客室ハ旅客一人ニ付上甲板以上及上甲板直下ノ甲板間ニ在リテハ一・七五立方（六・一立方呎）以上、其ノ他ノ甲板間ニ在リテハ三立方（一・六立方呎）以上ノ容積ヲ要ス

四　三等旅客室ニハ旅客一人ニ付長一・八三（六呎）、幅五六（一センチメートル）（一・八三呎）以上ノ寢臺一箇ヲ備フヘシ

五　船員常用室ハ便所ヲ除キ船員一人ニ付三・五立方（一二三・六立方呎）以上ノ容積及一・五平方（一六・一平方呎）以上ノ甲板面積ヲ要シ船員寢室ハ船員一人ニ付二・一立方（七五・九立方呎）以上ノ容積及一・一五平方（一二・四平方呎）以上ノ甲板面積ヲ要シ船員寢室ニハ各人專用ノ寢臺ヲ備フヘシ

六　第三號ニ揭クル船舶ニシテ船員ヲ含ミ百人ヲ超ユル人員ヲ搭載スルモノニハ病室ヲ上甲板以上又ハ上甲板直下ノ甲板間ニ於テ成ルヘク旅客室及船員室ヨリ隔離シタル箇所ニ設ケ搭載人員二百人迄ハ四十人毎ニ一箇ノ病室用寢臺ヲ備ヘ二百人ヲ超ユルトキハ超過人員六十人毎ニ病室用寢臺一箇ヲ增備スヘシ

七　病室附屬トシテ診療室ニ乘用シ得ヘキ藥局、浴室、便所及前號ノ病室用寢臺數ノ四分ノ一ヲ備フル隔離病室ヲ設クヘシ

八　病室ハ收容人員一人ニ付四立方（一四・三立方呎）以上ノ容積ヲ要ス

九　病室ニハ規定數ノ二分ノ一以上ノ寢臺ヲ常置スヘシ

十　病室用寢臺ハ金屬製ニシテ長一・八三（六呎）以上、幅六〇（二呎）以上ノモノトシ之ヲ据附クルニハ其ノ兩側ニ幅一（三・二八呎）以上ノ通路ヲ存スヘシ又病室用寢臺ハ上下ニ重ネテ据附クルコトヲ得ス

十一　糧食庫及飲料水槽ハ內容物ノ腐敗、汚穢其ノ他使用上不都合ヲ生セサル樣適當ニ設備スヘシ

第五條　別種檢査證書ヲ受有スル船舶カ其ノ證書ノ有效期間內ニ於テ非旅客船ヨリ旅客船ニ變更シタルトキ又ハ旅客船ノ端艇及救命設備若ハ大正十五年一月二十九日以後龍骨ヲ据附ケタル船舶ノ旅客室、船員室、病室又ハ衞生設備ニ變更ヲ生シタルトキハ第一條ニ揭クル者ハ遲滯ナク附錄書式丙ニ依リ管海官廳ニ別種臨時檢査ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依ル申請書ニハ現ニ受有スル

別種檢査證書及船舶檢査手帖ヲ添附スヘシ

第六條　前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢査官吏ヲシテ當該船舶ヲ檢査セシメ本令ノ規定ニ適合セスト認ムルトキハ別種檢査證書ヲ無效トシ之ヲ廢棄スヘシ

第七條　第五條ニ揭ケル場合ヲ除クノ外別種檢査證書ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ第一條ニ揭ケル者ハ遲滯ナク新舊事項ヲ具シ最寄管海官廳ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ前項ノ規定ニ依ル申請書ニハ船舶檢査手帖ヲ添附スヘシ

第八條　第一條ニ揭ケル者別種檢査證書ノ滅失又ハ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ別種檢査證書ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ之ヲ申請スヘシ

第一條ニ揭ケル者別種檢査證書カ滅失シタル場合ニ於テ其ノ再交付ヲ申請セサルトキハ其ノ滅失ノ旨ヲ最寄管海官廳ニ届出ツヘシ

第九條　別種檢査證書カ無效又ハ不用トナリタルトキハ遲滯ナク最寄管海官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第十條　大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ニ在リテハ第一條ニ揭ケル者ヨリ最寄管海官廳ニ申請シ其ノ事實ノ證明ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル申請書ニハ船舶檢査手帖ヲ添附スヘシ

第一項ノ規定ニ依ル證明書ハ附錄書式丁ニ依ル

第十一條　管海官廳ハ別種檢査證書又ハ前條ノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスル船舶ノ龍骨据附日ヲ認定スルニ當リ申請人ヲシテ必要ナル證憑ヲ提示セシムルコトアルヘシ

第十二條　本令ニ依ル檢査ノ申請人ハ申請ノ際別種定期檢査ニ在リテハ二十圓、別種臨時檢査ニ在リテハ十圓ノ檢査手數料ヲ管海官廳ニ納付スヘシ

檢査手數料ハ申請人ノ都合ニ依リ申請ヲ取下ケタル場合ト雖之ヲ返還セス

第十三條　別種檢査證書又ハ第十條ノ證明書ノ交付、書換又ハ再交付ノ申請人ハ申請ノ際證書一通ニ付四圓ノ手數料ヲ納付スヘシ

第十四條　前二條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書ニ貼付シテ之ヲ納付スヘシ

手數料納付書ニ貼附シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノト但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スヲ妨ケス

第十五條　本令ノ規定ニ依ル手數料ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ課セス

書式甲

別種定期檢査申請書

汽(帆)船何丸

右大正十四年十二遞信省令第八十六號ニ依リ　年　月　日某所ニ於テ檢査ノ上別種檢査證書交付相成度此段申請候也

年　月　日

住所
船舶所有者(船舶管理人、船舶借入人又ハ船長)
何某　印

管海官廳宛

書式乙

第　(横二十「センチメートル」、竪二十「センチメートル」)　(裏面ニ佛譯ヲ記載ス)　號

船舶番號	所有者
船名	旅客船非旅客船ノ別
證書有效期限	龍骨据附日

別種檢檢査證書

年　月　日　管海官廳名　印

右大正十四年十二遞信省令第八十六號ニ依リ檢査ヲ遂ケ同令ノ規定ニ適合スルコトヲ證明ス

年　月　日　管海官廳名　印

備考　此ノ證書ハ旅客船ニ在リテハ其ノ端艇及救命設備カ大正十四年十二遞信省令第八十六號第三條ノ規定ニ適合スルコト又大正十五年一月二十九日以後龍骨ヲ据附ケタル船舶ニ在リテハ其ノ病室、旅客室及船員室竝此等ノ居住設備及衞生設備カ同令第四條ノ規定ニ適合スルコトヲ證明スルモノトス

書式丙

別種臨時檢査申請書

汽(帆)船何丸

右大正十四年十二遞信省令第八十六號ニ依リ　年　月　日某所ニ於テ檢査相成度此段申請候也

年　月　日

住所
船舶所有者(船舶管理人、船舶借入人又ハ船長)
何某　印

管海官廳宛

書式丁

第　(横二十「センチメートル」、竪二十「センチメートル」)　(裏面ニ佛譯ヲ記載ス)　號

船舶番號	
船名	

龍骨据附日證明書

右大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタルモノナルコトヲ證明ス

年　月　日

管海官廳名　印

●佛蘭西國船舶ノ檢査ニ關スル件

大正十五年一月
總令第八號

佛蘭西國船舶ノ檢査ニ關スル件左ノ通定ム

佛蘭西國船舶ノ檢査ニ關シテハ大正十四年遞信省令第八十七號ニ依ル但シ同令中日本トアルハ朝鮮、遞信大臣トアルハ朝鮮總督トス

附　則

本令ハ大正十五年一月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年十二月
遞令第八十七號

佛蘭西國船舶ノ檢査ニ關スル件左ノ通定メ大正十五年一月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　佛蘭西國(其ノ殖民地及管治地域ヲ含ム以下同シ)ノ船舶ノ檢査ヲ行フ場合ニ於テ佛蘭西國政府ノ發給シタル航海許可書ヲ受有スル船舶ニ對シテハ大體ニ於テ耐航性ヲ有シ船員及旅客ニ危險ヲ及ホス慮ナシト認ムルトキハ該證書ノ目的トスル船體、機關及屬具ニ關スル照査ヲ行ハス且如何ナル場合ニ於テモ佛蘭西國ノ法規ニ定ムル以外ノ條件ヲ課セス

第二條　日本ノ港ニ於テ移住民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移住民及三等旅客五十人以上ヲ搭載シテ近海航路外ノ港又ハ遞信大臣ノ定ムル地方ニ運送セムトスル佛蘭西國船舶ニ對シテハ前條ノ規定ニ拘ラス糧食、飲料水及衞生狀態ニ關スル檢査ハ之ヲ行フ

●佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ニ關スル注意事項

大正十五年一月
總告第十九號

大正十五年一月二十九日以後佛蘭西國政府ニ於テハ帝國政府ノ發給スル船舶檢査證書及船舶滿載吃水線證書ヲ承認スルコトヲ爲リタルニ付佛蘭西國又ハ其ノ殖民地若ハ管治地域ニ航行スル日本船舶ノ所有者、船長及其ノ他關係者ハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　佛蘭西國(其ノ殖民地及管治地域ヲ含ム以下同シ)ニ航行スル日本船舶ニシテ船舶檢査證書、船舶滿載吃水線證書(船舶滿載吃水線法ニ依リ交付ヲ受ケタルモノ以下同シ)及大正十五年朝鮮總督府令第七號ニ依ル別種檢査證書ヲ受有スルモノハ佛蘭西國ニ於テ出港檢査ヲ行ハルルコトアル場合ヲ除クノ外何等檢査ヲ行ハルルコトナク又佛蘭西國法規ノ定ムル航海許可書及船舶滿載吃水線證書ヲ受有スルコトヲ要セサルモノトス

大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル非旅客船ハ船舶檢査證書及船舶滿載吃水線證書ヲ受有スルトキハ別種檢査證書ヲ受有スルトキハ船舶檢査證書、船舶滿載吃水線證書ヲ受有スルトキハ別種檢査證書ヲ要セシテ前項ノ取扱ヲ受クルモノトス

二　前項ノ船舶ニシテ船舶國籍證書ニ記載シタル進水年月ヨリ起算シ大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタルモノナルコトヲ證明シ難キ慶アルモノハ大正十五年朝鮮總督府令第七號ニ依ル龍骨据附日證明書ヲ受有スルヲ可トス

前號ノ船舶ニ對シ佛蘭西國ニ於テ行ハルル出港檢査ニ於テハ單ニ船舶檢査證書、船舶滿載吃水線證書又ハ別種檢査證書ヲ受有スルコトヲ確メ船舶カ大體ニ於テ耐航性ヲ有シ船員及旅客ノ爲危險ナキ狀態ニ於テ出港シ得ルヤ否ヲ認定セラルルニ止マリ船體機關及屬具等ニ關スル照査ヲ行ハルコトナク且如何ナル場合ニ於テモ日本ノ法規ニ定ムルル以外ノ條件ヲ課セラルルコトナシ

三　佛蘭西國ニ於テ行ハルル出港檢査ハ如何ナル場合ニ於テモ船舶ノ發航ヲ遲延セシムルコトナク又出港時間ヲ正式ニ通告シタル後ハ未タ出港檢査ヲ行ハレサルトキト雖佛蘭西國ノ港ニ於テ旅客ヲ搭載スルト否トニ拘ラス定刻ニ出港シ何等法規違反ト爲ルコトナシ

四　日本船舶カ目的港ニ非サル佛蘭西國ノ港ニ入港スルモ商行爲ヲ爲サス又ハ單ニ炭水其ノ他航海必需品ノミヲ積入ルル場合ニ於テハ出港檢査ヲ行ハルルコトナシ

●朝鮮舷窓試驗規程

大正十一年十一月
總令第百四十三號

朝鮮舷窓試驗規程左ノ通定ム

舷窓ノ構造及其ノ試驗ニ關シテハ遞信省令舷窓試驗規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督府遞信局長トス

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●舷窓試驗規程

大正十一年一月
遞令第六號

舷窓試驗規程左ノ通定ム

舷窓試驗規程

第一條　舷窓ヲ分チテ左ノ二種トス

一　甲種舷窓
二　乙種舷窓

甲種舷窓ニハ內蓋及外蓋ヲ備ヘ乙種舷窓ニハ內蓋ヲ備フルコトヲ要ス

第二條　舷窓ノ各部ニハ舷窓ノ種別ニ從ヒ左表ニ揭クル種類ノ材料ヲ用ウヘシ

舷窓各部ノ名稱	材料ノ種類 甲種舷窓	乙種舷窓
窓枠	黃銅、砲金又ハ鑄鋼	黃銅、砲金、鑄鋼又ハ可鍛鑄鐵
硝子枠	黃銅又ハ砲金	黃銅、砲金、鑄鋼又ハ可鍛鑄鐵
內蓋	黃銅、砲金又ハ鑄鋼	黃銅、砲金、鑄鋼、可鍛鑄鐵又ハ鑄鐵
外蓋	鋼板	鋼板、可鍛鑄鐵又ハ鑄鐵
蝶番軸針及締附螺釘	鍛黃銅	鍛黃銅

第三條　窓枠、硝子枠、甲種舷窓用內蓋、蝶番軸針及締附螺釘ハ左表ニ揭クル試驗ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

舷窓各部ノ名稱	試驗ノ種別	試驗材	試驗材ノ數	試驗規格
黃銅製又ハ砲金製ノ窓枠、硝子枠及甲種舷窓用內蓋	抗張試驗	徑〇●五六四吋標點間ノ長二吋ノモノ	一鎔解毎ヨリ造リタル一鑄物ノ數五十箇ヲ超ユルトキハ五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇ノ割合ヲ超エタル數ノ箇ヲ加フ(同一鎔解毎ニ一箇)	一平方吋ノ抗張力十四噸以上、伸長十噸以上、但シ乙種舷窓ニ用ウルモノニ在リテハ抗張力ノ下限ヲ十二噸ト爲スモ妨ナシ

鉸鎖製ノ窓枠及硝子枠	鑄鋼製甲種舷窓用内蓋	可鍛鑄鐵製ノ窓枠及硝子枠	鍛黄銅製ノ軸針及締附螺釘
屈曲試驗	屈曲試驗	屈曲試驗	抗張試驗
現品（鑄放シノ儘燒鈍モノ）	現品（鑄放シノ儘燒鈍モノ）	現品（鑄放シノ儘燒鈍モノ）	現品（鑄放シノ儘燒鈍モノ）
鎔解毎ニ一箇（同一鎔解ヨリ造リタル同種ノ數五十箇ヲ超ユルトキハ超ユル數五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇ヲ加フ）	鎔解毎ニ一箇（同一鎔解ヨリ造リタル同種ノ數五十箇ヲ超ユルトキハ超ユル數五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇ヲ加フ）	鎔解毎ニ一箇（同一鎔解ヨリ造リタル同種ノ數五十箇ヲ超ユルトキハ超ユル數五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇ヲ加フ）	鎔解毎ニ一箇（同一鎔解ヨリ造リタル同種ノ數五十箇ヲ超ユルトキハ超ユル數五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇ヲ加フ）
常溫ノ儘鏨打ニテ裂疵ヲ生セス又屈曲シ得ル角度二十度以上	常溫ノ儘鏨打ニテ裂疵ヲ生セス又屈曲シ得ル角度三十度以上	常溫ノ儘鏨打ニテ裂疵ヲ生セス又屈曲シ得ル角度十五度以上	一平方吋ノ抗張力二十五噸以上、伸長ノ割合百分ノ二十以上但シ乙種舷窓ニ用ウルモノニ在リテハ抗張力ノ下限ヲ二十二噸ト爲スモ妨ナシ
徑〇・五六吋標點間ノ長二吋ノモノ但シ原徑〇・五六吋ヨリ小ナルモノニ在リテハ原徑ノ儘	現品（鑄放シノ儘燒鈍モノ）	現品（鑄放シノ儘燒鈍モノ）	軸針又ハ締附螺釘ノ數各五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇

舷窓、硝子枠及内蓋ニ於テ周緣又ハ脊稜ノ突出特ニ著シキ爲其ノ他ノ理由ニ依リ當該官吏ニ於テ現品ニ付屈曲試驗ノ適當ニ執行シ難シト認ムルトキハ之ニ代ルヘキ試驗方法ニ付遞信大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條　舷窓各部ノ構造及寸法ハ其ノ要部ニ在リテハ第五條以下ノ規定竝舷窓ノ内徑及種別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ定メ其ノ他ノ部分ニ在リテハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第五條　硝子枠ハ堅牢ナル螺番ニ依リ窓枠ニ取附ケ締附螺釘ヲ以テ之ヲ締附ケ得ル裝置ト爲シ且其ノ周圍ニ溝ヲ設ケ之ニ謢謨其ノ他適當ノ塡材ヲ附シ閉鎖シタルトキ充分水密ナラシメ得ルモノナルコトヲ要ス

第六條　締附螺釘三箇以上ヲ有スル硝子枠ニ在リテハ成ルヘク其ノ螺番ノ壺命孔ヲ稽圓形ト爲スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ壺命ノ外徑ヲ別表ニ揭クルモノヨリ適當ニ增加スルコトヲ要ス

第七條　内蓋ハ甲種舷窓ニ在リテハ厚八分ノ三吋以上、乙種舷窓ニ在リテハ厚四分ノ一吋以上ニシテ適當ノ補强脊稜ヲ有シ堅牢ナル螺番ニ依リ窓枠ニ取附ケ締附螺釘ヲ以テ之ヲ締附ケ得ル裝置ト爲シ且其ノ周圍ニ溝ヲ設ケ之ニ謢謨其ノ他適當ノ塡材ヲ附シ閉鎖シタルトキハ充分水密ナラシメ得ルモノナルコトヲ要ス

第八條　硝子枠及内蓋ノ締附螺釘ハ堅牢ナル螺番ヲ以テ窓枠ニ取附クルモノナルコトヲ要ス

甲種舷窓ノ締附螺釘ノ母螺ハ方形、六角形其ノ他螺廻具ヲ用ヰサレハ締附ケ及捩戻シ得サル形ノモノナルコトヲ要ス

第九條　硝子枠及内蓋ノ周圍ニ設クル溝ハ成ルヘク表面ノ幅ヲ八分ノ三吋、底面ノ幅ヲ二分ノ一吋及深ヲ四分ノ一吋ト爲スヘシ

第十條　外蓋ハ船内ヨリ取附ケ得ルモノニシテ窓枠ニ附シタル小突起其他適當ナル裝置ニ依リ所定ノ位置ニ正確ニ適合シ其ノ外面ハ窓枠ノ外面ヨリ八分ノ一吋以上内方ニ在ルモノナルコトヲ要ス

第十一條　甲種舷窓ノ外蓋ノ厚ハ内徑十吋以上ノ舷窓ニ在リテハ八分ノ五吋以上、内徑十吋未滿ノ舷窓ニ在リテハ二分ノ一吋以上ト爲スヘシ

前項ノ外蓋ニ設クル把手用環ニ對スル凹部ハ其ノ徑二吋二分ノ一以下ニシテ凹部ニ於ケル外蓋ノ厚八分ノ三吋以上ナルコトヲ要ス

第十二條　本令ニ該當セサル材料ニシテ特ニ遞信大臣ノ承認ヲ受ケタルモノ又本令ニ該當セサル構造及寸法ノ舷窓ニシテ當該官吏ニ於テ本令ニ定ムルモノト同等以上ノ效力ヲ有スト認メタルモノハ本令ニ適合スルモノト看做ス

附　則

本令ハ大正十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

舷窓要部ノ構造及寸法

舷窓要部ノ名稱 ＼ 舷窓ノ種別	舷窓ノ内徑（吋）	甲種	乙種
硝子枠及内蓋ノ螺番並硝子枠及内蓋ノ締附螺釘ノ軸針ノ徑（吋）	6	7/16	1/2
	7	1/2	9/16
	8	9/16	5/8
	9	5/8	11/16
	10	3/4	13/16
	11	7/8	15/16
	12	1	1 1/16
螺釘數 硝子枠及内蓋ノ締附螺釘 内蓋締附螺釘數	6	5	1
	7	6	1
	8	6	2
	9	7	2
	10	8	2
	11	8	2
	12	8	2
硝子枠及内蓋ノ締附螺釘 硝子枠締附螺釘數	6	5	1
	7	6	1
	8	6	2
	9	7	2
	10	8	2
	11	8	2
	12	8	2
硝子枠及内蓋ノ締附螺釘 螺釘ノ徑（吋）	6	5/8	3/4
	7	3/4	7/8
	8	3/4	7/8
	9	7/8	1
	10	7/8	1 1/8
	11	1	1 1/8
	12	1 1/8	1 1/4
窓枠ヲ外板ニ取附クル螺釘 螺糸底部ニ於ケル徑（吋）	6	1/2	5/8
	7	1/2	5/8
	8	9/16	5/8
	9	5/8	11/16
	10	5/8	11/16
	11	5/8	3/4
	12	3/4	13/16
窓枠ヲ外板ニ接スル窓枠平縁ノ厚（吋）	6	7/16	5/16
	7	1/2	3/8
	8	1/2	3/8
	9	9/16	7/16
	10	9/16	7/16
	11	9/16	7/16
	12	5/8	1/2

◉朝鮮造船規程

大正十一年十一月
總令第百四十四號

朝鮮造船規程左ノ通改正ス

第一條　朝鮮造船規程

船體及機關ノ構造、材料及材料試驗ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外遞信省令造船規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督府遞信局長、舷窓試驗規程トアルハ朝鮮舷窓試驗規程、滿載吃水線ノ標示トアルハ滿載吃水線法ニ依ル滿載吃水線ノ標示、船舶滿載吃水線規程第五十一條又ハ第五十二條ニ揭クル第一級又ハ第二級閉鎖裝置トアルハ之ニ相當スル閉鎖裝置トス

第二條　本令ニ依リ製造スル船舶ノ滿載吃水ハ船舶ノ種類ニ應シ朝鮮總督府遞信局長ノ適當ト認ムルモノニ依ル

第三條　朝鮮總督府遞信局長ハ吃水ノ深淺ニ應シ本令ニ該當セサル構造及寸法ヲ認可スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

支水陬壁ノ構造、寸法及固著ハ從前ノ規定ニ合格スルトキハ當分ノ内之ヲ本令ニ合格スルモノト看做ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

◉海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ關スル法律ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スル等ノ件

大正十三年八月
勅令第百九十一號

脫大正十三年法律第二號大正十二年條約第二號海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ關スル法律ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スル等ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

大正十三年法律第二號ハ朝鮮、臺灣及樺太ニ之ヲ施行ス

關東州及南洋群島ニ於テハ大正十二年條約第二號海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ關シテハ前項ノ法律ニ依ル

附　則

本令ハ大正十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ關スル件

大正十三年七月
法律第二號

脫帝國議會ノ協贊ヲ經タル大正十二年條約第二號海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　左ニ揭クル行爲ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一　軍艦ヲ建造スルコト

二　船舶ヲ軍艦ニ變更スルノ目的ヲ以テ之ニ武裝ヲ施シ又ハ武裝ヲ施スノ準備ヲ爲スコト

主務大臣ハ大正十二年條約第二號海軍軍備制限ニ關スル條約ノ規定ニ依ル義務ヲ履行スル爲必要アリト認ムル場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ爲ササルモノトス

第二條　當該官吏ハ必要アリト認ムルトキハ前條ニ揭クル事項ニ關シ調査ヲ爲ス爲造船所、工場、軍艦、船舶其ノ他必要ナル場所ニ立入リ若ハ檢査ヲ爲シ又ハ關係者ニ對シ調査資料ノ提供ヲ命シ若ハ供逃ヲ求ムルコトヲ得

第三條　第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ同條同項ノ許可ノ條件ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　第二條ノ規定ニ依ル官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ、調査資料ノ提供ヲ爲サス若ハ虚僞ノ調査資料ヲ提供シ又ハ供逃ヲ拒ミ若ハ虚僞ノ供逃ヲ爲シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十三年勅令第百九十號ヲ以テ大正十三年九月一日ヨリ施行）

◉朝鮮木船檢查規程

大正十一年十一月
總令第百四十五號

朝鮮木船檢查規程左ノ通改正ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル木船ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

◉木船檢查規程

明治三十三年十二月
遞令第八十九號

改正　大正二年一月第五號

木船檢查規程左ノ通之ヲ定メ明治三十三年法律第五十三號施行ノ日ヨリ施行ス

木船檢查規程目次

第一章　總則
第二章　材料
第三章　龍骨、船首材、船尾材、舵柱、力材、船尾縫製材及ヒ船尾管胴材
第四章　肋骨及ヒ船尾横製骨
第五章　内龍骨、側内厚板及ヒ變曲部縫材通
第六章　梁受材、梁受板、副梁受板、梁厠材、副梁厠材、船艙及ヒ内部腰板
第七章　梁及ヒ梁ノ配置
第八章　梁柱
第九章　船首肘材及ヒ船尾肘材
第十章　梁曲板
第十一章　外板及ヒ内張板
第十二章　甲板
第十三章　過當比例ノ船舶
第十四章　甲板室、船首樓、船橋樓、船尾樓、低船首樓及ヒ低船尾樓
第十五章　舶口、機關室口、載貨門及ヒ其ノ他ノ諸口

第十六章 固著釘及ヒ固著法
第十七章 通風路及ヒ淦水路
第十八章 舵
第十九章 塡隙及ヒ船底包板
第二十章 檣、帆架及ヒ斜檣
第二十一章 機關室
第二十二章 排水裝置及ヒ諸管

木船檢査規程

第一章 總則

第一條 此ノ規定ニ於テ重甲板船ト稱スルハ其ノ上甲板下ニ隨意ニ重量ノ貨物ヲ積載シ得ヘキ船舶ヲ謂フ

輕甲板船ト稱スルハ二層以上ノ甲板ヲ有シ其ノ構造重甲板船ニ比シ稍輕裝ニシテ其ノ正甲板上ニハ船員、旅客若ハ輕量ノ貨物ヲ搭載シ其ノ上甲板上ニハ船首樓、船尾樓又ハ全面積ノ十分ノ一以上ノ甲板室ヲ設置スルニ適セサル船舶ヲ謂フ

重甲板船ノ上甲板ヲ重甲板、輕甲板船ノ上甲板ヲ輕甲板ト謂フ

第二條 此ノ規程ニ於テ船ノ長ト稱スルハ上甲板梁上ニテ船首材ノ後面ヨリ單螺旋汽船ナルトキハ舵柱ノ前面迄、雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ナルトキハ船尾材ノ前面迄ノ水平距離ヲ謂フ但上部彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ於テハ該材下部ノ後面ニ沿フテ眞直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交叉點ヨリ測リタル水平距離ヲ謂フ

幅ト稱スルハ船體ノ最廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ距離ヲ謂フ

深ト稱スルハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外船體ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面迄ノ距離ヲ謂フ

第三條 此ノ規程ニ於テ第一數ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ深ト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ又輕甲板船ニ於テハ輕甲板梁及ヒ正甲板梁間ノ高ノ二分ノ一ノ所迄ノ深ト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ

第二數ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ長ト幅ト深トヲ相乘シタル數ヲ謂フ又輕甲板船ニ於テハ長ト幅ト輕甲板梁及ヒ正甲板梁間ノ高ノ二分ノ一ノ所迄ノ深トヲ相乘シタル數ヲ謂フ

前二項ノ長、幅、深及ヒ高ハ呎ヲ以テ本位トシ呎以下ハ一位ニ止メ其ノ以下ハ四捨五入スヘシ

第四條 此ノ規程ニ於テハ特ニ其ノ條項ニ規定シタル場合ヲ除クノ外船ノ長、深ノ八倍ヲ超エサル船舶ノ構造方法ヲ示シ又寸法及ヒ員數ハ最小ノ限度ヲ、距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモノトス

第五條 肋骨ノ寸法及ヒ心距ハ第一數ニ依リ之ヲ定メ龍骨、船首材、船尾材、舵柱、內龍骨、側內厚板、船尾横翼材、梁受板、副梁受板、梁曲材、彎曲部縱通材、船鍔、外板、內張板、木甲板、舵心材及ヒ舵針等ノ寸法及ヒ舵針ノ數ハ第二數ニ依リ之ヲ定メ梁ノ寸法ハ船體ノ中央ニ於ケル各層梁ノ長ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第六條 第一級船及ヒ第二級船ノ船體ノ各部ノ寸法ハ別表ニ據ルヘシ

第三級船及ヒ第四級船ノ船體ノ構造及ヒ寸法ハ此ノ規程ニ適合セサルモノト雖モ檢査官吏ニ於テ適當ト認ムルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス但第十五章第三條第一項、第二十一章及ヒ第二十二章ニ規定スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條 此ノ規定ニ該當セサル船體ノ構造方法ハ檢査官吏ニ於テ此規程ト同一ノ效力ヲ有スルト認ムルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

第二章 材料

第一條 木材ハ有害ナル節瘤其ノ他ノ缺點ヲ有セス且充分乾燥シタルモノナルヲ要ス

第二條 曲材ハ總テ天然屈曲材ニシテ木目ノ貫通セルモノナルヲ要ス

第三條 木材ヲ蒸曲ケシテ用ウルトキハ蒸曲ケタル後裂疵ヲ生セサルモノナルヲ要ス

第四條 此ノ規程ニ規定スル副內部龍骨、側內龍骨、梁受材、梁壓材、副梁壓材、船首肘材、船尾肘材、梁曲材、內部腰板、縱梁、橋孔板及ヒ艙口緣材等ノ寸法ハ第一號表甲欄ニ揭クル材料ヲ用ヰタルトキノ寸法トス

第五條 「チーク」ヲ第一號表甲欄ニ揭クル木材ニ代用スルトキハ百分ノ十二以下又乙欄ニ揭クル木材ニ代用スルトキハ百分ノ二十以下其ノ截面ヲ別表ニ揭クルモノヨリ減スルコトヲ得

「オレゴンパイン」ハ第一號乙欄ニ揭クル木材ニ代用スルコトヲ得

第六條 第一號表甲欄ニ揭クル木材ノ代リニ乙欄ニ揭クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ十二以上、丙欄ニ揭クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十二以上又丁欄ニ揭クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ三十二以上其ノ截面ヲ別表ニ揭クルモノヨリ增スコトヲ要ス

第七條 第一號表乙欄ニ揭クル木材ノ代リニ甲欄ニ揭クル木材ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ別表ニ揭クルモノヨリ百分ノ十二以下減スルコトヲ得

第八條 第一號表乙欄ニ揭クル木材ノ代リニ丙欄ニ揭クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ十五以上丁欄ニ揭クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十五以上其截面ヲ別表ニ揭クルモノヨリ增スコトヲ要ス

第九條 此ノ規程ニ規定スル鐵材ノ代リニ鋼材ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ百分ノ二十以下減スルコトヲ得

第三章 龍骨、船首材、船尾材、舵柱、力材、船尾縱翼材及ヒ船尾管胴材

第一條 龍骨、船首材及ヒ船尾材ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第二條 龍骨ヲ構成スル各材ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外三十五呎以上ナルヲ要ス

前項ノ長ヨリ短キ材ヲ龍骨ニ使用スルトキハ其ノ下面ニ副龍骨ヲ附スヘシ此ノ場合ニ於ケル龍骨ノ深ハ第三號表ニ揭ケル龍骨ノ深ノ三分ノ二以上、副龍骨ノ深ハ其ノ二分ノ一以上ト爲スヲ要ス

龍骨ニハ龍骨翼板ヲ受クルニ適當ナル溝ヲ穿チ倚溝ノ上部ニハ適當ノ緣ヲ殘シ置クヘシ

第三條 龍骨ノ嵌接ハ鉤形水平嵌接ト爲スコトヲ要ス但木栓ヲ以テ特ニ固著スルトキハ平面水平嵌接ト爲スコトヲ得

嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ五倍以上、其ノ端末ニ於ケル龍骨ノ深ハ用材ノ深ノ四分ノ一以上ト爲スヘシ

龍骨ノ嵌接ハ副龍骨及ヒ龍骨翼板ノ嵌接ト五呎以上相避距シ且檣根及ヒ艙口ト適當ニ避距スヘシ

嵌接ニハ其ノ兩端ニ二箇ツツ、其ノ中間ニ十三吋ノ心距ニ藏釘ヲ緊著スヘシ

嵌接ニハ適當ノ位置ニ浸水ヲ防ク爲メ水留栓ヲ打込ムヘシ

第四條 船首材ノ寸法ハ最大吃水線ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第三號表ニ揭クルモノノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

船首材ハ一材ニテ作ルヘシ但第二數五萬以上ノ船舶ニ於テハ二材ヲ以テ作ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ嵌接ノ長ヲ用材ノ深ノ三倍二分ノ一以上ト爲シ且適當ナル副船首材ヲ設クヘシ

船首材ト龍骨トノ嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ四倍以上ト爲シ其構造ハ總テ本章第三條ニ規定セル龍骨ノ嵌接ニ等クスヘシ

船首材ノ下部屈曲セスシテ龍骨ニ嵌接スルトキハ筒ヲ作出シテ相嵌込ミ鳩尾形金具ヲ兩面ニ附シ且根曲材ヲ以テ固著スヘシ又接合ニハ適當ノ位置ニ浸水ヲ防ク爲メ水留栓ヲ打込ムヘシ

第五條 雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ノ船尾材ハ眞直ナル一材ヲ以テ作リ上甲板迄達セシメ其ノ下部ニ於テ龍骨トノ固著法ハ前條第四項ニ依ルヘシ

雙螺旋汽船、外車船及ヒ帆船ノ船尾材ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第三號表ニ揭クルモノノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

第六條 單螺旋汽船ノ船尾材ハ眞直ナル一材ヲ以テ作リ正甲板迄達セシメ其ノ下部ニ於テ龍骨トノ固著法ハ本章第四條第四項ニ依ルヘシ

單螺旋汽船ノ船尾材ノ車軸孔ノ兩側ニ於ケル厚ハ第三號表ニ揭クル寸法ハ五分ノ三ヨリ小ナルヘカラス

單螺旋汽船ノ舵柱ノ寸法ハ第三號表ニ揭クル船尾材ニ等クシ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ其ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

單螺旋汽船ノ舵柱ハ筍ヲ作出シテ龍骨ニ嵌込ミ且船尾材、龍骨及ヒ舵柱ニ跨ル黄銅製金具ヲ兩面ニ取附ケ三材ノ結合ヲ堅固ニ爲スヘシ但龍骨ヲ船尾材ニ止ムルトキハ特ニ堅牢ナル黄銅製金具ヲ以テ三材ノ結合ヲ堅固ナラシムヘシ

單螺旋汽船ノ船尾材及ヒ舵柱ハ其ノ上部ニ於テ兩面ニ第三號表ニ揭クル船尾材ノ截面ノ二分ノ一ヨリ少カラサル船尾縱通材ヲ以テ相挾ミ其ノ空隙ニハ塡材ヲ挿入シテ緊著スヘシ

第七條 船首材及ヒ船尾材ニハ外板ノ端末ヲ受クルニ適當ナル溝ヲ穿ツヘシ

第八條 船ノ首尾ニ揭クル力材ノ高ハ斜肋骨ノ下部ヲ取附クルニ充分ナラシメ其ノ厚ハ龍骨ノ厚ニ等クスヘシ

第九條 船尾管ノ通スル分部ニ於ケル胴材ハ堅材ヲ以テ作リ其ノ寸法ハ船尾管ノ徑ノ二倍以上ト爲スヘシ

第四章 肋骨及ヒ船尾横翼材

第一條 肋骨ハ總テ天然ノ曲材ヲ以テ構成シ其ノ寸法ハ第二號表ニ據ルヘシ但肋材ノ深ハ其ノ厚ヨリ小ナルヘカラス

第二條 長短肢肋根材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ總長ハ船ノ幅ノ五分ノ二以上ト爲シ且肋根材ハ船ノ幅ノ七分ノ一以上相累接セシムヘシ

第三條 肋根材及ヒ半肋根材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ長ヲ船ノ幅ノ四分ノ一以上、半肋根材ノ總長ヲ船ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲スヘシ且半肋根材ノ衝接ハ龍骨ノ中心ヲ交互ニ二吋以上左右ニ隔離スルヲ要ス

第四條 第一數二十七未滿ノ船舶ニ於テハ肋材衝接ノ避距ハ船ノ幅ノ八分ノ一以上、第一數二十七以上ノ船舶ニ於テハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スヘシ

肋材ノ衝接ハ總テ密接セシメ木栓等ヲ以テ相嵌合スヘシ但第一數二十三未滿ノ船舶ニ於テハ木栓等ヲ省略スルコトヲ得

肋骨ヲ構成スル肋材ハ其ノ衝接ノ兩側ニ一箇以上ノ藏釘若ハ木釘ヲ以テ緊著シ且衝接ノ避距大ナルトキハ衝接ノ中間ニ於テ木釘若ハ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

第五條 嵌接シタル單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ其ノ嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ藏釘ヲ以テ緊著スヘシ

又衝接シタル單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ用材ノ截面ニ等キ截面ヲ有シ其ノ總長ハ用材ノ深ノ四倍以上ヲ有スル添材ヲ取附ケ衝接ノ兩側ニ二箇以上ノ藏釘ヲ以テ緊著スヘシ

第六條 蒸曲材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ其ノ寸法ハ第二號表ニ揭クルモノヨリ減スルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ肋骨ノ心距ヲ適當ニ減スヘシ

第七條 肋骨ノ心距ハ第二號表ニ據ルヘシ但帆船ニ於テハ其ノ一倍四分ノ一迄增スコトヲ得

第八條 船ノ幅、深ノ三倍以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ肋骨ノ心距ヲ減スルカ若ハ肋骨ノ寸法ヲ增スヘシ

第九條 船首肋材及ヒ錨鎖孔材ハ各一材ヲ以テ作リ其ノ厚ハ肋骨ノ厚ノ二倍以上ト爲スヘシ

船首材ヨリ錨鎖孔材ノ後部適當ナル距離ノ所迄肋骨ノ間隙ニハ塡材ヲ挿入スヘシ

第十條 船尾肋材ハ其ノ寸法ヲ踵部ニ於テハ肋材ノ頂部ノ截面ノ一倍三分ノ一以上、頂部ニ於テハ四分ノ三以上ト爲シ船尾縱翼材又ハ船尾横翼材ニ緊著スヘシ

第十一條 第二數五萬以上ニシテ肋骨柔材ナルトキハ第十三章第三條ニ規定スル斜帶板ヲ取附クヘシ

第十二條 肋骨ノ寸法規定ノ寸法ヨリ小ナルトキ又ハ肋骨ノ心距規定ノ心距ヨリ大ナルトキハ適當ノ斜帶板ヲ肋骨ニ取附クヘシ

第十三條 船尾横翼材ハ成ルヘク一材ヲ以テ作リ其ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第五章 內龍骨、側內厚板及ヒ彎曲部縱通材

第一條 內龍骨及ヒ側內厚板ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第二條 內龍骨ヲ構成スル各材ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外三十呎以上ナルヲ要ス

前項ノ長ヨリ短キ材ヲ內龍骨ニ使用スルトキハ其ノ上面ニ副內龍骨ヲ附スヘシ此ノ場合ニ於ケル內龍骨ノ深ハ第三號表ニ揭ケル內龍骨ノ深ノ三分ノ二以上、副內龍骨ノ深ハ其ノ二分ノ一以上ト爲スヘシ

第三條 船ノ長百三十呎ヲ超ユルカ若ハ船ノ長九十呎以上ニシテ深ノ七倍以上ナルトキハ適當ノ側內龍骨ヲ附スヘシ

第四條 內龍骨ノ嵌接ハ平面水平嵌接ト爲シ其ノ長ハ用材ノ深ノ五倍以上、其ノ端末ニ於ケル內龍骨ノ深ハ用材ノ深ノ四分ノ一以上ト爲スヘシ

內龍骨ノ嵌接ハ龍骨ノ嵌接ト五呎以上又汽機及ヒ汽罐トハ適當ニ避距スヘシ

第五條 檣ハ直接ニ內龍骨ニ嵌込ムヘカラス

第六條 汽機及ヒ汽罐ノ下部ニ於ケル內龍骨ハ堅材ヲ以テ構成シ且汽罐ノ下部ト內龍骨上部トハ十二吋以上隔離スルカ若ハ適當ノ防熱工事ヲ施スヘシ

第七條 側內厚板ハ肋根材ト第一肋材トノ接合部ニ設クヘシ

第八條 船底彎曲部ニハ船ノ首尾ヲ通シテ彎曲部縱通材ヲ設ケ其ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ六分ノ一以上ト爲シ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ但首尾兩端ニ於テハ適當ニ其ノ寸法ヲ減スルコトヲ得

第九條 側內厚板及ヒ彎曲部縱通材ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ

第二數八萬以上ノ船舶ニ於テハ彎曲部縱通材ハ五呎以內ノ距離ニ成ルヘク横ニ其ノ一端ヨリ他端ニ貫通スル藏釘ヲ以テ緊著スヘシ

第六章 梁受材、梁受板、副梁受板、梁壓材、副梁壓材、船鍔及ヒ內部腰板

第一條 梁受材及ヒ梁壓材ハ各層梁ニ取附ケ其ノ寸法ハ之ヲ取附クル梁ノ兩端ノ截面ニ等クシ且梁トノ接面ニ於ケル幅ハ第四號表ニ揭クル梁ノ幅ヨリ大ナラシムヘシ

第二條 前條ノ規定ニ依リ梁受材ヲ取附ケサルトキハ梁受板ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第三條 梁受材、梁受板、副梁受板、梁壓材、副梁壓材、船鍔及ヒ內部腰板ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三個以上藏釘又ハ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

前項ニ揭クル嵌接ハ適當ニ避距スヘシ

第四條 重甲板梁、正甲板梁及ヒ艙梁ニハ第三號表ニ揭クル寸法ヲ有スル副梁受板ヲ附スヘシ但第二數一萬五千未滿ノ船舶ノ重甲板梁ニハ之ヲ附スルヲ要セス

第五條 第二數三萬以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間重甲板梁ニ副梁壓材ヲ設クヘシ

第二數五萬以上ナルトキハ前項ノ幅梁壓材ヲ船ノ首尾ヲ通シテ設クヘシ

第二數九萬以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間輕甲板梁及ヒ正甲板梁若ハ艙梁ニモ副梁壓ヲ設クヘシ

第六條 副梁壓材ノ幅ハ第四號表ニ揭クル梁ノ幅以上ト爲シ厚ハ第三號表ニ揭クル木甲板ノ厚ニ等クスヘシ

第七條 船鍔ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ

船鍔ヲ貫キテ舷檣柱ヲ設クルトキハ船鍔ハ二材ヲ以テ構成スルコトヲ得

船鍔ノ幅ハ外板及ヒ梁壓材ニ固著スルニ充分ナル幅ト爲スコトヲ要ス

第八條 內部腰板ハ正甲板梁又ハ艙梁ノ梁壓材上ニ設クヘシ

內部腰板ノ寸法ハ正甲板梁又ハ艙梁ノ副梁受板ニ等クスヘシ

第七章 梁及ヒ梁ノ配置

第一條 甲板梁及ヒ艙梁ノ寸法ハ第四號表ニ據リ船ノ中央ニ於ケル梁ノ長ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但輕甲板梁ハ其ノ截面ヲ表中ノ四分

ノ三ト爲スコトヲ得

第二條　各層ニ於ケル梁ハ上下相累ネテ設クヘシ

第三條　梁矢ハ上甲板梁ニ於テハ梁ノ長一呎ニ付四分ノ一呎以上、正甲板梁ニ於テハ八分ノ一呎以上ノ割合ト爲スヘシ

第四條　梁ハ漸次其ノ深ヲ減少シテ梁端ニ於テ中央ノ深ノ十分ノ九ト爲スコトヲ得

第五條　船ノ中央ニ於ケル梁ノ長ノ四分ニヨリ短キ梁ハ其ノ截面ヲ第四號表ニ揭クルモノノ四分ノ三迄減スルコトヲ得

第六條　鉚口兩端ノ梁及ヒ舷船ニ於ケル檣ノ前後ノ梁ハ其ノ截面ヲ第四號表ニ揭クルモノノ一倍八分ノ一ト爲スヘシ

第七條　梁ハ成ルヘク肋骨ノ位置ニ設ケ肋材ニ密接セシメ梁受材上ノ鳩尾形溝ニ嵌込ムヘシ

第八條　甲板梁ノ心距ハ汽船ニ於テハ肋骨ノ心距ノ二倍二分ノ一以下帆船ニ於テハ肋骨ノ心距ノ二倍以下ト爲スヘシ但四呎ヲ超過スヘカラス

第九條　檣孔及ヒ鉚口ニ設クル縦梁ハ截面ハ甲板梁ノ四分ノ三ト爲スヘシ

鉚口ノ兩側ニ於ケル半梁ノ截面ハ甲板梁ノ四分ノ三ト爲シ其ノ心距ハ前條ノ規定ニ依ルヘシ

第十條　深十四呎以上十六呎未滿ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ舷ノ長ノ二分ノ一間ハ上甲板梁一本置ニ鉚梁ヲ設クヘシ

第十一條　深十六呎以上十九呎未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ上甲板梁一本置ニ鉚梁ヲ設クヘシ

第十二條　深十九呎以上二十一呎未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ上甲板梁一本置ニ二本續キテ鉚梁ヲ設クヘシ

第十三條　深二十一呎以上二十五呎未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ上甲板梁毎ニ正甲板梁又ハ鉚梁ヲ設クヘシ

第十四條　龍骨ノ上面ヨリ最下層梁ノ上面迄ノ深九呎以上ナルトキハ帆船ニ於テハ檣孔梁及ヒ鉚口兩端ノ梁又汽船ニ於テハ鉚口及ヒ機關室口ノ兩端ノ梁ニハ肋根材ニ二個ノ鋲釘ヲ打ツニ足ルノ長ヲ有スル鐵製ノ特設梁曲材ヲ附スヘシ

第十五條　鉚口、汽機室又ハ汽鑵室等ノ部分ニ於テ本章ノ規定ニ依リ梁ヲ配置スルコトヲ能ハサルトキハ適當ノ補强構造ヲ爲スヘシ

揚錨機、斜檣等ヲ支フル梁ハ其ノ寸法ヲ適當ニ增スヘシ

第八章　梁柱

第一條　梁ノ長、上甲板ノ最長梁ノ二分ノ一ヲ超ユルトキハ梁毎ニ柱梁ヲ取附クヘシ但梁ヲ支フル縦梁アルトキハ梁一本置ニ之ヲ取付クルモ妨ナシ

上層梁ニ柱ヲ要スルトキハ其ノ下層ノ梁ニモ亦之ヲ設クヘシ

第二條　木製梁柱ノ截面ハ船ノ幅ト深トノ和毎一呎ニ付一平方吋ノ割合ト爲スヘシ

鐵製中實梁柱ノ徑ハ船ノ幅ト深トノ和ヨリ二呎ヲ減シタル差毎一呎ニ付十六分ノ一吋ノ割合ト爲スヘシ

甲梁間ノ梁柱ノ截面ヨリ其ノ四分ノ一ヲ減シ算出シタル截面ヨリ其ノ四分ノ一ヲ減スルコトヲ得

鐵製中空梁柱ヲ用ウルトキハ其ノ截面ハ中實梁柱ト同一ノ效力ヲ有スルモノナルヲ要ス

本章第一條第一項ノ規定ニ依リ梁一本置ニ梁柱ヲ取附クルトキハ其ノ截面ハ梁毎ニ取附クルモノノ一倍二分ノ一ト爲スヘシ

第三條　幅二十五呎未滿ノ船舶ニ於テ梁ノ截面ヲ第四號表ニ揭クルモノノ一倍四分ノ一以上ト爲シ且其ノ兩端ニ堅梁曲材ヲ附スルトキハ梁柱ヲ設ケサルモ妨ナシ

第四條　甲板室、斜檣、揚錨機及ヒ揚貨機等ヲ支フル梁其ノ他必要ノ箇所ニハ特ニ梁柱ヲ設クヘシ

第九章　船首肘材及ヒ船尾肘材

第一條　鉚內ニ於ケル肘材ノ配置ハ船ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ最下層梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ之ヲ定ムヘシ又各層梁受材ノ端末ニハ肘材ヲ設クヘシ

第二條　深九呎未滿ノ船舶ハ船首肘材ヲ取附クヘシ

第七條　第二數三萬三千以上ノ汽船ニ於テハ甲板梁毎ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ但第二數四萬二千以上六萬七千未滿ナルトキハ甲板梁三本置ニ、六萬七千以上十萬未滿ナルトキハ甲板梁二本置ニ又十萬以上ナルトキハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第八條　第二數八千四百未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第九條　第二數八千四百以上一萬七千未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁一本置ニ二本續キテ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第十條　第二數一萬七千以上十二萬未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁毎ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ但第二數二萬五千以上四萬二千未滿ナルトキハ甲板梁三本置ニ、四萬二千以上六萬七千未滿ナルトキハ甲板梁二本置ニ、六萬七千以上十二萬未滿ナルトキハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ノ代リニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第二數十二萬以上ノ帆船ニ於テハ甲板梁毎ニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第十一條　二層甲板船ノ上甲板梁ニハ長梁曲材ノ代リニ短梁曲材ヲ用ウルモ妨ナシ

第十二條　鉚梁ニハ梁毎ニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第十三條　第二數二萬五千以上ノ船舶ニシテ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ特設梁曲材ヲ鉚梁毎ニ取附ケ其ノ梁腕ハ第五號表ニ揭クル長梁曲材ノ梁腕ノ長ニ等キ長ヲ有シ側腕ハ肋根材ニ二個ノ鍍釘ヲ以テ固著スルニ足ルヘキ長ヲ有スルモノナルヲ要ス

特設梁曲材ノ厚及ヒ幅ハ第五號表ニ揭クル長梁曲材ニ準スヘシ

第十四條　前條ノ特設梁曲材ヲ用ヰサルトキハ梁ト梁トノ間ニ於ケル肋骨ニ鐵帶ヲ取附ケ上部ハ梁受材ニ緊著スヘシ

鐵帶ノ長及ヒ幅ハ特設梁曲材ノ側腕ニ等クシ厚ハ第五號表ニ揭クル長梁曲材ノ咽喉鉚部ニ於ケル厚ノ二分ノ一以上ト爲スヘシ

第十五條　木製又ハ鐵製ノ梁曲材ヲ用ウルトキハ其ノ梁曲材ヲ取附クヘシ

鍛釘ヲ打ツニ足ルノ長ヲ有スル鐵製ノ特設梁曲材ヲ附スヘシ

第十五條　鉚口、汽機室又ハ汽鑵室等ノ部分ニ於テ本章ノ規定ニ依リ梁ヲ配置スルコトヲ能ハサルトキハ適當ノ補强構造ヲ爲スヘシ

第十章　梁柱

第一條　梁ノ長、上甲板ノ最長梁ノ二分ノ一ヲ超ユルトキハ梁毎ニ柱梁ヲ取附クヘシ但梁ヲ支フル縦梁アルトキハ梁一本置ニ之ヲ取付クルモ妨ナシ

上層梁ニ柱ヲ要スルトキハ其ノ下層ノ梁ニモ亦之ヲ設クヘシ

第二條　木製梁柱ノ截面ハ船ノ幅ト深トノ和毎一呎ニ付一平方吋ノ割合ト爲スヘシ

鐵製中實梁柱ノ徑ハ船ノ幅ト深トノ和ヨリ二呎ヲ減シタル差毎一呎ニ付十六分ノ一吋ノ割合ト爲スヘシ

甲梁間ノ梁柱ノ截面ヨリ其ノ四分ノ一ヲ減シ算出シタル截面ヨリ其ノ四分ノ一ヲ減スルコトヲ得

鐵製中空梁柱ヲ用ウルトキハ其ノ截面ハ中實梁柱ト同一ノ效力ヲ有スルモノナルヲ要ス

本章第一條第一項ノ規定ニ依リ梁一本置ニ梁柱ヲ取附クルトキハ其ノ截面ハ梁毎ニ取附クルモノノ一倍二分ノ一ト爲スヘシ

第三條　幅二十五呎未滿ノ船舶ニ於テ梁ノ截面ヲ第四號表ニ揭クルモノノ一倍四分ノ一以上ト爲シ且其ノ兩端ニ堅梁曲材ヲ附スルトキハ梁柱ヲ設ケサルモ妨ナシ

第四條　甲板室、斜檣、揚錨機及ヒ揚貨機等ヲ支フル梁其ノ他必要ノ箇所ニハ特ニ梁柱ヲ設クヘシ

第九章　船首肘材及ヒ船尾肘材

第一條　鉚內ニ於ケル肘材ノ配置ハ船ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ最下層梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ之ヲ定ムヘシ又各層梁受材ノ端末ニハ肘材ヲ設クヘシ

第二條　深九呎未滿ノ船舶ハ船首肘材ヲ取附クヘシ

第三條　深九呎以上十四呎未滿ノ船舶ニ於テハ船首肘材三箇、船尾肘材一箇ヲ置クヘシ

第四條　深十四呎以上十六呎未滿ノ船舶ニ於テハ船首肘材四箇、船尾肘材二箇ヲ設クヘシ

第五條　深十六呎以上ノ船舶ニ於テハ三呎以內ノ距離ニ船首肘材ヲ設ケ且二箇以上ノ船尾肘材ヲ設クヘシ

第六條　肘材ノ腕ノ長ハ船ノ幅ノ五分ノ一以上ト爲シ下部ニ用フルモノハ其ノ部分ニ於ケル內板ニ四十五度ノ角度ヲ以テ交叉セシムヘシ但添材ヲ附スルトキハ腕ノ長ハ船ノ幅ノ八分ノ一迄減スルコトヲ得

第七條　木製肘材ノ截面ハ咽喉部ニ於テ第四號表ニ揭クル甲板梁ノ截面ノ四分ノ三ト爲シ腕端ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ其ノ二分ノ一ト爲スコトヲ得

第八條　鐵製肘材ヲ用ウルトキハ幅ハ第五號表ニ於ケル短梁曲材ノ幅ニ二分ノ一吋ヲ加ヘタルモノ、厚ハ咽喉部ニ於テハ第五號表ニ揭クル短梁曲材ノ幅ニ等ク、腕ノ各部ニ於テハ第五號表ニ揭クル短梁曲材ノ厚ニ四分ノ一吋ヲ加ヘタルモノナルヲ要ス

第十章　梁曲材

第一條　鐵製竪梁曲材ノ寸法ハ第五號表ニ據ルヘシ

第二條　木製竪梁曲材ノ腕ノ長ハ第五號表ニ揭クル鐵製竪梁曲材ニ等クシ其ノ幅ハ之ヲ取附クル梁ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲シ其ノ厚ハ咽喉部ニ於テハ幅ノ一倍二分ノ一、腕端ニ於テハ幅ニ等クスヘシ

第三條　第二數八千四百未滿ノ汽船ニ於テハ甲板梁二本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第四條　第二數八千四百以上一萬七千未滿ノ汽船ニ於テハ交互ニ甲板梁一本置ト二本置ト短梁曲材ヲ取附クヘシ

第五條　第二數一萬七千以上二萬五千未滿ノ汽船ニ於テハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第六條　第二數二萬五千以上三萬三千未滿ノ汽船ニ於テハ甲板梁一本置ニ二本續キテ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第七條　第二數三萬三千以上ノ汽船ニ於テハ甲板梁毎ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ但第二數四萬二千以上六萬七千未滿ナルトキハ甲板梁三本置ニ、六萬七千以上十萬未滿ナルトキハ甲板梁二本置ニ又十萬以上ナルトキハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第八條　第二數八千四百未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第九條　第二數八千四百以上一萬七千未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁一本置ニ二本續キテ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第十條　第二數一萬七千以上十二萬未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁毎ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ但第二數二萬五千以上四萬二千未滿ナルトキハ甲板梁三本置ニ、四萬二千以上六萬七千未滿ナルトキハ甲板梁二本置ニ、六萬七千以上十二萬未滿ナルトキハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ノ代リニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第二數十二萬以上ノ帆船ニ於テハ甲板梁毎ニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第十一條　二層甲板船ノ上甲板梁ニハ長梁曲材ノ代リニ短梁曲材ヲ用ウルモ妨ナシ

第十二條　鉚梁ニハ梁毎ニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第十三條　第二數二萬五千以上ノ船舶ニシテ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ特設梁曲材ヲ鉚梁毎ニ取附ケ其ノ梁腕ハ第五號表ニ揭クル長梁曲材ノ梁腕ノ長ニ等キ長ヲ有シ側腕ハ肋根材ニ二個ノ鍍釘ヲ以テ固著スルニ足ルヘキ長ヲ有スルモノナルヲ要ス

特設梁曲材ノ厚及ヒ幅ハ第五號表ニ揭クル長梁曲材ニ準スヘシ

第十四條　前條ノ特設梁曲材ヲ用ヰサルトキハ梁ト梁トノ間ニ於ケル肋骨ニ鐵帶ヲ取附ケ上部ハ梁受材ニ緊著スヘシ

鐵帶ノ長及ヒ幅ハ特設梁曲材ノ側腕ニ等クシ厚ハ第五號表ニ揭クル長梁曲材ノ咽喉鉚部ニ於ケル厚ノ二分ノ一以上ト爲スヘシ

第十五條　木製又ハ鐵製ノ梁曲材ヲ用ウルトキハ其ノ

船ノ長ト深トノ割合

外部板腰ノ總幅ト船ノ深トノ割合	
六倍未滿	百分ノ二十五
六倍以上八倍未滿	百分ノ三十
八倍以上十倍未滿	百分ノ三十五
十倍以上十二倍未滿	百分ノ四十

ノ寸法ハ第五號表ニ據ルヘシ但梁腕及ヒ側腕ニ於ケル山形材ノ長ハ梁曲材ニ等クスヘシ

第十六條　肋骨間ニ於テ竪梁曲材ヲ固著スルトキハ該材ニ堰材ヲ挿入スヘシ

第十七條　横梁曲材ノ厚及ヒ幅ハ第五號表ニ揭クル短梁曲材ノ四分ノ三以上ト爲スヘシ

第十一章　外板及ヒ內張板

第一條　外板及ヒ內張板ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一間ノ車軸翼板ノ附近ニ於ケル外板ヲ除キ漸次其ノ厚ヲ減シ首尾ニ至リテ十分ノ八ト爲スコトヲ得

第二條　外板ノ横縫ノ避距ハ上下ニ鄰接スルトキハ肋骨ノ心距ノ三倍以上、外板一條ヲ隔テタルトキハ肋骨ノ心距ノ二倍以上、二條ヲ隔テタルトキハ肋骨ノ心距以上ト爲スヘシ

外板ノ横縫ハ三條ヲ隔ツルニアラサレハ同一ノ肋骨上ニ置クヘカラス

前二項ノ規定ハ船ノ首尾兩端ニ於テハ之ヲ適用セサルモ妨ナシ

第三條　外板及ヒ內張板ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外十八呎以上ナルヲ要ス

第四條　外板及ヒ內張板ノ幅ハ十二吋ヲ超ユヘカラス

第五條　兩舷ニ於ケル龍骨翼板ノ横縫ノ避距ハ肋骨ノ心距ノ三倍以上ト爲スヘシ

龍骨翼板ノ横縫ハ嵌接ト爲シ其ノ長ハ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ

第六條　外部腰板ハ水線ノ上下ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ據リ總幅ハ左表ニ據ルヘシ

船ノ長ト深トノ割合	外部板腰ノ總幅ト船ノ深トノ割合
六倍未滿	百分ノ二十五
六倍以上八倍未滿	百分ノ三十
八倍以上十倍未滿	百分ノ三十五
十倍以上十二倍未滿	百分ノ四十

第七條　舷側厚板ノ横縫ハ嵌接ト爲シ其ノ長ハ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ

第十二章　甲板

第一條　重甲板船ノ重甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ其ノ正甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ之ヨリ二分ノ一吋ヲ減スルコトヲ得

輕甲板船ノ正甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ其ノ輕甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ之ヨリ二分ノ一吋ヲ減スルコトヲ得

第二條　上甲板ハ總テ水密ト爲スヘシ

第三條　木甲板ノ幅ハ十吋ヨリ大ナルヘカラス又其ノ端末ニ於ケル幅ハ塡梁ヲ施スニ充分ナルヲ要ス

第四條　鄰接スル木甲板ノ横縫ノ避距ハ梁ノ心距ノ二倍以上ト爲スヘシ又木甲板三條ヲ隔ツルニアラサレハ同一梁上ニ横縫ヲ置クヘカラス

第五條　木甲板ノ長ハ船ノ首尾兩端及ヒ鉚口ノ間ヲ除クノ外二十呎以上ト爲スヘシ

第六條　揚錨機、揚貨機、繫船機等ノ下部ニ於ケル甲板ハ適當ノ補强構造ヲ爲スヘシ

第十三章　過當比例ノ船舶

第一條　過當比例ノ船舶ト雖長深ノ八倍ヲ超ユルカ又ハ長、幅ノ五倍ヲ超ユルモノヲ謂フ

第二條　過當比例ノ船舶ニハ其ノ長ト深及ヒ幅トノ割合ニ依リ左表ノ規定ニ從ヒ上部ニ於テ梁歷材木及ヒ舷側厚板ノ截面ヲ增シ下部ニ於テハ內龍骨ノ截面ヲ增スカ若ハ幅內龍骨又ハ內龍骨ヲ增設スヘシ

過當比例	梁歷材ノ增加	舷側厚板ノ增加
長、深ノ八倍以上九倍未滿若ハ幅ノ五倍以上六倍未滿	六分ノ一	兩側ニ增加スヘキ副內龍骨又ハ內龍骨ノ截面ト加スヘキ截面トノ割合
長、深ノ九倍以上十倍未滿若ハ幅ノ六倍以上七倍未滿	四分ノ一	六分ノ一
長、深ノ十倍以上十二倍未滿若ハ幅ノ七倍以上八倍未滿	三分ノ一	四分ノ一
長、深ノ十二倍以上十四倍未滿若ハ幅ノ八倍以上九倍未滿	二分ノ一	三分ノ一
長、深ノ十四倍以上十六倍未滿若ハ幅ノ九倍以上十倍未滿	三分ノ二	二分ノ一
長、深ノ十六倍以上十八倍未滿若ハ幅ノ十倍以上十一倍未滿	一	三分ノ二
長、深ノ十八倍以上二十倍未滿若ハ幅ノ十一倍以上十二倍未滿	一倍半	一
長、深ノ二十倍以上若ハ幅ノ十二倍以上	二	一倍半

第二條　第二數二萬五千以上ノ過當比例ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ左表ニ揭クル鐵製斜帶板ヲ肋骨ノ外面ニ取附クヘシ

第二數	斜帶板ノ幅	斜帶板ノ厚法
二萬五千以上二萬七千未滿	三吋	十六分ノ六吋
二萬七千以上四萬二千未滿	四吋半	十六分ノ七吋
四萬二千以上五萬八千未滿	五吋	十六分ノ八吋
五萬八千以上七萬五千未滿	五吋半	十六分ノ九吋
七萬五千以上十萬未滿	六吋	十六分ノ十吋
十萬以上二十萬五千未滿	六吋半	十六分ノ十一吋
二十萬五千以上二十六萬七千未滿	七吋	十六分ノ十二吋

第三條　鄰接スル木甲板ノ横縫ノ避距ハ梁ノ心距ノ二倍以上ト爲スヘシ又木甲板三條ヲ隔ツルニアラサレハ同一梁上ニ横縫ヲ置クヘカラス

第四條　斜帶板ハ船鍔ノ下部ヨリ肋根材長肢ノ頭部又ハ半肋根材ノ頭部ト第一肋材ノ頭部トノ中間迄達セシムヘシ

第五條　斜帶板ハ肋骨ニ四十五度ノ角度ニ取附ケ其ノ心距ハ船ノ長、深ノ八倍以上九倍未滿若ハ幅ノ五倍以上六倍未滿ナルトキハ八呎以下、又船ノ長、深ノ九倍以上十倍未滿若ハ幅ノ六倍以上七倍未滿ナルトキハ七呎以下、又船ノ長、深ノ十倍以上十一倍未滿若ハ幅ノ七倍以上八倍未滿ナルトキハ六呎以下ト爲スヘシ

第六條　斜帶板ハ船首ニ於テハ頭部ヲ後方ニ向ハシメ船尾ニ於テハ之ヲ前方ニ向ハシムル樣配置シ中央部ニ於テ三本以上相交叉セシムヘシ

第十四章　甲板室、船首樓、船橋樓、船尾樓、低船首樓及ヒ低船尾樓

第一條　輕甲板上ノ甲板室ハ其ノ高七呎ヲ超ユヘカラス又船ノ船尾ニ於テ船ノ長ノ五分ノ一間ニハ之ヲ設ケヘカラス

第二條　船首樓、船橋樓、船尾樓、低船首樓、低船尾樓等ノ合長ハ船ノ長ノ五分ノ三ヲ超ユヘカラス

船首樓、船橋樓及ヒ船尾樓ノ各材ノ截面ハ重甲板以下ノ各材ノ截面ノ四分ノ三以上ト爲スヘシ

首船樓、船橋樓又ハ船首樓ヲ設クルトキハ重甲板ニ於ケル肋骨間ノ空隙ハ船鏄ヲ以テ閉塞シ之ヲ水密ト爲スヘシ

第三條 低船首樓及ヒ低船尾樓ノ外板其ノ他ノ諸材ノ寸法ハ重甲板以下ニ要スル者ニ等クシ又梁、船首肘材及ヒ船尾肘材ノ配置ハ龍骨ノ上面ヨリ低船首樓又ハ低船尾樓ノ甲梁板ノ上面迄ノ深ヲ第七章及ヒ第九章ノ深ニ充テ之ヲ定ムヘシ

低船首樓甲板又ハ低船尾樓甲板及ヒ重甲板ノ梁壓材竝ニ梁受材又ハ梁受板ハ肋骨ノ心距ノ五倍以上相累スヘシ

低船首樓又ハ低船尾樓ヲ設クル船舶ニ於テハ上甲板ノ高ニ於テ船ノ首尾ヲ通シテ舷側厚板ヲ設クヘシ

第十五章 艙口、機關室口、載貨門及ヒ其ノ他ノ諸口

第一條 長十呎以上ノ艙口兩端ノ梁及ヒ帆船ニ於ケル檣ノ前後ノ深ハ第十章第十七條ニ規定スル橫梁曲材ヲ以テ船側ニ固著スヘシ

第二條 上甲板及ヒ正甲板ノ艙口ノ長八呎以上ナルトキハ其ノ中央ニ取外シ得ヘキ堅牢ノ梁ヲ設ケ其ノ長十呎以上ナルトキハ縱梁ノ兩端ハ第十章第十七條ニ規定スル橫梁曲材ヲ以テ甲板梁ニ固著スヘシ又其ノ長十五呎以上ナルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第三條 上甲板ニ設クル艙口、機關室口、載炭口、出入口、天窓、通風器等ノ諸口及ヒ甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ノ緣材ハ其ノ高甲板上面ヨリ第一級船ニ於テハ十二吋以上、第二級船ニ於テハ九吋以上、第三船級ニ於テハ六吋以上ト爲スヘシ但直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於テハ檢査官吏ノ見込ニ依リ緣材ノ高ヲ減スルコトヲ得

艙口ニハ堅牢ナル蓋板及ヒ縱材又ハ仕切梁等ヲ備ヘ且暴露甲板ノ艙口ニ在リテハ之ヲ堅固ニ密閉シ得ヘキ覆布及ヒ適當ノ締具ヲ備フヘシ

暴露甲板ノ載炭口、出入口、天窓、通風器等ノ諸口ニハ覆蓋又ハ覆板及ヒ覆布竝ニ適當ノ締具ヲ備フルカ其他水密トナルヘキ裝置ヲ爲スヘシ但檢査官吏ニ於テ水密ト爲スヘキ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 帆船ニ於テハ上甲板及ヒ檣ヲ楔止メト爲ス甲板ニ於ケル檣ノ前後ノ梁間ハ縱梁、塡材及ヒ橫曲材ヲ以テ固メ且其ノ上面ニ第三號表ニ揭クル甲板ノ厚ノ一倍三分ノ一ノ厚ト檣徑ノ二倍ヨリ少カラサル幅トヲ有スル檣孔板ヲ設クヘシ

第五條 汽機室口及ヒ汽鑵室口ハ成ルヘク小サクシ之ヲ造リ其ノ周圍ニハ緣材ヲ取附ケ甲板間ニ圍壁ヲ設クヘシ

第六條 上甲板ニ設クル汽機室口及ヒ汽鑵室口ニハ甲板上面ヨリ第二級船ニ於テハ二呎以上、第一級船ニ於テハ二呎六吋以上ノ高ヲ有スル圍壁ヲ取附ケ汽機室口ノ上端ニ天窓ヲ設クヘシ機關室圍壁ノ頂部ニ設クル天窓ハ堅牢ニ緣材ニ固著シ適當ノ覆蓋ヲ備フヘシ

汽鑵室圍壁ノ頂部ニ開口ヲ設クルトキハ蝶番ヲ以テ固著シタル鋼製ノ蓋板ヲ備フヘシ

第七條 一層甲板船ノ甲板及ヒ二層甲板船ノ正甲板ニ於ケル汽機室口及ヒ汽鑵室口ノ兩側ハ堅材ノ木甲板ヲ張詰メ且橫梁曲材ヲ以テ半梁ノ兩端ヲ固著スヘシ

第八條 汽關室口ノ兩端及ヒ中央ニハ第四號表ニ揭クル梁ノ截面ヨリ三分ノ二增シタル截面ヲ有スル堅材ノ特設梁ヲ設ケ其ノ兩端ハ堅梁曲材一本及ヒ橫梁曲材二本ヲ以テ船側ニ固著スヘシ但汽機室ト汽鑵室ト隔離スルトキハ各室ノ兩端ニ特設梁ヲ設クヘシ

特設梁ノ間ニハ堅材ノ縱梁ヲ設ケ橫梁曲材ヲ以テ特設梁ニ固著スヘシ

第九條 船側ニ載貨門又ハ載炭門其ノ他大ナル口ヲ設クルトキハ其ノ周圍ニハ適當ノ補強構造ヲ爲シ其ノ戶ハ堅牢ニ作リ適當ノ締具ヲ備ヘ閉鎖シタルトキハ水密ト爲ルヘキ構造ト爲スヘシ

第十條 載貨門及ヒ載炭門ハ舷側厚板、梁受材、梁受板、副梁受板及ヒ內部腰板ヲ切缺キテ設クヘカラス但特ニ相當ノ補強構造ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 滿載吃水線ノ標示ヲ附スル船舶ノ舷窓ニシテ海水中ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ六吋未滿ノ箇所ニ下緣ヲ有スルモノハ舷窓試驗規程ニ適合スル甲種舷窓又ハ同等以上ノモノナルコトヲ要ス

第十六章 固著法及ヒ固著釘

第一條 總テ重要ナル部分ニ用ウル固著釘ノ徑ハ第六號表ニ據ルヘシ但用材ノ寸法第二號表乃至第五號表ニ揭クルモノヨリ大ナルトキハ其ノ部分ニ用ウル固著釘ハ適當ニ釘徑ヲ增スヘシ

蔵釘ヲ打込ムヘキ釘孔ノ徑ハ釘徑ヨリ十六分ノ一吋以上小ナルコトヲ要ス

第二條 蔵釘ハ總テ同金屬ノ座金ノ上ニテ蔵著スヘシ

第三條 板ヲ肋骨又ハ梁ニ固著スヘキ打込釘ノ長ハ貫通スル板ノ厚ノ二倍以上ト爲シ又其ノ徑ハ其ノ部分ニ用ウル蔵釘ノ徑ヨリ十六分ノ二吋減シタルモノヨリ少カルヘカラス又角釘ヲ用ウルトキハ其ノ邊ハ圓釘ノ徑ノ十六ノ九以上ト爲スヘシ

第四條 木釘ヲ用ウルトキハ其ノ兩端ハ之ヲ切開シテ楔止メヲ爲スカ又ハ塡ヲ緊用キテ水密トナスヘシ

第五條 力材又ハ內龍骨ト船首材、船尾材又ハ龍骨トヲ貫通スル蔵釘ノ心距ハ十八吋以上ト爲ス但內龍骨カ力材ノ上部ニ達スルトキハ蔵釘ハ內龍骨ヲ貫通スルヲ要ス

第六條 肋骨ハ打込釘ヲ以テ龍骨ニ固著スヘシ

第七條 龍骨及ヒ內龍骨ハ肋骨每ニ蔵釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ緊著スヘシ

第八條 側內龍骨ハ肋骨每ニ蔵釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ緊著スヘシ

第九條 側內厚板ハ肋骨一本置ニ蔵釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ緊著シ其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

第十條 彎曲部縱通材ハ其ノ各材ノ幅八吋未滿ナルトキハ肋骨一本置ニ蔵釘及ヒ打込釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘二箇ヲ以テ固著スヘシ但其ノ幅八吋以上ナルトキハ適當ニ蔵釘ノ數ヲ增スヘシ

第十一條 上甲板梁受材及ヒ梁受板ハ肋骨每ニ蔵釘及ヒ打込釘ヲ以テ固著スヘシ但蔵釘ハ外板迄貫通セシムルコトヲ要ス

正甲板若ハ艙梁ノ梁受材及ヒ梁受板ハ肋骨一本置ニ蔵釘二箇ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ蔵釘及ヒ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

各層梁ノ副梁受板ノ固著法ハ總テ上甲板梁受材若ハ梁受板ニ等クスヘシ

第十二條 梁壓材ハ肋骨每ニ梁壓材肋骨及ヒ外板ヲ貫通スル蔵釘ヲ以テ緊著スヘシ但正甲板若ハ艙梁ノ梁壓材ノ蔵釘ハ外板ヲ貫通セサルモ妨ナシ

第十三條 幅梁壓材ハ梁每ニ蔵釘ヲ以テ緊著スヘシ

第十四條 船鏄ハ肋骨ノ間ニ於テ交互ニ蔵釘ト打込釘トヲ以テ舷側厚板ニ固著スヘシ

船鏄ハ梁ノ中間ニ於テ打込釘ヲ以テ梁壓材ニ固著スヘシ

船鏄ヲ貫キテ舷檣柱ヲ設クルトキハ船鏄ハ舷檣柱每ニ蔵釘ヲ以テ固著スヘシ又船鏄ヲ二材合セト爲ストキハ尙舷檣柱ノ間ニ於テモ蔵釘ヲ以テ緊著スヘシ

第十五條 內部腰板ノ固著法ハ上甲板梁受材ニ等クスヘシ

第十六條 梁ハ其ノ兩端ニ於テ船鏄、梁壓材及ヒ梁受材若ハ梁受板ヲ貫通スル蔵釘ヲ以テ緊著スヘシ但第二級船ニシテ第二數二萬五千未滿ナルトキハ蔵釘ノ代リニ打込釘ヲ用ウルモ妨ナシ

第十七條 鐵製ノ船首肘材及ヒ船尾肘材ハ其ノ咽喉部ヲ船首材又ハ船尾材ニ、其ノ腕ヲ肋骨每ニ蔵釘ヲ以テ緊著スヘシ

第十八條 梁曲材ニ用ウル蔵釘ノ心距ハ十二吋ヲ超ユヘカラス又各腕ニ於ケル固著釘ノ數ハ咽喉部釘ノ外二箇以上ナルヲ要ス

第十九條 柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル船舶ニ於テハ梁曲材及ヒ肘材ニ用ウル蔵釘ハ總テハ蔵釘ナルヲ要ス

第二十條 外板ノ橫緣ノ兩側ニ於テハ二箇ノ釘ヲ以テ外板ヲ肋骨ニ固著スヘシ但其ノ一ハ蔵釘ナルヲ要ス

橫緣ニ隣接スル肋骨ニ蔵釘ヲ以テ外板ヲ固著スルトキハ橫緣ノ兩側ニハ打込釘ヲ用ウルモ妨ナシ

第二十一條 外板ハ其ノ幅八吋未滿ナルトキハ肋骨每ニ二箇、幅八吋以上十吋未滿ナルトキハ肋骨每ニ三箇、幅十吋以上ナルトキハ肋骨每ニ四箇ノ釘ヲ以テ固著スヘシ但外板ノ幅十吋以上ナルトキト雖モ單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル船舶ニ於テハ肋骨每ニ三箇ヲ用ウルモ妨ナシ

前項ノ固著釘ハ肋骨一本置ニ一箇以上ノ蔵釘又ハ木釘ナルヲ要ス

第二十二條 龍骨翼板ハ前條ノ規定ノ外肋骨一本置ニ蔵釘ヲ以テ緊著スヘシ

龍骨翼板ハ其ノ厚五吋以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ肋骨ノ間ニ於テ六呎以內ノ心距ニ蔵釘ヲ以テ龍骨ニ緊著スヘシ

第二十三條 舷側厚板ハ本章第二十一條ノ規定ノ外蔵釘ヲ以テ肋骨一本置ニ肋骨及ヒ梁受材、梁受板又ハ梁壓材ヲ貫通シテ緊著スヘシ

第二十四條 木甲板ハ幅六吋以下ナルトキハ一箇以上、幅六吋ヲ超ユルトキハ二箇以上ノ打込釘ヲ以テ梁每ニ固著スヘシ

第二十五條 斜帶板ハ肋材每ニ蔵釘ヲ以テ肋骨ニ緊著スヘシ

第十七章 通風路及ヒ淦水路

第一條 各甲板ノ直下及ヒ其ノ梁受材若ハ梁受板又ハ副梁受板ノ下部ニハ船ノ首尾ヲ通シテ適當ノ通風路ヲ設クヘシ

船ノ首尾兩端ニ於ケル艙內ニ於テハ前項通風路ノ外梁受材若ハ梁受板ト內龍骨トノ間ニ通風路ヲ設クヘシ

第二條 肋骨ノ下面ニハ龍骨ノ兩側ニ於テ船ノ首尾ヲ通シテ適當ノ淦水路ヲ設クヘシ但外板ノ縱緣上ニ設クヘカラス

第十八章 舵

第一條 舵心材ハ一材ニテ作リ其ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但第二級船ニ於テハ其ノ截面ヲ同表ニ揭クルモノヨリ四分ノ一以內減スルコトヲ得

第二條 蝶番ノ數及ヒ舵針ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但下端ノ舵架ハ蝶番ノ數ニ加算スルモノトス

第二級船ニ於テハ舵針ハ截面ヲ第三號表ニ揭クルモノヨリ四分ノ一以內減スルコトヲ得

第三條 舵ノ壺金ハ厚ハ舵針ノ徑ノ二分ノ一ヨリ、深ハ舵針ノ徑ノ一倍四分ノ一ヨリ少カルヘカラス

第四條 輕甲板船ニ於テハ舵心材及ヒ舵針ノ徑ヲ重甲板船ニ要スルモノニ等クスヘシ

第五條 舵心材ハ力材ニ用ウルモノニ等キ蔵釘ヲ以テ舵材ニ固著シ其ノ心距ハ十八吋ヲ超ユヘカラス

第六條 銅又ハ黃銅ノ船底包板ヲ有スル船舶ノ蝶番及ヒ舵針ハ吃水線以下ニ於テハ黃銅製ナルヲ要ス

第十九章 塡絮及ヒ船底包板

第一條 接合ヲ水密ト爲スヘキ部分ニハ塡絮ヲ施スヘシ

第二條 塡絮ヲ施シタル部分ハ喞筒ヲ以テ水ヲ注射スル水密試驗ニ堪フルコトヲ要ス

第三條 船底ニハ滿載吃水線上少クモ一呎ノ所迄銅、黃銅若ハ木ノ船底包板ヲ張詰ムヘシ但適當ノ防腐劑ヲ塗抹スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十章 檣、帆架及ヒ斜檣

第一條 檣、帆架、斜檣等ノ寸法ハ左表ニ依ルヘシ

但汽船ニ於テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

名稱	材料	徑
「シップ」「バーク」及ヒ「ブリッグ」ノ前檣、正檣、前上檣及ヒ正上檣竝「シップ」ノ後檣	杉	三呎ニ付一吋
頂檣、「シップ」及ヒ「バーク」ノ後檣「バーク」ノ後上檣竝「バーケンタイン」「ブリガンタイン」「トップスルスクーナー」及「スクーナー」ノ檣	杉	四呎ニ付一吋
「ヤード」「ブーム」「シップブーム」及ヒ「フライングジッブーム」	杉	四呎ニ付一吋
斜檣	杉	七呎ニ付四吋

第二條 下檣ノ上端ノ徑ハ上檣下端ノ徑ヨリ小ナルヘカラス

第三條 一材檣ノ寸法ヲ定ムルニハ內龍骨ノ上面ヨリ下檣索具ヲ取附クル處迄ヲ下檣ノ長ト爲シ第一條ノ規定ニ依ルヘシ

第二十一章 機關室

第一條 機關室ノ前後ニハ隔壁ヲ設ケ上甲板下噸數三百五十噸以上ノ船舶ニ於テハ隔壁及ヒ石炭庫ノ圍壁ヲ鋼製ト爲スヘシ

前項ノ隔壁ハ正甲板ニ止ムルモ妨ナシ

第二條 機關室ノ甲板間ニ於ケル部分ノ周圍ニハ圍壁ヲ設ケ之ヲ暴露甲板迄達セシムヘシ

第三條 隔壁、圍壁其ノ他船體ノ部分カ木製ニシテ發動機又ハ汽鑵ニ接近シ燃燒ノ虞アルトキハ之ニ金屬板ヲ張ルカ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒ヲ豫防シ且汽鑵ニ接近スル場合ニハ防熱ノ爲メ金屬板ノ下ニ石綿又ハ毛紙ヲ敷クカ又ハ適當ノ間隔ヲ置クヘシ

電氣發動機船ノ蓄電池室ニハ通風ノ裝置ヲ爲シ其ノ床ハ鉛板ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第四條 上甲板下噸數五百噸以上ノ船舶ニ於テハ機關室ヨリ船尾管ニ通行シ得ヘキ車軸隧道ヲ設クヘシ但甲板ヨリ各軸受及ヒ船尾管ニ達シ得ヘキ昇降路ヲ設クルトキハ車軸隧道ハ通行シ得ヘカラサルモ妨ナシ

第二十二章 排水裝置及ヒ諸管

第一條 手用淦水喞筒及ヒ測水管ハ各艙ニ之ヲ設クヘシ但上甲板下ノ噸數三百五十噸未滿ノ船舶ニシテ各艙ニ設クルノ必要ナキトキハ各艙ヲ通シテ一箇ノ手用淦水喞筒ヲ設クルモ妨ナシ又平水航路ノ船舶ニ限リ檢査官吏ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ手用淦水喞筒及ヒ測水管ハ之ヲ設ケサルコトヲ得

手用淦水喞筒ハ滿載吃水線以上ノ甲板ニ於テ使用シ得ヘキ樣裝置スヘシ

第二條 正淦水喞筒ヲ備フル船舶ニ於テハ機關室ヨリ各艙ニ正淦水喞筒ノ吸水管ヲ通シ其淦水ヲ排除シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ但甲板下噸數三百五十噸未滿ノ船舶ニシテ該吸水管ヲ各艙ニ通スルノ必要ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 淦水吸水管ノ端末ニハ芥除ヲ設クヘシ

第四條 上甲板ニハ適當ノ間隔ニ排水孔ヲ設ケ之ヲ淦水道ニ導クヘシ若之ヲ舷外ニ通スルトキハ管口ニ適當ノ支水瓣若ハ螺旋蓋ヲ設クヘシ

第五條 艙內又ハ石炭庫ヲ通過スル諸管ニハ貨物又ハ石炭ノ積載等ニ依リ破損セサル樣堅固ナル覆箱又ハ覆板ヲ設クヘシ又汽管其他內部ヨリ高壓力ヲ受クル諸管ハ艙內又ハ石炭庫ヲ通過セシムヘカラス但檢査官吏ニ於テ適當ト認ムル圍壁又ハ隧道ヲ設クルトキハ此ノ限ニ在ラス

附 則(大正十一年一月遞令第五號)

本令ハ大正十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行以前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

(表ハ略ス)

●船舶滿載吃水線法

大正十年三月
法律第二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル船舶滿載吃水線法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

船舶滿載吃水線法

第一條 日本船舶ハ左ニ揭クルモノヲ除クノ外本法ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標示スヘシ

一　船舶檢查法第一條各號ニ揭クル船舶
二　沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限トスル船舶
三　總噸數百噸未滿ニシテ近海航路ヲ航路定限トスル帆船
四　漁獵、曳船、海難救助、浚渫又ハ測量ニノミ從事スル船舶其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認メタル船舶

第二條　滿載吃水線ノ指定ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ヲ滿載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ之ヲ受クヘシ

本法施行地ニ於テ製造スル船舶ハ製造中ト雖滿載吃水線ノ指定ヲ受クルコトヲ得

第三條　滿載吃水線ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ指定ス

第四條　滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標示シタル外國船ヲ除クノ外法令ニ依リ船燈、信號器、救命具ヲ船舶ニ備附クヘキ者ハ本法施行地ニ於テモ船舶ニ臨視シ又ハ其ノ航行ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第八條　滿載吃水線ノ指定、標示及指定手數料ニ關シ必要ナル規程ハ主務大臣之ヲ定ム

第九條　主務大臣ノ認定シタル船級協會ニ於テ本法及本法ニ基ク規程ニ準據シ滿載吃水線ヲ指定シ船舶滿載吃水線證書ヲ發給シタルトキハ其ノ證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ハ之ヲ本法ニ依リタルモノト看做ス

第十條　本法ハ本法施行地內ノ港ニ出入スル日本船舶ニ非サル船舶ニ之ヲ準用ス

第十一條　主務大臣ニ於テ前條ノ船舶ノ所屬地ノ滿載吃水線ニ關スル法令ヲ相當ト認メタルトキハ之ニ依リテ受ケタル船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ハ之ヲ本法ニ依リタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ本法ニ依リ發給シタル船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示效力ヲ認メサル外國ニ屬スル船舶ニハ之ヲ適用セス

第十二條　主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶滿載吃水線證書ヲ受ケサル船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行シ若ハ航行セムトシタルトキハ船長又ハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ノ規定ニ違反シ滿載吃水線ノ標示ヲ隱蔽、變更又ハ抹消シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第十三條　詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ船舶滿載吃水線證書ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ帝國外ニ於テ前項ノ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

第十四條　檢查官吏ノ臨視ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ航行停止ノ命ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第十五條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年十二月勅令第四百八十二號ヲ以テ大正十一年二月一日ヨリ施行）

第十六條　本法施行ノ際主務大臣ノ認定シタル船級協會ノ船舶滿載吃水線證書ヲ受ケタル者ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ヲ有スル日本船舶ハ本法ニ依ル船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ヲ有スルモノト看做ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ本法施行地內ノ港ニ在ル日本船舶ニ非サル船舶ニ付其ノ港ニ在ル間之ヲ準用ス

第十七條　前條第一項ノ規定ニ該當セサル日本船舶ニハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受クル迄本法ヲ適用セス

◉朝鮮船燈信號器救命具取締規則

大正十一年十一月
總令第百四十八號

朝鮮船燈信號救命具取締規則左ノ通定ム

朝鮮船燈信號器救命具取締規則

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ船燈ト稱スルハ電氣力ヲ以テ點火スル船燈ヲ除クノ外海上衝突豫防法ニ揭クル各種ノ船燈ヲ謂ヒ信號器ト稱スルハ同法ニ揭クル信號器中機械襄霧中號角、星火ヲ發スル樽彈、火箭及朝鮮船舶檢查規程ニ依リ船舶ニ備附クヘキ信號炮管ヲ謂ヒ救命具ト稱スルハ同規程ニ依リ船舶ニ備附クヘキ救命胴衣、救命浮環及救命炮ヲ謂フ

第二條　朝鮮船舶檢查令第四條第三號ニ揭ケタル外國船ヲ除クノ外法令ニ依リ船燈、信號器、救命具ヲ船舶ニ備附クヘキ者ハ本令ニ依リ檢印ヲ附シタルモノヲ備附ケ且船燈ニ在リテハ其ノ船名及備附年月日ヲ記載シタル檢定證明書ヲ船內ニ保管シ救命胴衣ニ在リテハ其ノ國俘ヲ附シタル著用法說明書ヲ旅客室每ニ揭示スヘシ

內地、臺灣又ハ關東州ノ管海官廳ニ於テ檢印ヲ附シタル船燈、信號器、救命具ハ本令ノ規定ニ依リ檢印ヲ附シタルモノト看做ス

第三條　船燈、信號器、救命具ノ試驗及檢定ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　本令中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者及朝鮮船舶職員令ノ適用ヲ受ケサル船舶ニ在リテハ船舶指揮者ニ之ヲ適用ス

第二章　製造免許

第五條　船燈、信號器又ハ救命具ヲ製造セムトスル者ハ朝鮮總督ノ免許ヲ受クヘシ

第六條　前條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ製造品一種每ニ仕樣書、圖面及標本ヲ添ヘ第一號書式ノ申請書ヲ提出スヘシ

大正九年遞信省令第七十五號ヲ以テ大正九年遞信省令第七十五號船用品檢查試驗規則ニ依ル合格證明書又ハ其ノ複本ニ該當スル製造品若ハ之ト同型ニシテ別記雛形甲號檢印ヲ受ケタルモノヲ以テ前項ノ標本ト看做ス

第七條　第二項ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ付テハ大正九年遞信省令第七十五號船用品檢查試驗規則ニ依ル合格證明書又ハ其ノ複本ニ該當スル製造品若ハ之ト同型ニシテ別記雛形甲號檢印ヲ受ケタルモノヲ以テ前項ノ標本ト看做ス

第八條　船燈、信號器又ハ救命具ノ製造免許期間ハ五年トス

第九條　免許製造人ハ第七條第一項ノ規定ニ依リ標本ノ交付ヲ受ケタルトキハ各製造所每ニ各一箇ヲ保管シ且其ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳每ニ各一箇ヲ差出スヘシ

第十條　前條ノ規定ハ免許製造人カ製造所ヲ增設シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ同一管海官廳ノ管內ニ製造所ヲ增設シタルトキハ該管海官廳ニ標本ヲ差出スコトヲ要セス

製造所又ハ管海官廳ニ保管スル標本カ滅失又ハ毀損シタルトキハ免許製造人ハ更ニ標本ヲ製造所ニ保管シ又ハ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前二項ニ揭クル標本ノ試驗申請ノ手續ニ付テハ第六條第七條及第九條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　免許製造人ハ其ノ製造所ニ免許製造人タルコトヲ示スヘキ標札ヲ揭ケヘシ

第十二條　免許製造人ハ製造品每ニ檢查官吏ノ適當ト認ムル方法ニ依リ左ニ揭クル事項ヲ標示スヘシ

一　製造品ノ名稱及種類
二　製造人ノ氏名又ハ名稱
三　製造年月
四　船燈ニ在リテハ製造番號

前項ノ規定ハ第九條及第十條ノ標本ニ之ヲ準用ス

第十三條　免許製造人製造品ヲ販賣セムトスルトキハ船燈ニ在リテハ一箇每ニ其ノ檢定證明書ヲ、星火ヲ發スル樽彈、火箭及信號炮ニ在リテハ十二個又ハ其ノ未滿每ニ、救命炮ニ在リテハ一箇每ニ略圖ヲ附シタル使用法說明書ヲ添附シ且星火ヲ發スル樽彈ニ在リテハ十二箇又ハ其ノ未滿每ニ打上臺一揃ヲ、火箭ニ在リテハ一箇每ニ箭竿ヲ添附スヘシ

前項ノ說明書ノ樣式ニ付テハ朝鮮總督府遞信局ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條　免許製造人ニ限リ製造免許ヲ受ケタル種類ノ船燈、信號器又ハ救命具ヲ修繕スルコトヲ得但シ船舶ノ航行中又ハ本條ノ規定ニ依リ修繕ヲ爲スコトヲ得ル免許製造人ナキ港ニ碇船中急遽ノ修繕ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　免許製造人ハ其ノ住所氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキハ製造免許證書ノ書換ヲ申請スヘシ

第十六條　製造免許證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ免許製造人ハ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

第十七條　免許製造人前二條ノ規定ニ依リ免許證書ノ交付ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊免許證書ヲ返還スヘシ但シ免許證書カ滅失シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人又ハ製造免許證書ノ保管者ニ於テ其ノ事由ヲ具シ製造免許證書ヲ返還スヘシ

一　免許期間滿了ノトキ
二　死亡若ハ廢業シタルトキ又ハ法人カ解散シタルトキ
三　免許ヲ取消サレタルトキ
四　警察官廳ヨリ火藥類ニ關スル許可ヲ取消サレタルトキ

前項ノ規定ニ依リ製造免許證書ヲ返還シタルトキハ管海官廳ハ其ノ標本ヲ還付ス

第十九條　製造免許證書ヲ返還スヘキ場合ニ之ヲ返還セサルトキハ其ノ無效ナルコトヲ朝鮮總督府官報ニ公告ス

第二十條　免許製造人其ノ製造所ヲ移轉、廢止又ハ增設シタルトキハ左ニ揭クル事項ヲ届出ツヘシ

一　移轉、廢止又ハ增設シタル製造所ノ位置及名稱
二　移轉、廢止又ハ增設シタル製造所ニ於ケル製造品ノ名稱及種類

第二十一條　免許製造人カ死亡又ハ隱居シタルトキハ其ノ相續人ニ限リ其ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ製造ヲ繼續セムトスルモノハ第十八條ノ手續ニ爲ス共ニ第一號書式ノ申請書ニ相續ヲ證明スル書面ヲ添附シ此ノ場合ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ヲ適用セス

第二十二條　免許製造人ハ其ノ製造所每ニ第四號書式ニ依リ每年一月前年中ニ製造シタル船燈、信號器又ハ救命具ノ統計表ヲ調製シ朝鮮總督府遞信局ニ差出スヘシ

第二十三條　第六條、第十條第三項、第十五條、第十六條、第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ申請若ハ届出ヲ爲シ前條ノ規定ニ依リ製造免許證書ヲ返還スルニハ其ノ製造所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第二十四條　免許製造人本令ノ規定ニ違反シタルトキハ朝鮮總督ハ其ノ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第三章　請賣認可

第二十五條　免許製造人ヨリ船燈、信號器又ハ救命具ヲ請賣セムトスル者ハ朝鮮總督府遞信局長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　前條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ第三號書式ノ申請書ヲ差出スヘシ

星火ヲ發スル樽彈、信號器又ハ救命具ヲ製造セムトスル者ハ朝鮮總督ノ免許ヲ受クヘシ

第二十七條　朝鮮總督府遞信局長ニ於テ前條ノ申請ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ第二號書式ノ認可證書ヲ交付ス

第二十八條　第十一條、第十三條及第二十四條ノ規定ハ請賣人ニ之ヲ準用ス

第二十九條　第十五條乃至第十九條ノ規定ハ認可證書ニ之ヲ準用ス

第三十條　請賣人其ノ請賣所ヲ移轉、廢止又ハ增設シタルトキハ左ニ揭クル事項ヲ朝鮮總督府遞信局長ニ届出ツヘシ

一　移轉、廢止又ハ增設シタル請賣所ノ位置及名稱
二　移轉、廢止又ハ增設シタル請賣所ニ於ケル請賣品ノ名稱及種類

第三十一條　第二十一條ノ規定ハ請賣人カ死亡又ハ隱居シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條　請賣人カ第二十六條、第二十九條第三十條若ハ前條ノ規定ニ依リ申請若ハ届出ヲ爲シ又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ認可證書ヲ返還スル場合ニハ其ノ請賣所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第三十三條　第六條、第十條第三項、第十五條、第十六條、第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ申請若ハ届出ヲ爲シ又ハ第十八條ノ規定ニ依リ製造免許證書ヲ返還スルニハ其ノ製造所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第三十四條　免許製造人船燈、信號器又ハ救命具ヲ販賣セムトスルトキハ其ノ標本ヲ還付ス

第三十五條　免許製造人ハ其ノ製造所每ニ第五號書式ニ依リ每年一月前年中ニ製造シタル船燈、信號器又ハ救命具ノ統計表ヲ調製シ朝鮮總督府遞信局長ニ差出スヘシ

第三十六條　第三十條第一項ノ規定ハ請賣人ニ之ヲ準用ス

第三十七條　第三十一條ノ規定ハ請賣人カ死亡又ハ隱居シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　第三十二條ノ規定ハ請賣人カ第二十六條、第二十九條第三十條若ハ前條ノ規定ニ依リ申請若ハ届出ヲ爲シ又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ認可證書ヲ返還スル場合ニハ其ノ請賣所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第三十九條　第三十三條ノ規定ハ免許製造人船舶、信號器又ハ救命具ヲ販賣セムトスル場合ニハ其ノ製造所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第四十條　第三十四條ノ規定ハ免許製造人船舶、信號器又ハ救命具ヲ販賣セムトスル場合ニハ其ノ製造所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第四十一條　第三十五條ノ規定ハ免許製造人船舶、信號器又ハ救命具ヲ販賣セムトスル場合ニハ其ノ製造所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第四十二條　第三十六條ノ規定ハ請賣人ニ之ヲ準用ス

第四十三條　第三十七條ノ規定ハ請賣人カ死亡又ハ隱居シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條　第三十八條ノ規定ハ請賣人カ第二十六條、第二十九條第三十條若ハ前條ノ規定ニ依リ申請若ハ届出ヲ爲シ又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ認可證書ヲ返還スル場合ニハ其ノ請賣所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

スト認メタルトキハ之ヲ申請人ニ交付シ且船燈ニ在リテハ其ノ檢定證明書ニ修繕檢定年月日及修繕箇所ヲ裏書シ檢査官吏捺印ノ上之ヲ申請人ニ交付ス

前項ノ場合ニ於テ現品カ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合セスト認メタルトキハ檢印ヲ取消シ且船燈ニ在リテハ其ノ檢定證明書ニ消印シ之ヲ申請人ニ交付ス

第三十九條　船燈ノ檢定證明書ヲ滅失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ第十一號書式ニ依リ最初檢定ヲ受ケタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

第四十條　前條ノ場合ニ於テ第十一號書式ニ依ル記載事項不明其ノ他ノ事由ニ依リ檢定證明書ノ再交付ヲ受クルコト能ハサルトキハ第十二號書式ニ依リ現品ヲ最寄管海官廳ニ差出シ再檢定ヲ申請スヘシ

前條ノ場合ニ於テ滅失又ハ毀損シタル檢定證明書カ內地、臺灣又ハ關東州ノ管海官廳ニ於テ交付ヲ受ケタルモノナルトキハ前項ノ手續ニ依リ再檢定ヲ申請スルコトヲ得

第四十一條　前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢査官吏ヲシテ現品ヲ檢査セシメ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ更ニ之ニ檢印ヲ附シ第九號書式ノ檢定證明書ト共ニ申請人ニ之ヲ交付ス

前項ノ場合ニ於テ現品カ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合セスト認メタルトキハ檢印ヲ取消シ之ヲ申請人ニ交付ス

第四十二條　製造所ニ保管シ又ハ管海官廳ニ差出シタル標本ハ該免許品ノ製造ヲ廢止セムトスル場合ニ於テハ第三十四條及第三十六條ノ規定ニ準シ檢定ヲ受クルコトヲ得

第四十三條　朝鮮總督府遞信局長ハ船燈、信號器、救命具ノ製造所、請賣所又ハ船舶ニ臨檢官吏ヲ派出シ船燈、信號器又ハ救命具ノ監査ヲ行ハシム

監査官吏船燈、信號器又ハ救命具ヲ監査シ其ノ檢定證明書又ハ標本ノ合格證明書ニ適合セスト認ムルトキハ其ノ檢印ヲ取消スヘシ

第五章　手數料

第四十四條　製造免許證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料二圓ヲ納ムヘシ

第四十五條　認可證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料一圓ヲ納ムヘシ

第四十六條　檢定證明書ノ再交付ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料二十錢ヲ納ムヘシ

第四十七條　船燈、信號器又ハ救命具ノ製造免許又ハ檢定ヲ受クルトキハ一箇ニ付左ノ手數料ヲ納ムヘシ

名稱及種類		
甲種檣燈	五	十錢
乙種檣燈	三	十錢
甲種舷燈	五	十錢
乙種舷燈	三	十錢
甲種兩色燈	四	十錢
乙種兩色燈	二	十錢
碇泊燈	二	十錢

（第三十四條又ハ第四十二條ノ申請ニ依ル場合、第三十五條又ハ第四十一條第三項ノ申請ニ依ル場合、第六條第一項又ハ第十二條ノ申請ニ依ル場合）

別種船燈	二	十錢	一	圓	三	圓
機械製霧中號角	二	十	錢	一	圓	三
星火ヲ發スル擲彈	五		錢	二	圓	三
火筒	五		錢	三	圓	十
信號熕管	五		錢	十	錢	二
救命胴衣	十		錢	一	圓	五
救命浮環	十		錢	五	十	錢
救命熕十	二		錢	二	十	錢

第四十八條　前四條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ申請書ニ貼用シタル收入印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スヘキモノトス

第六章　罰則

第四十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シテ檢印ヲ附セサル船燈、信號器、救命具ヲ備附ケタルトキ、船燈ノ檢定證明書ヲ船內ニ保管セサルトキ又ハ救命胴衣ノ著用法說明書ヲ旅客室ニ掲示セサルトキ

二　第五條ノ規定ニ違反シテ免許ヲ受ケスシテ船燈、信號器、救命具ヲ製造シタルトキ

三　第九條ノ規定ニ違反シテ標本ヲ製造所ニ保管セス又ハ之ヲ管轄管海官廳ニ差出ササルトキ

四　第十條ノ規定ニ違反シテ更ニ製造品ノ標本ヲ備ヘス又ハ製造品ノ標本ヲ管海官廳ニ差出ササルトキ

五　第十一條又ハ第二十八條ノ規定ニ違反シテ製造所又ハ請賣所ニ標札ヲ掲ケサルトキ

六　第十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ違反シテ檢定證明書ヲ添附セスシテ船燈ヲ販賣若ハ請賣シ又ハ說明書ヲ添附セスシテ星火ヲ發スル擲彈、火筒、信號熕管、救命胴衣、救命烟ヲ販賣若ハ請賣シタルトキ

七　第十三條又ハ第二十八條ノ場合ニ於テ虛僞ノ書類ヲ製造品又ハ請賣品ニ添附シタルトキ

八　第十五條乃至第十八條、第二十九條又ハ第三十九條ノ規定ニ違反シテ製造免許證書、認可證書又ハ檢定證明書ノ書換若ハ再交付ヲ申請セス又ハ之ヲ返還スヘキ義務ヲ怠リタルトキ

九　第二十條又ハ第三十條ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リタルトキ

十　第二十二條ノ規定ニ依リ統計表ヲ差出ササルトキ

十一　第二十五條ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケスシテ船燈、信號器又ハ救命具ヲ請賣シタルトキ

十二　第三十四條、第三十五條、第三十七條又ハ第四十條ノ規定ニ違反シテ船燈、信號器又ハ救命具ノ檢定又ハ再檢定ヲ受ケサルトキ

十三　第四十三條ノ規定ニ依リ臨檢シタル監査官吏ノ監査若ハ檢印ノ取消ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタルトキ

第五十條　本章ノ規定中船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人、免許製造人又ハ請賣人ニ適用スヘキモノハ刑法第三十九條第一項又ハ第四十一條ニ依リ其ノ者ヲ罰スヘカラサル場合ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ適用シ商事會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附則

第五十一條　本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條　大正三年朝鮮總督府令第八十四號朝鮮船燈、信號器、救命具取締規則ハ之ヲ廢止ス

第五十三條　本令施行前舊令ニ依リ爲シタル製造免許ノ申請又ハ請賣認可ノ申請ハ從前ノ例ニ依リ之ヲ處理スルコトヲ得但シ製造免許ノ期間ハ五年トス

第五十四條　舊令ニ依リ交付シタル製造免許證書又ハ認可證書ハ其ノ有效期間內本令ニ依リ交付シタルモノト看做ス但シ救命浮帶ノ製造免許證書ニ在リテハ其ノ有效期間ハ本令施行後五年ヲ以テ限トス

前項ノ製造免許證書ニ記載スル救命浮帶ニ付テハ本令中救命胴衣ニ關スル規定ヲ準用ス

第一項ノ製造免許證書ニ記載スル船燈ニ付檢定ヲ申請スル場合ニ於テハ第三十四條第二項ニ揭ケル添附書類ハ從前ノ規定ニ依リ試驗成績書寫ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五十五條　舊令ニ依ル檢印ヲ附シタル船燈、信號器及救命具ハ本令ニ依リ檢印ヲ附シタルモノト看做ス

舊令ニ依リ檢定ヲ受ケタル船燈ノ試驗成績書寫又ハ檢定明細書ハ本令ニ依ル檢定證明書ト看做ス

前項ノ試驗成績書寫ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ該船燈ノ免許製造人ニ之ヲ請求スヘシ若シ免許製造人ヨリ之ヲ得難キ事情アルトキハ朝鮮總督府遞信局ニ其ノ交付ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十九條乃至第四十一條、第四十六條乃至第四十八條ノ規定ヲ準用ス

第五十六條　舊令ニ依リ認可ヲ受ケタル請賣人ハ本令ノ施行後一年內ニ第五號書式ニ準シ認可證書ノ書換ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ手數料ヲ徵收セス

前項ニ依リ請賣人認可證書ノ書換ヲ申請セサルトキハ該證書ハ之ヲ無效トシ遞信局ハ其ノ旨ヲ朝鮮總督府官報ニ公告ス

第一號書式

收入印紙　製造免許申請書

貼付シタル收入印紙ノ額

一　製造品ノ名稱及種類
二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱
三　製造所ノ位置及名稱

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則第七條ニ依リ製造免許ス

年　月　日

朝鮮總督印

申請人　何　某印

朝鮮總督宛

第二號書式

第　號

割印　製造免許證書

（住所）

（氏名又ハ名稱）

（名稱、種類）

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則第七條ニ依リ製造ヲ免許ス

年　月　日

朝鮮總督印

第三號書式

第　號

合格證明書

住所　申請者名

一　檢査試驗品名數量及用途
二　製造者住所及氏名又ハ名稱
三　製造年月日
四　檢査試驗ノ成績　別記明細書ノ通

右檢査試驗ノ結果朝鮮船燈信號器救命具取締規則第七條ニ依リ本證ヲ交付ス

年　月　日

朝鮮總督印

第四號書式

年分（船燈）（信號器）（救命具）製造販賣高統計表

（船燈）（信號器）（救命具）製造免許證書番號製造人氏名

名稱種類	前年繰越高	製造高	販賣高	殘高	一箇ノ代價
	適合	不適合			卸賣 小賣

第五號書式

收入印紙　請賣認可申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　（船燈）（信號器）（救命具）
二　請賣所ノ位置竝請賣人ノ住所及氏名又ハ名稱

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則ニ依リ請賣認可申請候也

年　月　日

申請人　何　某印

朝鮮總督府遞信局長宛

備考　請賣所毎ニ請賣品ノ名稱及種類竝其ノ免許製造人ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ添記シ相續ニ依リ請賣ヲ繼續セムトスルトキハ請賣人ノ住所氏名又ハ名稱ヲ新舊ヲ併記スヘシ

第六號書式

第　號

認可證書

（住所）

（氏名又ハ名稱）

割印

（船燈）（信號器）（救命具）

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則第二十七條ニ依リ請賣ヲ認可ス

年　月　日

朝鮮總督府遞信局長　印

第七號書式

收入印紙　免許製造品檢定申請書

貼付シタル收入印紙ノ額

一　製造免許番號製造品ノ名稱、種類及箇數
二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱
三　製造所ノ位置及名稱
四　製造年月
五　船燈ニ在リテハ製造番號

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則第三十四號ニ依リ檢定申請候也

年　月　日

申請人　何　某印

管海官廳宛

第八號書式

收入印紙　外國製造品檢定申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　名稱、種類及箇數
二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱
三　製造所ノ位置及名稱
四　製造年月日
五　備附船舶ノ種類名稱總噸數及所有者

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則第三十五條ニ依リ檢定申請候也

年　月　日

住所

申請人　何　某印

管海官廳宛

第九號書式

検第　號

（海何）　検定證明書

製造免許第　號、名稱及種類

製造人住所及氏名又ハ名稱

製造所ノ位置及名稱

製造年月

製造番號

検定ノ成績　別記明細書ノ通

右検定ノ結果朝鮮船燈信號器救命具試驗檢定規程ニ適合ノモノト認ム

年　月　日

所屬管海官廳名

検定主任官　氏　名印

第十號書式

修繕検定申請書

一　名稱、種類及箇數

二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱

三　修繕箇所

四　修繕年月

五　備附船舶ノ種類、名稱、總噸數及所有者

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則第三十七條ニ依リ別紙検定證明書（何）通相添検定申請候也

年　月　日

住所

申請人　何　某印

管海官廳宛

第十一號書式

收入印紙　検定證明書再交付申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　名稱、種類及製造免許番號

二　製造人ノ氏名又ハ名稱

三　製造年月

四　製造番號

五　検査官廳名及検定番號

六　再交附申請理由

右検定證明書（何）通再交附申請候也

年　月　日

住所

申請人　何　某印

管海官廳宛

第十二號書式

收入印紙　再検定申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　名稱、種類及箇數

二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱

三　製造所ノ位置及名稱

四　製造年月

五　製造番號

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則第四十條ニ依リ再検定申請候也

年　月　日

住所

申請人　何　某印

管海官廳宛

●朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程

大正三年五月

總令第八十五號

改正　二年一二第一四九號

朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程左ノ通定ム

朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程

第一章　船燈

第一節　通則

第一條　舷燈、檣燈及兩色燈ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種檣燈ト稱スルハ海上衝突豫防法第二條第二號及第三號、甲種檣燈ト稱スルハ同條第一號、乙種舷燈ト稱スルハ同法第七條第一項第一號乙前段、乙種檣燈ト稱スルハ同號甲、甲種兩色燈ト稱スルハ同號乙後段、乙種兩色燈ト稱スルハ同項第三號ニ揭ケタルモノヲ謂フ

第二條　船燈ノ射光角度及光達距離ハ海上衝突豫防法ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第三條　燈籠ハ銅又ハ眞鍮ヲ用ヒ各接合ノ部分ハ間隙ナク密著セシムルコトヲ要ス

第四條　燈籠ノ通氣孔ハ相當ノ大サヲ有シ船舶ノ動搖風波等ノ爲透鏡、燈筒若ハ反射鏡ニ曇ヲ生セス又ハ消火セサル裝置ト爲スコトヲ要ス

第五條　燈籠ニハ適當ナル掛具ヲ裝置スルコトヲ要ス

第六條　燈窓ニハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外透鏡ヲ裝置スルコトヲ要ス

第七條　透鏡ノ橫截內面ハ圓弧形、竪截外面ハ平凸形又ハ折射平凸形ナルコトヲ要ス（第二圖及第二參照）

第八條　透鏡ハ冷熱ニ堪ユヘキ品質ニシテ兩面トモ滑カニ磨キ氣泡其ノ他ノ瑕疵ヲ有セス保存ニ堪ヘ得ル限リ薄キモノナルコトヲ要ス

第九條　油壺ノ容積ハ十六時以上費消シ得ヘキ油量ヲ貯ヘ其ノ構造ハ同時間以上規定ノ光力ヲ保ツヘキモノナルコトヲ要ス

第十條　油壺ノ內部ニハ燈油ノ動搖ヲ防クヘキ裝置ヲ設クルコトヲ要ス（第三圖參照）

第十一條　油壺ノ高ハ透鏡ノ全面ニ及ホス光線ヲ妨ケサルモノナルコトヲ要ス

第十二條　油壺ハ一定ノ位置ヨリ移動シ又ハ他ノ油壺ト挿違ヘサル裝置ト爲スコトヲ要ス

第十三條　火口ハ一定ノ位置ヨリ移動セサル裝置ト爲スコトヲ要ス

第十四條　火口ノ抑ヘ金及注油口ノ栓ハ螺旋注油口ノ栓ニハ動搖ノ爲油ノ漏出セサル裝置ヲ有スル空氣孔ヲ設クヘシ

石油用火口ニハ其ノ後面ニ沿ヒ排氣孔ヲ設クルコトヲ要ス

第十五條　燈筒ハ無色透明ナル良質ノ硝子ナルコトヲ要ス

第十六條　焰穗ノ最輝點ハ透鏡ノ橫截內面ニ於ケル圓弧ノ中心ニ在リテ且透鏡ノ中央水平面ニ在ルコトヲ要ス

第十七條　前條ニ揭ケタル圓弧ノ中心ヲ求ムル爲其ノ半徑ヲ得ルニハ左ノ算式ニ依ル

$$\frac{a^2}{2v}+v$$

r ハ透鏡ノ橫截內面ニ於ケル圓弧ノ半徑

a ハ透鏡ノ弦ノ二分ノ一

v ハ透鏡ノ弦ニ對スル正矢

第十八條　反射鏡ハ金屬ニテ製造シ鍍銀ヲ加ヘ充分磨キタルモノナルコトヲ要ス

第十九條　反射鏡ノ中心ハ焰穗ノ最輝點ト同一水平面ニ在ルコトヲ要ス

第二十條　反射鏡ノ橫截內面ハ焰穗ノ最輝點ヲ貫通スル垂直線內ニ中心ヲ有スル圓弧ナルコトヲ要ス

第二十一條　反射鏡ノ中心ヨリ焰穗ノ最輝點ニ至ル距離ヲ求ムルニハ第十七條ノ算式ニ依ル但シ此ノ場合ニ於テr ハ反射鏡ノ橫截內面ニ於ケル圓弧ノ半徑、a ハ反射鏡ノ弦ノ二分ノ一、v ハ反射鏡ノ弦ニ對スル正矢トス

第二十二條　透鏡ノ橫截內面ノ中心、反射鏡ノ橫截內面ノ中心及焰穗ノ最輝點ハ同一水平面上ノ一直線上ニ在ルコトヲ要ス

第二十三條　船燈ハ本令ニ適合セサルモノト雖試驗官吏又ハ檢定官吏ニ於テ本令ニ依ルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムル場合ニ限リ特ニ之ヲ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做スコトヲ得

第二節　甲種舷燈

第二十四條　燈籠ノ後面及側面ノ幅ハ各七寸五分以上、其ノ高ハ煙筒ヲ除キ九寸二分以上ナルコトヲ要ス

第二十五條　燈籠ノ後面及側面ノ幅ハ各百二十度以上ノ角度ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第二十六條　透鏡ハ船燈カ水平面ヨリ上下ニ各二十度傾斜スルモ一海里以上ノ距離ヨリ燈光ヲ見得ヘキ曲率ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第二十七條　燈窓ニ無色ノ透鏡ヲ使用スルトキハ透鏡ノ內面ニ接シ良質ノ著色硝子ヲ挿入スヘキ裝置ヲ設クルコトヲ要ス

第二十八條　前條ニ揭ケタル著色硝子ノ角度

及高ハ第二十五條ノ規定ニ依ル

第二十九條　火口ハ石油ヲ使用スルトキハ幅八分以上ノ平燈心又ハ徑八分以上ノ輪形燈心、種油ヲ使用スルトキハ幅一寸五分以上ノ平燈心又ハ徑一寸五分以上ノ輪形燈心ヲ挿入シ得ヘキ適當ノ大サナルコトヲ要ス

第三十條　火口ハ幅八分ノ平燈心ヲ使用スルトキハ船ノ首尾線ト直角ニ之ヲ据ユルコトヲ要ス又幅八分以上ノ平燈心ヲ使用スル場合ニ於テ心ノ兩端ヨリ首尾線ト直角ヲ爲ス二線ノ差ヲ八分以上一寸六分以下ト爲ストキハ火口ヲ首尾線ニ斜ニ据ユルコトヲ得

第三十一條　火口ヲ船ノ首尾線ト直角ニ据ユルトキハ其ノ內端ヨリ又斜ニ据ユルトキハ其ノ後端ヨリ船ノ正橫後二點ノ方位ニ引キタル線ハ透鏡ノ留金ノ前緣ヲ觸過スルコトヲ要ス（第四圖及乙參照）

第三十二條　反射鏡ノ大サハ透鏡內面ノ諸點ヨリ焰穗ノ最輝點ヲ通シテ引キタル線ヲ總テ反射鏡面ニ受ケシムルニ充分ナルコトヲ要ス

第三節　乙種舷燈

第三十三條　燈籠ノ後面及側面ノ幅ハ各六寸以上、其ノ高ハ煙筒ヲ除キ七寸五分以上ナルコトヲ要ス

第三十四條　透鏡ノ角度及高ハ第二十五條ノ規定ニ依ル

無色ノ透鏡ヲ使用スルトキハ第二十七條及第二十八條ノ規定ニ依ル

前二項ニ揭ケタル透鏡ノ曲率ハ船燈カ水平面ヨリ上下ニ各二十度傾斜スルモ半海里以上ノ距離ヨリ燈光ヲ見得ヘキモノナルコトヲ要ス

第三十五條　燈窓ニハ彎形硝子ヲ使用スルコトヲ得但シ其ノ角度及高ハ第二十五條ノ規定ニ適合シ其ノ厚ハ不同ナキモノナルコトヲ要ス

第三十六條　火口ハ石油ヲ使用スルトキハ幅五分以上ノ平燈心又ハ徑五分以上ノ輪形燈心、種油ヲ使用スルトキハ幅一寸以上ノ平燈心又ハ徑一寸以上ノ輪形燈心ヲ挿入シ得ヘキ適當ノ大サナルコトヲ要ス

第三十七條　火口ノ大サハ第三十二條ノ規定ニ依ル

第四節　甲種檣燈

第三十八條　反射鏡ノ大サハ第三十二條ノ規定ニ依ル

第三十九條　燈籠ノ大サハ第三十二條ノ規定ニ準スヘシ

第四十條　透鏡ノ橫截內面ハ百二十度以上ノ角度ヲ有シ其ノ高ハ煙筒ヲ除キ九寸二分以上ナルコトヲ要ス

第四十一條　火口ノ大サハ第二十九條ノ規定ニ依ル

第四十二條　反射鏡ノ橫截內面ハ百二十度以上ノ角度ヲ有シ其ノ高ハ半徑ノ長ヨリ少カラサルコトヲ要ス

第五節　乙種檣燈

第四十三條　燈籠ノ大サハ第三十三條ノ規定ニ準スヘシ

第四十四條　透鏡ノ角度及高ハ第四十條ノ規定ニ依ル

第四十五條　燈窓ニハ彎形硝子ヲ使用スルコトヲ得但シ其ノ角度及高ハ第四十條ノ規定ニ適合シ其ノ厚ハ不同ナキモノナルコトヲ要ス

第四十六條　火口ノ大サハ第三十六條ノ規定ニ依ル

第四十七條　反射鏡ノ角度ハ第四十二條ノ規定ニ依ル

第六節　甲種兩色燈

第四十八條　燈籠ノ大サハ第三十三條ノ規定ニ準スヘシ

第四十九條　各側ニ於ケル透鏡ノ角度及高ハ第二十五條ノ規定ニ依ル

第五十條　燈窓ニハ彎形硝子ヲ使用スルコトヲ得但シ各側ニ於ケル角度及高ハ第二十五條ノ規定ニ適合シ其ノ厚ハ不同ナキモノナルコトヲ要ス

第五十一條　燈窓ノ中央ニハ隔障ヲ設ケ綠光ヲ左舷ヨリ、紅光ヲ右舷ヨリ見得サル樣適當ノ裝置ヲ設クルコトヲ要ス

第五十二條　火口ノ大サハ第三十六條ノ規定ニ依ル

第五十三條　反射鏡ノ角度ハ第四十二條ノ規定ニ依ル

第七節　乙種兩色燈

第五十四條　燈籠ノ後面及側面ノ幅ハ各五寸以上、其ノ高ハ煙筒ヲ除キ六寸五分以上ナルコトヲ要ス

第五十五條　燈窓ニハ良質ノ彎形硝子又ハ板硝子ヲ使用スルコトヲ得

第五十六條　燈窓ハ中央ニハ第五十一條ノ規定ニ依ル隔障ヲ設クルコトヲ要ス

第五十七條　火口ハ幅五分以上ノ燈心ヲ挿入シ得ヘキ適當ノ大サナルコトヲ要ス

第八節　碇泊燈

第五十八條　燈籠ニハ徑六寸以上ノ圓筒形透鏡若ハ徑七寸以上ノ球形硝子ヲ使用スルコトヲ要ス

透鏡ノ高ハ第二十五條ノ規定ニ依ル

第五十九條　火口ノ大サハ第三十六條ノ規定ニ依ル

第九節　漁業用船燈

第六十條　三色燈ノ燈籠ノ大サハ第二十四條ノ規定ニ準スヘシ

第六十一條　三色燈ノ透鏡ノ橫截內面ノ角度及高ハ第四十條ノ規定ニ依ル

第六十二條　三色燈ノ燈窓ニ無色ノ透鏡ヲ使用スルトキハ第二十七條ノ規定ニ依ル

第六十三條　三色燈ノ燈窓ノ內外ニハ隔障ヲ設ケ綠光、紅光及白光ノ混射ヲ爲ササル樣適當ノ裝置ヲ設クルコトヲ要ス

第六十四條　三色燈ノ火口ノ大サハ第二十九條ノ規定ニ依ル

第六十五條　三色燈ノ反射鏡ハ第四十二條ノ規定ニ依ル

第十節　別種船燈

第六十六條　白燈ノ燈籠ニハ徑七寸以上ノ圓筒形透鏡若ハ直徑八寸以上ノ球形硝子ヲ使用スルコトヲ要ス

第六十七條　白燈ノ火口ハ徑七分以上ノ輪形燈心ヲ挿入シ得ヘキ適當ノ大サナルコトヲ要ス

第六十八條　信號用紅燈及白燈ノ火口ノ大サハ第六十六條ノ規定ニ依ル

第六十九條　信號用紅燈及白燈ノ燈籠ノ大サハ第六十七條ノ規定ニ依ル

第七十條　船尾燈ノ燈籠ノ大サハ第三十三條ノ規定ニ準スヘシ

第七十一條　船尾燈ノ燈窓ニ使用スル透鏡ノ橫截內面ハ百四十度以上ノ角度ヲ有シ其ノ高ハ半徑ノ長ヨリ少カラサルコトヲ要ス

船尾燈ノ燈窓ニハ彎形硝子ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ角度及高ハ前項ノ規定ニ適合シ其ノ厚ハ不同ナキモノナルコトヲ要ス

第七十二條　船尾燈ノ火口ノ大サハ第三十六條ノ規定ニ依ル

第七十三條　水先船用白燈及檣燈船用白燈ハ第五十八條及第五十九條ノ規定ニ依ル

第二章　信號器

第七十四條　機械製霧中號角ハ其ノ音響少クトモ一海里以上ニ達シ且四秒乃至六秒時ツツ發聲シ得ヘキ構造ナルコトヲ要ス

第七十五條　星火ヲ發スル榴彈及火箭ハ容易ニ發火セス且保存ニ堪ヘ四百尺以上昇騰スルモノナルコトヲ要ス

第七十六條　信號煙管ハ容易ニ發火セス且保存ニ堪ヘ五分時以上發焰シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第七十七條　信號器ハ本令ニ適合セサルモノト雖試驗官吏又ハ檢定官吏ニ於テ本令ニ依ルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムル場合ニ限リ特ニ之ヲ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做スコトヲ得

第三章　救命具

第七十八條　救命浮環ハ實體「コルク」又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル材料ヲ以テ製造シ保存ニ堪ヘ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第七十九條　救命浮環ノ內徑ハ一尺三寸五分以上トシ之ニ三貫八百七十匁以上ノ重量ヲ附著シ淡水中ニ於テ二十四時以上浮泛シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第八十條　救命浮環ハ帆布類ヲ以テ外裝シ之ニ防水塗料ヲ施スコトヲ要ス

第八十一條　救命浮環ニハ其ノ周圍ニ救命索ヲ附著スルコトヲ要ス

第八十二條　救命胴衣ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　浮力ヲ附スルニハ檢査官吏ノ適當ト認ムル實體「コルク」若ハ「カポック」又ハ檢査官吏ニ於テ之ト同一效力アリト認ムルモノヲ用ヒ氣嚢又ハ氣室ハ之ヲ用ヒサルコト

二　強靱ナル布類ヲ以テ外裝及紐付スルコト

三　大人及小兒ノ兼用ニ適シ著用法簡易ニシテ前後表裏轉用シ得ヘキコト

四　水中ニ於テ自體ヲ略ホ垂直ノ位置ニ保チ頭部ヲ充分露出セシメ得ヘキコト

五　淡水中ニ於テ一貫八百十匁ノ鐵片ヲ附著シテ四十八時間浮ヒタル後三貫八百七十匁ノ鐵片ヲ附著シ浮ヒ得ヘキコト

第八十三條　削除

第八十四條　救命浮ハ水中ニ於テ容易ニ發火シ三十分時以上發焔シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第八十五條　救命具ハ本令ニ適合セサルモノト雖試驗官吏又ハ檢定官吏ニ於テ本令ニ依ルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムル場合ニ限リ特ニ之ヲ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做スコトヲ得

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年十一月總令第百四十九號）

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

救命浮帶ノ試驗檢定ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

（圖略）

●沿岸貿易又ハ漁業ニ從事スル支那形日本船舶ニ關スル件

大正二年九月
總令第九十二號
改正　二年九第二四二號

沿岸貿易又ハ漁業ニ從事スル支那形日本船舶ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　沿岸貿易又ハ漁業ニ從事スル支那形日本船舶ハ左記各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ貿易ノ爲外國ニ往來シ又ハ朝鮮内地、臺灣及樺太ノ間ニ通航スル支那形日本船舶ニシテ開港間ニ於ケル沿岸貿易ニ從事スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　船員漁夫其ノ他總乘船員ノ半數以上ハ内國人ナルコト

二　内國人タル船長ヲ乘組マシムルコト

三　船體ノ外部周圍上緣ニ白色「ペイント」ヲ以テ幅五寸ノ白線一條ヲ畫スルコト

四　船首兩舷及船尾兩舷ニ於テ白線ヨリ下方一尺間ノ部分ヲ黑色「ペイント」ヲ以テ塗リ其ノ部分ニ白色「ペイント」ヲ以テ左ノ事項ヲ標示スルコト

甲　總噸數五噸以上ノモノハ船首兩舷ニ船名、船尾兩舷ニ船名及船籍港名

乙　總噸數五噸未滿ノモノハ船首兩舷ニ船名、船尾兩舷ニ船籍港名

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

但シ他ノ法令ニ於テ別ニ刑ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ大正二年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年朝鮮總督府令第八十八號ハ之ヲ廢止ス

（第一號樣式）

旗　寸法

三　煙　突　黃塗
但警察徽章ヲ上部ニ附ス
四　排汽管（ウエストパイプ）　黃塗
五　通風筒（ベンチレー）　黃塗
但眞鍮製ハ其ノ儘トス
六　檣　黃塗
但二檣ナルトキハ大檣ノ上部ヲ黑色トス

第二條　同一部署ニ同一形船二隻ヲ備フルトキハ朱及黑ヲ以テ外舷ニ識別線ヲ設クルコトヲ得

第三條　船名其ノ他ノ文字記載法ハ朝鮮船舶令施行規則ノ規定ニ從ヒ黑字ヲ用ヰルモノトス

●巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則

大正五年七月
總令第五十七號
改正　大正一〇年四月令五號

巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則左ノ通定ム

巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則

第一條　朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ所有者ニシテ亞米利加合衆國政府ニ於テ千九百十三年十一月二十一日發布シタル巴拿馬運河船舶測度規則又ハ蘇士運河會社ノ通航規則ニ依ル船舶ノ測度及噸數證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ附錄書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第二條　前條ノ申請ヲ爲ス者ハ測度ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第三條　管海官廳ニ於テ第一條ノ申請ヲ受ケタルトキハ巴拿馬運河噸數證書ニ在リテハ檢査官吏ヲシテ巴拿馬運河船舶測度規則ニ依リ船舶ノ測度ヲ行ヒ噸數證書ヲ調製セシメ、蘇士運河噸數證書ニ在リテハ管海官廳ニ於テ蘇士運河會社ノ通航規則ニ依リ船舶ノ測度ヲ行ヒ噸數證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ檢査官吏又ハ管海官廳ハ當該船舶ノ船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ申請者ヨリ提出セシムルコトヲ得

第四條　噸數證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲改測及證書ノ書換ヲ要スルモノト認ムルトキハ船舶所有者ハ附錄書式ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第二條及第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　噸數證書ニ記載シタル事項中改測ニ關係ナキモノニ變更ヲ生シタルトキ又ハ噸數證書ヲ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

管海官廳ニ於テ前二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ巴拿馬運河噸數證書ニ在リテハ檢査官吏ヲシテ之ヲ調製セシメ、蘇士運河噸數證書ニ在リテハ檢査官吏ヲシテ之ヲ調製シ申請者ニ交付スヘシ

第六條　噸數證書カ不用トナリタルトキハ船舶所有者ハ遲滯ナク之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

噸數證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ屆出ツヘシ但シ前條第二項ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　噸數證書ニ記載シタル事項カ巴拿馬運河官憲又ハ蘇士運河會社ニ依リ變更セラレタルトキハ船舶所有者ハ當該船舶カ朝鮮ニ歸航シタル後遲滯ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ屆出ノ時ニ噸數證書又ハ其ノ寫ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ巴拿馬運河噸數證書又ハ其ノ寫ニ在リテハ檢査官吏ヲシテ之ヲ查閱セシメ、蘇士運河噸數證書又ハ其ノ寫ニ在リテハ管海官廳之ヲ查閱シ噸數證書ニ付テハ查閱後遲滯ナク船舶所有者ニ返還スヘシ

第八條　船舶ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附錄測度手數料表ニ定ムル測度手數料ヲ納付スヘシ

申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下ケタル場合ト雖測度著手後ナルトキハ測度手數料ヲ徵收ス改測ノ場合ニ付亦同シ

第九條　噸數證書ノ交付、書換又ハ再交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ證書一通ニ付四圓ノ手數料ヲ納付スヘシ

第十條　前二條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スヘシ

第十一條　本令ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地ハ之ヲ告示ス

特別ノ事由アルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ疏明シ測度執行地外ニ於テ船舶ノ測度又ハ改測ヲ受クルコトヲ得

第十二條　測度執行地外ニ於テ測度又ハ改測ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者ハ檢査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

朝鮮船舶令施行規則第五十四條又ハ朝鮮船舶檢査令施行規則第八十二條ノ場合ニ於テ出張シタル檢査官吏ノ測度又ハ改測ヲ受クルトキハ前項ノ金額ハ相互ニ之ヲ通算ス

附　則

本令ハ大正五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十年四月總令第六十五號）

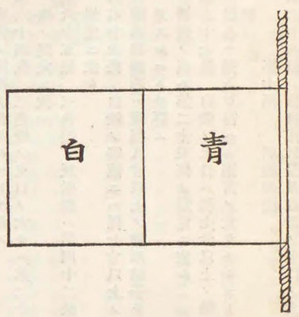
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前測度又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（第二號樣式）

旗　寸法

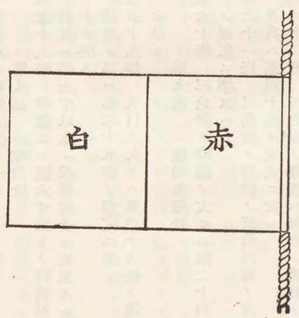
第一號樣式ニ同シ



（第二號樣式）

旗　寸法

第一號樣式ニ同シ



●警備船塗色規程

大正四年六月
警訓甲第三十號

警務部
警察署

警備船塗色規程左ノ通定ム

警備船塗色規程

第一條　警備船ハ左ノ如ク塗色スルモノトス

一　船體　白色
材質ヲ顧慮シ概ネ黃塗トス

二　甲板上各室

附錄

測度手數料表

測度種類 ＼ 船種 ＼ 總噸數		汽船及機關ヲ有スル帆船	帆船
新規測度又ハ全部改測	二十五噸以上百噸未滿	七圓	五圓
	百噸以上百五十噸未滿	十圓	七圓
	百五十噸以上二百噸未滿	十五圓	十圓
	二百噸以上三百噸未滿	二十圓	十五圓
	三百噸以上五百噸未滿	二十五圓	二十圓
	五百噸以上千噸未滿	三十圓	二十五圓
	千噸以上二千噸未滿	四十圓	二十五圓
	二千噸以上三千噸未滿	五十圓	三十圓
	三千噸以上四千噸未滿	六十圓	三十圓
	四千噸以上六千噸未滿	七十圓	三十五圓
	六千噸以上八千噸未滿	八十圓	三十五圓
	八千噸以上一萬噸未滿	百圓	四十圓
	一萬噸以上	百圓ニ付キ二圓ノ割合ヲ以テ加算ス	四十圓ニ付キ二圓ノ割合ヲ以テ加算ス
一部改測		三圓	二圓

備考

一　量噸甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ之ヲ全部改測ト看做シ本表ニ規定セル手數料ヲ納付スヘシ

二　第八條第二項ノ場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ計畫總噸數ニ依リ測度手數料ヲ納付スヘシ

巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地

大正五年七月
總告第百七十三號

巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則第十一條ノ規定ニ依リ同規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地左ノ通定ム

管海官廳　測度執行地

京畿道仁川　朝鮮總督府遞信局仁川海事出張所

同　釜山海事出張所　慶尙南道釜山

●外國ニ駐在スル帝國ノ大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍ヲ有スル帝國船舶及其ノ船員ニ關スル職權ノ件

大正六年五月
勅令第四十八號

朕外國ニ駐在スル帝國ノ大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍

ヲ有スル帝國船舶及其ノ船員ニ關スル職權ノ件ヲ認可シ玆ニ之ヲ公布セシム

外國ニ駐在スル帝國ノ大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ハ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍ヲ有スル帝國船舶及其ノ船員ニ關シテハ內地ニ船籍ヲ有スル帝國船舶及其ノ船員ニ關シ有スル職權ト同一ノ職權ヲ有ス

附　則

本令ハ大正六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●造船奬勵金下付停止ニ關スル法律ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ノ件

大正六年七月
勅令第七十一號

朕大正六年法律第二十九號施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

大正六年法律第二十九號ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

關東州ニ於ケル大正六年法律第二十九號第二條第一項ノ船舶ノ讓渡又ハ其ノ引渡ヲ受クル權利ノ讓渡ニ關シテハ同法ニ依ル

朕大正六年法律第二十九號ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル大正六年法律第二十九號ニ依納付金ニ關スル事項ハ遞信大臣ノ主管トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●造船奬勵金下付停止ニ關スル件

大正六年七月
法律第二十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル造船奬勵金下付停止ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　造船奬勵法ニ依ル造船奬勵金ノ下付ハ當分ノ內之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ日本船舶ヲ所有シ得サル者ノ注文ニ依リ製造スル船舶ヲ除クノ外本法施行ノ日迄ニ認許證書ノ交付ヲ受ケ大正七年九月三十日迄ニ竣工シタル船舶ニ付テハ之ヲ適用セス

前項ノ規定ニ該當セサル船舶ニ對シテハ第一項ノ停止ノ解除アリタル後ト雖造船奬勵金ヲ下付セス

第二條　前條第二項ノ規定ニ依リ造船奬勵金ノ下付ヲ受ケ又ハ受クヘキ船舶ハ前條第一項ノ停止ノ解除アリタル後ニ非サレハ之ヲ日本船舶ヲ所有シ得サル者ニ讓渡スコトヲ得ス但シ造船奬勵金ニ相當スル金額ヲ納付シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ造船業者ヨリ前項ノ船舶ノ引渡ヲ受クル權利ノ讓渡ニ付之ヲ準用ス

第三條　造船奬勵金ニ相當スル金額ヲ納付セシテ第一條第一項ノ停止ノ解除前前條第一項ノ船舶ヲ所有シ得サル者ニ讓渡シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第四條　前條ノ納付金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●造船奬勵金下付停止ニ關スル件

大正六年七月
遞信省令第二十三號

造船奬勵金下付停止ニ關スル件左ノ通定ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　認許證書ノ受有者ハ認許證書ヲ受ケ製造スル船舶カ大正六年法律第二十九號施行ノ日迄ニ日本船舶ヲ所有シ得サル者ニ引渡スヘキモノトナレルトキハ本令施行後一月以內ニ引渡ヲ受クヘキ者ノ國籍、住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ當該證書ヲ遞信大臣ニ返納スヘシ

前項ノ規定ハ認許證書ヲ受ケ製造スル船舶ノ注文者ニ付之ヲ準用ス

第二條　認許證書ノ受有者ハ造船奬勵金ノ下付ヲ受クヘキ船舶ヲ所有シ得サル者ニ讓渡サムトスルトキハ其ノ旨及左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ當該船舶ノ認許證書ヲ遞信大臣ニ返納スヘシ

一　當該船舶ノ認許證書番號、種類、名稱及總噸數又ハ計畫總噸數

二　讓受人ノ國籍、住所及氏名又ハ名稱

第二條　前條第二項ノ規定ニ依リ造船奬勵金ノ下付ヲ受ケ又ハ受クヘキ船舶ハ前條第一項ノ停止ノ解除アリタル後ニ非サレハ之ヲ日本船舶ヲ所有シ得サル者ニ讓渡スコトヲ得ス但シ造船奬勵金ニ相當スル金額ヲ納付シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ造船業者ヨリ前項ノ船舶ノ引渡ヲ受クル權利ノ讓渡ニ付之ヲ準用ス

第三條　造船奬勵金ニ相當スル金額ヲ納付セシテ第一條第一項ノ停止ノ解除前前條第一項ノ船舶ヲ所有シ得サル者ニ讓渡シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ造船奬勵金ニ相當スル金額ヲ納付セシム

第四條　前條ノ納付金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●造船奬勵金下付停止ニ關スル件

大正六年七月
遞信省令第二十三號

造船奬勵金下付停止ニ關スル件左ノ通定ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　認許證書ノ受有者ハ認許證書ヲ受ケ製造スル船舶カ大正六年法律第二十九號施行ノ日迄ニ日本船舶ヲ所有シ得サル者ニ引渡スヘキモノトナレルトキハ本令施行後一月以內ニ引渡ヲ受クヘキ者ノ國籍、住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ當該證書ヲ遞信大臣ニ返納スヘシ

前項ノ規定ハ認許證書ヲ受ケ製造スル船舶ノ注文者ニ付之ヲ準用ス

第二條　認許證書ノ受有者ハ造船奬勵金ノ下付ヲ受クヘキ船舶ヲ所有シ得サル者ニ讓渡サムトスルトキハ其ノ旨及左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ當該船舶ノ認許證書ヲ遞信大臣ニ返納スヘシ

一　當該船舶ノ認許證書番號、種類、名稱及總噸數又ハ計畫總噸數

二　讓受人ノ國籍、住所及氏名又ハ名稱

船舶積量測度互認

明治四十五年七月
總令第百二十五號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト和蘭國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ明治四十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

和蘭國政府ニ於テ千八百七十五年八月二十一日及千八百九十九年九月十八日付勅令海船積量測度規則ニ依リ測度シ千八百九十九年十月二十日以後交付シタル公正積量證書ヲ有スル和蘭國船舶並千九百二年一月三日以後交付シタル公正積量證書ヲ有スル西洋形蘭領印度船舶ハ朝鮮諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ヲ日本船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

明治四十五年七月
總告第二百六十九號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト和蘭國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ明治四十五年七月一日迄ニ認許證書ノ交付ヲ受ケ大正七年九月三十日迄ニ竣工シタル船舶ニ付テハ之ヲ適用セス

前項ノ規定ニ該當セサル船舶ニ對シテハ第一項ノ停止ノ解除アリタル後ト雖造船奬勵金ヲ下付セス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●船舶積量測度互認

大正六年七月
總令第百二十五號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト和蘭國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ明治四十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

和蘭國政府ニ於テ千八百七十五年八月二十一日及千八百九十九年九月十八日付勅令海船積量測度規則ニ依リ測度シ千八百九十九年十月二十日以後交付シタル公正積量證書ヲ有スル和蘭國船舶並千九百二年一月三日以後交付シタル公正積量證書ヲ有スル西洋形蘭領印度船舶ハ朝鮮諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ヲ日本船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

大正十一年十月
總告第二百二十六號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト丁抹國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ大正十一年十月一日以後朝鮮ニ船籍ヲ有スル船舶ニシテ大正三年十月一日以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ有スルモノハ丁抹國版圖內及其ノ管治スル地域ニ於テ積量ヲ測度セスシテ其ノ證書ニ記載スル噸數ヲ丁抹國船舶ノ噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

大正十一年十月
總令第百三十七號

丁抹國相當官憲ニ於テ千八百九十五年四月一日以後交付シタル船舶積量測度證書ヲ有スル丁抹國船舶ニ朝鮮諸港ニ於テ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年十月
總告第二百二十六號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト丁抹國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ大正十一年十月一日以後朝鮮ニ船籍ヲ有スル船舶ニシテ大正三年十月一日以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ有スルモノハ丁抹國版圖內及其ノ管治スル地域ニ於テ積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル噸數ヲ丁抹國船舶ノ噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

大正十二年六月
總告第百八十五號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト英國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ大正十二年六月二十日以後朝鮮ニ船籍ヲ有スル船舶ニシテ大正三年十月一日以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ有スルモノハ英國版圖內及其ノ管治スル地域ニ於テ其ノ積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル噸數ヲ英國船舶ノ噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

大正十二年六月
總令第百三十七號

丁抹國相當官憲ニ於テ千八百九十五年四月一日以後交付シタル船舶積量測度證書ヲ有スル丁抹國船舶ニ朝鮮諸港ニ於テ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五款　船員　水先人

●內務局土木出張所所屬船遞信局海事出張所所屬船警察官署所屬船及稅關所屬船相互使用ノ件

大正十三年十二月
總訓第五十八號

朝鮮總督府
遞信局
道
稅關

船舶ノ利用能率ヲ昂上セシムル爲內務局土木出張所所屬船、遞信局海事出張所所屬船、警察官署所屬船及稅關所屬船ハ共助ヲ旨トシ相互使用セシムヘシ

明治四十三年朝鮮總督府訓令第十號ハ之ヲ廢止ス

●朝鮮船員令

大正三年四月
制令第九號

朝鮮船員令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

第一條　朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ船員ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外船員法ニ依ル但シ同法中日本トアルハ朝鮮、主務大臣トアルハ朝鮮總督トス

第二條　外國ニ駐在スル外交官又ハ領事官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ朝鮮ニ送還スヘキトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス送還費用ノ償還ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三條　內地ノ管海官廳ニ於テ交付シタル船員手帖ハ本令ニ依リ交付シタルモノト看做ス

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際船員ニシテ第三條ノ船員手帖ヲ有セサル者ハ本令施行ノ日ヨリ六月內ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スヘシ

●船員法

明治三十二年三月
法律第四十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル船員法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

船員法

第一章　總則
第二章　船員手帖
第三章　船長
第四章　海員
第五章　紀律
第六章　罰則
附　則

船員法

第一章　總則

第一條　本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ揭ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

第二條　本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ船員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乘組員ヲ謂フ

第二章　船員手帖

第三條　日本ニ於テ船員ト爲ラムト欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

其事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月內ニ管海官廳ニ船員手帖ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實ヲ知リタルトキハ前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到著シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第四條　第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　船員カ死亡シタルトキハ其船員手帖ヲ保管スル者之ヲ返還スルコトヲ要ス

船員カ死亡シタルトキハ其船員手帖ヲ保管スル者之ヲ返還スルコトヲ要ス

第三章　船長

第六條　船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條　船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百六十二條第一項ニ揭ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第八條　船舶カ港灣ヲ通過スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第九條　日本ニ於テ外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到著シタルトキハ船長ハ二十四時間內ニ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閱ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間內ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セス

管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其他船中ニ在リタル者ヲ呼出タシテ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十條　左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到著シタル管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

一　豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二　人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三　衝突其他ノ海難ヲ生シタルトキ

四　船舶カ捕獲セラレタルトキ

五　船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ揭ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルトキハ船長ハ其ノ港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作リ其認證ヲ申請スルコトヲ得

第十二條　船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシムルノ後ニ非サレハ其指揮スル船舶ヲ去ラシムルコトヲ得

第十三條　船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告クルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　船長カ船舶ヲ救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　海員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其船中ニ在ル遺產ヲ保管スルコトヲ要ス

第十六條　外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到著シタル後最初ニ於テ船員ヲ解ク旨ノ申請ヲ爲サス且其旨ヲ記載シタル船員手帖ヲ受ケサルトキハ其到著ノ日ヨリ一箇月內ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第十七條　外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

送還費ノ償還ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ

ヲ定ム

第二十四條　船長ハ其指揮セムトスル船舶ニ乘込ム前ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ就職ノ認證ヲ得タル船長カ其職ヲ退キタルトキハ遲滯ナク退職ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十五條　船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選任セサルトキハ運航ニ從事スル海員ハ其職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

第四章　海員

第二十六條　海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又ハ雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條　管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者雙方ニ讀聞カセタル後之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セサルトキト雖モ公認ヲ爲スコトヲ得

當事者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ拇印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ氏名ヲ代署セシメ若クハ拇印シタル場合ニ於テハ海員名簿ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十八條　當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十九條　公認アリタルトキハ海員ハ遲滯ナク其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十條　海員ノ雇止ニ關シテ爭アルトキハ當事者ノ一方ハ管海官廳ニ其事由ヲ申立テ雇止ノ公認ヲ申請スルコトヲ得

管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ當事者雙方ヲ呼出タシ海員名簿及ヒ船員手帖ヲ提出セシメテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ雇止ノ公認ヲ爲シタルトキハ船長ハ海員ニ對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條　海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿ヲ作リ之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條及ヒ第二十八條ノ規定ハ海員名簿及ヒ船員手帖カ共ニ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ公認ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第三十五條　海員カ雇入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リテ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滯ナク第二十九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五章　紀律

第三十六條　左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

一　海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ

二　海員カ其職務ヲ怠リタルトキ

三　海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ

四　海員カ喧爭シタルトキ

五　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セサリシトキ

六　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルトキ

七　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ

八　海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ

九　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ

十　海員カ酩酊シテ事ヲ酒セサルトキ

十一　其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十七條　懲戒ハ左ノ四種トス

一　監禁

二　上陸禁止

三　加俸

四　減給

第三十八條　監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス

上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス

加俸ハ七日以下トシ當務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一日二時間ヲ超ユルコトヲ得ス

減給ハ給料月額十分ノ一以下トス

第三十九條　前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス

第四十條　懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但二種以上ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス

第四十一條　海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得

第四十二條　海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲サムトスルトキハ船長ハ必要ノ期間內其海員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第四十三條　船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在ル者ニ對シテモ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乘込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乘船ヲ强制スルコトヲ得

第四十五條　船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍

三　船長カ第十五條ノ規定ニ反シテ甲板ニ在ラサルトキ

四　船長カ必要アクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

第五十一條　船長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二十二條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條　船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第五十三條　船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡ササルトキハ一月以上三年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ告知ヲ爲ササルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ一月以上一年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條　船舶ニ急迫ノ危險アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ其船舶ヲ去リタルトキハ十一日以上三年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第五十六條　第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲ニ當タリ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上二年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第五十七條　船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ妄證ノ命ヲ拒ミタルトキハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條　船舶所有者又ハ船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條　船長カ第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條　船舶ノ運航ヲ妨クル目的ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ〔重懲役〕ニ處シ因テ船舶ヲ毀滅シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ刑法〔第百六十九條〕ノ例ニ依リテ處斷ス

第六十一條　海員カ雇入手續ノ終ハリタル後正當ノ理由ナクシテ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乘込マサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條　船長又ハ海員カ第五章ニ定メタル處分ヲ爲スニ當タリ海員カ其命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條　船員、旅客其他船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員カ脫船シタルトキハ十一日以上六月以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

海員カ外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第六十五條　船長カ正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキハ一月以上二年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

船長カ船長ノ許可ヲ得スシテ兒童、病者、器、爆發又ハ發火易キ物、劇藥其他ノ危險物ヲ所持スルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條　故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル屬具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條　本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

附則

第七十五條　本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

第七十六條　明治十二年第九號布告西洋形船ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六章　罰則

第四十六條　詐僞ノ所爲ヲ以テ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

詐僞ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帖ニ認證ヲ受ケタル者亦同シ

第四十七條　船長、第二十二條、第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シ船員手帖ノ交付、訂正若クハ公認ノ認證ヲ申請シ又ハ船員手帖ヲ返還スルコトヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條　虛僞ノ海員名簿又ハ船員手帖ヲ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認證ヲ受ケタル船員手帖ヲ增減、變換シテ行使シタル者亦同シ

第四十九條　左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一日以上六月以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　船長カ正當ノ理由ナクシテ商法第五百六十二條ノ規定ニ依リテ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ

二　船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ船員手帖ヲ提出セサルトキ

三　船長カ商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ揭ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

四　船長カ第十七條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキ

第五十條　左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　船長カ商法第五百六十一條ノ檢査ヲ爲サスシテ發航ヲ爲シタルトキ

二　船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從ヒ其ノ職務

海員雇入屆止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第七十七條　本法ノ規定ニ依リ管海官廳カ行フヘキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第八十條　本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

●朝鮮船員令施行規則

大正三年五月總令第七十五號

改正　大正十三年二月總令第四號

朝鮮船員令施行規則左ノ通定ム

第一章　總則

第一條　朝鮮船員令又ハ本令ノ規定ニ依ル申請ハ特ニ明文ヲ揭クル場合ヲ除クノ外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二條　代理人ニ依リ前條ノ申請ヲ爲ストキハ代理人ハ其ノ權限ヲ證スル書面ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三條　船員法及本令中最初ニ到著シタル港ノ管海官廳アル港ノ管海官廳ヲ謂フ

第四條　本令第二章乃至第四章ノ事務ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ休暇日ト雖之ヲ行フコトアルヘシ

第二章　船員手帖

第五條　船員法第三條第一項又ハ第六條ニ依

一　海員雇入ノ公認
二　海員雇止ノ公認
三　海員雇入契約更新ノ公認
四　船長就職ノ認證
五　船長退職ノ認證
六　前項ノ申請ヲ爲スニハ船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ名稱、船員手帖ノ番號及證明ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ從フノ外其ノ行爲ニ訂正ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ船長之ニ認印スヘシ

第十九條　管海官廳ニ於テ船員法第十六條第一項ニ依リ航海日誌ノ檢閱ヲ爲シタル旨及檢閱ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ船長ニ還付ス

第二十條　船員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告ヲ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面及船員法第十八條ノ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スヘシ

一　船籍港
二　船舶ノ種類及名稱
三　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
四　船長ノ氏名、住所並海技免狀ノ種類及機關ニ關スル事項ニ付テハ機關長ノ氏名、住所並海技免狀ノ種類
五　船舶ノ發航港及到達港竝報告スヘキ事實ノ發生シタル場所及年月日時
六　報告スヘキ事實ノ順末

第二十一條　報告書ハ認證ヲ爲シタル旨及認證ノ年月日ヲ報告書ニ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ爲ス

第二十二條　海員船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長又ハ運滯ナク上級海員二人以上ノ立會ヲ以テ其ノ遺產ヲ取調ヘ遺產目錄ヲ作ルヘシ

遺產目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印シ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員之ニ連署スルコトヲ要ス

一　死亡シタル海員ノ氏名、本籍地、住所及死亡ノ年月日時
二　遺產ノ品名及各品ノ數量、若金錢ナルトキハ其ノ金額

ヲ船員手帖ノ交付ヲ申請セムトスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

前項ノ申請者ハ船員法第三條第二項ニ揭ケタル事項ヲ證スル戶籍又ハ民籍ノ謄本若ハ抄本其ノ他ノ公正證書ヲ申請書ニ添附スヘシ

第六條　未成年者ハ前條ノ規定ニ從フノ外左ノ事項ヲ記載シ法定代理人ノ署名捺印シタル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

一　未成年者ノ氏名及本籍地
二　船員トシテ雇入ルヘキ船舶ノ名稱
三　船員トシテ雇入ルヘキ船舶ノ種類及其ノ船舶ニ乘組ムヘキ職務ノ種類
四　法定代理人ノ本籍地及住所

第七條　船員法第七條ニ依リ船員手帖ノ訂正ヲ申請セムトスル者ハ船員手帖ニ訂正ヲ要スル事項ヲ證スル戶籍又ハ民籍ノ謄本若ハ抄本其ノ他ノ公正證書ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

第八條　船員法第九條又ハ第十條ニ依リ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請セムトスル者ハ第十一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出シ且書換ヲ申請スル場合ニハ船員手帖ヲモ提出スヘシ

第五條第二項及第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ原管海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此ノ限ニ在ラス

海員雇入期間中第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニハ申請書ニ船長連署スルコトヲ要ス

第八條ノ二　船員カ汽船ニ乘組マムトスルトキハ船員手帖ニ新ニ撮影シタル自己ノ寫眞（名刺判寫眞ニ在リテハ二枚、半身閒帽ノ姿勢ニ限ル）ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テハ船員手帖ニ前項ノ寫眞ヲ貼附シ年月日ヲ記載シタル後之ヲ當該受有者ニ還付ス

前二項ノ規定ハ船員手帖ニ貼附シタル寫眞カ滅失若ハ毀損シ又ハ貼附ノ日ヨリ十年ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　船員法第十二條又ハ第三十二條ニ依リ船員手帖ヲ返還セムトスル者ハ其ノ事由ヲ疏明シ最寄管海官廳ニ船員手帖ヲ提出スヘシ

第十條　雇入期間中行衞不明ト爲リタル海員ノ雇止ヲ爲シタル者ハ其ノ雇止公認ヲ申請シタル管海官廳ニ該海員ノ船員手帖ヲ提出スヘシ若之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

他人ノ船員手帖ヲ保管スル者該船員手帖受有者ノ所在不分明ニシテ之ヲ本人ニ還付スルコト能ハサルトキハ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ船員手帖ヲ受領シタル管海官廳ハ受領ノ日ヨリ一年內ニ本人又ハ代理人ヨリ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ廢棄スヘシ

第十條ノ二　海員カ最後雇止ノ公認ヲ受ケタル日ヨリ引續キ三年間雇入ノ公認ヲ受ケサルトキハ其ノ受有スル船員手帖ハ之ヲ無效トス雇入雇止ノ公認ヲ受クルヲ要セサル船員カ最後下船ノ日ヨリ引續キ三年間乘船セサルトキ亦同シ

雇入雇止ノ公認ヲ受クルヲ要セサル船員ハ乘船又ハ下船ノ日ヨリ十四日以內ニ第十二號又ハ第十三號書式ニ依リ最寄管海官廳ニ届出ヲ爲スヘシ但シ船長就職又ハ退職ノ認證ヲ申請シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ乘船若ハ下船ノ届出又ハ退職認證ノ申請ヲ爲ササルトキハ第一項ノ期間ハ船員手帖交付ノ日又ハ最後乘船ノ届若ハ最後就職認證ノ申請書ニ揭クル乘船若ハ就職ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條　船員手帖餘白ナキニ至リタルトキハ船員ハ之ヲ最寄管海官廳ノ檢閱ニ供シタル後新船員手帖ノ交付ヲ申請スヘシ

第十二條　本章ニ規定スル申請ハ朝鮮ニ於ケル管海官廳ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條　船員手帖ノ樣式ハ第二號書式ニ依ル

第十四條　船員手帖ヲ受有スル者カ之ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船員ハ之ヲ最寄管海官廳ノ檢閱ニ供シタル後新船員手帖ノ交付ヲ申請スヘシ

本章ニ規定スル申請ハ朝鮮ニ於ケル管海官廳ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條　船員手帖ヲ受有スル者カ之ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ疏明シ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船員ハ現在ノ契約條項ヲ記載シタル海員名簿ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第十六條　左ノ場合ニ於テハ船長ハ事實ノ發生後遲滯ナク書式ニ從ヒ航海日誌ニ事實發生ノ年月日時、場所及顚末其ノ他關係ノ事項ヲ記載スヘシ

一　豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
二　人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ
三　衝突其ノ他ノ海難ニ罹リタルトキ
四　豫定セサル港ニ寄港シタルトキ
五　船舶ニ急迫ノ危險アリタル爲船長カ船舶ヲ去リタルトキ
六　海員ヲ懲戒シタルトキ
七　船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルトキ

船員法第四十五條ニ依リ援助ヲ求メタルトキ

九　船中ニ於テ犯罪アリタルトキ
十　船中ニ於テ出生アリタルトキ
十一　船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺產ヲ處分シタルトキ

十二　前各號ニ揭ケタル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事件發生シタルトキ

第十七條　船長ハ旅客乘船シタルトキハ其ノ乘船後、下船シタルトキハ其ノ下船後遲滯ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ疏明シ最寄管海官廳ニ船員雇入ノ公認ヲ申請スヘシ

第十八條　本章ニ揭クル書類ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ欄外ニ其ノ旨及字數ヲ記載シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ樣抹消スヘシ

第十五條第二項ニ依リ書類ヲ訂正シタルトキハ前項ノ規定ニ從フノ外其ノ行爲ニ訂正ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ船長之ニ認印スヘシ

第十九條　管海官廳ニ於テ船員法第十六條第一項ニ依リ航海日誌ノ檢閱ヲ爲シタルトキハ之ニ檢閱ヲ爲シタル旨及檢閱ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ船長ニ還付ス

第二十條　船員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告ヲ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面及船員法第十八條ノ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スヘシ

一　船籍港
二　船舶ノ種類及名稱
三　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
四　船長ノ氏名、住所並海技免狀ノ種類及機關ニ關スル事項ニ付テハ機關長ノ氏名、住所並海技免狀ノ種類
五　船舶ノ發航港及到達港竝報告スヘキ事實ノ發生シタル場所及年月日時
六　報告スヘキ事實ノ順末

第二十一條　報告書ハ認證ヲ爲シタル旨及認證ノ年月日ヲ報告書ニ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ爲ス

第二十二條　海員船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長又ハ運滯ナク上級海員二人以上ノ立會ヲ以テ其ノ遺產ヲ取調ヘ遺產目錄ヲ作ルヘシ

遺產目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印シ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員之ニ連署スルコトヲ要ス

一　死亡シタル海員ノ氏名、本籍地、住所及死亡ノ年月日時
二　遺產ノ品名及各品ノ數量、若金錢ナルトキハ其ノ金額

三　遺產目錄ヲ作リタル年月日

第二十三條　前條ノ場合ニ於テ船長ハ遺產目錄ヲ作リタル港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキ場合又ハ航行中之ヲ作リタル場合ニ在リテハ其ノ後最初ノ到著シタル港ノ管海官廳ニ遺產目錄ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ遺產目錄ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ其ノ管海官廳又ハ其ノ指定スル管海官廳ニ遺產ヲ差出スヘキコトヲ船長ニ命スルコトヲ得

第二十四條　朝鮮船員令第二條第一項ニ依リ日本臣民ヲ送還スヘキコトヲ命セラレタル船長カ外交官又ハ領事官ノ指定シタル港ニ到著シタルトキハ其ノ港ニ於ケル警察署長（警察分署長又ハ警察署ノ應務ヲ取扱フ應務員ノ分署ニ在ル場合ニ於テハ其ノ分署長）ニ送還ノ事由ヲ疏明シ被送還者ヲ引渡シタル警察署ニ提出シテ其ノ證明ヲ申請スルコトヲ得

第二十五條　船長カ就職又ハ退職ノ認證ヲ申請セムトスルトキハ場合ニ在リテハ第十號書式ノ申請書ニ就職又ハ退職及其ノ年月日ヲ證スル書面ヲ添ヘテ船員手帖ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

就職ノ認證ヲ申請セムトスル場合ニハ船長ハ前項ノ規定ニ從フノ外其ノ海技免狀ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十六條　第二十一條ノ規定ハ前條ノ認證ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章　海員

第二十七條　海員雇入ノ公認ヲ申請セムトスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキトキハ其ノ後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第三號書式ノ申請書

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

一　海員雇入期間カ滿了シタルトキ
二　海員カ死亡シタルトキ
三　海員雇入契約ヲ解除シタルトキ
四　海員雇入契約カ終了シタルトキ
五　雇入期間中ニ船員カ朝鮮船員令ノ適用ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキ

第三十六條　海員雇止ノ公認ヲ申請セムトスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

一　被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌
二　被雇者ニ關スル第二十八條乃至第三十條及第三十二條ノ規定ハ海員雇止ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條　海員雇入ノ公認ヲ申請セムトスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキトキハ其ノ後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第三號書式ノ申請書
二　海員雇止ノ公認
三　海員雇入契約更新ノ公認
四　船長就職ノ認證
五　船長退職ノ認證
六　前項ノ申請ヲ爲スニハ船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ名稱、船員手帖ノ番號及證明ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ從フノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スヘシ但シ記載スヘキ事項不明ナルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第三章　船長

第十五條　船長ハ海員名簿、屬具目錄、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ船中ニ備ヘタルトキ遲滯ナク書式ニ從ヒ必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滯ナク之ヲ訂正スヘシ

第十六條　左ノ場合ニ於テハ船長ハ事實ノ發生後遲滯ナク書式ニ從ヒ航海日誌ニ事實發生ノ年月日時、場所及顚末其ノ他關係ノ事項ヲ記載スヘシ

一　豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
二　人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ
三　衝突其ノ他ノ海難ニ罹リタルトキ
四　豫定セサル港ニ寄港シタルトキ
五　船舶ニ急迫ノ危險アリタル爲船長カ船舶ヲ去リタルトキ
六　海員ヲ懲戒シタルトキ
七　船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルトキ

船員法第四十五條ニ依リ援助ヲ求メタルトキ

九　船中ニ於テ犯罪アリタルトキ
十　船中ニ於テ出生アリタルトキ
十一　船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺產ヲ處分シタルトキ

十二　前各號ニ揭ケタル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事件發生シタルトキ

第十七條　船長ハ旅客乘船シタルトキハ其ノ乘船後、下船シタルトキハ其ノ下船後遲滯ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ疏明シ最寄管海官廳ニ船員雇入ノ公認ヲ申請スヘシ

第十八條　本章ニ揭クル書類ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ欄外ニ其ノ旨及字數ヲ記載シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ樣抹消スヘシ

第十五條第二項ニ依リ書類ヲ訂正シタルトキハ前項ノ規定ニ從フノ外其ノ行爲ニ訂正ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ船長之ニ認印スヘシ

第十九條　管海官廳ニ於テ船員法第十六條第一項ニ依リ航海日誌ノ檢閱ヲ爲シタルトキハ之ニ檢閱ヲ爲シタル旨及檢閱ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ船長ニ還付ス

第二十條　船員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告ヲ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面及船員法第十八條ノ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スヘシ

一　船籍港
二　船舶ノ種類及名稱
三　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
四　船長ノ氏名、住所並海技免狀ノ種類及機關ニ關スル事項ニ付テハ機關長ノ氏名、住所並海技免狀ノ種類
五　船舶ノ發航港及到達港竝報告スヘキ事實ノ發生シタル場所及年月日時
六　報告スヘキ事實ノ順末

第二十一條　報告書ハ認證ヲ爲シタル旨及認證ノ年月日ヲ報告書ニ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ爲ス

第二十二條　海員船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長又ハ運滯ナク上級海員二人以上ノ立會ヲ以テ其ノ遺產ヲ取調ヘ遺產目錄ヲ作ルヘシ

遺產目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印シ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員之ニ連署スルコトヲ要ス

一　死亡シタル海員ノ氏名、本籍地、住所及死亡ノ年月日時
二　遺產ノ品名及各品ノ數量、若金錢ナルトキハ其ノ金額

二　契約ノ變更被雇者ノ職務ニ係ル場合ニ於テ被雇者海技免狀ヲ受有スルトキハ其ノ免狀

第四十五條　第二十八條乃至第三十一條ノ規定ハ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條第二號第三號ノ書類又ハ前條第二號ノ更新又ハ變更ノ公認アリタルトキ之ヲ雇者ニ還付ス

第四十六條　海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請セムトスルトキハ海員ハ船員手帖ノ相當欄ニ更新又ハ變更ノ年月日、場所及其ノ要旨ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第四十七條　海員雇入雇止又ハ雇入契約ノ更新若ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船長ノ證明書ニ依リ船員手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ船員手帖ニ公認ノ認證ノ年月日及第三十三條、第三十四條又ハ第三十八條ノ場合ニ於テハ公認ノ認證ノ事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ雇止ノ場合ニハ之ヲ海員ニ還付シ其ノ他ノ場合ニハ之ヲ雇者ニ交付ス

第四十八條　船員カ船員手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ法令ニ特別ノ規定ナキ場合ニ於テモ管海官廳ニ申請シテ船員手帖ニ原手帖ニ記載アリタル事項ニ關スル認證ヲ受クルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲スニハ認證ヲ受クヘキ事項ヲ船員手帖ニ記載シテ提出シ公認アリタル海員名簿、船長ニ於テ證明シタル海員名簿ノ謄本、毀損シタル船員手帖又ハ相當官廳ノ證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ認證ノ申請ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ前項ノ書類ニ依リ新手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ前條ノ手續ニ依リ且認證ノ事由ヲ記載シテ認證ヲ爲ス

第四十九條　船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ申請セムトスルトキハ左ノ書類ヲ添ヘ海員名簿ヲ作リタル港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中之ヲ作リタルトキハ其ノ後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第七號書式ノ申請書

二　第二十七條第二號ノ書類

三　被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其ノ手帖

前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出スル場合ニ在リテハ被雇者總員ノ氏名、其ノ他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名ヲ之ニ記載スヘシ

第二十八條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十條　第二十九條及第三十條ノ規定ハ被雇者全部又ハ一部ノ船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニ於テ前條ノ申請及公認ニ之ヲ準用ス但シ原管海官廳ニ前條ノ海員名簿ヲ提出スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條　船員法第三十四條第一項ノ申請ニ依リ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ同項ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第四十九條第二號及第三號ノ書類ト共ニ之ヲ船長ニ還付ス

第五十二條　第二十七條、第三十二條乃至第三十四條、第三十六條、第三十七條、第四十三條、第四十四條、第四十六條、第四十八條第二項又ハ第四十九條第二項ノ場合ニ於テ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲スニ當リ文字ヲ訂正挿入又ハ削除シタルトキハ其ノ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ樣抹消スヘシ此ノ場合ニハ管海官廳ニ於テ公認又ハ公認ノ認證ヲ爲スニ當リ之ニ認印スルニ非サレハ文字ノ訂正、挿入又ハ削除ノ效力ヲ有セス

第五十三條　管海官廳ハ年月日及管海官廳ノ名稱ヲ刻シタル印ヲ以テ第十九條、第二十一條、第二十六條、第三十一條、第三十九條、第四十二條、第四十五條第一項、第四十七條、第四十八條第三項及第五十一條ノ年月日ノ記載及捺印ニ代フルコトヲ得

第五十四條　公認及公認ノ認證ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ管海官廳外ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトアルヘシ

第五章　手數料

第五十五條　本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ手數料ヲ納付スヘシ

一　船員手帖ノ交付又ハ書換

一部ニ付　二十錢

二　船員手帖ノ訂正（船員法第三條第二項ノ規定ニ依ル訂正ヲ除ク）

一箇所ニ付　五錢

三　報告書ノ認證

一通ニ付　一圓

四　船長就職又ハ退職ノ認證

一件ニ付　二十錢

五　公認　被雇者一人ニ付　十錢

但シ船員法第三十四條ノ場合ニ於テハ被雇者一人ニ付　五錢

六　公認ノ認證

一件ニ付　五錢

七　海員雇入又ハ雇止ノ公認ノ證明

一件ニ付　十錢

八　海員雇入契約更新又ハ變更ノ公認ノ證明

一件ニ付　十錢

九　船長就職又ハ退職ノ認證ノ證明

一件ニ付　四十錢

外國ニ於テ手數料ヲ納付スヘキトキハ其ノ額ハ左ノ規定ニ依ル

一　報告書ノ認證

一通ニ付　二圓

二　船長就職又ハ退職ノ認證

一件ニ付　四十錢

三　公認　被雇者一人ニ付　二十錢

但シ船員法第三十四條ノ場合ニ於テハ被雇者一人ニ付　十錢

四　公認ノ認證　一件ニ付　十錢

前二項ノ手數料ハ第四條又ハ前條ノ場合ニ於テハ前二項ニ定ムル額ノ二倍トス

第五十六條　前條ノ手數料ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外第八號書式ノ手數料納付書ニ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納付スヘシ

既納ノ手數料ハ之ヲ還付セス

第六章　罰則

第五十七條　第十五條、第二十二條第一項、第二十三條第一項、第二十四條第一項、第三十三條第二項又ハ第三十四條ニ違反シタル者、第二十三條第二項又ハ第三十四條ニ違反シテ管海官廳ニ遺產ヲ差出ササル者又ハ第三十八條第二項ニ定メタル證明書ノ交付又ハ公認ノ通知ヲ爲ササル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五十八條　船長カ朝鮮船員令第二條第一項ノ規定ニ違反シ登還ノ命令ヲ拒ミタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ朝鮮船員令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（大正十三年二月總令第四號）

本令ハ大正十三年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ汽船ニ乘組メル者ハ遲滯ナク第八條ノ二第一項ノ例ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

本令施行前交付ヲ受ケタル船員手帖ニ付テハ第十條ノ二第一項ニ定ムル期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第一號書式（用紙美濃判）

船員手帖交付申請書

船員手帖ノ番號	氏名印	
本籍地		

身分	男女別	出生ノ年月日
船員手帖交付ノ年月日		

備考

氏名ニハ片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ

身分欄ニハ戶主家族ノ別、家族ナルトキハ戶主ノ氏名及戶主トノ續柄ヲ記載スヘシ

船員手帖ノ番號及同交付年月日欄ハ管海官廳ニ於テ記載スルモノナルニ付申請人ハ何等記載ヲ要セス

男女別欄ニハ男子ナルトキハ記入ニ及ハス

第二號書

氏名	
本籍地	
身分	
出生年月日	

大正　年　月　日交付

第　號

朝鮮

船員手帖

（管海官廳名印）

官廳記事

六

船種船名　船　丸　船籍港

積量　航路又ハ航路定限　船長氏名

職務　給料

雇入期間　雇入地

雇入年月日　大正　年　月　日　公認年月日　大正　年　月　日

右雇入公認アリタルコトヲ認證ス

大正　年　月　日

（管海官廳名印）

七

雇入契約ノ變更又ハ更新

雇止事由　雇止地

雇止年月日　大正　年　月　日　公認年月日　大正　年　月　日

右雇止公認アリタルコトヲ認證ス

大正　年　月　日

（管海官廳名印）

七六

履歷

備考　船員手帖ノ寸法ハ竪五寸横三寸五分トス

第四頁第五頁ハ第三頁ニ同シク第八頁乃至第七十五頁ハ順次第六頁第七頁ニ同シク第七十七頁ハ第七十六頁ニ同シ

第三號書式（用紙美濃判）

年　月　日

（管海官廳名）御中　雇者（氏　名　印）

海員雇入公認申請書

船舶番號	船種船名	船舶使用ノ目的	航路又ハ航路定限	總噸數	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
第　號	船丸				

乘組員實數	甲板部	機關部	事務部	計
	人	人	人	人

雇入年月日	雇入地	被雇者氏名	船員手帖ノ番號	職務	海技免狀種類	給料	雇入期間
年　月　日						手當	
			第　號				
計　名							

備考

海員名簿ニ飲食物又ハ其ノ代料ニ關スル記事及特別契約條項ヲ記載シタルトキハ其ノ寫ヲ添附スヘシ

船員手帳番號欄ニハ船員手帳ヲ交付シタル管海官廳ノ所在地ヲ其ノ番號ニ冠附シ之ヲ記載スヘシ例ヘハ仁川ノ管海官廳ニテ交付シタル第一號ノ船員手帖ニハ仁川第一號ト記載スルカ如シ第四號乃至第七號及第九號乃至第十三號書式ニ付亦同シ雇者氏名ノ肩書ニハ

船舶所有者又ハ船長ト記載シ若シ代理人ナルトキハ其ノ職名又ハ職業名ヲ記載スヘシ例ヘハ船長何某代理人運轉士何某ト記載スルカ如シ第四號乃至第七號書式ニ付亦同シ

船舶使用ノ目的欄ニハ船舶ノ用途例ヘハ旅客船貨物船貨客船漁船等ノ區別ヲ記入スヘシ

第九號及第十二號書式ニ付亦同シ

第四號書式（用紙美濃判）

年　月　日

（管海官廳名）御中　雇者（氏　名　印）

海員雇止公認申請書

船舶番號	船種船名	雇止年月日	雇止地
第　號	船丸	年　月　日	

乘組員實數	甲板部	機關部	事務部	計
	人	人	人	人

雇入公認ノ年月日官廳名	被雇者氏名	船員手帖ノ番號	職務	雇止事由
		第　號		
計　名				

第五號書式（用紙美濃判）

年　月　日

（管海官廳名）御中　雇者（氏　名　印）

海員雇入契約更新公認申請書

番號	船種船名	更新年月日	更新地	期間滿了ノ日
第　號	船丸	大正　年　月　日		

雇入公認ノ年月日官廳名	被雇者氏名	船員手帖ノ番號	職務	更新契約ノ期間
		第　號		
		第　號		
計　名				

第六號書式（用紙美濃判）

年　月　日

（管海官廳名）御中　雇者（氏　名　印）

海員雇入契約變更公認申請書

船舶番號	船種船名	變更年月日	變更地
第　號	船丸		

雇入公認ノ年月日、官廳名	被雇者氏名	船員手帖ノ番號	海技免狀種類	變更職務	給料又ハ手當
		第　號			
		第　號			
計　名					

第七號書式（用紙美濃判）

年　月　日

（管海官廳名）御中　雇者（氏　名　印）

海員雇入契約變更公認申請書

船舶番號	船種船名	航路又ハ航路定限	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
第　號	船丸		

雇入公認ノ年月日、官廳名	被雇者氏名	船員手帖ノ番號	職務	給料	雇入期間
		第　號			
		第　號			
計　名					

備考

船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニハ當該被雇者ノ氏名ノ上ニ○ヲ附スヘシ

第八號書式

手數料納付書

印紙

一金　　也

但シ　手數料　收入印紙貼付

右納付候也

年　月　日

（管海官廳名）　（氏　名印）

御中

備考　船員手帖ノ訂正ヲ申請スル場合ニハ訂正事項何箇、報告書ノ認證ヲ申請スル場合ニハ報告書何通、公認ヲ申請スル場合ニハ被雇者何人ト金額ノ下ニ記載スヘシ

第九號書式　（用紙美濃判）

年　月　日

（管海官廳名）御中

船　丸船長（氏　名印）

船長就職認證申請書

船舶番號	船種船名
船舶使用ノ目的	航路又ハ航路定限
	總噸數
	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
第　號	船　丸
就職年月日	年　月　日就職ノ地
船員手帖ノ番號	海技免狀種類
第　號	給料　手當

第十號書式　（用紙美濃判）

年　月　日

（管海官廳名）御中

船　丸船長（氏　名印）

船長退職認證申請書

船舶番號	船種船名
第　號	船　丸
就職認證ノ年月日官廳名	船員手帖ノ番號
	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
年月日第　號	退職年月日　退職ノ地

第十一號書式　（用紙美濃判）

船員手帖再交付（書換）申請書

船員手帖ノ番號	氏名印
本籍地	
身分	出生年月日
船員手帖ノ交付ノ年月日	
原手帖交付管海官廳名、番號、滅失（毀損）ノ年月日、場所及事由	

備考　氏名ニハ片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ

身分欄ニハ戸主家族ノ別、家族ナルトキハ戸主ノ氏名及戸主トシ續柄ヲ記載スヘシ

原手帖番號不明ノ場合ニ於テハ原手帖番號不明ト記載スヘシ又船員手帖滅失ノ事由ハ成ルヘク詳細ニ記載スルヲ要ス

朝鮮船員令施行規則第八條第三項ノ場合ニ於テハ船員手帖滅失（毀損）ノ事由ヲ記載シタル次行ニ當該船長ハ「右相違ナキコトヲ證明ス」ト記載シ署名捺印スヘシ

船員手帖ノ番號及同交付年月日欄ハ管海官廳ニ於テ記載スルモノナルニ付申請人ハ何等記載ヲ要セス

第十二號書式　（用紙美濃判）

年　月　日

（管海官廳名）御中

乘船届　　（氏　名印）

船舶番號	船種船名
船舶使用ノ目的	航路又ハ航路定限
	總噸數
	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
第　號	船　丸
乘船年月日	年　月　日乘船地
船員手帖ノ番號	職務海技免狀種類
	給料　手當

第　號

第十三號書式　（用紙美濃判）

年　月　日

（管海官廳名）御中

下船届　　（氏　名印）

船舶番號	船種船名
第　號	船　丸
乘船年月日	船員手帖ノ番號
年月日第　號	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
下船年月日	下船地

●朝鮮船員令ノ規定ニ依ル管海官廳ノ事務ヲ行フ郵便局

大正三年六月
總告第二百二十九號
改正　大正八年五第一二三號

左記郵便局ヲシテ大正三年六月十七日ヨリ朝鮮船員令ノ規定ニ依ル管海官廳ノ事務ヲ行ハシム

全羅北道　群山郵便局
全羅南道　麗水郵便局
咸鏡北道　城津郵便局
雄基郵便局

●朝鮮船員令第二條ノ規定ニ依ル送還費用償還ノ件

大正三年五月
總令第七十六號

朝鮮船員令第二條ニ依ル送還費用償還ノ件左ノ通定ム

第一條　朝鮮船員令第二條ノ規定ニ依リ日本臣民ヲ朝鮮ニ送還シタル船長ハ送還費用ヲ負擔スル者ニ對シ其ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第二條　本令ニ於テ送還費用ト稱スルハ外交官又ハ領事官カ被送還者ヲ送還スルニ適當ナリト認メタル客室ノ等級ニ相當スル運賃ヲ謂フ

第三條　送還費用ハ被送還者ノ負擔トシ被送還者ヨリ償還ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス扶養義務者ニ對スル送還費用償還ノ請求ハ扶養義務者中ノ何人ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ費用ノ償還ヲ爲シタル者ハ朝鮮民事令ノ規定ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スヘキ者ニ對シ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四條　前條第一項ノ規定ニ依リ送還費用ヲ得サルトキハ當分ノ內國庫ニ於テ之ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ船長ハ送還費用ノ請求書ヲ朝鮮總督府ニ提出スヘシ

前項ノ請求書ニハ朝鮮船員令施行規則第二十五條第二項ノ書類ヲ添附スヘシ

附　則

本令ハ朝鮮船員令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●商法第五百六十二條第一項ノ海員名簿、屬具目錄、航海日誌及旅客名簿ノ書式ニ關スル件

商法第五百六十二條第一項ノ海員名簿、屬具目錄、航海日誌及旅客名簿ノ書式ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　海員名簿ハ第一號書式、屬具目錄ハ第二號書式、航海日誌ハ第三號書式、旅客名簿ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

前項ノ書類ハ書式ニ示ス順序ニ依リ之ヲ編綴シ且各頁ニ頁數ヲ附スヘシ但シ其ノ紙數ハ適宜トス

第二條　前條ノ書類ニハ書式ニ定メサル事項ヲ記載スル爲欄ヲ設クルコトヲ得

朝鮮沿岸ノミヲ航行スル船舶ニ在リテハ航海日誌及旅客名簿ノ書式ニ定ムル事項ヲ省略スルコトヲ得

沿海航路ノミヲ航行スル船舶ニ在リテハ旅客名簿ヲ備ヘサルコトヲ得

前三項ノ場合ニ於テハ最寄管海官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　第一條ノ書類ニハ各事項ニ付英譯ヲ附シ又ハ頁ノ上部ニ船舶ノ名稱及船舶所有者ノ氏名（名稱）等ヲ附記シ又ハ記載心得等ヲ掲クルコトヲ得

第一條ノ書類ハ書式ニ定ムル事項ノ位置ヲ變更シテ之ヲ調製スルコトヲ得但シ其ノ順序ヲ變更スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

（一）

番號	
船籍港	海船
船舶	
航路定限	
積量	員
名	
船舶所有者ノ氏名（名稱）及住所	
船長氏名及住所	
簿	丸

備考　（一）ハ書類ノ前付トス其ノ裏面ハ白紙トスヘシ（一）ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ（一）ニ於テ之ヲ訂正スル餘白ナキ場合ニハ裏面ニ於テ之ヲ訂正スヘシ以下各號書式ノ（一）ニ付テモ亦同シ

積量トアル下ニハ總噸數及登簿噸數、石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石數ヲ記入スヘシ以下各號書式ノ（一）ニ付テモ亦同シ

（二）

官廳記事

備考　行數ハ適宜トス以下各書式中行ヲ附シタルモノニ付テモ亦同シ

（三）

雇者署名捺印	雇入期間	航路	雇入ノ年月日	雇入ノ場所
			年月日	

番號	被雇者署名捺印ノ番號	船員手帖	住所	職務	給料	飲食物又ハ其ノ代料ニ關スル記事	特別契約條項	公認
第	號							年月日公認
第	號							年月日公認
第	號							年月日公認
第	號							年月日公認

（四）

頁番號	被雇者署名捺印由	雇止ノ事	雇止ノ年月日	雇止ノ場所	雇者署名捺印	公認
			年月日			年月日公認
			年月日			年月日公認
			年月日			年月日公認
			年月日			年月日公認
			年月日			年月日公認
			年月日			年月日公認

（五）

頁番號	被雇者署名捺印由	契約更新又ハ變更ノ年月日、場所及其ノ要旨	雇者署名捺印	公認
				年月日公認
				年月日公認
				年月日公認

備考一　各事項中記載スヘキモノナキトキハ其ノ欄ニ斜線ヲ畫スヘシ

二　雇入期間ノ欄ニハ何箇月、一年又ハ一航海ト記載シ且一航海ト記載スル場合ニハ其ノ航路ヲ航路ノ欄ニ記載スヘシ

三　番號ノ欄ニハ雇入ノ公認ヲ受ケル毎ニ順次被雇者ニ付一二三四五等ノ番號ヲ附シ之ヲ記載スヘシ

四　船員手帖ノ番號ノ欄ニハ手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ所在地ヲ其ノ番號ニ冠附シ之ヲ記載スヘシ例ハ仁川ニ於テ交付シタル第一號ノ船員手帖ニハ仁川第一號ト記載スルカ如シ

六　給料ノ欄ニハ一箇月若干又ハ一航海若干等ト給料ノ額ヲ記載スヘシ

六（二）ヲ二頁以上連綴シテ設ケル場合ニハ最初ノ頁ヲ除クノ外雇者署名捺印ノ欄ヨリ雇入ノ場所ニ至ル迄ノ五欄ヲ置クコトヲ要セス

七　海員名簿ニ年月日又ハ金額ヲ記載シ又ハ雇入期間ヲ記載スルニハ一二三十ノ字ヲ用ヰスシテ壹弐參拾ノ字ヲ用ウヘシ

（六）

雇者署名捺印	雇入期間	航路	雇入ノ年月日	雇入ノ場所
			年月日	

頁番號	被雇者署名捺印番	船員手帖	住所	職務	給料	飲食物又ハ其ノ代料ニ關スル記事	特別契約條項	公認
		第 號						年月日
		第 號						年月日
		第 號						年月日
		第 號						年月日
		第 號						年月日
		第 號						年月日

備考一　（六）ハ雇入公認ヲ受ケタル後海員ヲ補充又ハ追加シタルトキハ其ノ雇入公認ヲ受クル爲設クルモノトス本書式ハ同時ニ二名ノ海員ノ雇入ヲ爲ス場合ニ付テ之ヲ定メタルモ一名或ハ三名以上ノ海員ノ雇入公認ヲ受クル樣之ヲ調製スルコトヲ得

二　番號ハ海員補充ノ場合ニ在リテハ一ノ二又ハ二ノ二等ト記載スヘシ卽先ニ雇入公認ヲ受クル際一ノ番號ヲ附シタル海員ニ代ヘテ雇入シタル者ナルトキハ一ノ二トシ二ノ番號ヲ附シタル海員ニ代ヘテ雇入シタル者ナルトキハ二ノ二ト記載スルカ如シ海員追加ノ場合ニ在リテハ先ニ雇入公認ヲ受ケタル際最後ニ附シタル番號ニ次ク番號ヲ記載スヘシ卽先ニ雇入公認ヲ受ケタル際百ノ番號ヲ附シタル海員最後ノ者ナルトキハ百一ト記載スルカ如シ

（一）

船舶國籍證書

番號	
船籍港	
積量	
航路	
定限	
船名（船舶所有者ノ氏名（名稱）及住所	
船長氏名及住所	

（二）

屬具名稱	數量	記事

第三號書式

（一）

航海日誌

船　　　丸

番號
船籍港
積量
航路定限
船舶所有者ノ氏名（名稱）及住所
船長氏名及住所

（二）

官廳記事

（三）

番號	事由	記載ヲ爲シタル頁數
一	豫定ノ航路ヲ變更シタルコト	
二	人命又ハ船舶ヲ救ヒタルコト	
三	衝突其ノ他ノ海難ニ罹リタルコト	
四	豫定セサル港ニ寄港シタルコト	
五	船舶ニ急迫ノ危險アリタル爲船長カ船舶ヲ去リタルトキ	
六	船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルコト	
七	船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルコト	
八	船員法第四十五條ニ依リ援助ヲ求メタルコト	
九	船中ニ於テ犯罪アリタルコト	
十	船中ニ於テ出生アリタルコト	
十一	船中ニ於テ死亡アリタルコト及死亡者ノ遺產ヲ處分シタルコト	
十二	其ノ他船中ニ於テ異常ノ事變アリタルコト	

（四）

海員氏名	職務	記載ヲ爲シタル頁數	海員氏名	職務	記載ヲ爲シタル頁數

（五）

航海表

發 港	發 年月日時	著 港	著 年月日時	發 港	發 年月日時	著 港	著 年月日時

備考　（四）ハ前表第六號、第七號、第九號乃至第十一號等ノ事項ニ該當シタル海員ニ付テ其ノ氏名職務等ヲ記載スヘシ

（六）

番號	發生ノ年月日時	發生ノ場所	記載ノ年月日	記事

備考　番號ノ欄内ニハ（三）ニ示シタル番號ヲ記載スヘシ例ヘハ豫定ノ航路ヲ變更シタルコトヲ航海日誌ニ記載シタルトキハ一ト記載スルカ如シ

（七）

出生

項目	
出生子ノ名	
男女ノ別	
出生ノ年月日時	年　月　日　午　時
出生ノ場所	
出生子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名	
同 族稱職業	
同 本籍地	
父 氏名	
父 族稱職業	
父 本籍地	
母 氏名	
母 族稱職業	
母 本籍地	
私生子ナルトキハ其ノ旨又ハ庶子ナルトキハ其ノ旨	
一家ヲ創立スル者ナルトキハ其ノ旨及原因	
國籍ヲ有セサル者ナルトキハ其ノ旨	
時日	月
謄本送付ノ年月日時及送付先	年　月　日　午　時
船長	（本籍地、職業）氏名　（印）
證人	（出生ノ年月日）氏名　（印）

項目	
出生子ノ名	
男女ノ別	
出生ノ年月日時	年　月　日　午　時
出生ノ場所	
出生子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名	
同 族稱職業	
同 本籍地	
父 氏名	
父 族稱職業	
父 本籍地	
母 氏名	
母 族稱職業	
母 本籍地	
私生子ナルトキハ其ノ旨又ハ庶子ナルトキハ其ノ旨	
一家ヲ創立スル者ナルトキハ其ノ旨及原因	
國籍ヲ有セサル者ナルトキハ其ノ旨	
時日	月
謄本送付ノ年月日時及送付先	年　月　日　午　時
船長	（本籍地、職業）氏名　（印）
證人	（出生ノ年月日）氏名　（印）

備考　各事項中不明ナルモノアルトキハ相當欄内ニ不詳ト記載スヘシ（八）ニ付テモ亦同シ

（八）

死亡者ノ氏名	出生ノ年月日	死亡者ノ本籍地	死亡者ノ男女ノ別	死亡ノ年月日時	死亡ノ場所	死亡ノ原因	戸主ノ氏名	戸主ノ族稱	死亡者ノ戸主ト續柄	死亡ノ年月日時	死亡ノ場所	死亡ノ原因	戸主ノ氏名	戸主ノ族稱	死亡者ノ戸主ト續柄

年月日	船長ノ氏名	職業	本籍地	證人	年月日	日時	船長ノ氏名	職業	本籍地	證人
日本郵船會社										

（一）

旅客名簿

船籍港　船舶番號　船舶積量　航路限定

丸船

旅客ノ氏名	國籍	住所	年齢 十二歳以上	年齢 五歳以上十二歳未滿	年齢 五歳未滿	乘船港	乘船年月日	下船港	下船年月日
							年月日		年月日

旅客定員　一等　二等　三等　合計

船舶所有者ノ氏名（名稱）及住所

船長氏名及住所

（二）

旅客ノ氏名	等級	乘船港	乘船年月日	下船港	下船年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日
	等		年月日		年月日

第四號書式

●朝鮮船舶職員令

大正三年四月
制令第十號

朝鮮船舶職員令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮船舶職員令

第一條　朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ職員ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外船舶職員法ニ依ル但シ同法中遞信大臣ヲアルハ朝鮮總督トス

第二條　遞信大臣ノ授與シタル海技免狀ハ本令ニ依リ授與シタルモノト看做ス

第三條　本令ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ臨地、臺灣、樺太又ハ關東州ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ニシテ朝鮮ノ沿岸若ハ湖川港内ノミヲ航行シ又ハ朝鮮ヲ起點トシテ朝鮮外ノ地ニ航行スルモノ及朝鮮船舶檢査令第四條ニ揭ケル外國船舶ニ之ヲ準用スルコトヲ得

附則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際海技免狀ヲ受有セスシテ現ニ船舶職員ノ職務ヲ執ルニ十歳以上ノ者ニハ試驗ヲ用キスシテ本令施行ノ日ヨリ三年ヲ限リ效力ヲ有スル相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

●船舶職員法

明治二十九年四月
法律第六十八號

改正　三八年六九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル船舶職員法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

船舶職員法

第一條　日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依ヨ船舶職員ヲ乘組マシムヘシ但シ船舶檢查法第一條各號ニ揭クル船舶ハ此ノ限ニ在ラス

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ

第二條　海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス

第三條　海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長
甲種一等運轉士
甲種二等運轉士
乙種船長
乙種一等運轉士
乙種二等運轉士
丙種船長
丙種運轉士
機關長
一等機關士
二等機關士
三等機關士

遞信大臣ハ海技免狀ノ效力ニ制限ヲ加クルモノヲ授與スルコトヲ得

第四條　各船舶ニ乘組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル

第一號表ニ定ムル免狀ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ種類ノ免狀ヲ以テ代用スルコトヲ得

第五條　海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試驗規程ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シ且海技免狀原簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船ニ乘組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書ヲ有シ遞信大臣ニ於テ試驗規程ニ合格ト認ムル者ニハ試驗ヲ用キスシテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

第六條　左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

一　公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者

二　家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償終ヘサル者

三　瘋癲白痴者若ハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ナル者

四　海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ行使停止中ノ者

左ニ揭クル船舶ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ職員ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第七條　第一號

航路	船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	定員
遠洋航路	汽船	五百噸未滿	一等機關長	甲種一等運轉士	船長
			一等機關士	甲種二等運轉士	船長
			二等機關士	甲種一等運轉士	船長
			一等機關士	甲種二等運轉士	船長
		五百噸以上	一等機關士	甲種一等運轉士	船長
	帆船	二百噸未滿	一等機關士	甲種二等運轉士	船長
		五百噸未滿	一等運轉士	甲種一等運轉士	船長

第十條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十一條　明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條　明治九年第八十二號布告、同年第九十四號布告及明治十四年第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期ハ遞信大臣之ヲ定ム

前項ニ揭ケタル各種ノ舊免狀ハ新免狀ト交換スルマテノ之ニ代用スルコトヲ得

第十三條　此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ積石數百五十石以上ノ帆船ニハ之ヲ適用セス

第十四條　遞信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乘組ミ三箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律施行ノ際現ニ船長ノ職ヲ執リ年齡二十歳以上ノ者ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ試驗ヲ用キスシテ相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

第十五條　遞信大臣ハ第一號表中近海航船ニシテ登簿噸數五百噸未滿ノ汽船及沿海航船ニシテ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ二等機關士ノ免狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執ラシメ又一等機關士ヲ乘組マシメサルコトヲ得

第二號表

		近海航路						沿海航路						平水航路		舊免狀	新免狀
		汽船				帆船		汽船				帆船		汽船			
		五百噸以上	二百噸未滿	千噸未滿	千噸以上	二百噸未滿	五百噸未滿	百噸未滿	二百噸未滿	五百噸未滿	五百噸以上	二百噸未滿	二百噸以上	二百噸未滿	二百噸以上	甲種船長	甲種船長
船長	一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種一等運轉士	船長	甲種一等運轉士	船長	甲種一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種一等運轉士	船長	甲種一等運轉士	船長	甲種一等運轉士	甲種一等運轉手	甲種船長
	二等運轉士	甲種二等運轉士	甲種二等運轉士	甲種二等運轉士	甲種二等運轉士		甲種二等運轉士		甲種二等運轉士	甲種二等運轉士	甲種二等運轉士		甲種二等運轉士		甲種二等運轉士	甲種一等機關手	甲種一等運轉手
機關長	一等機關士	乙種一等運轉士	乙種一等運轉士	乙種一等運轉士	乙種一等運轉士	機關長	乙種一等運轉士	機關長	乙種一等運轉士	乙種一等運轉士	乙種一等運轉士	機關長	乙種一等運轉士	機關長	乙種一等運轉士	甲種二等機關手	甲種二等運轉手
	二等機關士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士		乙種二等運轉士		乙種二等運轉士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士		乙種二等運轉士		乙種二等運轉士	乙種一等機關手	乙種一等運轉手
機關長	乙種船長	甲種一等機關手	甲種一等機關手	甲種一等機關手	甲種一等機關手	機關長	甲種一等機關手	機關長	甲種一等機關手	甲種一等機關手	甲種一等機關手	機關長	甲種一等機關手	機關長	甲種一等機關手	乙種一等機關手	乙種一等運轉手
	乙種船長	甲種二等機關手	甲種二等機關手	甲種二等機關手	甲種二等機關手		甲種二等機關手		甲種二等機關手	甲種二等機關手	甲種二等機關手		甲種二等機關手		甲種二等機關手	乙種二等機關手	乙種二等運轉手
船長	一等運轉士	甲種船長	甲種船長	甲種船長	甲種船長	船長	甲種船長	船長	甲種船長	甲種船長	甲種船長	船長	甲種船長	船長	甲種船長	一等機關士	一等運轉士
	二等運轉士	乙種船長	乙種船長	乙種船長	乙種船長		乙種船長		乙種船長	乙種船長	乙種船長		乙種船長		乙種船長	二等機關士	二等運轉士
機關長	一等機關士	假免狀一等運轉手	假免狀一等運轉手	假免狀一等運轉手	假免狀一等運轉手	機關長	假免狀一等運轉手	機關長	假免狀一等運轉手	假免狀一等運轉手	假免狀一等運轉手	機關長	假免狀一等運轉手	機關長	假免狀一等運轉手	三等機關士	三等運轉士
	二等機關士	乙種一等運轉士	乙種一等運轉士	乙種一等運轉士	乙種一等運轉士		乙種一等運轉士		乙種一等運轉士	乙種一等運轉士	乙種一等運轉士		乙種一等運轉士		乙種一等運轉士		
		假免狀一等機關手	假免狀一等機關手	假免狀一等機關手	假免狀一等機關手		假免狀一等機關手		假免狀一等機關手	假免狀一等機關手	假免狀一等機關手		假免狀一等機關手		假免狀一等機關手		
		乙種二等運轉士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士		乙種二等運轉士		乙種二等運轉士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士		乙種二等運轉士		乙種二等運轉士		
		乙種一等機關手	乙種一等機關手	乙種一等機關手	乙種一等機關手		乙種一等機關手		乙種一等機關手	乙種一等機關手	乙種一等機關手		乙種一等機關手		乙種一等機關手		
		小形船船長	小形船船長	小形船船長	小形船船長		小形船船長		小形船船長	小形船船長	小形船船長		小形船船長		小形船船長		
		小形船機關手	小形船機關手	小形船機關手	小形船機關手		小形船機關手		小形船機關手	小形船機關手	小形船機關手		小形船機關手		小形船機關手		

一　石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニハ其ノ積石數十石ヲ以テ總噸數ノ割合ニ換算シ本表ヲ適用ス

舊免狀　甲種船長　甲種一等運轉手

新免狀　甲種船長　甲種一等運轉士

附　則（明治三十八年法律第六十九號）

此ノ法律施行前海員名簿ニ登錄セラレタル者ハ海技免狀原簿ニ登錄セラレタル者ト看做ス

此ノ法律施行ノ際現在スル日本船舶ニハ命令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外明治三十八年十二月三十一日迄從前ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

朝鮮船舶職員令施行規則

大正三年五月
總令七十九號
改正　五年九第八〇號、八年九第一五五號
年二第二四號、四年五第五八號

朝鮮船舶職員令施行規則左ノ通定ム

朝鮮船舶職員令施行規則

第一章　總則

第一條　船舶職員法第一號表ニ揭クル航路ノ區域ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外朝鮮船舶檢查令施行規則第五十二條乃至第五十五條ノ規定ニ依リ、船舶ノ種別ハ朝鮮船舶令施行規則第一條及第二條ノ規定ニ依ル

本令ニ於テ船舶所有者ト稱スルハ船舶管理人又ハ船舶賃借人ヲ包含シ漁船ト稱スルハ朝鮮船舶檢查令施行規則第二條第二項ノ船舶ヲ謂フ

第二章　船舶職員

第二條　總噸數五百噸未滿ノ漁船ニ限リ第一號表ニ依リ其ノ職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

第三條　機關ヲ有スル帆船ハ第二號表ニ依リ機關部職員ヲ乘組マシムベシ

第四條　外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ其ノ航路近海航路、沿海航路又ハ平水航路ニ該當スルトキハ朝鮮總督ノ指定ヲ受ケ其ノ航路ノ種別ニ從ヒ船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

外國ノ湖川港內ハ平水航路トス

第五條　第二條及第三條ニ規定スルモノヲ除クノ外船舶職員法第七條第二號及第三號ニ該當スル船舶ニ在リテハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ同法第一號表ニ揭クル職員ヲ減シ又ハ他ノ海技免狀ヲ受有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツルコトヲ得

第六條　前二條ニ依リ朝鮮總督ノ指定又ハ認可ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者ヨリ左ニ揭ケル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ提出シ指定書又ハ認可書ノ交付ヲ受クベシ

一　船舶ノ種類、名稱、積量（總噸數及速力）

二　特殊ノ船舶ナルトキハ其ノ構造

三　航行ノ目的及期限

四　航行スベキ區域及里程

五　乘組マシメムトスル船舶職員ノ名稱及海技免狀ノ種類（第四條ニ依ル指定申請ノ場合ニハ之ヲ準用ス）

六　申請ノ事由

第七條　左ノ場合ニ於テハ船舶職員法第四條又ハ本令ニ定ムル船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乘組マシメサルコトヲ得

一　外國ニ於テ所有權ヲ取得シタル船舶ヲ內地又ハ朝鮮ノ到達迄回航スルトキ

二　外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ補充ノ手續中ナルトキ

三　船舶外國ノ港ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ內地又ハ朝鮮ノ到達迄回航スルトキ

四　平水航路又ハ沿海航路ニ該當スル外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ當該國ノ法令ニ依リ相當免狀ヲ受有スル者ヲ乘組マシメタルトキ

五　航行中船舶職員ニ缺員ヲ生シタルトキ

六　他船ニ引カレテ航行スルトキ

七　入渠、修繕又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ船舶ヲ航行ノ用ニ供セサルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ヨリ海技免狀ヲ受有スル者ヲ雇入レ難キ事由ヲ具シ領事官ノ認可ヲ受ケテ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乘組マシメ第七號ノ場合ニ於テハ其ノ地ヲ管轄スル管海官廳、外國ニ在リテハ領事官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

朝鮮船舶檢查令施行規則第三十四條又ハ第三十六條ニ依リ船舶ヲ回航セムトスルニ當リ旅客及貨物ヲ搭載セサルトキハ該當免狀ヲ以下ノ航路ニ限リ沿海航路又ハ平水航路ニ相當スル船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

第三章　海技免狀

第八條　船舶職員法第三條第二項ニ依リ效力ニ制限ヲ加ヘ授與スル海技免狀ハ左ノ如シ

一　甲種船長免狀　汽船又ハ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ

二　甲種一等運轉士免狀　汽船又ハ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ

三　甲種二等運轉士免狀　汽船又ハ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ

四　乙種一等運轉士免狀　沿海航路若ハ平水航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數三十噸未滿ノ汽船又ハ一定區域ノ湖川港內ノミヲ航行スル汽船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ

五　乙種二等運轉士免狀　沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數五十噸未滿ノ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ

五ノ二　丙種運轉士免狀　沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數五十噸未滿ノ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得

五ノ三　三等機關士免狀　湖川港內ノミヲ航行スル汽船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ

六　各種運轉士免狀ハ效力ヲ漁船、漁業汽船又ハ漁業帆船ニ限リタルモノヲヽ機關長免狀及機關士免狀ハ效力ヲ發動機船ニ限リタルモノヲ授與スルコトアルヘシ

第九條　高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得

甲種船長免狀ハ他ノ船長免狀及運轉士免狀ニ對シ、甲種一等運轉士免狀ハ他ノ運轉士免狀ニ對シ、甲種二等運轉士免狀ハ各乙種運轉士免狀及丙種運轉士免狀ニ對シ、乙種一等運轉士免狀ハ丙種運轉士免狀ニ對シ、丙種船長免狀ハ丙種運轉士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス機關長免狀ハ各機關士免狀ニ對シ、一等機關士免狀ハ二等機關士免狀及三等機關士免狀ニ對シ二等機關士免狀ハ三等機關士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス同種免狀ニシテ效力ニ制限ヲ加ヘサルモノハ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノニ對シ、效力ヲ汽船ニ限リタルモノハ效力ヲ漁業汽船ニ限リタルモノニ對シ、效力ヲ帆船ニ限リタルモノハ效力ヲ漁業帆船ニ限リタルモノニ對シ各高等ノ免狀トス

第十條　免狀ノ代用ニ付テハ前條ノ外第三號表ノ定ムル所ニ依ル

第四章　登錄

第十一條　船舶職員法第五條第一項ニ依リ海技免狀ヲ受ケムトスル者ハ船舶職員試驗ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ第一號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ登錄ヲ申請スヘシ

第十二條　船舶職員法第五條第二項ニ依リ海技免狀ヲ受ケムトスル者ハ船舶職員試驗ヲ執行スル管海官廳ニ左ノ書類ヲ提出シ體格檢查ヲ申請スヘシ

一　第二號書式ノ申請書

二　戶籍若ハ民籍ノ謄本及船舶職員法第六條第一號及第二號ニ該當セサルコトノ證明書

三　海軍艦船籍ニ乘組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シタル者ハ海上勤務ノ履歷書、最後任官ノ辭令書ノ寫

四　商船學校全科卒業生ハ卒業證書ノ寫

五　海技免狀ヲ受有スル者ハ該免狀ノ寫及該免狀ヲ受ケタル後ノ乘船履歷書

前項第三號ノ履歷書ニ付テハ相當證明書、同號餘合書ノ寫第四號ノ卒業證書ノ寫ニ付テハ各原本、第五號ノ乘船履歷書ニ付テハ朝鮮船舶職員試驗規則第十三條ニ依ル證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

體格檢查ヲ受ケ合格シタル者ハ之ヲ行セタル管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第十三條　船舶職員法第五條第二項ニ依リ海技免狀ヲ受ケムトスル者管海官廳ニ於テ體格檢查ヲ受クルコト能ハサルトキハ該官廳ノ定ムル體格檢查ヲ受ケ其ノ成績書ヲ添ヘ該官廳ニ於テ檢查ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ疏明シテ前條ノ體格檢查ノ執行ニ代フルコトヲ申請スルコトヲ得

管海官廳ハ前項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ體格檢查ヲ成績書ニ依リ申請人ノ體格ヲ審查シ適當ト認ムルトキハ體格檢查ニ合格シタルモノト看做スコトヲ得

第十四條　朝鮮總督府遞信局ニ於テ第十一條又ハ第十二條第三項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ現ニ審判開始ノ決定ヲ受ケタル者ナルトキハ前條ノ手續ハ審判不繼續ノ決定又ハ裁決言渡ヲ受ケタル迄之ヲ停止ス

前項ノ裁決言渡ニ依リ免狀行使ヲ停止セラレタルトキハ其ノ執行處分ヲ終ル迄登錄ヲ停止シ、免狀行使ヲ禁止セラレタルトキハ登錄ノ申請ハ之ヲ却下ス

第十六條　第十四條第二號乃至第四號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ當該免狀ヲ受有スル者ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三十日內ニ第四號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

六　合格ノ年月日

第十五條　海技免狀ヲ受有スル者第十一條又ハ第十二條第三項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ現ニ審判開始ノ決定ヲ受ケタル者ナルトキハ前條ノ手續ハ審判不繼續ノ決定又ハ裁決言渡ヲ受ケタル迄之ヲ停止ス

前項ノ裁決言渡ニ依リ免狀行使ヲ停止セラレタルトキハ其ノ執行處分ヲ終ル迄登錄ヲ停止シ、免狀行使ヲ禁止セラレタルトキハ登錄ノ申請ハ之ヲ却下ス

第十六條　第十四條第二號乃至第四號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ當該免狀ヲ受有スル者ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三十日內ニ第四號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

變更ノ登錄ヲ申請スル者ハ登錄事項ノ變更ニ關スル戶籍若ハ民籍ノ謄本、抄本、外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明書ヲ申請書ニ添附スヘシ

第十七條　朝鮮總督府遞信局ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ變更ノ登錄ヲ爲シ必要ノ場合ニハ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請人ニ交付ス

申請人前項ノ免狀ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ

第十八條　海技免狀ヲ受有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ抹消ノ登錄ヲ申請スヘシ

一　甲種二等運轉手

甲種一等機關手

甲種二等機關手

乙種船長

假免狀船長

乙種一等運轉手

假免狀一等運轉手

乙種二等運轉手

假免狀二等運轉手

乙種一等機關手

假免狀一等機關手

乙種二等機關手

假免狀二等機關手

小形船船長

小形船機關手

甲種二等運轉士

機關長

一等機關士

乙種船長若ハ丙種船長

乙種一等運轉士若ハ丙種運轉士

乙種一等運轉士若ハ丙種運轉士

乙種二等運轉士若ハ丙種運轉士

乙種二等運轉士若ハ丙種運轉士

一等機關士

二等機關士

乙種一等機關士

乙種二等機關士

三等機關士

二　船舶ヲ謂フ

第二章　船舶職員

第二條　總噸數五百噸未滿ノ漁船ニ限リ第一號表ニ依リ其ノ職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

第三條　機關ヲ有スル帆船ハ第二號表ニ依リ機關部職員ヲ乘組マシムベシ

第四條　外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ其ノ航路近海航路、沿海航路又ハ平水航路ニ該當スルトキハ朝鮮總督ノ指定ヲ受ケ其ノ航路ノ種別ニ從ヒ船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

外國ノ湖川港內ハ平水航路トス

第五條　第二條及第三條ニ規定スルモノヲ除クノ外船舶職員法第七條第二號及第三號ニ該當スル船舶ニ在リテハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ同法第一號表ニ揭クル職員ヲ減シ又ハ他ノ海技免狀ヲ受有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツルコトヲ得

第六條　前二條ニ依リ朝鮮總督ノ指定又ハ認可ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者ヨリ左ニ揭ケル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ提出シ指定書又ハ認可書ノ交付ヲ受クベシ

一　船舶ノ種類、名稱、積量（總噸數及速力）

一　死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタルトキ
二　家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
三　癲癇白痴若ハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ト爲リタルトキ
四　免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレタルトキ
五　朝鮮船舶職員試驗規則ノ規定ニ依リ合格無效ト爲リタルトキ
六　廢業シタルトキ
海技免狀ヲ受有スル者失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
抹消ノ登錄ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ
三　詐僞ノ所爲ヲ以テ海技免狀ヲ受ケタルコトヲ發覺シタルトキ
四　朝鮮總督府海員審判所ニ於テ海技免狀ヲ無效ト爲シタルトキ
朝鮮總督府遞信局ハ前項第二號又ハ第三號ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ當該免狀ヲ受有スル者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス
前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク該免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ

第二十條　海技免狀ヲ受有スル者高等ノ免狀ニ對スル登錄ヲ受ケタルトキハ下等ノ免狀ニ對スル登錄ハ朝鮮總督府遞信局ニ於テ之ヲ抹消ス但シ高等ノ免狀ノ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス
效力ニ制限ヲ加ヘタル免狀ヲ受有スル者效力ニ制限ヲ加ヘサル同種ノ免狀ニ對スル登錄ヲ受ケタルトキハ效力ニ制限ヲ加ヘタル免狀ニ對スル登錄ハ朝鮮總督府遞信局ニ於テ之ヲ抹消ス

第二十一條　海技免狀ヲ受有スル者登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク第四號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ登錄ノ訂正ヲ申請スヘシ
登錄ノ錯誤又ハ遺漏ハ第十四條第二號乃至第四號ノ事項ニ係ルトキハ前項ノ書面ニ戶籍若ハ民籍ノ謄本、抄本、外國人ニ在リテハ本國領事官ノ證明書ヲ添附スヘシ
朝鮮總督府遞信局ニ於テ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正シ其ノ旨ヲ當該免狀ヲ受有スル者ニ通知ス

第二十二條　前條第一項及第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ訂正ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　朝鮮總督府遞信局ニ於テ前二條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ海技免狀ヲ因リ前項ノ免狀ヲ受クル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條　海技免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ第五號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ再交付ヲ申請スヘシ

第二十五條　朝鮮總督府遞信局ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ海技免狀ヲ申請人ニ交付ス

第二十六條　行政區畫ノ變更アリタルトキハ海技免狀ヲ受有スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ海技免狀ノ書換ヲ申請スルコトヲ得

第二十七條　本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ
一　第十二條第一項ニ依リ體格檢查ヲ申請スルトキ　二十錢
二　第二十二條ニ依リ海技免狀ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ記載事項ノ錯誤又ハ遺漏カ免狀ヲ受有スル者ノ過失ニ出テタルトキ　一圓
三　海技免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ　一圓
四　前條第一項ニ依リ海技免狀ノ書換ヲ申請スルトキ　一圓
前項第二號乃至第四號ノ申請ヲ二件以上同時ニ爲ストキハ該申請ノ內一件ニ對スル手數料ヲ納付スルヲ以テ足ル

第二十八條　第十六條ニ依リ變更ノ登錄ノ申請ヲ爲シ海技免狀ノ書換交付ヲ受クル場合ニ於テ同時ニ第一項第二號乃至第四號ノ申請ヲ爲ストキハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第二十九條　海技免狀ヲ受有スル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ裁判確定後遲滯ナク本人又ハ該免狀ヲ保管スル者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ海技免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出スヘシ
一　罪名、刑名及裁判確定ノ年月日
二　刑ノ執行ヲ受クヘキ期間又ハ其ノ執行猶豫期間
三　判決ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱

前項ニ依リ提出シタル海技免狀ハ朝鮮總督府遞信局之ヲ保管シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後之ヲ還付ス

第三十條　第十六條第一項、第十八條、第十九條第三項、第二十條第四項、第二十一條第一項、第二十二條、第二十四條、第二十六條第一項又ハ第二十九條第一項ニ依リ申請スルニハ最寄管海官廳ヲ經由スルコトヲ得

第三十一條　海技免狀ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ返還シタル場合ニハ返還ノトキヨリ、之ヲ返還セサル場合ニハ返還ノ事由發生シタルトキヨリ、第十八條第一項各號及第十九條第一項第二號乃至第四號ノ場合ニハ各號ノ事實發生シタルトキヨリ、滅失シタル場合ニハ滅失ノトキヨリ其ノ效力ヲ失フ

第三十二條　海技免狀ヲ受有スル者ハ當該官吏ノ要求アルトキハ之ヲ其ノ檢閱ニ供スヘシ

第七章　罰則

第三十三條　第十六條第一項、第十八條第一項第二項、第二十一條第一項、第二十二條、第二十四條、第二十九條第一項ニ違反シタル者、前條ニ規定スル檢閱ヲ拒ミタル者又ハ本令ノ規定ニ依リ海技免狀ヲ返還スヘキ場合ニ之ヲ怠リタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ朝鮮船舶職員令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外國ノ湖川港內ノミヲ航行スル船舶ニハ當分ノ內領事官ノ認可ヲ受ケ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツルコトヲ得

朝鮮船舶職員令附則第二項ニ該當スル者ハ本令施行ノ日ヨリ六月內ニ本令ニ依リ體格檢查ヲ受ケ海技免狀ノ交付ヲ申請スヘシ

附　則（大正十四年五月總令第五十八號）

本令中第八條ノ改正規定ハ大正十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令中第一號表及第三號表ノ改正規定ハ大正十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二號表

航路	船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類定員
遠洋航路	汽船	二百噸未滿	船長	甲種二等運轉士
			機關長	二等機關士
		五百噸未滿	船長	甲種一等運轉士
			一等機關長	甲種二等運轉士 一
			機關長	二等機關士 一
		千噸以上	船長	甲種一等運轉士
			一等機關長	甲種二等運轉士 一
			機關長	一等機關士 一
	帆船	二百噸以上	船長	甲種二等運轉士
			機關長	二等機關士

第三號表

航路	船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	代用免狀種類
近海航路	汽船	二百噸未滿	機關長	二等機關士	三等機關士
		千噸未滿	船長	乙種船長	甲種一等運轉士 總噸數五百噸未滿ノ汽船ニ限リ二等運轉士ノ職務ヲ行フコトヲ得
			機關長	一等機關士	甲種一等運轉士 總噸數五百噸未滿ノ汽船ニ限リ二等機關士ノ職務ヲ行フコトヲ得
			一等運轉士	甲種一等運轉士	乙種船長但シ總噸數二千噸未滿ノ汽船ニ限リ乙種一等運轉士
			二等運轉士	甲種二等運轉士	
		千噸以上	船長	甲種一等運轉士	
			一等運轉士	甲種一等運轉士	
			一等機關士	甲種一等機關士	
			二等運轉士	甲種二等運轉士	
	帆船	五百噸未滿	船長	甲種一等運轉士	
		五百噸以上	一等運轉士 二等運轉士	甲種一等運轉士 甲種二等運轉士	丙種船長
沿海航路	汽船	二百噸未滿	機關長	二等機關士	三等機關士
		五百噸未滿	機關長	一等機關士	二等機關士

第二號表

航路	船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類定員
近海航路	汽船	百噸未滿	船長	乙種二等運轉士
			機關長	二等機關士
		二百噸未滿	船長	乙種二等運轉士
			機關長	三等機關士
		五百噸未滿	船長	乙種一等運轉士
			一等機關長	乙種一等機關士
	帆船	二百噸未滿	船長	乙種二等運轉士
		二百噸以上	船長	丙種船長

第一號書式

海技免狀原簿登錄申請書

一　海技免狀ノ種類
二　氏名（片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ）
三　本籍地及族稱
四　出生年月日
五　船舶職員試驗（體格檢查）ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
六　合格ノ年月日

右海技免狀原簿ニ登錄ノ上海技免狀授與相成度朝鮮船舶職員令施行規則第十一條（第十二條第三項又ハ附則第三項）ニ依リ此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名　印
現住所

朝鮮總督府遞信局宛

第二號書式

豐格檢查申請書

船舶職員法第五條第二項（朝鮮船舶職員令附則第二項）ニ依リ檢查執行相成度依テ履歷書、證明書及戶籍（民籍）ノ謄本相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名　印
現住所

管海官廳宛

第三號書式

第　號

本籍族稱
（外國人ニ在リテハ國籍）
氏　名
出生年月日

大正　年　月　日登錄

紋章（免狀種類）免狀

大正三年制令第十號朝鮮船舶職員令ニ依リ之ヲ授與ス

大正　年　月　日

朝鮮總督　男爵　氏　名　印

花紋

備考

一　效力ニ制限ヲ加ヘ授與スル免狀ニハ其ノ效力ヲ記載ス
一　海技免狀ノ寸法ハ竪九寸橫一尺二寸トス
一　甲種船長、甲種一等運轉士、甲種二等運轉士、機關長及一等機關士ノ免狀ハ其ノ裏面ニ英譯文ヲ附ス
一　前項ニ揭ケル免狀ノ紋章ハ菊章トシ其ノ他ノ免狀ノ紋章ハ桐章トス

第四號書式

一　海技免狀原籍變更登錄（訂正）申請書
二　海技免狀ノ番號
三　登錄ノ年月日
四　氏名（片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ）新（朱書）舊
五　本籍地及族稱新（朱書）舊
六　出生年月　新（朱書）舊
右何年何月何日（變更、訂正ノ事由ヲ記載スヘシ）ニ依リ前記朱書ノ通變更登錄（訂正）相成度戶籍（民籍）謄本（抄本）並登錄稅（手數料）何圓相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名印
現住所

朝鮮總督府遞信局宛

第五號書式

海技免狀再交付申請書

一　海技免狀ノ番號
二　海技免狀ノ種類
三　登錄ノ年月日
四　氏名（片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ）
五　本籍地及族稱
六　出生年月日
右何年何月何日（滅失、遺失、紛失、毀損等ノ事由ヲ記載スヘシ）ニ付再交付相成度手數料何圓相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名印
現住所

朝鮮總督府遞信局宛

船舶職員ノ代用海技免狀行使ノ特例ニ關スル件

大正十四年十二月
總令第百十二號

船舶職員ノ代用海技免狀行使ノ特例ニ關スル件左ノ通定ム

大正九年朝鮮總督府令第十四號別表第一號表又ハ第三號表ニ依リ船舶ニ其ノ職員トシテ乘組ミ本令施行ノ際現ニ就職中ノ者ハ同一ノ船舶ニ於テ同一ノ職ヲ執ルタル期間內ニ限リ大正十四年朝鮮總督府令第五十八號ノ規定ニ拘ラス同別表ニ依リ引續キ就職スルコトヲ得本令施行後一時下船シ其ノ翌日ヨリ起算シ三十日以內ニ同一船舶ニ於テ同一ノ職ニ復スル者亦同シ

前項ノ規定ニ依リ船舶職員トシテ引續キ就職セムトスル者ハ大正十四年十二月三十一日迄ニ又復職セムトスル者ハ其ノ都度左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面二通ニ就退職ノ期日ヲ證スル船員手帖其ノ他ノ證憑（復職セムトスル者ニ在リテハ就職屆出ノ證明書ヲモ合セ）ヲ添附シ管海官廳ニ屆出テ其ノ旨證明ヲ受ク

一　船舶番號、船種及船名
二　總噸數
三　航路定限
四　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
五　職名
六　海技免狀ノ種類及番號
七　就退職年月日（就職屆出ニハ退職年月日ノ記載ヲ要ス）
八　屆出ノ事由

第一項ノ規定ニ依リ就職又ハ復職シタル者下船シタルトキハ遲滯ナク管海官廳ニ其ノ旨屆出ツヘシ

管海官廳ニ於テ航路ノ狀況其ノ他正當ノ事由ニ依リ第二項ニ定ムル期日迄ニ屆出ヲ爲スコト能ハサリシモノト認ムル場合ニ限リ期日後ト雖屆出ヲ受理スルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮船舶職員試驗規則

大正十四年五月
總令第五十九號

朝鮮船舶職員試驗規則左ノ通定ム

朝鮮船舶職員試驗規則

第一章　總則

第一條　船舶職員試驗ハ左ノ三十六種トス

小形船丙種運轉士試驗
丙種運轉士試驗
丙種船長試驗
湖川港乙種二等運轉士試驗
小形船乙種二等運轉士試驗
漁船乙種二等運轉士試驗
漁船乙種一等運轉士試驗
乙種二等運轉士試驗
乙種一等運轉士試驗
乙種船長試驗
漁業帆船甲種二等運轉士試驗
漁業帆船甲種一等運轉士試驗
漁業汽船甲種二等運轉士試驗
漁業汽船甲種一等運轉士試驗
漁船甲種二等運轉士試驗
漁船甲種一等運轉士試驗
帆船甲種二等運轉士試驗
帆船甲種一等運轉士試驗
帆船甲種船長試驗
汽船甲種二等運轉士試驗
汽船甲種一等運轉士試驗
汽船甲種船長試驗
甲種二等運轉士試驗
甲種一等運轉士試驗
甲種船長試驗
發動機船三等機關士試驗
湖川港三等機關士試驗
三等機關士試驗
發動機船二等機關士試驗
二等機關士試驗
發動機船一等機關士試驗
一等機關士試驗
發動機船機關長試驗
機關長試驗

第二條　船舶職員試驗ハ別ニ告示スル試驗ノ場所及期日ニ於テ管海官廳定期ニ之ヲ執行ス

臨時試驗ヲ執行スル必要アルトキハ試驗ノ場所及期日ハ隨時之ヲ告示ス

第三條　本令ニ規定スル乘船期間ヲ計算スルニハ乘船ノ翌日ヨリ之ヲ起算シ末日ハ終了ノ日ニ至ラサルモ之ヲ算入ス

月又ハ年ヲ以テ定ムル乘船期間ハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算シ月又ハ年ノ始ヨリ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於ケル起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ最後ノ月又ハ年ニ應當スル日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了スルモノトス

乘船期間ヲ計算スルニハ一月ニ滿タサル乘船日數ハ之ヲ合算シ三十日ニ滿ツルトキハ之ヲ一月トシ一年ニ滿タサル乘船月數ハ之ヲ合算シ十二月ニ滿ツルトキハ之ヲ一年トス

第二章　受驗資格

第四條　船舶職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ試驗期日ノ前日迄ニ年齡滿二十年ニ達シ試驗ノ種類ニ應シ別表受驗履歷表ニ掲クル履歷ノ一ヲ有スルコトヲ要ス

同一ノ試驗ニ對シ規定ノ乘船期間ノ一ニ達スル迄沿海航路ヲ航行スル汽船ノ乘組ミタルモノト看做ス

第七條　朝鮮總督ノ內地、臺灣、樺太若ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶又ハ外國船舶ニ乘組ミタル履歷ヲ別表受驗履歷表ニ掲クル履歷ニ相當スルモノトシテ認定スルコトヲ得

第八條　朝鮮總督ノ適當ト認ムル外國政府ノ海技免狀ヲ有シテ執職シタル履歷ハ朝鮮總督府ノ相當海技免狀ヲ有シテ執職シタルモノト看做ス

第九條　外國政府ノ海技免狀ヲ受有スル者ハ朝鮮總督ノ認定スル所ニ依リ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

第十條　朝鮮總督ノ適當ト認ムル商船學校、海員養成所、水產學校又ハ水產講習所ニ在リテ航海科、機關科、漁撈科若ハ遠洋漁業科ヲ修業シタル者又ハ遠洋漁業ノ講習科ヲ修業シタル者ハ其ノ在學中ノ乘船期間別表受驗履歷表ニ掲クル乘船期間ニ達セサルモ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

第十一條　朝鮮總督ノ適當ト認ムル機關工場ニ於テ汽機、汽罐ノ製造又ハ修繕ニ從事シタル期間ハ機關部員ノ試驗ニ在リテハ別表受驗履歷表ニ掲クル乘船期間ニ達スル迄機關運轉ニ從事シタル期間ノ二分ノ一ヲ乘船期間ニ通算ス

第十二條　前二條ニ規定スル商船學校、海員養成所、水產學校、水產講習所又ハ機關工場ハ別ニ之ヲ告示ス

第十三條　左ニ掲クル履歷ハ第四條ニ規定スル受驗履歷トシテ之ヲ認ムルコトヲ得ス

一　倉庫船又ハ繫留船ニ乘組ミタル履歷
二　年齡十四年未滿ノ履歷
三　試驗期日ヨリ遡リ十年ヲ超ユル前ノ履歷
四　主トシテ船舶ノ運航又ハ機關ノ運轉ニ從事セサル職務ノ履歷
第三章　受驗申請

第十四條　船舶職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ定期試驗ニ在リテハ試驗期日五日前迄ニ試驗ヲ行フ管海官廳ニ左ノ書類及手札形寫眞（最近脫帽ニ上半身ヲ寫シタルモノニ限ル）ヲ添附シ第一號書式ノ申請書ヲ提出スヘシ

一　戶籍謄本又ハ戶籍抄本
二　船舶職員法第六條第一號及第二號ニ該當セサルコトノ府尹、面長其ノ他當該官公吏ノ證明書
三　海技免狀ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ寫
四　商船學校、海員養成所、水產學校又ハ水產講習所ノ卒業證書又ハ修業證書ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ寫

前項第二號ニ揭クル書類ハ外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十五條　船舶職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ左ニ揭クル書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シ其ノ受驗履歷ヲ證明スヘシ

一　商船ニ乘組ミタル履歷ハ船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書
二　海軍艦船艇又ハ官公署ノ所屬船ニ乘組ミタル履歷ハ當該官公署ノ辭令書若ハ證明書又ハ當該官公吏ノ證明書
三　前各號ノ一ニ依リ難キ者ノ乘船履歷ハ船舶所有者又ハ船長ノ證明書
四　第十條又ハ第十一條ニ規定スル機關工場、商船學校、海員養成所、水產學校又ハ水產講習所ニ在リタル履歷ハ當該工場、學校、養成所又ハ講習所ノ證明書、卒業證書又ハ修業證書
五　海技免狀ヲ有スル者ニ在リテハ當該免狀

第十六條　受驗申請ハ同時ニ二種以上ノ試驗ニ付之ヲ爲スコトヲ得ス

第四章　試驗ノ執行

第十七條　船舶職員試驗ハ體格檢查及學術試驗トシ學術試驗ハ筆記試驗及口述試驗トス但シ本令ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

體格檢查ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試驗ヲ受クルコトヲ得ス

筆記試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十八條　小形船丙種運轉士試驗、漁船丙種運轉士試驗、湖川港乙種二等運轉士試驗、小形船乙種二等運轉士試驗、漁船乙種二等運轉士試驗、發動機船三等機關士試驗及湖川港三等機關士試驗ハ筆記試驗ヲ執行セス

第十九條　學術試驗ニ於テ筆記試驗ニ合格シ口述試驗ニ合格セサリシ者筆記試驗ニ合格シタル日ヨリ六月內ニ同種ノ受驗申請ヲ爲シタルトキハ一回ヲ限リ筆記試驗ヲ免除ス

第十條ニ規定スル學校、養成所又ハ講習所ニ於テ卒業又ハ修業シタル者ニ對シテハ朝鮮總督ノ認定スル所ニ依リ筆記試驗ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當スル學校、養成所又ハ講習所ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十條　體格檢查ハ別表體格檢查標準表ニ依リ、學術試驗ハ別表學術試驗科目表ニ依リ之ヲ執行ス

第二十一條　體格檢查ハ試驗ノ場所ニ別段ノ揭示ヲ爲ササル限リ試驗ノ初日ニ於テ之ヲ執行スル但シ當日終了セサルトキハ次日ニ之ヲ續行ス

學術試驗ヲ執行スル期日ハ筆記試驗ニ在リテハ試驗ノ場所ニ之ヲ揭示シ口述試驗ニ在リテハ受驗人ニ之ヲ通知ス

第二十二條　船舶職員試驗ノ執行ニ關スル手續ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メ試驗ノ場所ニ揭示ス

第二十三條　試驗執行中ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實ヲ發見シタルトキハ當該受驗人ニ付直ニ其ノ試驗ヲ停止スヘシ

一　受驗資格ナキコト
二　受驗禁止中ナルコト
三　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタルコト

受驗人前條ノ手續ニ違背シタルトキハ當該受驗人ニ付其ノ試驗ヲ停止スルコトアルヘシ

前各項ノ規定ニ依リ試驗ヲ停止シタルトキ又ハ試驗執行後第一項各號ノ一ニ該當スル事實アリタルコトヲ發見シタルトキハ管海官廳ハ當該受驗人ニ付試驗ノ全部又ハ一部ヲ無效ト爲スコトヲ得

ルニ以上ノ履歷ヲ有スルトキハ之ヲ其ノ一ニ通算スルコトヲ得但シ規定乘船期間ノ年數ヲ異ニスルモノヲ通算スル場合ニ在リテハ各規定乘船期間ノ年數ノ比例ニ依リ其ノ一方ニ換算シテ之ヲ通算スルモノトス

第五條　高等ノ免狀ニ對スル受驗履歷ハ下等ノ免狀ニ對スル受驗履歷トシテ、高等ノ免狀ヲ有シテ執職シタル履歷ハ下等ノ免狀ヲ有シテ執職シタル履歷トシテ、高等ノ職ヲ執リタル履歷ハ下等ノ職ヲ執リタル履歷トシテ之ヲ認ムルコトヲ得

總噸數百噸以上ノ機關ヲ有セサル縱帆裝置ノ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ニ乘組ミタル期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間橫帆裝置ノ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ニ乘組ミタルモノトシテ之ヲ換算スルコトヲ得

機關部員ノ試驗ニ在リテハ別表受驗履歷表ニ揭クル航洋汽船又ハ汽船ニハ發動機船ヲ包含セス但シ同表ニ揭クル乘船期間ノ二分ノ一ニ達スル迄ハ汽船ニ乘組ミタル期間ヲ發動機船ニ乘組ミタルモノトシテ、發動機船ニ乘組ミタル期間ヲ汽船ニ乘組ミタルモノトシテ換算スルコトヲ得

湖川港三等機關士試驗ニ對スル受驗履歷ニ付テハ火夫トシテ勤務シタル期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間機關運轉ニ從事シタルモノトシテ之ヲ換算スルコトヲ得但シ換算シタル期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

機關ヲ有スル帆船ニ乘組ミタル履歷ニ付テハ機關部員ノ試驗ニ在リテハ其ノ乘船期間ノ二分ノ一ニ相當スル期間ハ船舶ノ總噸數包含セス但シ同表ニ揭クル乘船期間ノ二分ノ一ニ相當スル汽船又ハ發動機船ニ乘組ミタルモノトシテ計算ス但シ此ノ場合ニ於テハ第三項但書ノ規定ヲ準用ス

第六條　朝鮮總督ハ內地、臺灣、樺太、關東州又ハ外國各港間ヲ航行スル船舶ニ乘組ミタル履歷ヲ別表受驗履歷表ニ揭クル履歷ニ相當スルモノトシテ認定スルコトヲ得

上海漢口間ヲ航行スル汽船ニ乘組ミタル期間ハ別表受驗履歷表ニ揭クル乘船期間ノ二分ノ一ニ達スル迄沿海航路ヲ航行スル汽船ノ乘組ミタルモノト看做ス

第七條　朝鮮總督ノ內地、臺灣、樺太若ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶又ハ外國船舶ニ乘組ミタル履歷ヲ別表受驗履歷表ニ揭クル履歷ニ相當スルモノトシテ認定スルコトヲ得

第八條　朝鮮總督ノ適當ト認ムル外國政府ノ海技免狀ヲ有シテ執職シタル履歷ハ朝鮮總督府ノ相當海技免狀ヲ有シテ執職シタルモノト看做ス

第九條　外國政府ノ海技免狀ヲ受有スル者ハ朝鮮總督ノ認定スル所ニ依リ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

第十條　朝鮮總督ノ適當ト認ムル商船學校、海員養成所、水產學校又ハ水產講習所ニ在リテ航海科、機關科、漁撈科若ハ遠洋漁業科ヲ修業シタル者又ハ遠洋漁業ノ講習科ヲ修業シタル者ハ其ノ在學中ノ乘船期間別表受驗履歷表ニ揭クル乘船期間ニ達セサルモ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

第十一條　朝鮮總督ノ適當ト認ムル機關工場ニ於テ汽機、汽罐ノ製造又ハ修繕ニ從事シタル期間ハ機關部員ノ試驗ニ在リテハ別表受驗履歷表ニ揭クル乘船期間ニ達スル迄機關運轉ニ從事シタル期間ノ二分ノ一ヲ乘船期間ニ通算ス

第十二條　前二條ニ規定スル商船學校、海員養成所、水產學校、水產講習所又ハ機關工場ハ別ニ之ヲ告示ス

第十三條　左ニ掲クル履歷ハ第四條ニ規定スル受驗履歷トシテ之ヲ認ムルコトヲ得ス

一　倉庫船又ハ繫留船ニ乘組ミタル履歷
二　年齡十四年未滿ノ履歷
三　試驗期日ヨリ遡リ十年ヲ超ユル前ノ履歷
四　主トシテ船舶ノ運航又ハ機關ノ運轉ニ從事セサル職務ノ履歷
第三章　受驗申請

第十四條　船舶職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ定期試驗ニ在リテハ試驗期日五日前迄ニ試驗ヲ行フ管海官廳ニ左ノ書類及手札形寫眞（最近脫帽ニ上半身ヲ寫シタルモノニ限ル）ヲ添附シ第一號書式ノ申請書ヲ提出スヘシ

一　戶籍謄本又ハ戶籍抄本
二　船舶職員法第六條第一號及第二號ニ該當セサルコトノ府尹、面長其ノ他當該官公吏ノ證明書
三　海技免狀ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ寫
四　商船學校、海員養成所、水產學校又ハ水產講習所ノ卒業證書又ハ修業證書ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ寫

前項第二號ニ揭クル書類ハ外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十五條　船舶職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ左ニ揭クル書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シ其ノ受驗履歷ヲ證明スヘシ

一　商船ニ乘組ミタル履歷ハ船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書
二　海軍艦船艇又ハ官公署ノ所屬船ニ乘組ミタル履歷ハ當該官公署ノ辭令書若ハ證明書又ハ當該官公吏ノ證明書
三　前各號ノ一ニ依リ難キ者ノ乘船履歷ハ船舶所有者又ハ船長ノ證明書
四　第十條又ハ第十一條ニ規定スル機關工場、商船學校、海員養成所、水產學校又ハ水產講習所ニ在リタル履歷ハ當該工場、學校、養成所又ハ講習所ノ證明書、卒業證書又ハ修業證書
五　海技免狀ヲ有スル者ニ在リテハ當該免狀

第十六條　受驗申請ハ同時ニ二種以上ノ試驗ニ付之ヲ爲スコトヲ得ス

第四章　試驗ノ執行

第十七條　船舶職員試驗ハ體格檢查及學術試驗トシ學術試驗ハ筆記試驗及口述試驗トス但シ本令ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

體格檢查ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試驗ヲ受クルコトヲ得ス

筆記試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十八條　小形船丙種運轉士試驗、漁船丙種運轉士試驗、湖川港乙種二等運轉士試驗、小形船乙種二等運轉士試驗、漁船乙種二等運轉士試驗、發動機船三等機關士試驗及湖川港三等機關士試驗ハ筆記試驗ヲ執行セス

第十九條　學術試驗ニ於テ筆記試驗ニ合格シ口述試驗ニ合格セサリシ者筆記試驗ニ合格シタル日ヨリ六月內ニ同種ノ受驗申請ヲ爲シタルトキハ一回ヲ限リ筆記試驗ヲ免除ス

第十條ニ規定スル學校、養成所又ハ講習所ニ於テ卒業又ハ修業シタル者ニ對シテハ朝鮮總督ノ認定スル所ニ依リ筆記試驗ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當スル學校、養成所又ハ講習所ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十條　體格檢查ハ別表體格檢查標準表ニ依リ、學術試驗ハ別表學術試驗科目表ニ依リ之ヲ執行ス

第二十一條　體格檢查ハ試驗ノ場所ニ別段ノ揭示ヲ爲ササル限リ試驗ノ初日ニ於テ之ヲ執行スル但シ當日終了セサルトキハ次日ニ之ヲ續行ス

學術試驗ヲ執行スル期日ハ筆記試驗ニ在リテハ試驗ノ場所ニ之ヲ揭示シ口述試驗ニ在リテハ受驗人ニ之ヲ通知ス

第二十二條　船舶職員試驗ノ執行ニ關スル手續ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メ試驗ノ場所ニ揭示ス

第二十三條　試驗執行中ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實ヲ發見シタルトキハ當該受驗人ニ付直ニ其ノ試驗ヲ停止スヘシ

一　受驗資格ナキコト
二　受驗禁止中ナルコト
三　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタルコト

受驗人前條ノ手續ニ違背シタルトキハ當該受驗人ニ付其ノ試驗ヲ停止スルコトアルヘシ

前各項ノ規定ニ依リ試驗ヲ停止シタルトキ又ハ試驗執行後第一項各號ノ一ニ該當スル事實アリタルコトヲ發見シタルトキハ管海官廳ハ當該受驗人ニ付試驗ノ全部又ハ一部ヲ無效ト爲スコトヲ得

第二十四條　試驗ニ合格シタルトキハ其ノ旨ヲ受驗人ニ通知ス

第五章　受驗禁止

第二十五條　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ付テハ管海官廳ハ六月以上三年以下ノ期間ヲ定メ受驗ヲ禁止スルコトヲ得

第六章　受驗手數料

第二十六條　受驗手數料ハ體格檢查手數料及學術試驗手數料トシテ別表受驗手數料表ノ定ムル所ニ依ル

體格檢查手數料ハ受驗申請受理セラレタルトキ學術試驗手數料ハ體格檢查ニ合格シタルトキ直ニ納付スヘシ

第二十七條　受驗手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ニ第二號書式ノ納付書ニ貼用シ之ヲ納付スヘシ

第二十八條　既納ノ受驗手數料ハ事由ノ如何ヲ問ハス之ヲ還付セス

附　則

本令ハ大正十四年六月一日之ヲ施行ス

大正三年朝鮮總督府令第八十號朝鮮船舶職員試驗規則ハ之ヲ廢止ス

大正三年朝鮮總督府令第八十號朝鮮船舶職員試驗規則ニ定ムル受驗履歷ニ適合スル履歷ヲ有スル者ハ本令第四條ノ規定ニ拘ラス大正十五年九月三十日迄ヲ限リ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

本令施行前ニ執行シタル定期試驗ニ於テ筆記試驗ニ合格シ口述試驗ニ合格セサリシ者筆記試驗ニ合格シタル月ヨリ六月內ニ同種ノ受驗申請ヲ爲シタルトキハ本令ニ依ル筆記試驗ヲ免除ス

（別表）

受驗履歷表

試驗ノ種類	乘組船舶	乘船期間	受有免狀ノ種類	勤務ノ種類
小形船丙種運轉士試驗	航洋帆船	四年以上		運航
漁船丙種運轉士試驗	一　航洋帆船內航洋漁業帆船 二　航洋漁船內航洋漁業帆船 三　漁業帆船內航洋漁業帆船	一年以上 二年以上 四年以上	丙種運轉士免狀	運航 運航 運航
丙種運轉士試驗	一　二十噸以上ノ航洋帆船 二　二十噸以上ノ航洋帆船	四年以上 一年以上	小形船丙種運轉士免狀	運航
丙種船長試驗	一　二百噸以上ノ航洋帆船 二　二百噸以上ノ航洋帆船 三　二百噸以上ノ航洋漁業汽船	一年以上 二年以上 三年以上	丙種運轉士免狀	船長 一等運轉士 二等運轉士
漁業帆船甲種一等運轉士試驗	一　遠洋航路ヲ航行スル漁業帆船若ハ沿海航路ヲ航行スル漁業帆船 二　二百噸以上ノ航洋漁業帆船 三　二百噸以上ノ航洋漁業帆船 四　二百噸以上ノ航洋漁業帆船	一年以上 一年以上 二年以上 四年以上	漁業帆船甲種二等運轉士免狀	長 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士
漁業帆船甲種二等運轉士試驗	一　航洋帆船內百噸以上ノ航洋漁業帆船	四年以上	漁船乙種二等運轉士免狀	長
乙種船長試驗	一　百噸以上ノ航洋汽船 二　二百噸以上ノ航洋汽船 三　五百噸以上ノ航洋汽船	一年以上 二年以上 三年以上	乙種運轉士免狀	船長 一等運轉士 二等運轉士
乙種一等運轉士試驗	一　五十噸以上ノ航洋汽船 二　二百噸以上ノ航洋汽船 三　二百噸以上ノ航洋汽船 四　二百噸以上ノ航洋汽船	四年以上 一年以上 二年以上 四年以上	乙種運轉士免狀 乙種運轉士免狀 乙種運轉士免狀 乙種運轉士免狀	船長 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士
乙種二等運轉士試驗	一　汽船 二　二十噸以上ノ航洋汽船	三年以上 一年以上	小形船乙種二等運轉士免狀	船長
漁船乙種一等運轉士試驗	一　航洋船內百噸以上ノ航洋漁業汽船 二　五十噸以上ノ航洋漁業汽船 三　二百噸以上ノ航洋漁業汽船	四年以上 一年以上 一年以上	漁船乙種二等運轉士免狀 漁船乙種二等運轉士免狀 漁船乙種二等運轉士免狀	船長 一等運轉士 一等運轉士
漁船乙種二等運轉士試驗	一　航洋船內百噸以上ノ航洋漁業帆船	三年以上	漁船乙種二等運轉士免狀	船長
漁船甲種二等運轉士試驗	航洋船內百噸以上ノ航洋漁業帆船	四年以上	漁船甲種二等運轉士免狀	船長
漁業汽船甲種一等運轉士試驗	一　百噸以上ノ航洋漁業汽船 二　二百噸以上ノ航洋漁業汽船 三　百噸以上ノ航洋漁業汽船 四　二百噸以上ノ航洋漁業汽船	一年以上 一年以上 一年以上 一年以上	漁業汽船甲種二等運轉士免狀 漁業汽船甲種二等運轉士免狀 漁船乙種一等運轉士免狀 漁船乙種一等運轉士免狀	長 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士
漁業汽船甲種二等運轉士試驗	航洋船內百噸以上ノ航洋漁業汽船	四年以上	漁業汽船甲種二等運轉士免狀	長
漁船甲種一等運轉士試驗	一　百噸以上ノ航洋漁船 二　二百噸以上ノ航洋漁船 三　百噸以上ノ航洋漁業帆船 四　二百噸以上ノ航洋漁業帆船	一年以上 一年以上 一年以上 一年以上	漁船甲種二等運轉士免狀 漁船甲種二等運轉士免狀 漁業帆船甲種二等運轉士免狀 漁業帆船甲種二等運轉士免狀	長 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士
機關ヲ有スル帆船	三	一年以上	小形船丙種運轉士免狀	船長
帆船甲種二等運轉士試驗	一　二十噸以上ノ大航洋帆船 二　二十噸以上ノ航洋帆船	四年以上 一年以上	丙種運轉士免狀	船長
帆船甲種一等運轉士試驗	一　千噸以上ノ航洋汽船 二　五百噸以上ノ航洋汽船 三　三百噸以上ノ航洋汽船 四　二百噸以上ノ航洋汽船 五　百噸以上ノ航洋汽船 六　百噸以上ノ航洋汽船	一年以上 二年以上 三年以上 四年以上 五年以上 六年以上	汽船甲種一等運轉士免狀 汽船甲種一等運轉士免狀 汽船甲種一等運轉士免狀 汽船甲種一等運轉士免狀 汽船甲種一等運轉士免狀 汽船甲種一等運轉士免狀	船長 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士
帆船甲種一等運轉士試驗	一　千噸以上ノ航洋汽船 二　五百噸以上ノ航洋汽船 三　三百噸以上ノ航洋汽船 四　二百噸以上ノ航洋汽船 五　百噸以上ノ航洋汽船	一年以上 二年以上 三年以上 四年以上 五年以上	汽船甲種一等運轉士免狀 汽船甲種一等運轉士免狀 汽船甲種一等運轉士免狀 汽船甲種一等運轉士免狀 汽船甲種一等運轉士免狀	船長 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士
帆船甲種船長試驗	一　遠洋航路ヲ航行スル帆船 二　二百噸以上ノ航洋帆船 三　（二百噸以上ノ大航洋帆船ニ準ス）横帆裝置ノ大航洋帆船	一年以上 一年以上 二年以上	帆船甲種二等運轉士免狀 帆船甲種一等運轉士免狀 乙種船長免狀	船長 一等運轉士 運航
汽船甲種船長試驗	一　二百噸以上ノ航洋汽船 二　五百噸以上ノ航洋汽船 三　（二百噸以上ノ大航洋汽船ニ準ス）五百噸以上ノ大航洋汽船 四　（二百噸以上ノ大航洋汽船ニ準ス）五百噸以上ノ大航洋汽船	一年以上 一年以上 二年以上 三年以上	汽船甲種二等運轉士免狀 汽船甲種一等運轉士免狀 乙種船長免狀 乙種船長免狀	船長 一等運轉士 運航 運航
甲種二等運轉士試驗	二十噸以上ノ大航洋帆船又ハ百噸以上ノ大航洋汽船ノ横帆裝置ノ大航洋帆船	四年以上 一年以上	二等運轉士免狀	運航
甲種一等運轉士試驗	一　千噸以上ノ航洋汽船 二　五百噸以上ノ航洋汽船 三　遠洋航路ヲ航行スル帆船 四　二百噸以上ノ航洋帆船 五　百噸以上ノ航洋帆船 六　（遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ準ス）五百噸以上ノ航洋帆船	一年以上 二年以上 三年以上 四年以上 五年以上 六年以上	一等運轉士免狀 一等運轉士免狀 一等運轉士免狀 一等運轉士免狀 一等運轉士免狀 一等運轉士免狀	船長 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士

三	機關ヲ有スル帆船	一年以上	漁船丙種運轉士免狀	船長
漁船乙種一等運轉士試驗	一　航洋船內百噸以上ノ航洋漁業汽船 二　五十噸以上ノ航洋漁業汽船 三　二百噸以上ノ航洋漁業汽船	四年以上 一年以上 一年以上	運航 運航 運航
乙種二等運轉士試驗	一　汽船 二　二十噸以上ノ航洋汽船	三年以上 一年以上	小形船乙種二等運轉士免狀 運航	船長
乙種一等運轉士試驗	一　百噸以上ノ航洋汽船 二　五十噸以上ノ航洋汽船 三　二百噸以上ノ航洋汽船 四　二百噸以上ノ航洋汽船	四年以上 一年以上 二年以上 四年以上	乙種運轉士免狀 乙種運轉士免狀 乙種運轉士免狀 乙種運轉士免狀	船長 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士
乙種船長試驗	一　百噸以上ノ航洋汽船 二　二百噸以上ノ航洋汽船 三　五百噸以上ノ航洋汽船	一年以上 二年以上 三年以上	乙種運轉士免狀 乙種運轉士免狀 乙種運轉士免狀	船長 一等運轉士 二等運轉士
漁業帆船甲種二等運轉士試驗	一　遠洋航路ヲ航行スル漁業帆船若ハ沿海航路ヲ航行スル漁業帆船 二　二百噸以上ノ航洋漁業帆船 三　二百噸以上ノ航洋漁業帆船 四　二百噸以上ノ航洋漁業帆船	一年以上 一年以上 二年以上 四年以上	漁業帆船甲種二等運轉士免狀 漁業帆船甲種二等運轉士免狀 漁船丙種運轉士免狀 一等運轉士免狀	長 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士
漁業汽船甲種二等運轉士試驗	航洋船內百噸以上ノ航洋漁業汽船	四年以上	漁業汽船甲種二等運轉士免狀	長
漁業汽船甲種一等運轉士試驗	一　百噸以上ノ航洋漁業汽船 二　二百噸以上ノ航洋漁業汽船 三　百噸以上ノ航洋漁業汽船 四　二百噸以上ノ航洋漁業汽船	一年以上 一年以上 一年以上 一年以上	漁業汽船甲種二等運轉士免狀 漁業汽船甲種二等運轉士免狀 漁船乙種一等運轉士免狀 漁船乙種一等運轉士免狀	長 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士
漁船甲種二等運轉士試驗	航洋船內百噸以上ノ航洋漁業汽船	四年以上	漁船甲種二等運轉士免狀	長
漁船甲種一等運轉士試驗	一　百噸以上ノ航洋漁船 二　二百噸以上ノ航洋漁船 三　百噸以上ノ航洋漁業帆船 四　二百噸以上ノ航洋漁業帆船	一年以上 一年以上 一年以上 一年以上	漁船甲種二等運轉士免狀 漁船甲種二等運轉士免狀 漁業帆船甲種二等運轉士免狀 漁業帆船甲種二等運轉士免狀	長 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士
甲種船長試驗	七　（遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ準ス）五百噸以上ノ大航洋帆船 八　二百噸以上ノ大航洋汽船 五百噸以上ノ大航洋汽船 九　二百噸以上ノ航洋帆船 五百噸以上ノ大航洋帆船 一〇　五百噸以上ノ航洋汽船 （横帆裝置ノ大航洋帆船ニ準ス）五百噸以上ノ大航洋汽船	一年以上 一年以上 二年以上 一年以上 二年以上 一年以上	帆船甲種一等運轉士免狀 乙種船長免狀 乙種船長免狀 乙種船長免狀 一等運轉士免狀 一等運轉士免狀	船長 運航 運航 運航 一等運轉士 一等運轉士
甲種一等運轉士試驗	一　千噸以上ノ航洋汽船 二　五百噸以上ノ航洋汽船 三　遠洋航路ヲ航行スル帆船 四　二百噸以上ノ航洋帆船 五　百噸以上ノ航洋帆船 六　（遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ準ス）五百噸以上ノ大航洋帆船	一年以上 二年以上 三年以上 四年以上 五年以上 六年以上	一等運轉士免狀 一等運轉士免狀 一等運轉士免狀 一等運轉士免狀 一等運轉士免狀 一等運轉士免狀	船長 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士 一等運轉士

發動機船三等發動機關士試驗	二百噸以上ノ航洋帆船又ハ横帆裝置ノ大航洋汽船	一年以上
	五百噸以上ノ大航洋汽船	二年以上
湖川港三等機關士試驗	汽船	二年以上
三等機關士試驗	汽船	三年以上
發動機船二等機關士試驗	一　二十噸以上ノ航洋發動機船	二年六月以上
	二　二十噸以上ノ航洋發動機船	一年以上
二等機關士試驗	一　百噸以上ノ航洋汽船	三年以上
	二　百噸以上ノ航洋汽船	二年以上
	三　五十噸以上ノ航洋汽船	一年以上
發動機船一等機關士試驗	一　三百噸以上ノ航洋發動機船	三年以上
	二　二百噸以上ノ航洋發動機船	二年以上
	三　百噸以上ノ航洋發動機船	一年以上
	四　五百噸以上ノ航洋發動機船	一年以上
一等機關士試驗	一　五百噸以上ノ航洋汽船	四年以上
	二　三百噸以上ノ航洋汽船	二年以上
	三　千噸以上ノ航洋汽船	一年以上
	四	一年以上
發動機船機關長試驗	一　五百噸以上ノ航洋發動機船	一年以上
	二　三百噸以上ノ航洋發動機船	一年以上
	三　千噸以上ノ航洋發動機船	二年以上
機關長試驗	一　千噸以上ノ航洋汽船	二年以上
	二　五百噸以上ノ航洋汽船	一年以上
	三	二年以上

丙種船長免狀	一等運轉士航海	一年以上ノ運轉士ノ職ニ在リテ實地ニ經驗ヲ積ミタル者
	二等運轉士航海	一年以上ノ運轉士ノ職ニ在リテ實地ニ經驗ヲ積ミタル者
	機關運轉士	一年以上ノ運轉士ノ職ニ在リテ實地ニ經驗ヲ積ミタル者
一等運轉士免狀	一等機關士免狀ヲ有スル者	一年以上ノ一等機關士ノ職ニ在リテ實地ニ經驗ヲ積ミタル者
	二等機關士免狀ヲ有スル者	二年以上ノ二等機關士ノ職ニ在リテ實地ニ經驗ヲ積ミタル者
二等運轉士免狀	一等機關士免狀ヲ有スル者	一年以上ノ一等機關士ノ職ニ在リテ實地ニ經驗ヲ積ミタル者
	二等機關士免狀ヲ有スル者	二年以上ノ二等機關士ノ職ニ在リテ實地ニ經驗ヲ積ミタル者
機關運轉士長免狀	一等機關士長免狀ヲ有スル者	一年以上ノ一等機關士長ノ職ニ在リテ實地ニ經驗ヲ積ミタル者
	二等機關士長免狀ヲ有スル者	二年以上ノ二等機關士長ノ職ニ在リテ實地ニ經驗ヲ積ミタル者

備考

一　船舶ノ噸數ハ總噸數ヲ以テ示シ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ十石ヲ以テ一噸ニ換算ス

二　航洋船舶トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船及帆船、航洋汽船トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船、航洋帆船トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ヲ謂ヒ、航洋漁船、航洋漁業汽船及航洋漁業帆船亦之ニ準ス

三　大航洋汽船トハ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船、大航洋帆船トハ近海航路以上ノ航路ヲ以テ航行スル帆船ヲ謂フ

四　横帆裝置ノ帆船ニハ「トップスル、スクーナー」裝置ノ帆船ニハ「トップスル、スクーナー」裝置ノモノヲ包含セス

受有免狀ノ種類中小形船丙種運轉士免狀トアルハ效力ヲ沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數五十噸未滿ノ帆船ニ限リタル丙種運轉士免狀、湖川港ノ三字ヲ冠シタル效力ヲ一定區域ノ湖川港內ノミヲ航行スル汽船ニ限リタルモノ、漁船ノ二字ヲ冠シタルハ效力ヲ漁船ニ限リタルモノ、小形船乙種二等運轉士免狀トアルハ效力ヲ沿海航路若ハ平水航路ヲ航行スル帆船ヲ謂フ

別表

檢查項目

種別	甲合格	乙合格
眼力	眼驗下垂、顆粒性結膜炎、斜視、角膜、虹彩及網膜諸病ナキモノ	上欄揭記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ
視力	甲板部員試驗ニ於テハ一眼ハ〇・六以上他眼ハ〇・四以上明視シ得ルモノ、機關部員試驗ニ於テハ一眼ハ〇・四以上他眼ハ〇・三以上明視シ得ルモノ	上欄揭記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ
五米突ノ距離ニ於ケル萬國視力表ニ付	兩眼共ニ〇・六號ヲ明視シ得ルモノ	
辨色	完全ナルモノ	紅綠盲及青黃盲ニ非サル色弱ナルモノ
耳ノ現狀	內外聽道ノ疾病特ニ鼓膜穿孔耳漏、片耳又ハ兩耳聽ナキモノ	上欄揭記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ
聽覺	兩耳共ニ二尺以上ノ距離ニ於テ明ニ懷中時計ノ秒時音ヲ聽取シ得ルモノ	兩耳共ニ一尺以上ノ距離ニ於テ明ニ懷中時計ノ秒時音ヲ聽取シ得ルモノ
體格	身體薄弱、腳隔扁平ニシテ勞療ニ堪ヘ難キ慢性疾患、精神異常、言語障碍、吶吃其ノ他著シキ疾病ナキモノ	上欄揭記ノ障碍アルモ輕微ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ
疾病	心肺ノ疾患、心悸亢進、聲音嘶啞、肋膜炎後ノ障碍、精神異常、言語障碍、吶吃其ノ他著シキ疾病ナキモノ	上欄揭記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ

別表

體格檢查標準表

種別	甲合格	乙合格
眼力	眼驗下垂、顆粒性結膜炎、斜視、角膜、虹彩及網膜諸病ナキモノ	上欄揭記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ
視力	甲板部員試驗ニ於テハ一眼ハ〇・六以上他眼ハ〇・四以上明視シ得ルモノ、機關部員試驗ニ於テハ一眼ハ〇・四以上他眼ハ〇・三以上明視シ得ルモノ	上欄揭記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ
五米突ノ距離ニ於ケル萬國視力表ニ付	兩眼共ニ〇・六號ヲ明視シ得ルモノ	
辨色	完全ナルモノ	紅綠盲及青黃盲ニ非サル色弱ナルモノ
耳ノ現狀	內外聽道ノ疾病特ニ鼓膜穿孔耳漏、片耳又ハ兩耳聽ナキモノ	上欄揭記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ
聽覺	兩耳共ニ二尺以上ノ距離ニ於テ明ニ懷中時計ノ秒時音ヲ聽取シ得ルモノ	兩耳共ニ一尺以上ノ距離ニ於テ明ニ懷中時計ノ秒時音ヲ聽取シ得ルモノ
體格	身體薄弱、腳隔扁平ニシテ勞療ニ堪ヘ難キ慢性疾患、精神異常、言語障碍、吶吃其ノ他著シキ疾病ナキモノ	上欄揭記ノ障碍アルモ輕微ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ
疾病	心肺ノ疾患、心悸亢進、聲音嘶啞、肋膜炎後ノ障碍、精神異常、言語障碍、吶吃其ノ他著シキ疾病ナキモノ	上欄揭記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ

船燈及救命具ノ取扱

當直ニ關スル心得

帆ノ取扱

各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

海上氣象學ノ大意

晴雨計ノ用法、日本近海ニ於ケル氣壓及風ノ大要

三　法規

海上衝突豫防法

朝鮮船員令、朝鮮船舶職員令、朝鮮海員懲戒令、朝鮮船舶令、朝鮮船舶檢查令及各附屬法規竝地方取締規則中須知事項

日誌取扱

丙種運轉士試驗

一　國語

書取、作文、解釋

二　數學

算術

四則應用

三　航海術

航用器具ノ取扱及矯正

六分儀、人工地平儀、測深機械、測程機械

潮時算法

推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測程

緯線航法、中分緯度航法、漸長緯度航法、流潮航法、航海日誌算法

天測ニ依ル船位ノ測定

太陽子午線高度緯度法

當直ニ關スル心得

帆ノ取扱

各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用

船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ對スル處置

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

海上氣象學

晴雨計及寒暖計ノ說明及用法、日本近海ニ於ケル氣溫、氣壓、風、海水及海流ノ大要

信號

萬國船舶信號旗ノ說明及用法、海難ニ關スル信號、氣象信號

貨物取扱

甲板及船側諸口ノ水密閉鎖

各種貨物ノ船積及引渡

救急醫術ノ大要

法規及商事實務

海上衝突豫防法

商法海商編中船員ニ關スル事項

朝鮮船員令、朝鮮船舶職員令、朝鮮海員懲戒令、朝鮮船舶令、朝鮮船舶檢查令、船舶滿載吃水線法及各附屬法規竝船舶檢疫及水路取締ニ關スル法規中須知事項

出入港ノ際必要ナル書類

日誌取扱

丙種船長試驗

丙種運轉士試驗科目ヲ合セ

一　數學

算術

比、比例、歩合算

二　航海術

航用器具ノ取扱及矯正

六分儀、人工地平儀、測深機械、測程機械

潮時算法

推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測程

緯線航法、中分緯度航法、漸長緯度航法、流潮航法、航海日誌算法

天測ニ依ル船位ノ測定

太陽子午線高度緯度法

船燈及救命具ノ取扱

當直ニ關スル心得

帆ノ取扱

各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

海上氣象學

晴雨計ノ說明及用法、日本近海ニ於ケル氣溫、氣壓、風、海水、海流、氷流及氷塊

信號

萬國船舶信號、船舶通航信號、潮時信號

丙種運轉士試驗

一　國語

書取、作文、解釋

二　數學

算術

四則應用

三　航海術

航用器具ノ取扱及矯正

假舵及救命筏ノ組立及用法

海錨ノ組立及用法竝撒油鎭浪法

海上氣象學ノ大意

日本近海ニ於ケル氣溫、氣壓、風、海水、海流、氷流及氷塊

信號

萬國船舶信號、船舶通航信號、潮時信號

湖川港乙種二等運轉士試驗

一　航海術

試驗ヲ受ケムトスル區域ノ水路

羅針儀ノ說明及用法

二　運用術

舵、操舵機具、傳令器及推進器ノ說明

船燈及救命具ノ取扱

當直ニ關スル心得

汽船ノ運用

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

旅客及客室ニ關スル心得

三　法規

海上衝突豫防法

朝鮮船舶職員令、朝鮮海員懲戒令、朝鮮船舶令、朝鮮船舶檢查令及附屬法規竝地方取締規則中須知事項

湖川港乙種二等運轉士試驗

一　航海術

手用測深具及手用測程具ノ取扱

羅針儀ノ說明及用法

二　運用術

推進器及舵ノ作用

船位ノ測定

三　法規

海上衝突豫防法

朝鮮船舶職員令、朝鮮海員懲戒令、朝鮮船舶令、朝鮮船舶檢查令及各附屬法規竝地方取締規則中須知事項

日誌取扱

乙種二等運轉士試驗

一　國語

書取、作文、解釋

二　數學

算術

四則應用

三　航海術

航用品具ノ取扱及矯正

手用測深具、手用測程具、測程機械

海圖ノ說明及用法

航路標識ノ大要

船燈及救命具ノ取扱

當直ニ關スル心得

帆ノ取扱

各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

海上氣象學

晴雨計及寒暖計ノ說明及用法、日本近海ニ於ケル氣溫、氣壓、風、海水及海流ノ大要

信號

萬國船舶信號旗ノ說明及用法、海難ニ關スル信號、氣象信號

貨物取扱

甲板及船側諸口ノ水密閉鎖

各種貨物ノ船積及引渡

救急醫術ノ大要

法規及商事實務

海上衝突豫防法

商法海商編中船員ニ關スル事項

朝鮮船員令、朝鮮船舶職員令、朝鮮海員懲戒令、朝鮮船舶令、朝鮮船舶檢查令、船舶滿載吃水線法及各附屬法規竝船舶檢疫及水路取締ニ關スル法規中須知事項

出入港ノ際必要ナル書類

日誌取扱

丙種船長試驗

丙種運轉士試驗科目ヲ合セ

一　數學

算術

比、比例、歩合算

二　航海術

航用器具ノ取扱及矯正

六分儀、人工地平儀、測深機械、測程機械

潮時算法

推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測程

緯線航法、中分緯度航法、漸長緯度航法、流潮航法、航海日誌算法

天測ニ依ル船位ノ測定

太陽子午線高度緯度法

船燈及救命具ノ取扱

當直ニ關スル心得

帆ノ取扱

各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

海上氣象學

晴雨計及寒暖計ノ用法、日本近海ニ於ケル氣溫、氣壓、風、海水及海流ノ大要

信號

萬國船舶信號、船舶通航信號、潮時信號

丙種運轉士試驗

一　國語

書取、作文、解釋

二　數學

算術

四則應用

三　航海術

航用器具ノ取扱及矯正

假舵及救命筏ノ組立及用法

海錨ノ組立及用法竝撒油鎭浪法

海上氣象學ノ大意

日本近海ニ於ケル氣溫、氣壓、風、海水、海流、氷流及氷塊

信號

萬國船舶信號、船舶通航信號、潮時信號

湖川港乙種二等運轉士試驗

一　航海術

試驗ヲ受ケムトスル區域ノ水路

羅針儀ノ說明及用法

二　運用術

舵、操舵機具、傳令器及推進器ノ說明

船燈及救命具ノ取扱

當直ニ關スル心得

汽船ノ運用

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

旅客及客室ニ關スル心得

三　法規

海上衝突豫防法

朝鮮船舶職員令、朝鮮海員懲戒令、朝鮮船舶令、朝鮮船舶檢查令及各附屬法規竝地方取締規則中須知事項

湖川港乙種二等運轉士試驗

科目ハ湖川港乙種二等運轉士試驗科目ニ依リ湖川港ヲ航行スル二百噸以上ノ汽船ニ船長トシテ執職スル者ニ適應スヘキ程度ニ於テ試驗スルモノトス

小形船乙種二等運轉士試驗

一　航海術

手用測深具及手用測程具ノ取扱

海圖ノ說明及用法

羅針儀ノ說明及用法

二　運用術

推進器及舵ノ作用

潮汐ノ大要
羅針儀ノ說明及用法
羅針自差測定並羅針自差表ノ作成及用法
推測ニ依ル船位ノ測定
針路改正法、物標距離測定法
運用術
四
船體要部ノ構造並主要機具ノ取附及配置
錨、錨鎖、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存
吃水ノ說明
推進器及舵ノ作用
船燈、信號火器及救命具ノ設備、取扱及保存
當直ニ關スル心得
各種ノ天候及場所ニ於ケル汽船ノ運用
船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ對スル處置
海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護
短艇ノ取扱及保存
曳船
海上氣象學
晴雨計及寒暖計ノ說明及用法
日本近海ニ於ケル氣溫、氣壓、風、海水及海流ノ大要
信號
萬國船舶信號旗ノ說明及用法、海難ニ關スル信號、氣象信號
貨客取扱
旅客及客室ニ關スル心得
甲板及船側諸口ノ水密閉鎖
各種貨物ノ船積及引渡
救急醫術ノ大要
法規及商事實務
海上衝突豫防法
商法海商編中船員ニ關スル事項
朝鮮船員令、朝鮮船舶職員令、朝鮮海員懲戒令、朝鮮船舶令、朝鮮船舶檢査令、船舶滿載吃水線法及各附屬法規並稅關檢査及水路取締ニ關スル法規中須知事項
出入港ノ際必要ナル書類
五
日誌取扱
乙種一等運轉士試驗
乙種二等運轉士試驗科目ヲ合セ
一
數學
算術
分、比例、歩合算
二
航海術
航用器具ノ取扱及矯正
六分儀、人工地平儀、測深機械
潮時算法
推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定
緯線航法、中分緯度航法、漸長緯度航法、流潮航法、航海日誌算法
天測ニ依ル船位ノ測定
太陽子午線高度緯度法
天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定
太陽出沒方位法
三
運用術
船舶ノ修繕及保存ノ大要
縱帆ノ取扱
海上氣象學
氣象觀測器ノ說明及用法
日本近海ニ於ケル氣溫、氣壓、風、海水及海流
信號
萬國船舶信號、船舶通航信號、潮時信號
漁船乙種一等運轉士試驗
乙種一等運轉士試驗科目中國語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ除キタルモノトス
乙種船長試驗
乙種一等運轉士試驗科目ヲ合セ
一
數學
算術
全體
二
航海術
術語界說
航用器具ノ取扱
時辰儀、三杆分度儀
羅針儀ノ据附

羅針自差分解並羅針自差曲線圖ノ作成及用法
天測ニ依ル船位ノ測定
太陽近午緯度法、太陽兩高度經緯度法、一定ノ時間ニ於テ子午線ヲ經過スヘキ星ノ名及經過時ノ推算、恒星又ハ行星子午線高度緯度法、極星緯度法
三
運用術
船舶ノ修繕及保存ノ大要
下檣建設其ノ他圓材ノ取扱
假舵及救命筏ノ組立及用法
海錨ノ組立及用法並撒油鎭浪法
曳船
海上氣象學
貿易風、信號、颶風、海流、氷流及氷塊
貨物取扱
重量物ノ船積及引渡、貨物ノ船積及按配
四
漁業帆船甲種一等運轉士試驗、漁業汽船甲種一等運轉士試驗、漁船甲種一等運轉士試驗、帆船甲種一等運轉士試驗及汽船甲種一等運轉士試驗
漁業帆船甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學並運用術中汽船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁業汽船甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學並運用術中汽船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁船甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ、帆船甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中汽船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、又汽船甲種一等運轉士試驗科目ハ運用術中橫帆裝置ノ帆船ニ關スル事項ヲ、甲種二等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ、又汽船甲種二等運轉士試驗科目ハ運用術中橫帆裝置ノ帆船ニ關スル事項ヲ、甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ、帆船甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁船甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ、甲種船長試驗科目ヲ合セ
一
英語
簡單ナル契約書類及商事通信ヲ了解シ得ル程度
二
航海術
羅針儀ノ据附

羅針自差分解並羅針自差曲線圖ノ作成及用法
羅針儀矯正
天測ニ依ル船位ノ測定
太陽時辰儀經度法
天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定
太陽高度方位法、太陽時辰方位法（表使用）
三
運用術
噸數ノ種別
操舵ト回轉圈
船舶洋上橫附
運轉自由ヲ得サル船舶ノ取扱
短艇演習及防火演習
假舵及救命筏ノ組立及用法
海錨ノ組立及用法並撒油鎭浪法
海上氣象學
日本近海ニ於ケル氷流及氷塊
貨物取扱
杠重裝置並圓材、鐵鎖、綱鋼索ノ支持力及保存重量物ノ船積及引渡、貨物ノ船積及按配
四
法規及商事實務
船荷證券ニ關スル事項
甲種二等運轉士試驗
一
國語
書取、作文、解釋
二
英語
航海曆、海圖及水路誌ヲ了解シ得ル程度
三
數學
算術
全體
幾何
平面（圓迄）
三角
平面、對數
四
航海術
術語界說
磁氣及音
航用器具ノ取扱及矯正

大圈航法ノ大要及大圈圖用法
天測ニ依ル船位ノ測定
恒星又ハ行星近午緯度法、恒星又ハ行星時辰儀經度法、太陰子午線高度緯度法、天體ノ推算高度ト實測高度及眞方位トニ依ル經緯度法
天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定
恒星又ハ行星時辰方位法
世界ニ於ケル主要航路
燃料消費ト速力トノ關係
三
運用術
複原力ト船舶ノ動搖
噸數ノ種別
操舵ト回轉圈
船舶洋上橫附
運轉自由ヲ得サル船舶ノ取扱
短艇演習及防火演習
四
法規及商事實務
船舶經濟ノ大要
帆船甲種船長試驗及汽船甲種船長試驗
帆船甲種船長試驗科目ハ運用術中汽船ニ關スル事項ヲ、汽船甲種船長試驗科目ハ運用術中橫帆裝置ノ帆船ニ關スル事項ヲ、甲種船長試驗科目中ヨリ除キタルモノトス
發動機船三等機關士試驗
一
機關術
瓦斯發動機及石油發動機ニ於ケル發動及取扱油類ノ貯藏及瓦斯漏洩ニ關スル注意
氣室、燃燒室、諸鐵及諸氣口ノ構造
點火ノ裝置
發動ノ遲滯其ノ他發動機ノ故障又ハ不慮ノ事變ヲ生シタルトキノ處置
防水及防火ノ注意
寒暖計、輕比重計及驗壓器ノ效用及取扱
二
法規
萬國船舶信號、氣象信號、船舶通航信號、潮時信號
貨客取扱
旅客及客室ニ關スル心得、甲板及船側諸口ノ水密閉鎖
各種貨物ノ船積及引渡
救急醫術ノ大要
法規及商事實務
海上衝突豫防法
商法海商編中船員ニ關スル事項
朝鮮船員令、朝鮮船舶職員令、朝鮮海員懲戒令、朝鮮船舶令、朝鮮船舶檢査令、船舶滿載吃水線法及各附屬法規並稅關、檢疫及水路取締ニ關スル法規中須知事項
出入港ノ際必要ナル書類
日誌取扱
貨客取扱
旅客及客室ニ關スル心得、甲板及船側諸口ノ水密閉鎖、扛重裝置並圓材、鐵鎖、綱鋼索ノ支持力及保存重量物ノ船積及引渡
救急醫術ノ大要
法規及商事實務
海上衝突豫防法
商法海商編中船員ニ關スル事項
朝鮮船員令、朝鮮船舶職員令、朝鮮海員懲戒令、朝鮮船舶令、朝鮮船舶檢査令、船舶滿載吃水線法及各附屬法規並稅關、檢疫及水路取締ニ關スル法規中須知事項
出入港ノ際必要ナル書類
六
漁業帆船甲種二等運轉士試驗、漁業汽船甲種二等運轉士試驗、漁船甲種二等運轉士試驗、帆船甲種二等運轉士試驗及汽船甲種二等運轉士試驗
漁業帆船甲種二等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學並運用術中汽船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁業汽船甲種二等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學並運用術中橫帆裝置ノ帆船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁船甲種二等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ、帆船甲種二等運轉士試驗科目ハ運用術中橫帆裝置ノ帆船ニ關スル事項ヲ、又汽船甲種二等運轉士試驗科目ハ運用術中橫帆裝置ノ帆船ニ關スル事項ヲ、甲種二等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁船甲種二等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ、甲種船長試驗科目ヲ合セ
一
英語
船舶ノ修繕及荷役ニ關スル書類ヲ了解シ得ル程度
二
航海術
羅針儀ノ据附

驗壓器、驗濕器、寒暖計及比重計ノ構造及取扱
淦水及油艙ニ通スル諸管ノ配置竝之ニ對スル注意
四　法規
商法海商編中船員ニ關スル事項
朝鮮船員令、朝鮮船舶職員令、朝鮮海員懲戒令、朝鮮船舶檢查令及各附屬法規中須知事項

二等機關士試驗
一　國語
書取、作文、解釋
二　數學
算術（開方ヲ除ク）
三　機關術
汽機、汽罐ノ要部及附屬具ノ構造及取扱
汽機、汽罐ノ損傷シ易キ部分及之ニ對スル注意
停止及運轉中ノ汽機、汽罐ニ對スル注意
汽機、汽罐ニ故障又ハ不慮ノ事變ヲ生シタトキノ處置
淦水及水艙ニ通スル諸管ノ配置竝之ニ對スル注意
防水及防火ノ裝置竝之ニ對スル注意、汽機、汽罐其ノ他一般ノ腐蝕豫防ニ關スル注意
石炭ノ積込及貯藏ニ關スル注意
操舵機、揚錨機、揚貨機ノ構造及取扱
驗壓器、驗空器、驗濕器、寒暖計、晴雨計及傳令器ノ構造及取扱
四　法規
商法海商編中船員ニ關スル事項
朝鮮船員令、朝鮮船舶職員令、朝鮮海員懲戒令、朝鮮船舶檢查令及各附屬法規中須知事項

發動機船一等機關士試驗
發動機船二等機關士試驗科目ヲ合セ
一　數學
算術
全體
代數
二次方程式迄
幾何
平面（多角形迄）
二　物理
物體
物質、物性、密度、重力、引力
運動及力
運動、運動量、速度、加速度、力竝力ノ作用、反作用、釣合及能率
熱
溫度及熱、膨脹、融解及凝固、氣化及液化、熱ノ仕事當量
三　機關術
各種內燃機關及附屬具ノ構造及取扱
內燃機關各部ニ於ケル故障及損傷ノ原因竝之ニ對スル處置、修繕及豫防
各種喞筒ノ構造及取扱
發電機、電動機、操舵機、揚錨機、揚貨機、整速器ノ構造及取扱
瓦斯ノ發生及爆發ニ對スル注意
液體燃料ノ積込、貯藏及取扱ニ對スル注意

一等機關士試驗
二等機關士試驗科目ヲ合セ
一　數學
算術
全體
代數
二次方程式迄
幾何
平面（多角形迄）
二　物理
物體
物質、物性、密度、重力、引力
運動及力
運動、運動量、速度、加速度、力竝力ノ作用、反作用、釣合及能率
熱
溫度及熱、膨脹、融解及凝固、氣化及液化、熱ノ仕事當量
三　機關術
各種ノ汽機、內燃機關、汽罐及附屬具ノ構造及取扱
汽機、內燃機關、汽罐各部ニ於ケル故障及損傷ノ原因竝之ニ對スル處置、修繕及豫防
各種喞筒ノ構造及取扱
發電機、電動機、蒸騰器、給水加熱器、給水濾過器、通風機、整速器ノ構造及取扱
石炭ノ自然燃燒、瓦斯ノ發生及爆發ニ對スル注意
液體燃料ノ積込、貯藏及取扱ニ對スル注意

發動機船機關長試驗
發動機船一等機關士試驗科目ヲ合セ
一　英語
機關術語及機關士ノ職務ニ關スル簡單ナル書籍ヲ了解シ得ル程度
二　數學
代數
二項法迄
幾何
平面
三角
平面
三　物理及力學
磁氣
磁石ノ作用、磁氣感應、地球磁氣
電氣
帶電體、電氣感應、電位、電流及電池、電氣抵抗、電流ト熱、電流ノ磁氣作用、感應電流
力學
重心、簡單ナル機械、摩擦、液體、氣體、運動ノ法則、重力ニ基ク運動、圓運動、仕事エネルギー
四　製圖
氣械ノ局部
五　機關術
內燃機關各部ノ構造ト其ノ安全、耐久又ハ經濟トノ關係
燃料及通風
油、水及皮殼ノ性質及取扱
指壓器、指壓圖及「トーションメーター」
內燃機關ノ材料及其ノ强力
冷藏機及水力機ノ構造及取扱

機關長試驗
一等機關士試驗科目ヲ合セ
一　英語
機關術語及機關士ノ職務ニ關スル簡單ナル書籍ヲ了解シ得ル程度
二　數學
代數
二項法迄
幾何
平面
三角
平面
三　物理及力學
磁氣
磁石ノ作用、磁氣感應、地球磁氣
電氣
帶電體、電氣感應、電位、電磁及電池、電氣抵抗、電流ト熱、電流ノ磁氣作用、感應電流
力學
重心、簡單ナル機械、摩擦、液體、氣體、運動ノ法則、重力ニ基ク運動、圓運動、仕事エネルギー
四　製圖
汽機、汽罐ノ局部
五　汽關術
汽機、內燃機關、汽罐各部ノ構造ト其ノ安全、耐久又ハ經濟トノ關係
燃料及通風
水、油及皮殼ノ性質竝取扱
指壓器、指壓圖及「トーションメーター」
汽機、內燃機關、汽罐ノ材料及其ノ强力
冷藏機及水力機ノ構造及取扱

〔朝〕

別表

受驗手數料表

手數料ノ種類	試驗ノ種類	手數料額
體格檢查手數料	各種試驗	二十錢
學術試驗手數料	小形船丙種運轉士試驗、漁船丙種運轉士試驗、湖川港乙種二等運轉士試驗、小形船乙種二等運轉士試驗、漁船乙種二等運轉士試驗、發動機船三等機關士試驗、湖川港三等機關士試驗	一圓
	丙種運轉士試驗、乙種二等運轉士試驗、湖川港乙種一等運轉士試驗、漁船乙種一等運轉士試驗、三等機關士試驗、發動機船二等機關士試驗	二圓
	丙種船長試驗、乙種一等運轉士試驗、漁業帆船甲種二等運轉士試驗、漁業汽船甲種二等運轉士試驗、漁船甲種二等運轉士試驗、帆船甲種二等運轉士試驗、汽船甲種二等運轉士試驗、甲種二等運轉士試驗、漁業帆船甲種一等運轉士試驗、漁業汽船甲種一等運轉士試驗、漁船甲種一等運轉士試驗・漁業二等機關士試驗・汽船甲種一等運轉士試驗・帆船甲種一等運轉士試驗・二等機關士試驗	三圓
	乙種船長試驗、帆船甲種一等運轉士試驗、汽船甲種一等運轉士試驗、甲種一等運轉士試驗、發動機船一等機關士試驗、一等機關士試驗	五圓
	帆船甲種船長試驗、汽船甲種船長試驗、甲種船長試驗、發動機船機關長試驗・機關長試驗	七圓

（第一號書式）（表）

受驗申請書

（試驗ノ種類）試驗相受度就テハ履歷書、受驗資格ニ關スル證明書戶籍謄本（抄本）相添此段申請候也

年　月　日

申請人現住所

氏　名　印

管海官廳宛

海技免狀ヲ受有スルトキハ其ノ種類、番號及該免狀ニ對スル試驗ノ場所、年月日	第　號　免狀		年　月　日	
該免狀ヲ停止セラレタルトキハ其ノ年月日及停止ノ期間	同上　年　月　日停止		停止期間　年　月　日間	
該免狀受有後又ハ海技免狀ヲ受有セサルモ既ニ試驗ヲ受ケタルトキハ其ノ試驗種類、場所、年月日及不成立若ハ不合格ノ事由	受驗種類	受驗場所	年　月　日	不合格又ハ不成立ノ事由

（裏）

履歷書

氏名		出生ノ年月日		族稱		本籍地	
船名若ハ修技所ノ名稱	總噸數若ハ積石數	船舶種類若ハ航路	船主氏名若ハ修技所ノ名	職名	乘船若ハ就業ノ年月日	下船若ハ終業ノ年月日	在船若ハ執業ノ期間
					年　月　日	年　月　日	年　月　日
					年　月　日	年　月　日	年　月　日
					年　月　日	年　月　日	年　月　日
					年　月　日	年　月　日	年　月　日
					年　月　日	年　月　日	年　月　日
					年　月　日	年　月　日	年　月　日
					年　月　日	年　月　日	年　月　日
					年　月　日	年　月　日	年　月　日
					年　月　日	年　月　日	年　月　日
						期間合計	年　月　日

備考　一　氏名ニハ假名ニテ傍訓スヘシ
二　船舶種類ノ欄內ニハ汽船帆船ノ別但シ甲板部ノ受驗人ニ在リテ帆船ノ場合ニハ機關ノ有無及帆裝ノ種類橫帆裝置ナルトキハ其ノ旨又機關部ノ受驗申請人ニ在リテ汽機ノ種類發動機ナルトキハ其ノ旨記載スヘシ
三　履歷日數中半數ノミ效力ヲ有スルモノハ期間合計ヲ他ノ全數ノモノト區別スヘシ

（第二號書式）

納付書

今般試驗申請候ニ付テハ體格檢查（又ハ學術試驗）手數料金ニ相當スル收入印紙左ニ貼用ノ上納付候也

大正　年　月　日

氏　名　印

管海官廳宛

●朝鮮船舶職員試驗規則ノ規定ニ依リ認定シタル學校、海員養成所及水產講習所

大正十四年五月
總告第百二十一號

改正　大正一四年一〇第二五六號、一五年三第七二號

大正十四年朝鮮總督府令第五十九號朝鮮船舶職員試驗規則第十條及第十九條第二項ノ規定ニ依リ認定シタル學校、海員養成所及水產講習所左ノ如シ

學校、海員養成所又ハ水產講習所	所在地	備考
北海道廳立函館商船學校	函館市	航海科練習科終了者ハ乘船履歷ニ從ヒ甲種二等運轉士試驗、汽船甲種二等運轉士試驗又ハ帆船甲種二等運轉士試驗ヲ受クルコトヲ得且受驗ノ際ハ筆記試驗ヲ免除ス
富山縣立商船學校	富山縣射水郡新湊町	
三重縣立鳥羽商船學校	三重縣志摩郡鳥羽町	
神戶高等商船學校附設甲種商船學校	兵庫縣武庫郡本庄村	
島根縣立商船水產學校	島根縣周吉郡東鄉村	
岡山縣立兒島商船學校	岡山縣兒島郡味野町	
廣島縣立商船學校	廣島縣豐田郡東野村	
山口縣立大島商船學校	山口縣大島郡小松志佐村	
香川縣立粟島航海學校	香川縣三豐郡粟島村	
愛媛縣立弓削商船學校	愛媛縣越智郡弓削村	
佐賀縣立佐賀商船學校	佐賀縣佐賀郡中川副村	
鹿兒島縣立商船水產學校	鹿兒島市	
朝鮮總督府遞信局海員養成所	朝鮮仁川府	
水產講習所	東京市	本科漁撈科卒業者ハ乘船履歷ニ從ヒ甲種二等運轉士試驗、帆船甲種二等運轉士試驗、漁船甲種二等運轉士試驗又ハ漁業帆船甲種二等運轉士試驗ヲ受クルコトヲ得且受驗ノ際ハ筆記試驗ヲ免除ス 漁撈科卒業者ハ乘船履歷ニ從ヒ漁船乙種一等運轉士試驗、漁船乙種二等運轉士試驗又ハ漁船丙種運轉士試驗ヲ受クルコトヲ得且受驗ノ際ハ筆記試驗ヲ免除ス 遠洋漁業專修ヲ卒ヘタル者ハ乘船履歷ニ從ヒ種一等運轉士試驗、乙種二等運轉士試驗及漁船乙種一等運轉士試驗、丙種運轉士試驗ヲ受クルコトヲ得且受驗ノ際ハ筆記試驗ヲ免除ス
北海道帝國大學附屬水產專門部	札幌市	

●船舶職員試驗ヲ行フ官廳及期日

大正十四年五月總督第百二十號

官廳　朝鮮總督府遞信局仁川海事出張所　四、十月、十一月　各月十日（當日休暇日ナルトキハ順次之ヲ延期ス）ヨリ

朝鮮總督府遞信局釜山海事出張所　五、月、十一月

船舶職員定期試驗ハ大正十四年六月ヨリ左ノ官廳及期日ニ於テ之ヲ執行ス

大正三年朝鮮總督府告示第百九十二號ハ大正十四年六月ヨリ之ヲ廢止ス

●朝鮮船舶職員試驗規則ノ規定ニ依リ認定シタル機關工場

機關工場	所在地	備考
函館船渠株式會社	函館市	受驗履歷一等機關士試驗
株式會社石川島造船所	東京市	
東京高等工業學校	東京府荏原郡碑衾村	
橫濱船渠株式會社	橫濱市	
橫須賀海軍工廠	橫須賀市	
浦賀船渠株式會社	神奈川縣三浦郡浦賀町	
株式會社淺野造船所	神奈川縣橘樹郡町田村	
株式會社神戶製鋼所鳥羽造船工場	三重縣志摩郡鳥羽町	
舞鶴要港部工作部	京都府加佐郡中舞鶴町	
大阪高等工業學校	大阪市	
株式會社大阪鐵工場櫻島工場	同	
株式會社藤永田造船所	同	
合名會社小野鐵工造船所	同	
原田造船株式會社	同	
三菱造船株式會社神戶造船所	神戶市	
株式會社川崎造船所	同	
株式會社神戶製鋼所播磨造船工場	兵庫縣赤穗郡相生町	
三井物產株式會社造船部玉工場	岡山縣兒島郡日比町	
吳海軍工廠	吳市	
株式會社大阪鐵工場因島工場	廣島縣御調郡土生町	
三菱造船株式會社長崎造船所	長崎市	
佐世保海軍工廠	佐世保市	
松尾鐵工場	長崎縣西彼杵郡香燒村	
滿洲船渠株式會社	大連市	
海軍機關學校	橫須賀市	高等科機關術練習又ハ高等科電機術練習ヲ終了シタル者ハ受驗履歷一等機關士試驗
株式會社橫濱工作所	橫濱市	受驗履歷二等機關士試驗
渡邊船渠（渡邊亮平）	同	
株式會社倉田組鐵工所	同	
相澤造船鐵工株式會社	大阪市	
株式會社宇品造船所	廣島市	
株式會社大阪鐵工場因島工場附屬備後工場	廣島縣御調郡三庄村	
向島船渠株式會社	廣島縣御調郡向島東村	
三菱造船株式會社彥島造船所	山口縣豐浦郡彥島町	
株式會社深川造船所	福岡縣三瀦郡大川町	
株式會社池貝鐵工所	東京市	受驗履歷發動機船二等機關士試驗
株式會社新潟鐵工場蒲田工場	東京府荏原郡蒲田町	
日本鐵工株式會社	東京府荏原郡大崎町	
東京瓦斯電氣工業株式會社大森工場	東京府荏原郡入新井町	
發動機製造株式會社	大阪府西成郡鷺洲町	
株式會社神戶發動機製造所	神戶市	
海軍機關學校	橫須賀市	普通科機關術練習終了、普通科電機術練習終了又ハ工術練習終了シタル者ノ內、鍛冶工、仕上工、機械工術、鐵板工術ノ各專修者ハ受驗履歷二等機關士試驗

一　元舞鶴海軍工廠、元海軍工機學校（但シ高等科掌機證狀受有者、高等科掌電機證狀受有者、掌工證狀受有者ヲ鍛冶又ハ機械工業ヲ專修シタル者）、元株式會社內田造船所、元藤永田造船所、元小野鐵工造船所、元帝國汽船株式會社播磨造船所、同鳥羽造船所、元株式會社原田造船所、株式會社深川造船所（但シ本告示前同工場ニ在リタル者）及元株式會社川崎造船所大連出張所ニ在リタル者ノ履歷ハ一等機關士試驗、元海軍工機學校（但シ普通科掌機證狀受有者、高等科掌機證狀受有者、掌工證狀受有者ヲ鍛冶又ハ機械工業ヲ專修シタル者）、元相澤造船所、元新在家鐵工所、株式會社尾道船渠造船所（但シ本告示前同工場ニ在リタル者）ニ在リタル者ノ履歷ハ二等機關士試驗又元株式會社新潟鐵工所東京工場ニ在リタル者ノ履歷ハ發動機船二等機關士試驗ヲ受クルニ要スル乘船期間ニ換算ス

二　本表中會社及學校等ノ名稱ヲ揭クルモノハ其ノ附屬工場ヲ指スモノトス

●朝鮮船舶職員試驗規則第十條ニ依ル認定學校

大正十四年十月

總督令第二百五十七號

改正　大正一五年三月第七三號

朝鮮船舶職員試驗規則第十條ノ規定ニ依リ認定シタル學校左ノ如シ

學校	所在地	備考
千葉縣立安房水產學校	千葉縣安房郡館山町	漁撈科卒業者ハ乘船履歷ニ從ヒ漁船乙種二等運轉士試驗又ハ漁船丙種運轉士試驗ヲ受クルコトヲ得
新潟縣立能生水產學校	新潟縣西頸城郡能生町	
北海道廳立小樽水產學校	小樽市	漁撈科卒業者ハ乘船履歷ニ從ヒ漁船乙種二等運轉士試驗又ハ漁船丙種運轉士試驗ヲ受クルコトヲ得

●朝鮮海員懲戒令

大正三年四月
制令第十一號

朝鮮海員懲戒令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮總督　子爵　寺內正毅

朝鮮海員懲戒令

第一章　總則

第一條　海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

一　正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ放棄シタルトキ

二　過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈沒セシメタルトキ

三　過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ

四　海難ニ罹リ船舶又ハ船客乘組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

五　海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ乘客乘組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

六　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

七　亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條　懲戒ハ左ノ三種トス

一　免狀行使ノ禁止
二　免狀行使ノ停止
三　譴責

第三條　前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム

第四條　免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス

第五條　海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス

一　時效

二　第一條各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス

第六條　時效ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス

第七條　海員審判所ノ審判ニ關シ本令ニ規定ナキモノニ付テハ朝鮮刑事令ヲ準用ス

第二章　審判前ノ手續

第八條　海事官吏、地方官又ハ警察官吏若ハ其ノ職務ヲ行フ者審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ知リタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ理事官ニ報告スヘシ

第九條　理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ知リタルトキハ證憑ヲ集取シ必要ニ應シ實地臨檢ヲ爲スコトヲ得

第十條　理事官ハ審判ノ開始ヲ海員審判所ニ申立ツヘシ

第十一條　海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス其ノ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

開始決定ハ理事官及被審人ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條　海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ審判長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第十三條　下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得

受命審判官ハ必要ナル證憑ヲ集取スヘシ

受命審判官ハ證人鑑定人ヲ呼出シ通事ヲ命シ又ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得

第十四條　被審人又ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得

第十五條　被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第十六條　被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得

第十七條　受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證憑ヲ審判長ニ差出シ審判長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ

理事官ハ三日內ニ意見ヲ附シ其ノ書類ヲ審判長ニ還付スヘシ

第十八條　海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ

第三章　審判

第十九條　審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

第二十條　第十三條乃至第十六條ノ規定ハ審判ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　開廷中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス

審判長ハ審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言行ヲ爲ス者ヲ退廷セシムルコトヲ得

第二十二條　被審人又ハ證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス

審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人又ハ證人ヲ訊問スルコトヲ得

第二十三條　理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十四條　被審人ハ補佐人ヲ用ウルコトヲ得但シ海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル

第二十五條　海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕席裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ因リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其ノ審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第二十六條　刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ス

被審人刑事訴追ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決確定スル迄審判ヲ中止スヘシ

第二十七條　理事官及被審人ハ本案ノ裁決アル迄何時ニテモ審判ヲ行フヘカラサルノ申立ヲ爲スコトヲ得

海員審判所ハ職權ヲ以テ審判ヲ行フヘカラサルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　裁決ニハ其ノ理由及證憑ヲ明示スヘシ

第二十九條　裁決及裁決始末書ノ原本ハ海員審判所之ヲ保存スヘシ

前項ノ申立ヲ爲ストキハ證憑其ノ他必要ノ書類ヲ添附スヘシ

第三章　審判

第十一條　海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス其ノ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

開始決定ハ理事官及被審人ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條　海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ審判長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第十三條　下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得

受命審判官ハ必要ナル證憑ヲ集取スヘシ

受命審判官ハ證人鑑定人ヲ呼出シ通事ヲ命シ又ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得

第十四條　被審人又ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得

第十五條　被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第十六條　被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得

第十七條　受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證憑ヲ審判長ニ差出シ審判長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ

理事官ハ三日內ニ意見ヲ附シ其ノ書類ヲ審判長ニ還付スヘシ

第十八條　海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ

第三章　審判

第十九條　審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

第二十條　第十三條乃至第十六條ノ規定ハ審判ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　開廷中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス

審判長ハ審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言行ヲ爲ス者ヲ退廷セシムルコトヲ得

第二十二條　被審人又ハ證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス

審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人又ハ證人ヲ訊問スルコトヲ得

第二十三條　理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十四條　被審人ハ補佐人ヲ用ウルコトヲ得但シ海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル

第二十五條　海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕席裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ因リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其ノ審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第二十六條　刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ス

被審人刑事訴追ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決確定スル迄審判ヲ中止スヘシ

第二十七條　理事官及被審人ハ本案ノ裁決アル迄何時ニテモ審判ヲ行フヘカラサルノ申立ヲ爲スコトヲ得

海員審判所ハ職權ヲ以テ審判ヲ行フヘカラサルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　裁決ニハ其ノ理由及證憑ヲ明示スヘシ

第二十九條　裁決及裁決始末書ノ原本ハ海員審判所之ヲ保存スヘシ

第三十條　懲戒ハ裁決言渡ノ後之ヲ執行ス

第三十一條　免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ之ヲ朝鮮總督府ニ送付スヘシ

免狀行使ノ停止ヲ言渡シタルトキハ海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間滿了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ

免狀行使ノ禁止又ハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ニ免狀ヲ差出ササルトキハ海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無效ト爲シ其ノ旨公示スヘシ

第五章　罰則

第三十二條　證人、鑑定人又ハ通事正當ノ理由ナクシテ海員審判所又ハ受命審判官ノ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條　證人虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキ又ハ鑑定人若ハ通事虛僞ノ鑑定若ハ通譯ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ裁決言渡前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免ス

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海難其ノ他ノ事故届出ニ關スル件

大正三年五月
總令第八十二號

海難其ノ他ノ事故届出ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ當該船長、船長不在ナルトキハ其ノ代理者ニ於テ其ノ地若其ノ地ニ届出ヲ爲スコト能ハサル事由アルトキハ爾後最初ニ到著シタル地ノ管海官廳、警察署（警察事務ヲ取扱フ憲兵分遣所ヲ含ム）又ハ面事務所ニ之ヲ届出ツヘシ

一　船舶ヲ放棄シタルトキ

二　船舶カ沈沒又ハ顚覆シタルトキ

三　船舶カ乘揚ケタルトキ

四　船舶カ衝突シタルトキ

五　船內ニ於テ火災アリタルトキ

六　機關ノ要部カ毀損シタルトキ

七　人ノ死傷アリタルトキ

八　船舶カ捕獲セラレタルトキ

九　海難ニ罹リ救助ヲ求ムル船舶ヲ認メ又ハ他ノ船舶若ハ人命ヲ救助シタルトキ

十　船舶ニ搭載シタル貨物ニ著シキ損害生シタルトキ

十一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

十二　亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

十三　前各號ノ外船舶カ海難ニ罹リ又ハ著シキ事故アリタルトキ

第二條　前條第一項各號ニ該當スル事實ヲ認知シタル者ハ其ノ旨管海官廳、警察署又ハ面事務所ニ申告スヘシ

第三條　海技免狀ヲ受有スル者ヲ乘組マシメタル船舶ノ存否カ六月間分明ナラサルトキハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶賃借人ハ該船舶ノ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ遲滯ナク其ノ顚末ヲ届出ツヘシ

第四條　第一條ノ届出ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ届出者署名捺印スヘシ但シ書面ヲ以テ之ヲ爲スコト能ハサル事由アルトキハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

一　船舶ノ種類、番號及名稱

二　船籍港

三　船舶所有者ノ住所、氏名又ハ名稱

四　船舶ノ總噸數又ハ積石數竝航路定限、航行期間及船舶檢査證書ヲ交付セル官廳

五　船長及事實發生ノ當時當直セル船員ノ職、氏名、年齡、本籍族稱、住所竝其ノ海技免狀ノ種類、番號

六　發航地、寄航地、到達地及事實發生ノ場所竝年月日時

七　事實發生當時ノ天候、風位、風力及潮流

八　朝鮮船舶職員令ニ內地、臺灣、樺太又ハ關東州ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ニシテ朝鮮ノ沿岸若ハ湖川港內ノミヲ航行シ又ハ朝鮮ヲ起點トシテ朝鮮外ノ地ニ航行スルモノ及湖川港內ノミヲ航行スル外國船舶ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮水先令

大正四年九月
制令第五號

朝鮮水先令明治四十四年法律第三十號第一條

前項各號中届出ノ事實ニ關係ナキ事項ハ適宜記載ヲ省略スヘシ

第五條　第一條ノ届出ハ內地、臺灣、樺太又ハ關東州ニ在リテハ其ノ地ヲ管轄スル管海官廳、警察署、警察分署又ハ市町村役場、外國ニ在リテハ最寄領事館ニ之ヲ爲スヘシ

第六條　第一條又ハ第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海難其ノ他ノ事故取調手續

大正三年五月
總訓第二十五號

遞信官署
警察官署

海難其ノ他ノ事故取調手續左ノ通定メ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

海難其ノ他ノ事故取調手續

第一條　海事官吏、警察官吏（警察事務ヲ取扱フ憲兵分遣所ヲ含ム）又ハ面長ニ於テ大正三年朝鮮總督府令第八十二號ニ定ムル届出若ハ申告ニ依リ又ハ自ラ朝鮮海員懲戒令ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ當該海技免狀受有者其ノ他ノ關係者ニ對シ海難事件ニ付テハ左ノ事項其ノ他ノ事件ニ付テハ第一號乃至第五號及第十四號ノ事項ヲ取調ヘ調書ヲ作リ證據書類又ハ證據品アルトキハ之ヲ添ヘ海員審判所理事官ニ送付スヘシ

一　職業及年齡

二　船舶ノ名稱、種類及總噸數竝其ノ所有者ノ住所及氏名

三　船舶職員ノ住所、氏名竝其ノ受有スル海技免狀ノ種類及番號

四　發航地、寄航地、到達地竝事件ヲ惹起シタル場所及年月日時

五　事件ノ顚末

六　事件ヲ惹起シタルトキノ天候風位、風力、潮流針路、速力及船舶職員、艀取、看守ノ當直時間竝其ノ氏名

七　船舶損傷ノ箇所竝其ノ再用ノ適否

八　船舶乘組員ノ員數竝其ノ死傷ノ有無

九　貨物ノ種類、數量竝其ノ損害ノ有無

十　人命、船舶及貨物救護ノ方法

十一　航路ヲ指定シタル羅針盤ノ所在及其ノ航路ニ於ケル自差

十二　使用シタル海圖ノ種類及番號

十三　航海日誌ノ存否

十四　取調ヲ受ケタル者何日其ノ地ヲ去リ何地ニ到ルヘキコト

第二條　前條ノ調書ニハ取調ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ被取調人ニ之カ讀聞カセタル後共ニ署名捺印シ且當該官公署ノ印ヲ押捺スヘシ若官公署ノ印ヲ押捺スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

被取調人カ署名ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ署名ヲ爲スコトヲ肯セサルトキハ代リテ記名ヲ爲シ其ノ旨ヲ附記スヘシ

調書二枚以上アルトキハ被取調人ト共ニ每葉ニ契印スヘシ

●朝鮮船舶職員令準用ノ件

大正四年十月
總令第百七號

朝鮮船舶職員令ハ內地、臺灣、樺太又ハ關東州ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ニシテ朝鮮ノ沿岸若ハ湖川港內ノミヲ航行シ又ハ朝鮮ヲ起點トシテ朝鮮外ノ地ニ航行スルモノ及湖川港內ノミヲ航行スル外國船舶ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮水先令

大正四年九月
制令第五號

朝鮮水先令明治四十四年法律第三十號第一條

及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮水先令

第一條　朝鮮ニ於ケル水先人ニ關シテハ水先法第二十條ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル但シ同法中海員懲戒法トアルハ朝鮮總督、海員審判所トアルハ朝鮮總督府海員審判所ト、主務大臣トアルハ朝鮮總督ト讀ミ替ユルモノトス

第二條　朝鮮總督ハ水先人六十年ヲ超ユルモ其ノ業務ヲ營ムニ適スト認ムルトキハ五年以内ノ效力ヲ附シタル水先免狀ヲ授與スルコトヲ得

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行ノ際現ニ船舶ノ水路嚮導ノ業務ニ從事スル者ニハ試驗ヲ用キスシテ特定ノ水先區ニ限リ效力ヲ有スル水先免狀ヲ授與スルコトヲ得

●水先法

明治三十二年三月
法律第六十三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル水先法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

水先法

第一條　水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス

水先人ニアラサル者ハ水先區ニ於テ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス

第二條　水先免狀ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ授與ス

一　帝國臣民ナルコト

二　主務大臣ノ定ムル試驗規定ニ依リ試驗ニ合格シタルコト

三　水先人名簿ニ登錄セラレタルコト

第三條　左ノ各號ニ該當スル者ハ水先人タルコトヲ得ス

一　滿二十三年ニ達セサル者及滿六十年以上ノ者

二　剝奪公權者

三　家資分散者及破產者

四　瘋癲白痴者及身體不具又ハ羸弱ニシテ業務ヲ營ム ニ不適當ナル者

五　水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者

第四條　水先人ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス

一　公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキ

二　水先免狀ノ行使ヲ停止若ハ假停止セラレ又ハ之ヲ差押ヘラレタルトキ

第五條　水先人其ノ業務ニ從事スルトキハ水先免狀及水先法令書ヲ携帶スヘシ

水先人ハ當該官吏若ハ公吏ノ命令ニ依リ又ハ水先人ヲ要招シタル船長ノ要求ニ依リ水先免狀又ハ水先法令書ヲ開示スヘシ

第六條　水先人其ノ業務ニ從事スル爲水先船ニ乘込ミタルトキハ晝間ニ在リテハ水先旗ヲ揭揚シ夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ

第七條　水先人ヲ要招セムトスルトキハ船長ハ水先信號ヲ爲スヘシ

第八條　水先人水先信號ヲ認メタルトキハ直ニ要招ニ應スヘシ

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタルトキハ水先人ハ自己ニ最モ近キ船舶ノ要招ニ應スヘシ

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ中ニ危難ニ罹リタル船舶アルトキハ水先人ハ前項ノ規定ニ拘ラス該船舶ノ要招ニ應スヘシ

第九條　二人以上ノ水先人同時ニ要招ニ應シタルトキハ其ノ何レヲシテ水路ヲ嚮導セシムヘキカハ船長ノ選擇スル所ニ依ル

第十條　水先人水先船ヲ去リタルトキハ水先旗ヲ撤去スヘシ

第十一條　水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乘込ミタルトキハ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船長ニ告知スヘシ

第十二條　水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乘込ミタルトキハ船長ハ水先信號ヲ撤去シ船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名、船籍港、積量及喫水ヲ水先人ニ告知シ且水先人ノ要求アルトキハ其ノ證明書類ヲ開示スヘシ

第十三條　水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得又ハ水先人ヲ得ル能ハサル爲其ノ船舶ト水路ヲ嚮導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ聯結セラレタルトキハ此ノ限ニアラス

第十四條　水先人水路ヲ嚮導シタルトキハ船長ニ對シ水先案內料ヲ請求スル權利ヲ有ス

前條但書ノ場合ニ於テハ水先人ハ各艘ノ船舶ニ付前項ノ權利ヲ有ス

第十五條　水先案內料ハ命令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條　水先人ハ水先修業生一名ニ限リ水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ之ヲ伴フコトヲ得但シ二名以上ヲ伴ハントスルトキハ船長ノ承諾ヲ經ヘシ

第十七條　水先區、水先旗ノ樣式及水先信號ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　主務大臣ハ水先區ヲ指定シテ水先人ノ員數ヲ制限シ水先人組合ヲ設ケシメ又ハ水先船ノ免狀及艤裝ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

水先人組合ハ規約ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條　水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ海員審判所ハ裁決ヲ以テ之ヲ懲戒ス

一　過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ船舶ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈沒セシメタルトキ

二　過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキ

三　業務ヲ怠リ又ハ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ

四　亂酔、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

水先人組合ニ屬スル水先人其ノ組合規約中命令ノ規定ニ依リ懲戒ニ付スヘキ事項ニ違反シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十條　前條ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ノ管轄ハ其ノ水先人ノ住所ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

前項ノ事件海員懲戒法ノ規定ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ト關聯スルトキハ前項ノ管轄ハ海員懲戒法ニ依ル事件ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

第二十一條　水先人ノ懲戒ニ關シ此ノ法律ニ規定ナキモノニ付テハ海員懲戒法ノ規定ヲ準用ス

第二十二條　水先人其ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上三年以下ノ（重禁錮）ニ處シ又ハ五十圓以上六百圓以下ノ罰金ニ處ス

水先人ニアラサル者水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ亦前項ニ同シ

第二十三條　左ノ各號ニ該當スル者ハ二圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條ノ規定ニ違反シテ水先人ノ業務ヲ營ミタル者及之ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタル者

二　第八條第二項第三項又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタル者

三　第十五條ノ規定ニ違反シテ水先案內料ヲ授受シタル者

四　水先免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

五　詐僞ノ目的ヲ以テ船舶ノ喫水若ハ積量ニ付水先人ニ對シ不實ノ告知ヲ爲シ又ハ喫水ノ標識ヲ變更シタル者

六　水路ノ嚮導ヲ要求セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサル者又ハ之ニ應シタルモ正當ノ理由ナクシテ水路ヲ嚮導セサル者

七　水路ノ嚮導ヲ要求シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲシテ水路ヲ嚮導セシメス又ハ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲ水先區外ニ伴ヒタル者

八　水先人ニアラスシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタル者

第二十四條　左ノ各號ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第五條第六條第十條第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者

二　水先人ヲ要招スル爲ニアラスシテ水先信號又ハ之ト誤認シ易キ信號ヲ爲シタル者

三　水先人第十六條ノ規定ニ依リ水先修業生ヲ伴ヒタル場合ニ於テ之ヲ拒ミタル者又ハ同條但書ノ規定ニ違反シテ水先修業生ヲ伴ヒタル者

四　第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ水先船ヲ艤裝セス又ハ水先船免狀ヲ有セスシテ水先船ヲ使用シタル者

五　水先人ニアラスシテ水先旗若ハ之ト誤認シ易キ旗ヲ船舶ニ揭揚シ又ハ海上衝突豫防法第八條ノ點燈及信號ヲ爲シタル者

六　水先人ニアラスシテ第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ艤裝シタル水先船又ハ之ト誤認シ易キ船舶ヲ使用シタル者

第二十五條　船長水先區ニ於テ水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルトキハ命令ヲ以テ定メタル當該水先區ノ水先案內料ト同額以下ノ罰金ニ處ス

朝鮮水先令施行規則

第一章　登錄及免狀

第一條　水先人試驗ニ合格シタル者ハ試驗ヲ行ヒタル管海官廳ノ經由シ第一號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ水先人名簿ニ登錄ヲ申請スヘシ

第二條　朝鮮水先令第二條ニ依リ水先免狀ヲ受有セムトスル者ハ第二號書式ノ書面ニ業務ヲ營ムニ適スト認ムルニ足ルヘキ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ體格檢查ヲ申請スヘシ

朝鮮總督府遞信局ニ於テ前項ノ申請ヲ正當ト認メ體格檢查ヲ執行シ業務ヲ營ムニ適スト認ムルトキハ其ノ業務ヲ營ミ得ヘキ期間ヲ定メ之ヲ申請人ニ通知ス

申請人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ニ準シ水先人名簿ニ登錄ヲ申請スヘシ

第三條　朝鮮總督府遞信局ニ於テ第一條又ハ前條第三項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ水先人名簿ニ登錄シ第三號書式ノ水先免狀ヲ申請人ニ授與ス

第三十三條　此ノ法律施行後五年間ヲ限リ主務大臣ハ第二條第一號ノ規定ニ拘ラス水先免狀ヲ授與スルコトヲ得

前項ニ依リ授與シタル水先免狀ハ前項ノ期間滿了ノ後ト雖其ノ效力ヲ失フコトナシ

（明治三十二年七月二十九日勅令第三百五十六號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行）

●朝鮮水先令施行期日

大正四年十月
總令第百號

朝鮮水先令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮水先令施行規則

大正四年十月
總令第百二號

改正　大正五年九第八三號、九年四第六四號、一三年一〇第九號

朝鮮水先令施行規則左ノ通定ム

第一章　登錄及免狀

第一條　水先人試驗ニ合格シタル者ハ試驗ヲ行ヒタル管海官廳ノ經由シ第一號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ水先人名簿ニ登錄ヲ申請スヘシ

第二條　朝鮮水先令第二條ニ依リ水先免狀ヲ受有セムトスル者ハ第二號書式ノ書面ニ業務ヲ營ムニ適スト認ムルニ足ルヘキ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ體格檢查ヲ申請スヘシ

朝鮮總督府遞信局ニ於テ前項ノ申請ヲ正當ト認メ體格檢查ヲ執行シ業務ヲ營ムニ適スト認ムルトキハ其ノ業務ヲ營ミ得ヘキ期間ヲ定メ之ヲ申請人ニ通知ス

第三條　朝鮮水先令第三條ニ依リ水先免狀ヲ受有セムトスル者ハ第三號書式ノ書面ニ業務ヲ營ムニ適スト認ムルニ足ルヘキ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ體格檢查ヲ申請スヘシ

朝鮮總督府遞信局ニ於テ前項ノ申請ヲ正當ト認メ體格檢查ヲ執行シ業務ヲ營ムニ適スト認ムルトキハ其ノ業務ヲ營ミ得ヘキ期間ヲ定メ之ヲ申請人ニ通知ス

第四條　朝鮮水先令第四條ニ依リ水先免狀ヲ受有セムトスル者ハ第四號書式ノ書面ニ業務ヲ營ムニ適スト認ムルニ足ルヘキ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ體格檢查ヲ申請スヘシ

朝鮮總督府遞信局ニ於テ前項ノ申請ヲ正當ト認メ體格檢查ヲ執行シ業務ヲ營ムニ適スト認ムルトキハ其ノ業務ヲ營ミ得ヘキ期間ヲ定メ之ヲ申請人ニ通知ス

第五條　朝鮮水先令第五條ニ依リ水先免狀ヲ受有セムトスル者ハ第五號書式ノ書面ニ業務ヲ營ムニ適スト認ムルニ足ルヘキ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ體格檢查ヲ申請スヘシ

朝鮮總督府遞信局ニ於テ前項ノ申請ヲ正當ト認メ體格檢查ヲ執行シ業務ヲ營ムニ適スト認ムルトキハ其ノ業務ヲ營ミ得ヘキ期間ヲ定メ之ヲ申請人ニ通知ス

第六條　水先免狀ヲ受有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ抹消ノ登錄ヲ申請スヘシ

一　日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキ

二　滿六十年ニ達シタルトキ又ハ水先免狀ノ效力期間滿了シタルトキ

三　死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタルトキ

四　家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ

五　瘋癲白痴又ハ身體不具若ハ羸弱ニシテ業務ヲ營ムニ不適當ナル者

六　水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者

七　水先免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

八　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先案內料ヲ超過シ又ハ其ノ他不當ノ利得ヲ圖リタル者

九　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

十　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者

十一　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

十二　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

十三　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

十四　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

十五　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

十六　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

十七　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

十八　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

十九　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

二十　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

二十一　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

二十二　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

二十三　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

二十四　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

二十五　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

二十六　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

二十七　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

二十八　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

二十九　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

三十　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

三十一　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

三十二　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

三十三　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

三十四　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

三十五　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

三十六　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

三十七　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

三十八　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

三十九　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

四十　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

四十一　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

四十二　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

四十三　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

四十四　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

四十五　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

四十六　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

四十七　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

四十八　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

四十九　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

五十　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

五十一　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

五十二　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

五十三　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

五十四　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

五十五　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

五十六　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

五十七　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

五十八　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

五十九　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

六十　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

六十一　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

六十二　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

六十三　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

六十四　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

六十五　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

六十六　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

六十七　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

六十八　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

六十九　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

七十　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

七十一　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

七十二　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

七十三　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

七十四　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

七十五　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

七十六　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

七十七　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

七十八　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

七十九　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

八十　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

八十一　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

八十二　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

八十三　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

八十四　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

八十五　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

八十六　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

八十七　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

八十八　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

八十九　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

九十　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

九十一　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

九十二　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

九十三　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

九十四　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

九十五　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

九十六　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

九十七　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

九十八　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

九十九　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

百　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

百一　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

百二　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

百三　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

百四　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

百五　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

百六　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

百七　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

百八　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

百九　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

百十　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

百十一　水先免狀ヲ行使スルニ當リ水先ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタル者

百十二　水

業務ヲ督ムニ不適當ト爲リタルトキ

六　朝鮮總督府海員審判所ニ於テ免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレタルトキ

七　朝鮮水先人試驗規則ノ規定ニ依リ合格無效ト爲リタルトキ

八　廢業シタルトキ

水先免狀ヲ受有スル者失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

抹消ノ登錄ヲ申請スル者ハ第一項第六號ニ該當スル場合ヲ除クノ外水先免狀ヲ申請書ニ添ヘテ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第七條　朝鮮總督府遞信局ハ左ノ各號ノ場合ニ於テ抹消ノ登錄ヲ爲ス

一　前條ノ申請ヲ正當ト認メタルトキ

二　抹消ノ登錄ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ

三　詐欺ノ所爲ヲ以テ水先免狀ヲ受ケタルコトヲ知リタルトキ

四　朝鮮總督府海員審判所ニ於テ水先免狀ヲ無效ト爲シタルトキ

朝鮮總督府遞信局第二條第三項ノ申請ニ依ル登錄ヲ爲シタルトキハ舊登錄ヲ抹消ス

朝鮮總督府遞信局第一項第二號又ハ第三號ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ當該免狀ヲ受有スル者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク該免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ

第八條　朝鮮總督府遞信局ニ於テ水先法第三條第四號ノ事項ニ關シ必要アリト認ムルトキハ水先人ノ體格檢查ヲ執行ス

第九條　水先免狀ヲ受有スル者登錄又ハ水先免狀ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク第四號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ登錄又ハ水先免狀ノ訂正ヲ申請スヘシ

前項ノ錯誤又ハ遺漏第三條第一項第二號乃至第四號ノ事項ニ係ルトキハ前項ノ書面ニ戶籍又ハ民籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添附スヘシ

朝鮮總督府遞信局ニ於テ登錄又ハ水先免狀ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク該免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ

第十條　朝鮮總督府遞信局ニ於テ前條第一項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ登錄ヲ訂正シ又ハ水先免狀ヲ書換ヘノ之ヲ申請人ニ交付ス

第三條第三項ノ規定ハ前項ノ免狀ヲ受クル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　水先免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事實ヲ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第十二條　朝鮮總督府遞信局ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ水先免狀ヲ申請人ニ交付ス

第三條第三項ノ規定ハ水先免狀ノ毀損ニ因リ前項ノ免狀ヲ受クル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　行政區劃ノ變更アリタルトキハ水先免狀ヲ受有スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シ水先免狀ノ書換ヲ申請スルコトヲ得

第四條第二項及第五條ノ規定ハ前項ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　水先免狀ヲ受有スル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ裁判確定後遲滯ナク本人又ハ該免狀ヲ保管スル者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ水先免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出スヘシ

一　罪名、刑名及裁判確定ノ年月日

二　刑ノ執行ヲ受ケヘキ期間又ハ其ノ執行猶豫期間

三　判決ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱

前項ニ依リ提出シタル水先免狀ハ朝鮮總督府遞信局之ヲ保管シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後之ヲ還付ス

第二章　水先區

第十五條　水先區ハ左ノ七區トス

一　鴨綠江水先區

平安北道鐵山半島南端ヨリ�castle島ヲ經テ大和島ニ引キタル線及大和島ヨリ眞方位西北西ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

二　大同江水先區

平安南道貴林串ヨリ德島、西島及椒島ヲ經テ黃海道沈邦崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

三　仁川港水先區

京畿道仁川猫角ヨリ永宗島、龍遊島、德積島、蔚島及鞍島ヲ經テ忠淸南道萬垢端ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

四　群山港水先區

忠淸南道冬柏亭串ヨリ群山第一號挂燈浮標、飛鷹島及無衣人島ヲ經テ全羅北道嶼串ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

五　木浦港水先區

全羅南道南溪洞ヨリ大老鹿島、飛禽島、加士島及珍島ノ南端ヲ經テ海南角ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

六　釜山港水先區

慶尙南道蝟頭末ヨリ五六島及絕影島南端ヲ經テ鯖魚末ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

七　元山港水先區

咸鏡南道虎島半島南角ヨリ高島ヲ經テ江原道鴨龍端ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

第十六條　二區以上ノ水先區ノ水先免狀ヲ受有スル者ハ專屬水先區トシテ其ノ內ノ一區ヲ選定シ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

第三章　水先案內料

第十七條　水先案內料ハ總噸數千噸又ハ千噸未滿ニシテ喫水十呎又ハ十呎未滿ノ船舶ニ付テハ別表ニ定ムル所ニ依リ總噸數千噸若ハ千噸未滿（鴨綠江水先區群山港水先區ハ總噸數五百噸若ハ五百噸未滿）又ハ喫水一呎若ハ一呎未滿ヲ增ス每ニ其ノ百分ノ六ヲ加フ

第十八條　前條ニ於テ喫水ト稱スルハ各水先區ニ付水先人水路ヲ嚮導スル爲船舶ニ乘込ミタル時ヨリ其ノ嚮導ヲ終ル迄ノ間ニ於テ船首又ハ船尾ノ有シタル最深ノ喫水ヲ謂フ

第十九條　水先人別表ニ揭ケル各航路ノ一部ヲ嚮導シタルトキハ其ノ水先案內料ハ全部ニ對スル水先案內料ノ範圍內ニ於テ船長ト協定スヘシ

第二十條　水先人水路嚮導中海難其ノ他不可抗力ニ因リ別表ニ揭ケル各航路ノ全部ヲ嚮導スルコト能ハサルトキハ水先案內料ハ嚮導シタル里程ノ割合ニ據ルヘキモノトス

第四章　水先旗及水先信號

第二十一條　水先旗ハ別記樣式ニ依ル

第二十二條　水先旗ハ水先法第六條ノ場合ニ於テハ檣頭、旗竿又ハ帆ノ上部其ノ他見易キ所ニ之ヲ揭揚スヘシ

第二十三條　水先人ハ汚染又ハ毀損ノ爲水先旗タルコトヲ認メ難キ水先旗ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十四條　水先法第七條ノ水先信號ハ晝間ニ在リテハ第一號若ハ第二號ヲ用キ又ハ之ヲ併用シ夜間ニ在リテハ第三號若ハ第四號ヲ用キ又ハ之ヲ併用シテ爲スヘシ

一　前檣ニ船首旗又ハ國旗ヲ揭揚スルコト

二　萬國普通信號書ニ揭ケル水先信號ヲ表示スルコト

三　十五分間每ニ青色焰光ヲ發射スルコト

四　須臾ノ間隙ヲ以テ凡ソ一分間亮明ノ白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ表示スルコト

第五章　嚮導

第二十五條　水先船ニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　船體ノ外部ハ黑色ト爲スコト

二　明瞭ニ表示スルコト

第二十六條　水先人水先船ヲ使用スルトキハ水先船免狀ヲ受有スヘシ

第二十七條　水先人水先船免狀ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ管海官廳ニ提出スヘシ

一　船舶ノ種類、名稱

二　綱具ノ裝置

三　積量

四　長幅、深

五　所有者ノ住所及氏名若ハ名稱

水先人ト船舶所有者ト異ナル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ所有者ノ連署ヲ要ス

第二十八條　管海官廳ニ於テ前條第一項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ當該官吏ヲシテ船舶ノ檢查ヲ爲シメ適當ト認ムルトキハ第六號書式ノ水先免狀ヲ授與ス

第二十九條　水先船免狀ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シテ水先船免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第三十條　水先船免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シテ再交付ヲ申請スヘシ

第三十一條　管海官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ水先船ニ臨檢セシメ現狀完全ナラスト認ムルトキハ其ノ使用ヲ停止シ必要ナル修理又ハ設備ヲ命スルコトヲ得

水先人前項ノ命令ニ違反シテ水先船ヲ使用シ又ハ其ノ修理若ハ設備ヲ爲ササルトキハ水先船免狀ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十二條　前條第二項ニ依リ水先船免狀ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ水先船ノ使用ヲ廢シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ事由ヲ具シ水先船免狀ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第六章　水先法令書

第三十三條　水先法令書ハ朝鮮總督府遞信局ヨリ之ヲ水先人ニ交付ス

第三十四條　水先法令ニ改正アリタルトキハ朝鮮總督府遞信局ハ改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類又ハ改刷シタル水先法令書ヲ水先人ニ交付ス

第三十五條　水先人改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ水先法令書ニ綴込ムヘシ

水先人改刷シタル水先法令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊法令書ヲ返還スヘシ

第三十六條　第六條又ハ第七條第四項ニ依リ水先免狀ヲ返還スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

第十四條第一項ニ依リ水先免狀ヲ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

水先人朝鮮總督府海員審判所ニ於テ水先免狀行使ノ停止ヲ言渡サレ該免狀ヲ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ第十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十七條　第十一條及第十二條ノ規定ハ水先法令書滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　水先法令書ハ朝鮮總督府遞信局ノ印ヲ押捺シタルモノニ非サレハ其ノ效ヲ有セス

第七章　水路嚮導ノ證明

第三十九條　水先人水路ノ嚮導ヲ終リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ得ヘキ樣調製シタル書面ニ署名捺印セシメ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船長ハ前條第二項及第三項ニ準シ前項ノ書面ニ記入及署名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付シ水先人ハ之ヲ水先修業生ニ交付スヘシ

第四十一條　水先人ハ水先修業生ノ請求ニ依リ其ノ修業ニ關スル證明書ヲ交付スヘシ

第八章　水先人組合

第四十二條　水先人組合ハ當該水先區ノ水先人ヲ以テ組合員トス

二區以上ノ水先區ニ水先免狀ヲ受有スル者ハ專屬水先區ノ組合員トス

第四十三條　朝鮮總督水先人組合ヲ設ケシメムトスルトキハ當該水先區ノ水先人ノ內ヨリ創立委員ヲ命ス

第四十四條　創立委員ハ組合規約ヲ起草シテ之ヲ當該水先區ノ水先人ノ會議ニ付スヘシ

創立委員ハ會日ヨリ二週間前ニ各水先人ニ組合規約案ヲ添ヘ會日時及會場ヲ通知スヘシ

組合規約ハ當該水先區ノ水先人總員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

水先人ハ代理人ヲ以テ意見ヲ表示スルコトヲ得

第四十五條　會議ノ通知ヲ受ケタル水先人會議ニ出席セス又ハ代理人ヲ出席セシメサルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ事由ヲ具シ水先船免狀ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第九章　組合

第四十六條　組合規約ヲ議決シタルトキハ創立委員ハ遲滯ナク其ノ成案ヲ朝鮮總督ニ提出シ認可ヲ申請スヘシ

第四十七條　第四十四條第三項ノ場合ニ於テ意見數說ニ分レ定數ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ創立委員ハ各意見ヲ具シ朝鮮總督ノ裁決ヲ申請スヘシ

第四十八條　組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合ノ名稱

二　組合長其ノ他組合ノ役員ニ關スルコト

三　組合員ノ營業ニ關スルコト

四　組合ノ風紀秩序ニ關スルコト

五　組合ノ會計ニ關スルコト

六　組合ノ會議ニ關スルコト

七　水先修業生ノ資格等ニ關スルコト

八　前各號ノ外組合ノ處理ニ關シ必要ナルコト

第四十九條　水先人組合ニハ組合長一人ヲ置クヘシ

水先人組合ニ組合副長其ノ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長其ノ他組合ノ役員ハ組合員之ヲ互選シ其ノ任期ハ三年內トス

組合長、組合副長ノ內一人ハ特別ノ事由アル場合ニ限リ朝鮮總督府遞信局長官ノ認可ヲ受ケ組合員ニ非サル者ヲ選任スルコトヲ得

第五十條　組合長ハ本會及組合規約ニ依リ其ノ職務ニ屬スル事務ヲ行フ

組合副長ハ其ノ他ノ役員ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ職務ヲ代理ス

第五十一條　朝鮮總督組合規約ヲ認可シタルトキハ其ノ旨ヲ創立委員ニ通達ス

創立委員ハ前項ノ通達ヲ受ケタル日ヨリ十日內ニ組合長其ノ他組合ノ役員ノ選擧ヲ行ヒ其ノ就任確定シタルトキハ遲滯ナク其ノ氏名ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

創立委員ノ職務ハ前項ノ報告ヲ以テ終了トス

第五十二條　組合長ハ就任後遲滯ナク組合ノ事務所ヲ定ムヘシ

組合長ハ事務所ヲ定メタル日ヨリ三日內ニ其ノ所在地ヲ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五十三條　組合規約ヲ變更セムトスルトキハ組合長ハ變更ヲ要スル事由ヲ具シ其ノ成案ヲ朝鮮總督ニ提出シ認可ヲ申請スヘシ

第四十條　組合長ハ水先法第十三條但書ノ規定ニ依リ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導シタルトキハ各船ノ船長ニ對シ第一項ノ書面ヲ交付シ各船ノ船長ハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサリシ船舶ノ船長ハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第四十一條　水先人ハ水先法第十六條ニ依リ水先人ハ水先修業生ヲ伴ヒ乘船シタルトキハ水先人ハ水先修業生ヲシテ前條第一項第一號乃至第三號ノ事項ヲ記載シ得ヘキ樣調製シタル書面ニ署名捺印セシメ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船長ハ前條第二項及第三項ニ準シ前項ノ書面ニ記入及署名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付シ水先人ハ之ヲ水先修業生ニ交付スヘシ

第四十二條　水先人ハ水先修業生ノ請求ニ依リ其ノ修業ニ關スル證明書ヲ交付スヘシ

第八章　水先人組合

第四十三條　水先人組合ハ當該水先區ノ水先人ヲ以テ組合員トス

二區以上ノ水先區ニ水先免狀ヲ受有スル者ハ專屬水先區ノ組合員トス

第四十四條　朝鮮總督水先人組合ヲ設ケシメムトスルトキハ當該水先區ノ水先人ノ內ヨリ創立委員ヲ命ス

第四十五條　創立委員ハ組合規約ヲ起草シテ之ヲ當該水先區ノ水先人ノ會議ニ付スヘシ

創立委員ハ會日ヨリ二週間前ニ各水先人ニ組合規約案ヲ添ヘ會日時及會場ヲ通知スヘシ

組合規約ハ當該水先區ノ水先人總員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

水先人ハ代理人ヲ以テ意見ヲ表示スルコトヲ得

第四十六條　會議ノ通知ヲ受ケタル水先人會議ニ出席セス又ハ代理人ヲ出席セシメサルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ事由ヲ具シ水先船免狀ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第九章　組合

第四十七條　組合規約ヲ議決シタルトキハ創立委員ハ遲滯ナク其ノ成案ヲ朝鮮總督ニ提出シ認可ヲ申請スヘシ

第四十八條　第四十五條第三項ノ場合ニ於テ意見數說ニ分レ定數ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ創立委員ハ各意見ヲ具シ朝鮮總督ノ裁決ヲ申請スヘシ

第四十九條　組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合ノ名稱

二　組合長其ノ他組合ノ役員ニ關スルコト

三　組合員ノ營業ニ關スルコト

四　組合ノ風紀秩序ニ關スルコト

五　組合ノ會計ニ關スルコト

六　組合ノ會議ニ關スルコト

七　水先修業生ノ資格等ニ關スルコト

八　前各號ノ外組合ノ處理ニ關シ必要ナルコト

第五十條　水先人組合ニハ組合長一人ヲ置クヘシ

水先人組合ニ組合副長其ノ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長其ノ他組合ノ役員ハ組合員之ヲ互選シ其ノ任期ハ三年內トス

組合長、組合副長ノ內一人ハ特別ノ事由アル場合ニ限リ朝鮮總督府遞信局長官ノ認可ヲ受ケ組合員ニ非サル者ヲ選任スルコトヲ得

第五十一條　組合長ハ本會及組合規約ニ依リ其ノ職務ニ屬スル事務ヲ行フ

組合副長ハ其ノ他ノ役員ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ職務ヲ代理ス

第五十二條　朝鮮總督組合規約ヲ認可シタルトキハ其ノ旨ヲ創立委員ニ通達ス

創立委員ハ前項ノ通達ヲ受ケタル日ヨリ十日內ニ組合長其ノ他組合ノ役員ノ選擧ヲ行ヒ其ノ就任確定シタルトキハ遲滯ナク其ノ氏名ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

創立委員ノ職務ハ前項ノ報告ヲ以テ終了トス

第五十三條　組合長ハ就任後遲滯ナク組合ノ事務所ヲ定ムヘシ

組合長ハ事務所ヲ定メタル日ヨリ三日內ニ其ノ所在地ヲ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五十四條　組合規約ヲ變更セムトスルトキハ組合長ハ變更ヲ要スル事由ヲ具シ其ノ成案ヲ朝鮮總督ニ提出シ認可ヲ申請スヘシ

第四十四條、第四十五條及第四十七條ノ規

定ハ組合規約ヲ變更セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條　組合長其ノ他組合ノ役員交迭シタルトキハ組合長ハ其ノ事由ヲ具シ新任者ノ氏名ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ但シ組合長交迭ノ場合ニ在リテハ新組合長ノ連署ヲ要ス

第五十五條　組合長ハ毎年一月前一年間ニ於ケル組合員ノ營業ニ關スル狀況及組合ノ會計ニ關スル事項ヲ朝鮮總督ノ遞信局ニ報告スヘシ

第五十六條　朝鮮總督ハ組合規約ノ改正ヲ命シ、水路標導ニ關スル事項ヲ組合ニ諮問シ、必要ト認ムルトキハ其ノ事項ヲ審議スル爲組合會議ヲ開クヘキコトヲ命シ又ハ當該官吏ヲシテ組合ノ會議ニ臨席セシムルコトアルヘシ

第五十七條　水先人第四十八條第三號又ハ第四號ニ依リ組合規約ニ記載シタル事項ニ違反シタルトキハ朝鮮總督府海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フ

水先人前項ノ所爲アリタルトキハ組合長ハ管海官廳ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第五十八條　前條第二項ノ申告ニハ證憑及事實參考ト爲ルヘキ資料ヲ提出スヘシ

第九章　手數料

第五十九條　本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　體格檢查ヲ申請スルトキ　五十錢

二　第九條第一項ニ依リ水先免狀ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ記載事項ノ錯誤又ハ遺漏カ免狀ヲ受有スル者ノ過失ニ出テタルトキ　一圓

三　第十一條ニ依リ水先免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ　一圓

四　第十三條第一項ニ依リ水先免狀ノ書換ヲ申請スルトキ　一圓

五　第二十七條第一項ニ依リ水先船免狀ノ交付ヲ申請スルトキ　一圓

六　第二十九條第一項ニ依リ水先船免狀ノ書換ヲ申請スルトキ　一圓

七　第三十條第一項ニ依リ水先船免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ　一圓

八　第三十七條ニ依リ水先法令書ノ再交付ヲ申請スルトキ　二圓

前項第二號乃至第四號ノ申請ヲ二件以上同時ニ爲シ又ハ第六號第七號ノ申請ヲ同時ニ爲ストキハ免狀毎ニ一件ニ對スル手數料ヲ納付スルヲ以テ足ル

第四條ニ依リ變更ノ登錄申請ヲ爲シ水先免狀ノ書換交付ヲ受クル場合ニ於テ同時ニ第一項第二號乃至第四號ノ申請ヲ爲ストキハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第六十條　第一條、第二條第一項第三項、第四條第一項、第九條第一項第十一條、第十三條第一項、第二十七條第一項、第三十條第一項、第三十七條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手數料ニ相當スル收入印紙ヲ貼付シタル納付書ヲ申請書ニ添附スヘシ

既納ノ手數料ハ之ヲ還付セス

第十章　雜則

第六十一條　水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ海難ニ罹リタルトキハ遲滯ナク管海官廳又ハ警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第六十二條　船長ハ其ノ使用シタル水先人ノ水先法第十九條第一項ノ各號ニ該當スト認ムルトキハ就海日誌及機關日誌ノ寫ヲ添ヘ前條ノ官廳又ハ官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第六十三條　水先人其ノ業務ヲ開始セムトスルトキハ當該水先區内ノ應招ニ便宜ナル場所ニ事務所ヲ定メ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

水先人事務所ヲ變更シタルトキハ十日内ニ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

水先人組合成立シタルトキハ組合ノ事務所ヲ以テ各組合員ノ事務所トス

第六十四條　二區以上ノ水先區水先免狀ヲ受有スル者其ノ專屬水先區ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

第六十五條　水先人其ノ業務以外ノ業務ニ從事セムトスルトキ又ハ結氷期ヲ除キ二月以上其ノ業務ヲ休止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督府遞信局長官ノ許可ヲ受クヘシ

第六十六條　水先人水先區ニ於テ左ノ各號ノ事項ヲ認メタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ朝鮮總督府遞信局ニ報告スヘシ

一　航路　航路、標識ニ異變アルコト

二　航路ノ妨害ト爲ルヘキモノノ存在スルコト

三　前二號ノ外航行上危險ノ虞アル事實アルコト

第六十七條　水先人ハ毎年一月前一年間ニ於テ水路ヲ標導シタル船舶ニ關シ第三十九條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出スヘシ

第六條第一項各號ノ一又ハ第二項ニ該當シ抹消ノ登錄ヲ申請スル者ニ在リテハ其ノ際前回報告以後ニ於ケル前項ノ書面ヲ該抹消登錄申請書ト共ニ提出スヘシ

第七條第三項ニ依リ抹消登錄ノ通知ヲ受ケタル者ハ水先免狀ト共ニ前回報告以後ニ於ケル第一項ノ書面ヲ提出スヘシ

前三項ノ書面ニハ第三十九條第二項ノ書面ヲ添附スヘシ

第六十八條　本令ニ於テ管海官廳ト稱スルハ水先人組合ノ事務所又ハ水先人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ謂フ

第六十九條　本令ノ規定ニ依リ申請、届出、報告若ハ書面ヲ提出シ又ハ水先免狀、水先法令書ヲ返還スルニハ管海官廳ヲ經由スヘシ

第七十條　第五十二條及第六十三條ノ届出又ハ第六十六條ノ報告ハ警察官署ノ所在地ニ在リテハ當該官署ニモ之ヲ爲スヘシ

第十一章　罰則

第七十一條　第四條第一項、第六條第一項第二項、第九條第一項、第十一條、第十四條第一項、第十六條、第二十二條、第二十三條、第二十五條、第二十六條、第二十九條第一項、第三十條第一項、第三十五條第一項、第三十七條、第三十九條乃至第四十一條、第四十六條、第四十七條、第五十一條第二項、第五十二條乃至第五十五條、第五十七條第二項、第六十一條乃至第六十三條第一項第二項、第六十四條乃至第六十七條、第七十條ニ違反シタル者第五十六條ノ命令ニ從ハス若ハ當該官吏ノ臨席ヲ拒ミタル者又ハ本令ノ規定ニ依リ水先免狀、水先船免狀、水先法令書ヲ返還若ハ添附スヘキ場合ニ之ヲ怠リタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ朝鮮水先令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮水先令附則第二項ニ依リ水先免狀ヲ受有セムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ三月内ニ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ第二條ノ規定ヲ準用ス

第三號書式

朝鮮總督府遞信局宛

申請人　氏　　名　印
現住所

備考

第一條ニ依ル申請ニハ第七號ノ事項ノ記載ヲ要セス附則第二項ノ申請人ニシテ六十年未滿ナルトキ亦同シ

第二號書式

體格檢查申請書

朝鮮水先令第二條（附則第二項）ニ依リ何水先區水先免狀授與申請致度候間體格檢查執行相成度依テ履歷書、證明書及戸籍（民籍）ノ謄本相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　　名　印
現住所

朝鮮總督府遞信局宛

第三號書式

第　號

本籍　族稱
氏　　名
出生年月日

年　月　日登錄

何水先區水先免狀
朝鮮水先令ニ依リ之ヲ授與ス

年　月　日

朝鮮總督　名印

備考

一　效力ニ期限ヲ加ヘ（授與スル免狀ニハ其ノ效力期間ヲ記載ス

二　水先免狀ハ竪八寸横一尺一寸トシ裏面ニ英譯文ヲ附記ス

第四號書式

水先人名簿變更登錄（訂正）申請書

一　水先免狀ノ番號

二　水先區ノ名稱

三　登錄ノ年月日

四　氏名（片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ）　新（朱書）　舊

五　本籍地及族稱　新（朱書）　舊

六　出生年月日　新（朱書）　舊

右年月日（變更、訂正ノ事由）ニ依リ前記朱書ノ通變更ニ付變更登錄（訂正）相成度戸籍（民籍）謄本、（抄本）竝登錄稅（手數料）相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　　名　印
現住所

朝鮮總督府遞信局宛

第五號書式

水先免狀再交付申請書

一　水先免狀ノ番號

二　水先區ノ名稱

三　登錄ノ年月日

四　氏名（片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ）

五　本籍地及族稱

六　出生年月日

右年月日（滅失、遺失、紛失、毀損等ノ事由）ニ付再交付相成度手數料相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　　名　印
現住所

朝鮮總督府遞信局宛

第六號書式

水先船免狀ハ竪一尺一寸横八寸トス

水先船免狀			
種類名稱			長
綱具ノ裝置			幅
積量			深

水先人（氏名）ノ申請ニ依リ此ノ免狀ヲ授與ス

年　月　日

管海官廳　印

備考　水先船免狀ハ竪一尺一寸横八寸トス

（別表）

水先區	航路	汽船水先案内料
鴨綠江	東水道水先區境界線ヨリ多獅島錨地迄	三五圓
	又ハ多獅島錨地ヨリ東水道水先區境界線迄	
	東水道水先區境界線ヨリ龍岩浦錨地迄	七五
	又ハ龍岩浦錨地ヨリ東水道水先區境界線迄	
	東水道水先區境界線ヨリ三道浪頭錨地迄	一〇〇
	又ハ三道浪頭錨地ヨリ東水道水先區境界線迄	
	東水道水先區境界線ヨリ安東縣錨地迄	一一〇
	又ハ安東縣錨地ヨリ東水道水先區境界線迄	
	多獅島錨地ヨリ龍岩浦錨地迄	五〇
	又ハ龍岩浦錨地ヨリ多獅島錨地迄	
	多獅島錨地ヨリ三道浪頭錨地迄	七〇
	又ハ三道浪頭錨地ヨリ多獅島錨地迄	
	多獅島錨地ヨリ安東縣錨地迄	八五
	又ハ安東縣錨地ヨリ多獅島錨地迄	
	龍岩浦錨地ヨリ三道浪頭錨地迄	三〇
	又ハ三道浪頭錨地ヨリ鶴岩浦錨地迄	
	龍岩浦錨地ヨリ安東縣錨地迄	四〇
	又ハ安東縣錨地ヨリ龍岩浦錨地迄	
	三道浪頭錨地ヨリ安東縣錨地迄	二〇
	又ハ安東縣錨地ヨリ三道浪頭錨地迄	
	西水道水先區境界線ヨリ大東溝錨地（薪島ヲ含ム）迄	三五
	又ハ大東溝錨地ヨリ西水道水先區境界線迄	
	西水道水先區境界線ヨリ龍岩浦錨地迄	六五
	又ハ龍岩浦錨地ヨリ西水道水先區境界線迄	
	西水道水先區境界線ヨリ三道浪頭錨地迄	八五
	又ハ三道浪頭錨地ヨリ西水道水先區境界線迄	
	西水道水先區境界線ヨリ安東縣錨地迄	一〇〇
	又ハ安東縣錨地ヨリ西水道水先區境界線迄	
	大東溝錨地ヨリ龍岩浦錨地迄	三五
	又ハ龍岩浦錨地ヨリ大東溝錨地迄	
	大東溝錨地ヨリ三道浪頭錨地迄	五五
	又ハ三道浪頭錨地ヨリ大東溝錨地迄	
	大東溝錨地ヨリ安東縣錨地迄	七〇
	又ハ安東縣錨地ヨリ大東溝錨地迄	
大同江	水先區境界線ヨリ鎭南浦錨地迄	五五
	又ハ鎭南浦錨地ヨリ水先區境界線迄	
	水先區境界線ヨリ甑二浦錨地迄	八五
	又ハ甑二浦錨地ヨリ鎭南浦錨地迄	
	鎭南浦錨地ヨリ甑二浦錨地迄	四〇
	又ハ甑二浦錨地ヨリ鎭南浦錨地迄	
	水先區境界線ヨリ保山錨地迄	一〇〇
	又ハ保山錨地ヨリ水先區境界線迄	
	鎭南浦錨地ヨリ保山錨地迄	六〇
	又ハ保山錨地ヨリ鎭南浦錨地迄	
仁川港	水先區南境界線ヨリ港内錨地迄	七〇
	又ハ港内錨地ヨリ水先區南境界線迄	

備考

一　帆船水先案内料ハ當該航路ニ於ケル汽船水先案内料ニ其ノ百分ノ八十ヲ加ヘタル額トス但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテ機關ヲ使用スルトキハ帆船水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ

二　鴨綠江水先區ニ於ケル帆船ノ水路嚮導ニハ曳船ヲ使用ス但シ本表水先案内料ニハ曳船賃ヲ含マス

別記樣式

四尺五寸

白

赤

一尺五寸　一尺五寸

●朝鮮水先令施行規則ニ依ル管海官廳ノ事務ヲ行フ郵便局

大正四年十一月
總督第二百八十二號

全羅北道群山郵便局ヲシテ大正四年十一月五日ヨリ群山水先區ニ於ケル朝鮮水先令施行規則ニ依ル管海官廳ノ事務ヲ行ハシム

●朝鮮水先人試驗規則

大正四年十月
總令第百三號

改正　大正一二年一〇第六〇號、一四年五第六〇號

朝鮮水先人試驗規則左ノ通定ム

朝鮮水先人試驗規則

第一條　水先人試驗ハ朝鮮總督ノ定ムル場所及期日ニ於テ之ヲ行フ

試驗ヲ行フ管海官廳、試驗期日、水先區ノ名稱及水先人ノ員數ハ試驗期日三十日前迄ニ之ヲ告示ス

第二條　試驗ヲ受クルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一　二年以上總噸數七百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ且其ノ間ニ於テ十二十回以上試驗ヲ受ケムトスル水先區ノ航海ニ從事シ且三月以上同水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

水先法第三條又ハ第四條ニ該當スル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第三條　水先人試驗ヲ受ケムトスル者ハ試驗期日七日前迄ニ試驗ヲ行フ管海官廳ニ左ノ書類ヲ提出スヘシ

一　第一號書式ノ申請書

二　戸籍謄本又ハ戸籍抄本

三　水先法第三條第二號第三號及第四條第一號ニ該當セサルコトノ證明書

四　海技免狀又ハ水先免狀ヲ受有スル者ハ其ノ寫

五　商船學校、水產講習所又ハ水產試驗場ノ卒業證書又ハ修業證書ヲ有スル者ハ其ノ寫

第四條　受驗申請人ハ左ニ揭クル書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シテ履歷ヲ證明スヘシ

一　商船ニ乘組ミタル履歷ハ船長ノ就職、退職ノ認證又ハ之ニ準スヘキ證明書

二　海軍艦船又ハ省公署ノ所屬船ニ乘組ミタル履歷ハ當該官公署ノ辭令書、證明書若ハ當該官公吏ノ證明書

三　水先修業生タリシ履歷ハ當該水先人及船長ノ證明書

四　試驗ヲ受ケムトスル水先區ノ航海ニ從事シタル履歷ハ航海日誌又ハ船舶所有者ノ證明書

第五條　受驗申請人ハ體格檢查ニ付テハ五十錢、學術試驗ニ付テハ水先區一區毎ニ七圓ノ手數料ヲ納付スヘシ

第六條　試驗ハ體格檢查及學術試驗トス體格檢查ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第七條　學術試驗ハ試驗官吏ノ見込ニ依リ筆記試驗又ハ口述試驗トシ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

一　航路標識、潮流、地勢、水路、港灣錨地及危險物ノ說明

二　船舶ノ嚮導及運航方法

三　羅針違差ノ檢定方法

四　船舶衝突ノ豫防、水路港灣ノ取締其ノ他水先人本分ノ職務ニ關スル法規

五　英語

筆記試驗及口述試驗ヲ併セ行フ場合ニハ筆記試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第八條　削除

第九條　朝鮮船舶職員試驗規則第三條、第二十條（關係條文ニ關スル部分ニ限ル）第二十一條乃至第二十五條、第二十七條及二十八條ノ規定ハ水先人試驗ニ之ヲ準用ス

第十條　學術試驗ノ成績ハ試驗官吏ニ於テ受驗人カ當該水先區ノ航海ニ從事シタル經歷ヲモ參酌シテ之ヲ定ム

附　則

本令ハ朝鮮水先令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（大正十四年五月總令第六十號）

本令ハ大正十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

受驗申請書

何水先區水先人試驗相受度就テハ履歷書、受驗資格ニ關スル證明書及戸籍（民籍）ノ謄本相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名　印

管海官廳宛

●水夫適任證書交付規則

大正五年五月
總令第四十三號

改正　大正一〇年二第二八號

水夫適任證書交付規則左ノ通定ム

水夫適任證書交付規則

第一條　亞米利加合衆國諸港ニ出入セムトスル朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ船員ニシテ千九百十五年三月四日ノ亞米利加合衆國海員法ニ依ル水夫適任證書ヲ受有セムトスル者ハ其ノ交付ヲ管海官廳ニ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ亞米利加合衆國諸港ニ出入セムトスル朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ船員ト爲ラムトスル者ニ之ヲ準用ス

第二條　水夫適任證書ハ左ニ揭クル資格ノ一ヲ有シ且體格檢查ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス

一　總噸數百噸以上ノ沿海航路以上ノ船舶ニ乘組ミ三年以上甲板部員トシテ執務シ年齡滿十九年以上ナルコト

二　沿海航路以上ノ船舶ニ乘組ミ一年以上甲板部員トシテ執務シ且船舶ノ運用ニ關スル試驗ニ合格シタルコト

遊覽船、捕鯨船又ハ無甲板漁船ニ乘組ミタル期間ハ前項第一號ノ期間ニ算入セス

第一項第二號ノ試驗ハ羅針盤方位、船燈、霧中信號、航路信號、機關傳令、結索、繫艇ノ卸方及操縱、航海用語並操舵ニ關スル要領ニ付之ヲ行フ

第三條　水夫適任證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ申請者ハ船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シ本籍地、出生年月日及乘船履歷ヲ證明スヘシ

第一號書式（表）

水夫適任證書交付申請書

水夫適任證書下付相受度候ニ付テハ履歷書相添ヘ此段及申請候也

年　月　日

申請人　氏　名　印

通知ヲ受クヘキ場所

管海官廳宛

第三條ノ二　第一條第二項ノ規定ニ依リ水夫適任證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ規定ニ依ルノ外其ノ乘組マムトスル船舶ノ所有者、管理人又ハ借入人ノ發出シタル書面ニ依リ當該船舶ノ船員ト爲ラムトスル者ナル旨ヲ證明スヘシ

第四條　水夫適任證書ハ第二號書式ニ依ル

第五條　水夫適任證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之カ再交付ヲ申請スルコトヲ得

水夫適任證書ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之カ書換ヲ申請スヘシ

水夫適任證書不用ト爲リタルトキハ遲滯ナク該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第六條　本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　第二條第一項第一號ノ資格ニ依リ水夫適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ　一圓

二　第二條第一項第二號ノ資格ニ依リ水夫適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ　二圓

三　水夫適任證書ノ再交付又ハ書換ヲ申請スルトキ　五十錢

手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼付シテ之ヲ納付スヘシ

第七條　本令ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳ハ之ヲ官示ス

附　則

本令ハ大正五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

（裏）

履歴書

氏名	本籍地	
出生年月日		
船員手帖番號		出生年月日

船種船名	總噸數又ハ積石數	航路定限	職名	乘船年月日	下船年月日	在船期間
				年月日	年月日	年月日
				年月日	年月日	年月日
				年月日	年月日	年月日
				年月日	年月日	年月日
				期間合計 年 月 日		

備考

氏名ニハ片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ

第二號書式甲（第二條第一項第一號ノ表ニ依リ交付スルモノ）

第　號

水夫適任證書

本籍地

氏名

出生年月日

右者水夫適任證書交付規則ニ依リ成規ノ履歴ヲ有シ且視力、聽力其ノ他ノ體格檢査ニ合格ス仍テ航洋船ノ水夫ニ適スル者ト認メ此ノ證書ヲ附與ス

年　月　日

管海官廳名印

備考

裏面ニ英譯ヲ附記ス第二號書式乙ニ付テモ亦同シ

第二號書式乙（第二條第一項第二號ノ表ニ依リ交付スルモノ）

●水夫適任證書交付規則第七條ノ規定ニ依リ同規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳

大正五年五月
總告第百三十一號

水夫適任證書交付規則第七條ノ規定ニ依リ同規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳左ノ通定ム

朝鮮總督府遞信局仁川海事出張所
朝鮮總督府遞信局釜山海事出張所

第六款　海上衝突豫防

●海上衝突豫防法ヲ朝鮮ニ施行ノ件

大正三年四月
勅令第四十九號

朕海上衝突豫防法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海上衝突豫防法ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海上衝突豫防法

明治二十五年六月
法律第五號

改正　明治三〇年四第四三號、三九年四第四四號、一四年三第三八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル海上衝突豫防法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海上衝突豫防法

總　則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用ヰサルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ウルト用ヰサルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ

本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ

本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ罹サル場合ヲ謂フ

船　燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條　船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日沒ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ揭クヘカラス

第二條　汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ揭クヘシ

一　前檣若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前檣ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ揭クヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ揭クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鋏盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外ヘ十點間ツツ即チ船ノ正首ヨリ各舷正橫後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

二　右舷ニ綠燈ヲ揭クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鋏盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正橫後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

三　左舷ニ紅燈ヲ揭クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鋏盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正橫後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

四　本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ內側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ見得サル樣ニ爲スヘシ

五　汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ增揭スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ揭ケ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條　汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ揭クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ揭クルヲ要ス然レトモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カルル船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ增揭スヘシ

本條ノ引船ハ引カルル船舶ノ操舵目標トシテ顯突若ハ後檣ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ揭クルヲ得但シ此ノ白燈ハ本航正橫ヨリ前面ニ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

第四條　事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ（汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ）二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スヘシ此ノ紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニ在リテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ（汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ）三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツツヲ隔テ連揭スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ內上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニ在リテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツツヲ隔テ連揭シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用キ中央ノ一箇ハ白色菱形ヲ用ウヘシ

本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ揭クヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ揭クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スヘカラス難船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條　航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ揭クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ揭クヘカラス

第六條　小形船舶航行中天氣ノ模樣ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ揭置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ樣點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ樣各舷ニ表示スヘシ但シ其ノ時綠光ヲ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ス且成ルヘク各舷正橫後ノ二點ヨリ後方ヘ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

此ノ綠紅ノ各燈ヲ間遣ヒナク容易ニ取扱フ爲綠燈ハ綠色、紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ螯リ且適當ノ隔板ヲ備置クヘシ

第七條　總積量四十噸未滿ノ汽船總積量二十噸未滿ノ帆船及艣櫂ヲ以テ運轉スル船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ揭クルヲ要セス然レトモ若シ之ヲ揭ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一　四十噸未滿ノ汽船

甲　船ノ前部又ハ煙突若ハ其ノ前面ニ於テ舷緣上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル檣造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭クヘシ

乙　第二條第二項第三項ニ規定シタル檣造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ揭クルカ又ハ船首ヨリ各舷正橫後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及ヘク製造シタル兩色燈一箇ヲ揭クヘシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ揭クルヲ要ス

二　汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷緣上九尺ノ所ヨリ下方ニ揭クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三　二十噸未滿ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト艣櫂ヲ用ウルトニ拘ハラス一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

四　艣櫂ヲ以テ運轉スル船ハ艣櫂ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラス白色ノ燈籠一箇ヲ手近ニ備置キ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スヘシ

本條ノ諸船ハ第四條第二項及第十一條末項ノ燈ヲ揭クルニ及ハス

第八條　水先船水先業務ノ爲ス其ノ營業所ニアルトキハ他船ニ要スル燈ヲ表示セス周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ檣頭ニ揭ケ且十五分時ヲ超エサル短時ノ間隙ヲ以テ閃火一箇若ハ數箇ヲ發スヘシ

水先船ニハ點火シタル舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示スカ爲メ短時ノ間隙ヲ以テ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要招スル船船ヘ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ揭クル代リニ臨時之ヲ表示シ又前項ノ舷燈ノ代リニ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ノ規定ニ依リ之ヲ使用スルヲ得

免許水先人ノ業務ニ專用スル水先汽船水先業務ノ爲其ノ營業所ニアリテ碇泊セサルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ檣燈ノ下方八尺ノ所ニ周回

少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ紅燈一箇ヲ增揭シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ揭クヘシ

前項ノ水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊スルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ前項ノ規定ニ依リ紅燈ヲ增揭スヘシ但シ舷燈ヲ揭クヘカラス

水先船其ノ營業所ニアルモ水先業務ニ從事セサルトキハ其ノ積量ニ相當スル他船ト同樣ノ燈ヲ揭クヘシ

第九條　漁船ハ航行中特ニ本條ニ規定アル場合ヲ除ク外其ノ積量ニ相當スル航行中ノ船舶ニ對シテ規定シタル燈ヲ揭クルカ又ハ之ヲ表示スヘシ

一　無甲板船即チ全部張詰メタル甲板ニ因リテ海水ノ浸入ヲ防カサル船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ繩ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺以內ナルトキハ周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭クヘシ

無甲板船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ繩ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺ヲ超ユルトキハ周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭ケ且我船ノ他船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ近寄リ來ルカ又ハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ又ハ他船ノ我船ニ近寄リ行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭ケ且漁具ノ繩ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺ヲ隔テ且漁具ノ結著シタル方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ增表スヘシ

二　第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外流シ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ハ網ノ全部又ハ一部水中ニ投下シアル間ハ最モ見得易キ所ニ白燈二箇ヲ揭クヘシ此ノ兩燈ハ上下ノ距離六尺ヨリ少カラス十五尺ヨリ多カラス且龍骨線ニテ測リタル前後ノ距離五尺ヨリ少カラス十尺ヨリ多カラサル樣其ノ一燈ヲ他燈ノ下方ニ裝置シ其ノ下燈ハ網ノ方向ニ揭クヘシ其ノ兩燈ハ周回少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキ紅燈一箇ヲ揭クヘシ

三　帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正橫後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ

他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサル船舶ハ本條第一項及第二項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スヘカラス

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必スシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其ノ信號ヲ爲ササルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

四　漁船ハ本條ニ規定シタル燈ヲ揭ケ及之ヲ表示スル外何時ニテモ閃火ヲ用キ且漁業用ノ燈火ヲ用ウルヲ得

長サ百五十尺未滿ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭クヘシ

長サ百五十尺以上ノ漁船碇泊中ノ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭ケ且第十一條ニ規定シタル白燈一箇ヲ增揭スヘシ

長サ百五十尺未滿ナルト百五十尺以上ナルトヲ問ハス碇泊中ノ漁船漁網其ノ他ノ漁具ヲ結著シタルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルトキ碇泊燈ノ下方少クモ三尺ヲ隔テ且漁網其ノ他ノ漁具ノ方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ增表スヘシ

五　漁船漁業ニ從事中漁具ノ岩礁其ノ他障碍物ニ纏著シタル爲メ停留スルトキハ晝間ニアリテハ第十二條ニ規定スル晝間信號ヲ引下シ夜間ニアリテハ碇泊船ト同一ノ燈ヲ表示シ又霧中降雪其ノ他暴雨中ハ碇泊船ニ對シテ規定シタル霧中信號ヲ爲スヘシ（第十五條第四項及末項參照）

霧中降雪其ノ他暴雨中流シ網打タセ網桁網又ハ延繩ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ハ汽船ニアリテハ汽笛若ハ汽角帆船ニアリテハ號角ヲ用キ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ一聲ヲ發シ之ニ續キテ鐘チ鳴ラスヘシ總積量二十噸未滿ノ漁船ハ必スシモ此ノ信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ之ヲ爲ササルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ有效ナル音響信號ヲ爲スヘシ

十　網延繩又ハ打タセ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶航行中晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ籃其ノ他ノ信號ヲ揭ケ近寄リ來ル他船ニ其ノ漁業中ナルコトヲ表示スヘシ若シ碇泊中ノ船舶漁具ヲ投下セルトキハ他船ノ近寄リ來リタルトキ同樣ノ信號ヲ他船ノ航過シ得ル舷側ニ於テ表示スヘシ

本條ニ依リ特ニ規定シタル燈ヲ揭ケ又之ヲ表示スルヲ要スル船舶ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ揭クルニ及ハス

第十條　他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ

本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ豫メ船尾ニ揭置クヲ得然レトモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ鍍盤ノ十二點間ヲ照スヘク及フヘキ樣隔板ヲ裝置シ成ルヘク舷燈ト同一ノ高サニ揭クヘシ

第十一條　長サ百五十尺未滿ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ超エサル所ニ白燈一箇ヲ揭クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要スル長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ揭ケ且船尾若ハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ揭クヘシ

總積量二十噸以上ノ船舶ハ汽船ニアリテハ汽笛若ハ汽角帆船ニアリテハ號角ヲ用キ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ一聲ヲ發シ之ニ續キテ鐘チ鳴ラスヘシ總積量二十噸未滿ノ漁船ハ必スシモ此ノ信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ之ヲ爲ササルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ有效ナル音響信號ヲ爲スヘシ

第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外延繩ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ニ當リ延繩ヲ結著シ又ハ之ヲ曳入ルル船舶ニシテ碇泊セス又ハ第八ニ依リ停留セサルモノハ流シ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ト同一ノ燈ヲ揭ケ又ハ之ヲ曳繩ヲ用ウルモノハ其ノ船ノ種類ニ應シ航行中ノ汽船又ハ帆船ニ對シテ規定シタル燈ヲ揭ケ又之ヲ表示スルヲ要スル船舶ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ揭クルニ及ハス

第十條　他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ

本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ豫メ船尾ニ揭置クヲ得然レトモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ鍍盤ノ十二點間ヲ照スヘク及フヘキ樣隔板ヲ裝置シ成ルヘク舷燈ト同一ノ高サニ揭クヘシ

第十一條　長サ百五十尺未滿ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ超エサル所ニ白燈一箇ヲ揭クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要スル長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ揭ケ且船尾若ハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ揭クヘシ

本條船舶ノ長サハ本船船籍證書面ノ長サニ依ルヘシ

船路若ハ其ノ最寄ニ於テ乘揚ケタル船舶ハ本條白燈ノ外尙第四條第一項ニ規定シタル紅燈二箇ヲ揭クヘシ

第十二條　各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尙閃火ヲ發シ或ハ難船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得

第十三條　本法船舶ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラルル船舶ニ增揭スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ケス又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ケス

第十四條　汽船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ煙突ヲ引下ケサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色形象一箇ヲ揭クヘシ

霧中信號

第十五條　航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ

汽船ハ汽笛若ハ汽角

帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物アキ所ニ裝設シ且號鐘及機關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同樣ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

一　汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ

二　汽船航行中運轉力止メテ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其ノ二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

三　帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正橫後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

四　船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ

五　他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサル船舶ハ本條第一項及第二項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スヘカラス

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必スシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其ノ信號ヲ爲ササルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

霧中速力

第十六條　霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ

汽船其ノ正橫ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ所在ヲ定メ得サルトキハ成ルヘク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至ルマテ其ノ運航ニ注意スヘシ

航方

衝突ノ危險ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄リ來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其ノ方位慥ニ變更スルヲ認メサルトキハ危險アルモノト知ルヘシ

第十九條　二艘ノ汽船互ニ航路ヲ橫切リ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條　帆船ト汽船ト互ニ近寄リ衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條　本法航方ニ依リ二船ノ內一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

一　一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

二　左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シカラサルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

五　船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條　二艘ノ汽船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ錢路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキニ限リ適用スヘシ兩船各其ノ錢路ヲ保チテ互ニ替リ行クトキハ適用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢ヒタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ五ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我錢路ヲ橫切リテ我船ノ前面ニ見ユルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシテ紅燈ヲ見或ハ紅舷ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス

第十九條　二艘ノ汽船互ニ航路ヲ橫切リ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條　帆船ト汽船ト互ニ近寄リ衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條　本法航方ニ依リ二船ノ內一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

一　一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

二　左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シカラサルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

五　船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條　二艘ノ汽船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ錢路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキニ限リ適用スヘシ兩船各其ノ錢路ヲ保チテ互ニ替リ行クトキハ適用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢ヒタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ五ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我錢路ヲ橫切リテ我船ノ前面ニ見ユルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシテ紅燈ヲ見或ハ紅舷ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス

第十九條　二艘ノ汽船互ニ航路ヲ橫切リテ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條　帆船ト汽船ト互ニ近寄リ衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條　本法航方ニ依リ二船ノ內一船ヨリ他船ノ航路及速力ヲ保ツヘシ

但シ他船ニ於テ天氣密濛又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ航路ヲ避クル船ノ處置ノミニテハ衝突ヲ避ケ能ハサル程兩船接近シタルコトヲ認ムルトキハ自ラ赤臨機衝突ヲ避クルニ至當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十二條　本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ船ハ成ルヘク他船ノ前面ヲ橫切ルヘカラス

第二十三條　本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄リタルトキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

第二十四條　總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ想定ニ拘ハラス他船ノ航路ヲ避クヘシ

總テ他船ノ兩舷正橫後ノ二點以外即チ夜間ニアリテ舷燈ヲ見難キ位置ヨリ其ノ船ヲ追越サントスル船舶ハ之ヲ追越船ト爲シ其ノ後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其ノ追越船ヨリ見テ本法ノ航路橫切船ト爲サス故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマテ他船ノ航路ヲ避クヘキモノトス

晝間他船ヲ追越サムトスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ內外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看做シテ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十五條　汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十六條　航行中ノ帆船ハ網或ハ繩ヲ用キテ漁業ニ從事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但シ漁船ト雖ヲ他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨クヘカラス

第二十七條　本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若危險切迫シテ本法ヲ履行シ得サル特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

附　則

第三十二條　本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十三條　本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

第三十四條　明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年五月第三十三號布告同規則追加同十八年八月第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第七款　船舶信號及通報

◉朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ信號ニ關スル件

大正三年五月
總令第八十六號

朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ハ遞信省ニ於テ發行スル改正增補萬國船舶信號書ニ據リ普通信號ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮船舶通報規則

大正四年三月
總令第二十三號
改正　大正九年五月第七號

朝鮮船舶通報規則左ノ通定ム

第一條　朝鮮船舶通報規則

朝鮮ト內地（小笠原島、臺灣及樺太間ニ發受スル船舶通報ノ取扱ニ關シテハ本令ニ依ル

第二條　船舶通報ヲ別チテ左ノ二種トス

一　通過報

二　信號報

第三條　通過報トハ特ニ指定スル燈臺ノ附近ヲ通過スル船舶ニ關シ和文電報ヲ以テ請求者ニ左ノ事項ヲ通知スルモノヲ謂フ

一　船名

二　通過時分

第四條　信號報トハ船舶所有者又ハ其ノ代理人ト船長トノ間ニ於ケル通信ニシテ特ニ指定スル燈臺ニ於テ其ノ附近ヲ通過スル船舶ノ發聲ヲ謂フ

航行中ノ汽船他船ニ近寄リ錨路ヲ變セムトスルトキハ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ錨路ヲ通知スヘシ

短聲一發　我船錨路ヲ右舷ニ取ル
短聲二發　我船錨路ヲ左舷ニ取ル
短聲三發　我船全速力ニテ後退ス
懈怠ノ責

第二十九條　本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果ニ付船、船主、船長海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメサルモノトス

特　例

第三十條　本法ハ行政官廳ニ於テ規定シタル港、川其ノ他內海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス

難船信號

第三十一條　危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別別ニ使用スヘシ

晝間信號

一　大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス

二　萬國船舶信號書ニ揭載スルNCノ難船信號ヲ表示ス

三　方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ揭クル遠隔信號ヲ表示ス

四　霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號

大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス

二　船上ノ發焰（ストール燈、油燈等ヲ總稱スルノ類）

三　星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツツ度度打揚ク

四　霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

傳送シ燈臺ニ於テハ之ヲ船舶ニ通達ス

第十五條　船舶ニ於テ信號報ヲ發セムトスルトキハ其ノ旨ヲ燈臺ニ信號スヘシ但シ信號報ノ受信者ハ第十一條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第十六條　燈臺ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ和文電報ヲ以テ之ヲ第十條ノ電信局所ニ傳送シ電信局所ハ之ヲ受信者ニ配達ス

第十七條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十八條　信號報ヲ船舶ニ通達シ能ハサルトキハ之ヲ發信者ニ通知ス

前項ノ場合ニ於テ信號料ハ納付人ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第十九條　船舶通報ニ關シ燈臺ト船舶トノ間ニ於ケル信號ハ晝間ニ限リ之ヲ行ヒ其ノ方法ハ萬國船舶信號書ノ定ムル所ニ依ル但シ船舶所有者又ハ其ノ代理人ノ請求ニ依リ通過報ニ限リ燈臺ニ於テ夜間信號ヲ受クルコトアルヘシ

通過報ノ夜間信號ハ船舶所有者又ハ其ノ代理人ニ於テ特定信號ヲ定メ豫メ朝鮮總督府遞信局ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第二十條　船舶通報ニ關係ヲ有スル船舶特ニ指定シタル燈臺ニ接近シタルトキハ國旗及信號符字ヲ揭ケヘシ

第二十一條　本令中料金ノ徵收又ハ還付ニ關シ明文ナキ事項ハ總テ電信規則ヲ準用ス

第二十二條　船舶通報ノ受信者住所ニ異動ヲ生シタルトキハ請求書ヲ提出シタル電信局所ニ其ノ旨ヲ屆出ヘシ

受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタルトキハ其ノ船舶通報取扱ノ請求ハ消滅シタルモノト看做ス

第二十三條　燈臺以外ノ場所ニ於テ船舶通報ノ取扱ヲ爲ストキハ本令ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮船舶通報ニ關スル事務ヲ取扱フ燈臺

大正四年三月
總告第六十九號
改正　大正六年八月第二三號

左記燈臺ニ於テ大正四年四月一日ヨリ朝鮮船舶通報ニ關スル事務ヲ取扱フ

但シ夜間通過ノ信號ニ之ヲ取扱ハス

燈臺名	位置
絕影島燈臺	慶尙南道絕影島
港門島燈臺	全羅南道所安群島

第八款　航路標識

◉朝鮮航路標識規則

大正七年十月
總令第百號

朝鮮航路標識規則左ノ通改正ス

第一條　朝鮮ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲朝鮮總督府ニ於テ之ヲ設置ス

第二條　土地ノ狀況ニ因リ地方費又ハ府面ノ費用ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得

前項ニ依リ航路標識ヲ設置セムトスルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケヘシ其ノ位置又ハ性質ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三條　航路標識ノ設置ノ許可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附シヘシ

一　位置ヲ記載シタル書面

二　構造方法書

三　工事費概算書

四　工事設計圖

五　位置及附近ノ狀況ヲ示セル圖面

六　最近一年間ニ於ケル通過又ハ出入ノ船舶數調書

七　管理及維持方法書

航路標識ノ位置變更ノ許可申請書ニハ前項第一號及第五號ノ書類及圖面ヲ、性質變更ノ許可申請書ニハ第二號乃至第四號及第七號ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

第四條　航路標識ノ設置又ハ變更ノ許可ヲ受ケタル者供用ヲ開始セムトスルトキハ其ノ期日十四日前ニ之ヲ朝鮮總督府遞信局長官ニ屆出ツヘシ

第五條　第二條ノ航路標識ヲ停止又ハ廢止セムトスルトキハ其ノ期日ヲ定メ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　第二條ノ航路標識ノ看守ニ從事セシムル爲地方費又ハ府面ノ費用ヲ以テ看守員ヲ置クヘシ

前項ノ航路標識看守員ヲ採用シタルトキハ其ノ履歷書ヲ具シ朝鮮總督府遞信局長官ニ屆出ツヘシ

第七條　第二條ノ航路標識ニ於テ使用スル燈油其ノ他點燈用ノ消耗品ニ付テハ豫メ朝鮮總督府遞信局長官ノ承認ヲ受クヘシ

第八條　朝鮮總督ニ於テ第二條ノ航路標識不完全ニシテ危險ノ虞アリト認ムルトキハ其ノ廢止、修理其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　航路標識ヲ損壞シ若ハ移轉シ又ハ其ノ性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲ爲シ又ハ朝鮮總督ノ指定シタル區域內ニ於テ航路標識ノ燈光若ハ聲號ト誤認シ易キ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　航路標識ニ船筏其ノ他ノ物ヲ繫留シ若ハ衝突セシメ又ハ墜壞シ若ハ之ヲ汚穢シタル者ハ之ヲ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉鴨綠江航路ヲ航行スル船舶ノ注意事項

大正六年十一月
總告第二百五十二號

鴨綠江航路ヲ航行スル船舶ハ左記各項ニ注意スヘシ

大正二年朝鮮總督府告示第二百十八號ハ之ヲ廢止ス

一　本航路ハ大潮或ハ增水ノ場合殊ニ夏季出水ノ際ニハ水深ノ變化及沙堆ノ伸縮又ハ變位等極リナキコト

二　本航路ノ水道ハ平時ニ於テモ屢水路ノ變化ヲ生スルコトアリ且最低潮時ノ水深二呎以下ノ箇所アルヲ以テ半潮時以上ニ非サレハ航行甚困難ナルコト

龍岩浦以北ニ潮航セムトスル船舶ハ西水道ヨリスルヲ可トスルコト

三　本航路ヲ航行セムトスル船舶ノ喫水ハ左ニ揭クルモノヲ超エサルヲ可トスルコト

（一）安東縣ニ至ル間　高潮時ニ於テ十呎

（二）龍岩浦ニ至ル間　同　十三呎

（三）第三號浮標ヨリ多低潮時ニ於テ壹呎

（四）大東溝ニ至ル間高潮時ニ於テ十六呎

四　本航路ニ於ケル龍岩浦錨地ハ水路變遷ノ結果水深ヲ減シ船舶ノ碇泊不可能ナルヲ以テ此ノ附近ニ於テ碇泊セムトスルモノハ斗流浦ノ西側附近及黃草坪ノ東側以南ニ於テ深所ヲ選ミ他船ノ航行ヲ妨ケサル樣碇泊スルコト

五　本航路ノ浮標ハ每年結氷中一時之ヲ撤去シ解氷後ニ至リ漸次之ヲ碇置スルモノナルコト

六　本航路ノ浮標ハ增水ノ爲一時之ヲ撤去シタル場合ハ減水後ニ至リ之ヲ碇置スルモノナルコト

七　本航路ノ浮標ハ沙堆ノ位置及水深ノ變更ニ伴ヒ隨時之ヲ增減變更スル場合アルコト

八　本航路ノ標識ハ流勢、風雨、潮浪其ノ他ノ事故ニ依リ流失、流轉、倒壞其ノ他異狀アリタル場合ハ發見後之ヲ再置スル迄多少ノ日時ヲ要スルコト

九　本航路ノ航路標識ニ付テハ著シク位置、構造等ノ變更シタルモノニ限リ之ヲ告示スルモノナルコト

十　本航路ニ於テ水路ノ嚮導ヲ受ケムトスル船舶ハ其ノ關係者又ハ船長ヨリ電報其ノ他ノ方法ヲ以テ嚮導者ノ乘込ヲ要スル場所、日時、嚮導區域及出入別等ヲ其ノ二日前迄ニ在龍岩浦鴨綠江水先人事務所ニ申

込ミ朝鮮水先令ニ依ル水先人ヲ得ルノ便宜アルコト

●朝鮮西岸大同江、廣梁灣及漢江ニ於ケル各航路ヲ航行スル船舶ノ注意事項

大正二年十二月
總督第四百十一號

朝鮮西岸大同江、廣梁灣及漢江ニ於ケル各航路ヲ航行スル船舶ハ左記各項ニ注意スヘシ

一　大同江航路ニ於ケル燈臺ハ毎年結氷中一時點燈ヲ停止シ解氷後ニ至リ點燈ヲ開始ス

大同江、廣梁灣及漢江ニ於ケル各航路ノ掛燈浮標竝浮標ハ毎年結氷中一時之ヲ撤去シ解氷後ニ至リ之ヲ碇置ス

一　大同江、廣梁灣及漢江ニ於ケル各航路標識ハ之ヲ新設若ハ撤廢シ又ハ燈質若ハ著シク位置等ヲ變更シタル場合ヲ除クノ外之カ告示ヲ爲サス

第九款　航行及港灣

●商法施行法第百二十二條ニ依リ湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍ニ關スル件

大正三年五月
總令第七十八號

商法施行法第百二十二條ニ依リ湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍ニ關スル件左ノ通定ム

湖川、港灣ノ範圍ハ平水航路ノ區域ニ依ル

沿岸小航海ノ範圍ハ全羅南道南溪洞ヨリ荏子島、飛禽島、薪島、加士島、珍島、作只島、青山島、草島、所里島、巨濟島及絕影島ヲ經テ慶尙南道蝟頭末ニ至ル線内トス

●漁業ニ從事スル船舶ニ關スル件

大正三年五月
總令第六十三號

漁業ニ從事スル船舶ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　船舶法第一條ノ日本船舶ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ不開港ニ出入スルコトヲ得但シ傳染病豫防上必要アリト認メ朝鮮總督ニ於テ其ノ最初ノ寄港地ヲ指定シタル場合ニ於テハ指定ニ反シ指定地以外ノ地ニ寄港スルコトヲ得ス

一　漁業ニ專用ノ船舶

二　漁業者ノ委託ヲ受ケ其ノ捕獲採取シタル水產物ノ運搬又ハ漁船ノ曳船ヲ爲ス爲內地及朝鮮間ヲ往來スル船舶

第二條　前條第二號ノ船舶ノ船長ハ寄港地ヲ管轄スル稅關長又ハ稅關支署長ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

第三條　前條ノ申請アリタル場合ニ於テハ稅關長又ハ稅關支署長ハ船內ノ檢查ヲ行ヒ差支ナシト認ムルトキハ別記樣式ノ許可書ヲ申請者ニ交付スヘシ

第四條　第二條ノ許可ヲ受ケタル船舶ハ第一條第二號ノ業務ノ範圍ニ屬スルモノヲ除クノ外朝鮮各港間ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　許可書ハ船內見易キ場所ニ之ヲ揭示スヘシ

第六條　第二條ノ許可ヲ受ケタル船舶其ノ業務ヲ廢止シタルトキハ許可ヲ受ケタル稅關ニ許可書ヲ返納スヘシ

第七條　許可書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ許可書ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ許可ヲ受ケタル稅關ニ其ノ書換又ハ再交付ヲ申請スヘシ

第八條　稅關官吏又ハ警察官吏ハ取締上必要アリト認ムルトキハ第一條第二號ノ船舶ニ臨檢シ又ハ船長ニ對シ尋問ヲ爲スコトヲ得

第八條ノ二　第一條第一號ノ船舶ハ本船舶ノ運送ヲ爲ス範圍ニ屬スルモノヲ除クノ外朝鮮各港間ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　第一條第二號ノ船舶許可ヲ受ケスシテ其ノ義務ニ從事シ又ハ第四條乃至第七條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八條ノ臨檢ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第十條　第二條ノ許可ヲ受ケタル船舶ノ船長其ノ他ノ乘組員カ法令又ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキハ稅關長又ハ稅關支署長ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十一條　本令中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前漁業者ノ委託ヲ受ケ其ノ捕獲採取シタル水產物ノ運搬又ハ漁船ノ曳船ヲ爲ス業務ニ關シ稅關ノ特許ヲ受ケタル者ハ本令施行ノ日ヨリ三月內ニ第二條ニ依リ許可ヲ申請スヘシ

稅關ノ特許ヲ受ケタル者ハ前項ノ申請ニ對シ許否ノ處分アル迄ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

（別記樣式）許可書

船種	船名		
船籍港	船舶番號		
檣ノ數	網具ノ裝置		
總噸數又ハ積石數			
所有者	原籍		
	住所		
	氏名		
船長	住所		
	氏名		
譽業者	住所		
	氏名		
寄港地			

大正　年　月　日

「稅關名」

●鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於ケル外國船舶ノ出入及運送ニ關スル件

大正十二年一月
總令第十二號

改正　大正六年一〇第七八號、八年八第一三三號、九年四第五五號

大正三年朝鮮總督府令第六十四號左ノ通改正ス

第一條　外國船舶ハ戎克船又ハ端舟其ノ他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ若ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ニ限リ道知事ノ許可ヲ受ケ左ニ揭クル場所ニ出入シ又ハ運送ヲ爲スコトヲ得

一　平安北道新義州府ヨリ上流鴨綠江沿岸但シ新義州府ト義州郡九龍浦トノ間ノ沿岸ヲ除ク

二　咸鏡北道慶興郡蘆西面土里ヨリ上流豆滿江沿岸

前項ノ許可ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　前條ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　申請者及船舶所有者ノ國籍、住所、氏名及年齡

二　船舶ノ種類、船名、總噸數又ハ積石數

三　船籍地

四　寄港地

五　航行區域

六　航行期間

第三條　第一條ノ許可ヲ與ヘタルトキハ附錄雛形ノ許可證ヲ交付ス

許可證雛形（材料木製）

船舶出入（運送）許可證

國籍、住所

氏名

年齡

船種	
船名	（總噸數又ハ積石數）
船籍地名	
寄港地名	

許可證ハ船內見易キ箇所ニ之ヲ標示スヘシ

第四條　第二條第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ道知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二條ノ規定ハ前項ノ許可申請ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ申請書ニ許可證ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條　第二條第一項第一號乃至第三號ノ事項ヲ變更シタルトキハ十日內ニ道知事ニ届出テ許可證ノ書換ヲ受クヘシ

第六條　道知事許可ヲ受ケタル者法令ニ違反シ又ハ公益上必要アリト認ムルトキハ許可ヲ取消シ又ハ取締上必要ナル指示命令ヲ爲スコトヲ得

第七條　本令ニ依リ道知事ニ提出スル申請書又ハ届書ハ主タル寄港地ヲ管轄スル警察官署ヲ經由スヘシ

第八條　第三條第二項、第四條第一項、第五條ノ規定若ハ第六條ニ依ル指示命令ニ違反シ又ハ虛僞ノ申請ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年朝鮮總督府令第六十三號ハ之ヲ廢止ス

右鴨綠江（又ハ豆滿江）ノ沿岸前記ノ場所ニ出入（運送ニ從事）スルコトヲ許可ス

本許可證ノ有效期間ハ許可ノ日ヨリ　箇月トス

大正　年　月　日

官署名印

●船舶法第一條等ノ日本船舶ノ不開港出入ニ關スル件

大正十二年三月
總令第六十三號

船舶法第一條等ノ日本船舶ノ不開港出入ニ關スル件左ノ通定ム

船舶法第一條又ハ臺灣船籍規則第一條ノ日本船舶ハ不開港ニ出入シ又ハ各港ノ間ニ於テ運送ヲ爲スコトヲ得但シ傳染病豫防上必要アリト認メ朝鮮總督ニ於テ其ノ最初ノ寄港地ヲ指定シタル場合ニ於テハ指定地以外ニ寄港スルコトヲ得ス

前項但書ノ規定ニ違反シタルトキハ船長又ハ船長ニ代リテ其ノ職ヲ行フ者ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年朝鮮總督府令第六十三號ハ之ヲ廢止ス

●稅關棧橋、繫船壁及船渠使用規則

大正十一年四月
總令第四十七號

改正　大正一三年一一第六三號、一三年一二第八三號

稅關棧橋、繫船壁及船渠使用規則左ノ通定ム

稅關棧橋、繫船壁及船渠使用規則

第一條　本令ニ於テ棧橋トハ鎭山稅關所屬ノ第一棧橋及第二棧橋ヲ、繫船壁トハ元山稅關支署所屬ノ繫船壁ヲ、船渠トハ仁川稅關支署及鎭南浦稅關支署所屬ノ船渠ヲ謂ヒ、稅關又ハ稅關長トアルハ第六條ニ規定スル場合ヲ除クノ外稅關支署所屬ノ繫船壁又ハ船渠ニ付テハ稅關支署又ハ稅關支署長トス

第二條　棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用セムトスル者ハ其ノ前日迄ニ第一號樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ但シ稅關ノ承認ヲ受ケタルトキハ使用開始前三時迄ニ申請書ヲ提出スルコトヲ得

定期航行船舶及常時棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用スル船舶ニ付テハ第二號樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ豫メ期間ヲ定メ使用ノ許可ヲ受クルコトヲ得

第三條　前條ノ許可ヲ受ケタル者其ノ使用時間ヲ變更セムトスルトキハ稅關ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　使用時間經過後引續キ棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用セムトスル者ハ時間終了前三時迄ニ第一號樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第五條　棧橋、繫船壁又ハ船渠ノ使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ船舶ノ登簿噸數一噸ニ付使用二十四時迄毎ニ二錢ノ割合ヲ以テ使用料ヲ前納スヘシ但シ一噸未滿ノ端數ハ之ヲ計算セス

前條ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ納付スヘキ使用料ハ最初使用ノ時ヨリ通算シタル使用時間ニ相當スル使用料額ヨリ既納ノ分ヲ控除シタル金額トス

第五條ノ二　使用料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ使用料ヲ納付セムトスル

者ハ納付書又ハ第一號樣式ノ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ提出スヘシ

第六條　稅關長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ承ケ定期航行船舶又ハ當時棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用スル船舶ニ付テハ期間ヲ定メ使用料ヲ減額シ又ハ納付方法ヲ定ムルコトヲ得

戰時軍用ノ船舶ニ付テハ稅關長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ使用料ヲ免除スルコトヲ得

第七條　既納ノ使用料ハ之ヲ還付セス但シ使用ノ許可ヲ取消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　稅關長ハ必要ト認ムルトキハ棧橋、繫船壁若ハ船渠ノ使用ヲ停止シ、使用ノ許可ヲ取消シ、繫留ノ場所ヲ變更シ又ハ一時棧橋、繫船壁若ハ船渠ヨリ離退セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用セサル時間ハ之ヲ使用時間ニ算入セス此ノ場合ニ於テハ使用時間終了後之ニ相當スル時間其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得

第九條　棧橋、繫船壁又ハ船渠ノ使用中ハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス但シ第一號及第二號ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テ稅關長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　船舶ノ修繕ヲ爲スコト

二　爆發質若ハ引火質ノ物品、石炭、荷足又ハ他物ヲ汚損スヘキ貨物ノ積卸ヲ爲スコト

三　荷足、灰燼、塵芥、汚物等ヲ水中ニ投棄スルコト

第十條　釜山稅關棧橋ノ使用ニ付テハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一　荷重ハ面積一坪ニ付第一棧橋ニ在リテハ其部ヨリ延長九十間ニ至ル海面沿幅五間ハ一千九十貫其ノ他ハ二百七十貫第二棧橋ニ在リテハ一千三百五十貫ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ス

二　第二棧橋ニ在リテハ中央二線ノ軌道上ニハ輕機關車以外ノ機關車、兩側ノ軌道上ニハ機關車又ハ自重共二十六噸以上ノ貨車ヲ通スルコトヲ得ス其ノ運轉速度ハ一時間六哩ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條　仁川稅關船渠閘門ノ開閉時ハ稅關長ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　本令ニ規定スルモノノ外稅關長ニ於テ必要ト認ムルトキハ棧橋、繫船壁又ハ船渠ノ使用ニ關シ制限ヲ設クルコトヲ得

第十三條　故意又ハ過失ニ因リ棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ毀損シタルトキハ稅關長ハ其ノ毀損者ヲシテ之ヲ修繕セシムルコトヲ得

第十四條　漂流物又ハ沈沒品ニシテ棧橋、繫船壁又ハ船渠ノ使用ニ障害アリト認ムルトキハ稅關長ハ其ノ物件ノ所有者又ハ之ヲ投棄シ若ハ脫落セシメタル者ヲシテ除去セシムルコトヲ得

第十五條　棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用スル者本令ノ規定又ハ稅關長ノ命令ニ違反シタルトキハ稅關長ハ棧橋、繫船壁又ハ船渠ヨリ其ノ船舶ヲ離退セシムルコトヲ得

第十六條　第二條第二項ノ許可ヲ受ケタル者臨時代船ヲ使用セムトスルトキハ豫メ稅關ニ屆出ツヘシ

前項ノ臨時代船ノ使用料ハ本船ノ使用料ト同額トス

第十七條　仁川稅關船渠內ニ於テ貨物積卸ノ爲船舶ヲ使用セムトスル者ハ第三號樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ船舶ニ對シテハ使用料ヲ徵收セス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ繫船壁ハ大正十一年五月一日ヨリ之カ使用ヲ開始ス釜山稅關棧橋使用規則及仁川船渠使用規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前棧橋又ハ船渠ノ使用ノ許可ヲ受ケタル者及本令施行ノ際現ニ船渠ヲ使用スル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第一號樣式

備考　用紙寸法　縱七寸　橫一尺一寸　輪廓寸法　許可書縱五寸　橫三寸五分　申請書縱五寸　橫五寸

書請申可許使用　棧橋　繫船壁　船渠　番號——

船種船名	
船主又ハ傭船者	
總噸數	
登簿噸數	
船ノ長及幅	
吃水	
繫留場所	
使用時間	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
使用料	圓
申請者住所氏名	

年　月　日

稅關

書可許使用　棧橋　繫船壁　船渠　番號——

船種船名	
船主又ハ傭船者	
總噸數	
登簿噸數	
船ノ長及幅	
吃水	
繫留場所	
使用時間	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
使用料	圓
申請者住所氏名	

年　月　日

稅關

備考　用紙寸法　縱七寸　橫一尺一寸　輪廓寸法　許可書申請書共各縱五寸　橫四寸

第二號樣式

書請申可許使用船舶　番號——

船種船名	
船主又ハ傭船者	
總噸數積石數	
登簿噸數	
船ノ長及幅	
吃水	
繫留場所	
使用料	
使用時間	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
申請年月日	
申請者住所氏名	印

書可許使用船舶　番號——

船種船名	
船主又ハ傭船者	
總噸數積石數	
使用ノ目的	
使用期間	
申請者住所氏名	

年　月　日

仁川稅關

備考　用紙寸法　縱七寸　橫一尺一寸　輪廓寸法　許可書申請書共各縱五寸　橫四寸

第三號樣式

書請申可許使用船舶　番號——

船種船名	
船主又ハ傭船者	
總噸數積石數	
船ノ長及幅	
使用ノ目的	
使用期間	
申請年月日	
申請者住所氏名	印

書可許使用船舶　番號——

船種船名	
船主又ハ傭船者	
總噸數積石數	
使用ノ目的	
使用期間	
申請者住所氏名	

年　月　日

仁川稅關

●稅關所屬曳船使用規則

大正七年五月
總令第四十八號

改正　大正七年一〇第九九號、一一年四第四八號、一一年六第三號

釜山稅關所屬曳船使用規則左ノ通定ム

第一條　稅關所屬曳船使用規則釜山稅關桟橋ニ船舶ノ繫離ノ爲又ハ仁川稅關船渠ニ船舶出入ノ爲稅關所屬ノ曳船ヲ使用セムトスル者ハ別記樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第二條　曳船使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ曳船一隻ニ付一時迄毎ニ四圓ノ割合ヲ以テ使用料ヲ稅關ニ納付スヘシ

必要アリト認ムルトキハ曳船ノ使用ヲ停止又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第四條　曳船ノ曳船作業ニ從事中其ノ船舶ニ生セシメタル損害ニ付テハ稅關ハ其ノ責ニ任セス

第五條、第四條、第六條、第七條及第十三條ノ規定ハ曳船ノ使用ニ付之ヲ準用ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（大正十一年六月總令第九十三號）

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

別記樣式

（甲）　番號

書請申用使船曳所屬關稅

下記船舶ニ對シ曳船使用許可相成度申請候也
大正　年　月　日
住所
申請者　印

船種船名	
船主又ハ傭船者	
曳船使用隻數	
曳船使用時間	日　時　分ヨリ 日　時　分マテ
使用料	
備考	

許可ヲ受ケタル使用期間滿了後引續キ使用ノ申請ヲ爲ス場合ハ備考欄ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ。

番號

書許可用使船曳所屬關稅

下記船舶ニ對シ曳船使用ヲ許可ス
大正　年　月　日
何何稅關　印

船種船名	
船主又ハ傭船者	
曳船使用隻數	
曳船使用時間	日　時　分ヨリ 日　時　分マテ
使用料	
備考	

第三號樣式

番號

仁川船渠使用申請書

日　月　年　正大ヨリ日　月　年　正大ニ對シ下記船舶
也候請申廢成相可許用使渠船川仁
大正　年　月　日
住所
申請者　印

船種船名	
船主又ハ傭船者	
登簿噸數	
船ノ長及幅	
船渠使用ノ目的	
備考	

番號

仁川船渠使用申請書

日　月　年　正大ヨリ日　月　年　正大ニ對シ下記船舶
ス可許ヲ用使渠船川仁
大正　年　月　日
仁川稅關　印

船種船名	
船主又ハ傭船者	
登簿噸數	
船渠使用ノ目的	
備考	

（乙）

番號

書請申用使船曳所屬關稅

下記船舶ニ對シ曳船使用許可相成度申請候也
大正　年　月　日
住所
申請者　印

船種船名	
船主又ハ傭船者	
曳船使用隻數	
曳船使用時間	日　時　分ヨリ 日　時　分マテ

番號

書許可用使船曳所屬關稅

下記船舶ニ對シ曳船使用ヲ許ス可
大正　年　月　日
何何稅關　印

船種船名	
船主又ハ傭船者	
曳船使用隻數	
曳船使用時間	日　時　分ヨリ 日　時　分マテ

第十款　航空

●航空法

大正十年四月
法律第五十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル航空法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

航空法

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ航空機トハ人ノ搭乘シ得ル氣球、風、航空船及飛行機ヲ謂フ

本法ニ於テ航空トハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ著陸トハ離水又ハ著水ヲ包含ス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ所有スル航空機ハ之ヲ日本航空機トス

一　日本國又ハ日本ノ公共團體

二　日本臣民

三　日本法令ニ依リ設立シタル會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民タルモノ

四　前號ニ揭ケル法人以外ノ法人ニシテ日本法令ニ依リ設立シ其ノ代表者ノ全員カ日本臣民タルモノ

第三條　本法ハ本章及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ヲ除ク外軍用航空機ニ之ヲ適用セス

國ノ使用ニ供スル航空機ニ付テハ第二十一條、第二十八條乃至第三十條、第三十三條、第三十四條及第四十條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第四條　航空ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章　航空機ノ檢査及登錄

第五條　航空機ヲ製造スル者ハ其ノ設計、材料、部分品、技功及製品ニ付行政官廳ノ檢査ヲ受クヘシ

堪航證明書ヲ航空機ノ所有者ハ其ノ航空機ニ付行政官廳ノ檢査ヲ受クヘシ

前二項ノ檢査ニ合格シタル航空機ニ對シテハ堪航證明書ヲ交付ス

第一項及第二項ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル航空機ニ之ヲ適用セス

第六條　堪航證明書ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

一　堪航證明書ニ記載シタル有效期間ヲ經過シタルトキ

二　第十四條第一項ノ規定ニ依リ航空機ノ使用ノ禁止ヲ命シタルトキ

前項第一號ノ有效期間ハ前條ノ檢査ニ合格シタル日ヨリ起算シ六月以內ニ於テ行政官廳之ヲ定ムル有效期間ハ第十一條ノ檢査ノ結果ニ依リ檢査ノ日ヨリ起算シ六月以內ニ於テ行政官廳之ヲ延長スルコトヲ得

第七條　第五條ノ檢査ニ合格シタル航空機ノ所有者ハ行政官廳ニ其ノ航空機ノ登錄ヲ申請スルコトヲ得

航空機ノ登錄事項ハ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登錄記號其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項トス

登錄シタル事項ニ變更アリタルトキハ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以內ニ行政官廳ニ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

登錄シタル航空機ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登錄記號其ノ他ノ登錄事項ヲ記載シタル登錄證明書ヲ交付ス

第八條　航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以內ニ行政官廳ニ堪航證明書ヲ返付スヘシ

一　滅失又ハ破壞シタルトキ

二　解撤セラレタルトキ

三　其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

登錄シタル航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以內ニ行政官廳ニ登錄證明書ヲ返付スヘシ

一　滅失又ハ破壞シタルトキ

第十七條　乘員ハ技倆證明書及航空免狀ヲ携帶スルニ非サレハ運航ニ從事スルコトヲ得ス

第十八條　行政官廳ハ乘員ニ對シ定期又ハ臨時ニ檢査ヲ爲スコトヲ得

第十九條　第十五條第一項ノ規定ハ飛行場又ハ飛行場ノ設備ヲ爲スヘシ

第二十條　行政官廳ハ乘員引續キ六月以上運航ニ從事セサルトキ、第十八條ノ檢査ノ結果又ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ航空免狀ヲ返付スヘシ

第四章　飛行場及其ノ經營者

第二十一條　飛行場ヲ設置セムトスル者、其ノ區域ヲ變更セムトスル者又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ廢止セムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供セサル飛行場ニ變更シ又ハ公共ノ用ニ供セサル飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル飛行場ニ變更セントスル者亦同シ

第二十二條　公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第二十三條　公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ飛行場ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得ス

第二十四條　行政官廳ハ飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲リ又ハ飛行場ノ經營者ニ對シ必要ナル航空標識ノ設置ヲ命スルコトヲ得

飛行場ノ經營者ハ前項ノ航空標識ノ設置又ハ維持ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ日出後日沒前ニ限リ他人ノ土地ニ立入リ若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ經營者ハ豫メ其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ其ノ旨通知スヘシ

飛行場ノ經營者ハ第一項ノ航空標識ノ維持ノ爲緊急ノ必要アルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス他人ノ土地ニ立入リ若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ豫メ其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ通知スヘシ

第二十五條　前條ノ規定ニ依ル立入、除去又ハ使用ニ因リ生シタル損害ハ飛行場ノ經營者之ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依ル補償ノ金額ニ關シ協議調ハサルトキハ行政官廳ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條　第二十四條第三項及前條ノ規定ハ許可又ハ屆出ニ關スル規定ヲ除ク外軍用ニ供スル飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノアルトキ必要ナル航空標識ヲ設置又ハ維持スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ他人ノ運航スル航空船又ハ飛行機ニ對シ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ經營者ハ其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムトスルトキハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケヘシ

第二十八條　公共ノ用ニ供セサル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他人ノ運航スル他人ニ屬スル航空機ヲシテ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸セシムルコトヲ得ス

第五章　航空及運送

第二十九條　航空船及飛行機ハ陸上ニ在リテハ飛行場ニ非サル場所、水上ニ在リテハ命令ヲ以テ禁止スル場所ニ於テ離陸又ハ著陸スルコトヲ得但シ故障若ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキ又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千「メートル」以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

前項ニ揭ケル場所ノ外航空ニ關スル制限又ハ禁止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條　戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ行政官廳ハ航空機ノ航空ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條　日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第三十三條　日本國外ヨリ發航シテ日本國内ニ至ル航空機又ハ日本國内ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スヘシ

第三十五條　日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ日本各地ノ間ニ於テ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ日本航空機ニ依リ運送業ヲ營ムコトヲ得ス

第六章　雜則

第三十七條　航空標識ノ用地又ハ公共ノ用ニ

二　俘虜セラレタルトキ
三　日本國籍ヲ喪失シタルトキ
四　其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ同時ニ抹消登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ抹消登錄ノ申請ナキトキ又ハ第二項第四號ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　登錄シタル航空機ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ國籍記號、登錄記號竝所有者ノ氏名名稱及住所ヲ表示スヘシ

第十條　航空機ハ前條ノ規定ニ依ル表示ヲ爲シ且堪航證明書及登錄證明書ヲ備附クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第十一條　行政官廳ハ定期又ハ臨時ニ航空機ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第十二條　第五條第一項第二項及第十條ノ規定ハ航空機ノ試驗ノ爲飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空ス航空機ニ關シテハ之ヲ適用セス

第十三條　第五條、第七條、第八條及第十一條ニ規定スルモノノ外航空機ノ檢査又ハ登錄ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　行政官廳ハ第十一條ノ檢査ノ結果航空機ノ使用ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ堪航證明書ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中堪航證明書ヲ領置ス

第三章　乘員

第十五條　航空機ノ乘員ニ非サレハ航空機ニ搭乘シテ其ノ運航ニ從事スルコトヲ得ス

乘員ハ技倆證明書及航空免狀ヲ有スルコトヲ要ス

第十六條　技倆證明書ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ行フ考査ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス技倆證明書ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空免狀ノ交付ヲ受クルコトヲ得

供スル飛行場ノ用地トスル爲必要ナル土地及水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

第三十八條　公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ一時ノ使用ニ供スルモノ又ハ有料借地ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條　關稅法中船舶、船長、船用品及海路運送竝之ニ關スル犯則事件ノ調査、處分及處罰ニ付テノ規定ハ航空機、航空機ノ長、航空機ノ機用品及航空機ニ依ル外國貨物ノ運送竝之ニ關スル犯則事件ノ調査、處分及處罰ニ付之ヲ準用ス但シ關稅法中開港トアルハ第三十四條ノ飛行場トス

第四十條　第三十三條ノ航空機カ故障又ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第三十四條ニ規定スル著陸ノ場所以外ニ著陸シタルトキハ稅關官吏其ノ地ニ在ル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏其ノ地ニ在ラサル場合ニ於テハ警察官吏ニ運滯ナク屆出ツヘシ

前項ニ規定スル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ離陸スルコトヲ得ス

第四十一條　日本國外ヨリ發航シテ日本國内ニ至ル航空機ニ關シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

前項ノ檢疫ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條　前條ノ規定ハ内地、朝鮮、臺灣相互間ニ付之ヲ準用ス

前項ノ内地ニハ樺太ヲ包含ス

第四十三條　航空機ノ救難及之ニ關スル處置ニ付テハ水難救護法ヲ準用ス

第四十四條　左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一　航空機ニ備附クヘキ日誌其ノ他ノ帳簿書類及附屬品其ノ他ノ物件ニ關スル事項

二　保安上又ハ軍事上ノ必要ノ爲航空機ニ搭載スルコトヲ制限又ハ禁止スル火藥類、寫眞機其ノ他ノ物件ニ關スル事項

三　航空機ニ關スル燈火及信號ニ關スル事項

四　航空ニ關スル保安上必要ナル制限及航空機ト航空機又ハ船舶トノ衝突豫防ニ關スル事項

五　航空標識及其ノ設置ニ關スル事項

六　飛行場ノ設備ニ關スル事項

第四十五條　當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機、飛行場又ハ格納庫ニ臨檢シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ備附ケ要スル帳簿書類及物件ニ關シ檢査ヲ爲スコトヲ得

第四十六條　當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機ノ離陸差止又ハ著陸ヲ命スルコトヲ得

第四十七條　朝鮮及臺灣ニ於テハ第三十七條第二項、第三十八條及第四十三條ノ規定ニ關シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七章　罰則

第四十八條　航空機識ヲ損壞シタル者又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無效タラシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條　詐偽ノ信號ヲ爲シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ航空ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第五十條　現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ヲ墜落、顚覆若ハ覆沒セシメ又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前條ノ罪ヲ犯シ因テ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顚覆、覆沒又ハ破壞ヲ致シタル者亦前項ノ例ニ同シ

第五十一條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第五十二條　過失ニ因リ航空ノ危險ヲ生セシメ又ハ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顚覆、覆沒又ハ破壞ヲ致シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

二　故ナク當該官吏ノ臨檢若ハ檢査ヲ拒ミ、妨若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者

第六十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第九條ノ規定ニ違反シテ航空機所有者ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虚僞ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

二　第十條ノ規定ニ違反シテ堪航證明書又ハ登錄證明書ヲ備附ケサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

三　第十七條ノ規定ニ違反シタル者

四　第二十條ノ規定ニ違反シタル者

第六十一條　第二十一條、第二十二條、第二十七條第一項、第二十八條、第三十四條乃至第三十六條又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二十三條ノ規定ニ違反シタル者

二　第二十七條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケスシテ使用料ノ請求ヲ爲シタル者

第六十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタル者

二　第七條第三項又ハ第八條第三項ノ規定ニ依ル登錄ノ申請ヲ怠リタル者

三　第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル堪航證明書又ハ登錄證明書ノ返付ヲ怠リタル者

四　第二十條第三項ノ規定ニ依ル航空免狀ノ返付ヲ怠リタル者

五　第四十條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者

前項ニ規定スル過料ハ法人ニ在リテハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス

第六十四條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一款　開港

●開港取締規則

大正四年七月
總令第七十二號

改正　大正九年三第二三號、一〇年五第九二號、一三年二第八號、一三年九第五六號

開港取締規則左ノ通定ム

第一條　開港ノ港界左ノ如シ

仁川港

猫角ヨリ大月尾島ノ北端ニ向ケ引キタル延長線、勿淄島ノ東端ヲ基準トシテ南微西二分ノ一西ニ引キタル一線、納島ノ南端ヨリ西四分ノ三南ニ引キタル一線及市街ノ南東ニ在ル百二十八呎山頂ヨリ納島ノ東端ニ引キタル一線以内

群山港

所雄串ヨリ南四分ノ三東ニ引キタル一線、堂末ヨリ後望山山頂ニ引キタル一線及龍堂ヨリ前望山挂燈立標ニ向ケ引キタル一線以内

木浦港

南角ヨリ高下島二百六十四呎山頂ニ引キタル一線、高下島二百四十呎山頂ヨリ四十二呎島ノ山頂ヲ經テ對岸ニ引キタル一線及牙山山頂ヨリ三鶴島ノ東端ヲ經テ務安半島ニ引キタル一線以内

釜山港

富民洞南端ヨリ絕影島大風浦ニ向ケ引キタル一線及廣嶺末ヨリ浮鳳末ニ引キタル一線以内

鎭南浦港

猪島百七十七呎山頂ヨリ北二分ノ一西ニ引キタル一線及望達里埼ヨリ北二分ノ一西ニ引キタル一線以内

新義州港

下端洞（灣頭ノ成化洞ニ當ル）目標ヨリ北微西二分ノ一西ノ對岸小沙河川口右岸ニ引キタル一線及三橋川川口目標ヨリ西ニ引キタル一線以内

龍巖浦港

獅子島二百五十呎山頂ヨリ加次島頂上ニ引キタル一線、加次島頂上ヨリ「クルミ」島頂上ヨリ長島頂上ヲ經テ延長シタル一線及三橋川川口目標ヨリ西ニ引キタル一線以内

元山港

連島里百三十六呎山頂ヨリ陽目川川口右岸ニ引キタル一線以内

清津港

高秣山突角ヨリ鰲城河川口（寄藺ノ福浦ニ當ル）ニ引キタル一線以内

城津港

沙津端ヨリ對岸厚里津山山頂ニ引キタル一線以内

雄基港

琵琶頂島東端ヨリ雄基山千三百三十一呎山頂ニ引キタル一線以内

前項ノ方位ハ眞方位トス

第二條　船舶ハ開港ヲ出入スルニ當リ日出ヨリ日沒迄ハ其ノ所屬國旗及信號符字ヲ揭揚シ日沒ヨリ日出迄ハ前檣上碇泊燈ヲ揭クル場所ニ白、紅、白ノ三燈ヲ上下ニ連揭スヘシ但シ定期郵便船ハ船主旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

入港ノ船舶ハ入港屆ヲ提出シタル後ニ非サレハ前項ノ國旗及信號符字若ハ船主旗又ハ船燈ヲ引下スヘカラス

出港屆ヲ提出シタル船舶ハ出帆旗ヲ揭揚スヘシ

第三條　入港屆ハ第一號書式ニ依リ著港後二十四時間內ニ、出港屆ハ第二號書式ニ依リ出港前ニ之ヲ警察署長ニ提出スヘシ但シ一定ノ日時ニ著發スル船舶ニシテ特ニ警察署長ノ許可ヲ受ケタルモノハ第三號書式ニ依リ著發屆ヲ提出スルヲ以テ足ル

第四條　一定ノ港津間ニ往復スル沿海通航船ニ付テハ船主ハ豫メ警察署長ノ許可ヲ受ケ入港及出港ニ關スル屆出ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第五條　入港船舶ハ下船スル船客ノ住所、職業、氏名、年齡、船室等級、乘船地及行先地ヲ記載シタル下船客名簿ヲ入港屆又ハ著發屆ニ添附スヘシ

警察署長必要ト認ムルトキハ出港セムトスル船舶ニ對シ前項ニ準シタル事項ヲ記載シタル乘船客名簿ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第六條　出港シタル船舶カ避難修繕其ノ他ノ事故ノ爲出港後十二時間內ニ歸港シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書ヲ警察署長ニ提出シ入港屆ニ代フルコトヲ得

第七條　入港シタル船舶ノ船長ハ警察署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他船又ハ陸地トノ間ニ於テ交通ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第八條　警察署長必要ト認ムルトキハ港界內ニ在ル船舶ノ碇泊所ヲ指定シ又ハ碇泊所ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ指定ヲ受ケ又ハ變更ヲ命セラレタル船舶ハ警察署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ碇泊所ヲ變更スルコトヲ得ス但シ天候其ノ他已ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク警察署長ニ屆出ツヘシ

第九條　港界內若ハ其ノ附近ニ碇泊シ又ハ航行スル船舶ハ日沒ヨリ日出迄海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ揭クヘシ

第十條　船舶ハ港界內又ハ其ノ附近ニ於テ他船ノ航行若ハ碇泊ヲ妨碍スヘカラス

警察署長ハ船舶ノ接キ出シタル「チプ、ブームス」カ他船ノ航行ヲ妨碍スルノ虞アリト認ムルトキハ之ヲ取込マシムルコトヲ得

第十一條　船舶港界內ヲ航行スルトキハ其ノ速力ヲ減シ又ハ曳船ニ依リ徐行スヘシ但シ汽艇ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　港界內ニ於テ汽艇又ハ櫓櫂ヲ以テ航行スル舟ハ汽船、帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第十三條　港界內ニ於テ曳船ヲ爲サムトスルトキハ警察署長ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外解船又ハ端舟ハ五艘、水船又ハ倉船ハ二艘、航洋船ハ一艘ヲ超ユルコトヲ得ス

警察署長取締上必要ト認ムルトキハ被曳船ノ船數ヲ特ニ制限スルコトヲ得

曳船ハ航路內ニ於テ被曳船ヲ放ツヘカラス

第十四條　港界內ニ於テ船舶二艘以上連航スルトキハ相當ノ距離ヲ保ツヘシ

船舶ハ濫ニ二艘以上竝列シテ航行シ又ハ航路內ニ於テ濫ニ他船ノ前路ヲ橫切リ若ハ追越スヘカラス

第十五條　港界內ニ於ケル岬角、埠頭、棧橋ノ突端又ハ碇泊船ノ一端ヲ同航スル船舶ノ之ヲ右舷ニ見テ航行スルトキハ小廻ヲ爲シ左舷ニ見テ航行スルトキハ大廻ヲ爲スヘシ

第十六條　警察署長必要ト認ムルトキハ總噸數五百噸以上ノ船舶ニ對シ港界內ニ於テ雙錨錨泊ヲ命スルコトヲ得

第十七條　港界內ニ在ル船舶ハ暴風雨襲來ノ虞アルトキハ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲シ尙汽船ニ在リテハ蒸氣ヲ發生セシムヘシ

第十八條　港界內ニ於ケル船舶ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ警察署長ノ許可ヲ受ケタルモノヲ除クノ外航路內ニ碇泊又ハ停船スヘカラス

一　港內ノ工事ニ從事スル船舶

二　難破物又ハ沈沒品ノ引揚ニ從事スル船舶

三　遭難船舶ノ救助ニ從事スル船舶

四　運轉ノ自由ヲ有セサル船舶

前項ノ船舶ハ航路內ニ碇泊又ハ停船中ハ海上衝突豫防法第四條第一項ニ規定シタル船燈又ハ形象ヲ揭クヘシ但シ總噸數二十噸未滿、積石數二百石未滿ノ船舶ニシテ警察署長ニ於テ特ニ標示ノ方法ヲ指示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　港界內又ハ其ノ附近ニ於テ船舶ヲ繫留、修繕又ハ休繫セムトスル者ハ豫メ其ノ旨ヲ警察署長ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察署長必要ト認ムルトキハ該船舶乘組員一部ノ殘留ヲ命スルコトヲ得

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警察署長ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　港界內ニ於テ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ

二　港界內又ハ其ノ附近ニ於テ雜破物又ハ沈沒品ノ引揚ヲ爲サムトスルトキ

三　港界內又ハ其ノ附近ニ於テ特設信號ヲ用キムトスルトキ

四　港界內又ハ其ノ附近ニ於テ五噸以上ノ船舶ヲ造水セムトスルトキ

五　港界內又ハ其ノ附近ニ於テ端艇ノ競漕會ヲ催サムトスルトキ

第二十一條　火藥類又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ常用ヲ超過シテ積載シ入港スル船舶ハ港界外ニ於テ檣頭其ノ他諸易キ場所ニ日出ヨリ日沒迄ハ紅燈ヲ揭ケ警察署長ノ指揮ヲ待ツヘシ但シ信號旗及紅燈ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ赤旗ヲ火藥旗ニ、赤色安全燈ヲ紅燈ニ代用スルコトヲ得

第二十二條　前條ニ於テ火藥類ト稱スルハ銃砲火藥類取締令施行規則第二十三條ニ規定スル火藥類ヲ謂ヒ船舶ニ設備スル大砲一門毎ニ火藥五十發分、雷管百五十箇及信號用ノ火藥百發分、雷管類七十箇、小銃一挺毎ニ火藥百發分、雷管百五十箇及信號用ノ榴彈、火筒、焰管、救命焰以外ノモノヲ常用外火藥類ト看做シ、容易ニ燃燒スヘキ物件ト稱スルハ生石油（「フルマで過ランダーリン」油ヲ含ム）、石油、「ナフタ」、「テレビンチン」油、「エーテル」、「ベンゾオール」、石油「ベンチン」、「アセトン」、酒精及硫化炭素ノ類其ノ他華氏九十五度以下ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ謂ヒ船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノヲ除クノ外常用外ト看做ス

第二十三條　常用外ナル火藥類又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ積卸セムトスル船舶ハ其ノ品名、數量ヲ警察署長ニ屆出テ其ノ指定シタル場所ニ於テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條　常用外ナル火藥類又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ニ付警察署長港界內ニ於テ積卸ノ場所ヲ指定シ難シト認ムルトキハ港界外ニ於テ適當ノ場所ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ指定シタル場所ハ港界內ニ在ルモノト看做ス

第二十五條　港界內又ハ其ノ附近ニ於テ海難修繕若ハ再設費用ヲ支辨スヘシ

第三十二條　第二條、第三條、第五條第一項、第六條、第八條第二項第三項、第九條、第十條第一項第三項、第十一條、第十二條、第十三條第一項、第十四條、第十五條、第十七條、第十八條、第十九條第一項、第二十條、第二十一條、第二十三條乃至第二十九條ノ規定ニ違反シタル者若ハ第五條第二項、第八條第一項、第十條第一項、第十九條第二項、第十二條第二項、第十三條第二項、第十六條、第十九條第二項又ハ第三十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第三十三條　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル船舶ニ係ル規定ニ付テハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者其ノ責ニ任ス

船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ船舶ノ乘組員カ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル場合ニ於テ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ他ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十四條　本令又ハ他ノ法令ニ依リ罰金、科料又ハ使用料ノ納付若ハ費用ノ支辨ヲ命セラレタル船舶ノ之ヲ完納スルカ又ハ當該官廳ニ於テ相當ト認ムル擔保物ヲ提供スルニ非サレハ警察署長ニ於テ其ノ出港ヲ差止ムルコトヲ得

前項ニ規定スル擔保物ハ金錢又ハ國債證券ニ限ル

第三十五條　廢船其ノ他船舶ニ等シキ形體ヲ有スル工作物ニハ本令中船舶ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條　第八條、第十條又ハ第二十九條ノ規定ハ內外國軍艦ニ之ヲ準用ス

第三十七條　第二條ノ規定ハ港海航路以下ノ帆船、平水航路ノ汽船及石數數船ニ之ヲ適用セス

第二條乃至第六條、第十九條及第二十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及櫓櫂ヲ以テ航行スル舟ニ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ大正四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十年五月總令第九十二號）

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十三年九月總令第五十六號）

本令ハ大正十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號樣式）

入港屆

一　船ノ種類
二　船名
三　船主
四　國籍
五　船籍港名
六　總噸數又ハ積石數
七　登簿噸數
八　取扱店
九　原發航地及最後發航地名竝發航年月日
十　當港陸揚貨物數及噸數
十一　最先到達地及最終到達地名
十二　出港見込日時

右大正　年　月　日　時　當港ニ入港候間此段及御屆候也

大正　年　月　日

（船名）　船長　某

警察署長宛

（第二號書式）

出港屆

一　船名

右大正　年　月　日　時（何地）ヘ向ケ當港出港可致候間此段及御屆候也

大正　年　月　日

（船名）　船長　某

警察署長宛

（第三號書式）

著發屆

（第一號書式記載事項第一號乃至第十二號ニ準ス）

右大正　年　月　日　時當港ニ入港致シ大正　年　月　日　時出港可致候間此段及御屆候也

大正　年　月　日

（船名）　船長　某

警察署長宛

●開港ニ於ケル港界表示ノ爲立標及浮標設置ノ件

大正五年四月
總告第十九號

開港ニ於ケル港界表示ノ爲立標及浮標ヲ設置ス其ノ立標、浮標及設置ノ場所左ノ如シ

（改正　大正一〇年一一第二四五號、一三年二第三五號）

仁川港
立標二
浮標一

納島、勿淄島
勿淄島ノ東端ヲ基準トシテ南微西二分ノ一西（眞方位以下之ニ倣フ）ニ引キタル一線ト納島ノ南端ヨリ西四分ノ三南ニ引キタル一線トノ交叉點

群山港
立標四

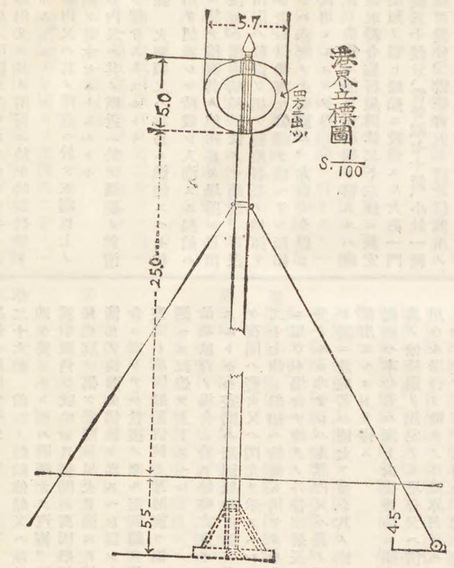
所雄串、所雄串ヨリ南四分ノ三東ニ引キタル一線ノ對岸、龍堂

浮標一

堂末ヨリ後望山山頂ニ引キタル一線ト龍堂ヨリ前望山挂燈立標ニ向ケ引キタル一線トノ交叉點

木浦港
立標三

高下島二百四十呎山頂ヨリ四十二呎島ノ山頂ヲ經テ引キタル一線ノ對岸、南角、牙山山頂ヨリ三鶴島ノ東端ヲ經テ引キタル一線ニ當ル務安半島



釜山港
立標四

富民洞南端、大風浦、廣鰐末、浮鳳末

鎭南浦港
立標三

猪島百七十七呎山頂ヨリ北二分ノ一西ニ引キタル一線ノ對岸、望遠里埼、望遠里埼ヨリ北二分ノ一西ニ引キタル一線ニ當ル無名島

新義州港
立標二

下端洞（海圖ノ細洞ニ當ル）ノ北三橋川川口

龍岩浦港
立標三

加次島、クルミ島、細島

元山港
立標一

陽日川川口右岸

清津港
立標一

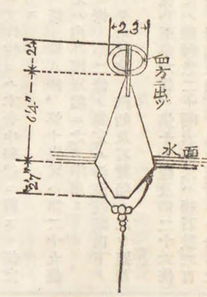
輸城河（海圖ノ細洞川ニ當ル）川口右岸

城津港
立標一

沙津端ヨリ厚里津山山頂ニ引キタル一線ニ當ル對岸

雄基港
立標二

琵琶頂島東端及同所ヨリ雄基山千三百三十一呎山頂ニ引キタル一線ニ當ル對岸



●雄基ヲ開港トスルノ件

大正十年五月
總令第九十一號

從來ノ開港ノ外咸鏡北道雄基ヲ開港トス

附　則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三章　電氣附瓦斯

●朝鮮電氣測定令

大正十二年四月
制令第十號

朝鮮電氣測定令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮電氣測定令

第一條　電流ノ測定ニ於テハ電氣抵抗ハ「オーム」、電流ハ「アムペア」、電壓ハ「ヴオルト」、電力ハ「ワット」、電量ハ「クーロム」、電氣容量ハ「ファラッド」、電氣誘導ハ「ヘンリー」、電氣仕事ハ「ジュール」ヲ以テ單位トス

「オーム」ハ氷ノ融解溫度ニ於テ質量一四・四五二一「グラム」長サ一〇六・三〇〇「センチメートル」ニシテ均一ナル切斷面積ヲ有スル水銀柱ノ不變電流ニ對スル電氣抵抗ヲ謂フ

「アムペア」ハ硝酸銀ノ水溶液ヲ通過シ毎秒〇・〇〇一一一八〇〇「グラム」ノ銀ヲ分離スル不變電流ヲ謂フ

「ヴオルト」ハ一「オーム」ノ電氣抵抗ヲ有スル導體ニ一「アムペア」ノ不變電流ヲ發生セシムル爲要スル不變電壓ヲ謂フ

「ワット」ハ一「ヴオルト」ノ電壓ニ於テ一「アムペア」ノ不變電流ニ依リ毎秒費サルル電氣勢力ヲ以テ表示スル電力ヲ謂フ

「クーロム」ハ一「アムペア」ノ電流ニ依リ一秒間ニ輸送サルル電量ヲ謂フ

「ファラッド」ハ一「クーロム」ノ電量ニ依リ一「ヴオルト」ノ電位ニ充電サルル蓄電器ノ電氣容量ヲ謂フ

「ヘンリー」ハ毎秒一「アムペア」ノ割合ヲ以テ變化スル電流ニ依リ一「ヴオルト」ノ電壓ヲ發生スル電路ノ電氣誘導ヲ謂フ

「ジュール」ハ一「アムペア」ノ電流ヲ一「オーム」ノ電氣抵抗ヲ有スル導體ヲ通過スルトキ一秒間ニ爲ス電氣仕事ヲ謂フ

第二條　不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流、電壓及電力ノ計算方法ハ左ノ如シ

一　不變電流以外ノ場合ニ於ケル實效電流ハ不變電流ニ對スル等價及實效電壓ハ不變電壓ニ對スル等價ノ其ノ瞬時値ノ自乘ノ平均ノ平方根ヲ以テ定ム

二　不變電流ニ「アムペア」ニ相當スル實效電流ヲ一實效「ヴオルト」ト稱シ不變電壓ニ「ヴオルト」ニ相當スル實效電壓ヲ

一實效「ヴオルト」ト稱ス

三　電力ハ其ノ瞬時値ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱左ノ如シ

「メグオーム」「オーム」ノ百萬倍
「マイクロオーム」「オーム」ノ百萬分ノ一
「キロアムペア」「アムペア」ノ千倍
「ミリアムペア」「アムペア」ノ千分ノ一
「マイクロアムペア」「アムペア」ノ百萬分ノ一
「キロヴオルト」「ヴオルト」ノ千倍
「ミリヴオルト」「ヴオルト」ノ千分ノ一
「マイクロヴオルト」「ヴオルト」ノ百萬分ノ一
「キロワット」「ワット」ノ千倍
「マイクロクーロム」「クーロム」ノ百萬分ノ一
「マイクロファラッド」「ファラッド」ノ百萬分ノ一
「ミリヘンリー」「ヘンリー」ノ千分ノ一
「マイクロヘンリー」「ヘンリー」ノ百萬分ノ一

「ワット」時ノ千倍
「ジュール」ノ三千六百倍
「キロワット」時

「ワット」時ノ千倍

第四條　本令ニ依ル電氣單位ハ主務官廳ニ保管スル標準器ニ依リ之ヲ現示ス

第五條　電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ハ檢定ヲ受クヘシ

電氣測定法ニ依リ檢定ニ合格シタル電氣計器ハ本令ニ依リ檢定ニ合格シタルモノト看做ス

第六條　電氣計器ノ公差及檢定ニ關スル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第七條　檢定ニ合格セス又ハ檢定ノ效力ヲ失ヒタル電氣計器ヲ電氣ノ取引ニ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　電氣ノ取引ニ於テ其ノ計量ヲ詐ルノ目的ヲ以テ不正ニ電氣計器ヲ使用シタル者ハ罰前條ニ同シ

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行前ヨリ引續キ電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ハ朝鮮總督ノ定ムル期間仍之ヲ使用スルコトヲ得

●朝鮮電氣測定令施行規則

大正十二年十月
總令第百二十四號

朝鮮電氣測定令施行規則左ノ通定ム

朝鮮電氣測定令施行規則

第一條　電氣計器ノ檢定ヲ受クムトスル者ハ第一號書式ノ申請書ニ計器及附屬器具ヲ添ヘ朝鮮總督府遞信局ニ提出スヘシ

附屬變成器ト共ニ提出シ檢定ニ合格シタル電氣計器ニ付檢定合格證書ノ日附ヨリ六年以內ニ更ニ檢定ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ附屬變成器ニ異狀ナキ場合ニ限リ前項ノ規定ニ拘ラス附屬器具中附屬變成器ヲ提出セサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該申請書ニ其ノ旨ヲ附記シ前回ノ檢定合格證書ヲ添附スヘシ

電氣計器附屬變成器ノ二次回路ニ電氣ノ取引ニ關係ナキ他ノ測定器ヲ接續シテ使用セムトスル場合ニハ第一項ノ申請書ニ電線接續圖ヲ添ヘ其ノ測定器モ提出スヘシ

第二條　檢定ニ不合格ト爲リタル電氣計器ヲ修繕又ハ調整シタルトキハ其ノ檢定ノ日ヨリ六月以內ニ第二號書式ニ依リ前條ニ準シ再檢定ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ檢定有效期間內ニ限リ再封印ノ申請ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三號書式ノ申請書ニ電氣計器及變成器以外ノ附屬器具並ニ檢定合格證書ヲ添ヘシ

一　檢定濟電氣計器ヲ掃除其ノ他ノ爲封印ヲ解除シ再ヒ使用セムトスルトキ

封印ノ解除ハ朝鮮總督府遞信局ニ於テ之ヲ行フ

再封印ヲ爲シタルトキハ其ノ檢定合格證書ノ裏面ニ其ノ旨ヲ記載ス

第四條　電氣計器ノ公差ハ百分ノ四トス

第五條　檢定ヲ行ヒタル電氣計器左ノ各號ニ該當スルトキハ之ヲ合格トス

一　公差ヲ超エサルモノ

二　遞信大臣ノ承認シタル型式ニ適合スルモノ

三　第七條乃至第九條所定ノ動作及裝置ニ關スル規定ニ適合スルモノ

第六條　積算電氣計器ノ誤差ノ試驗ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フ

一　規定電壓ニ於テ（交流ノ場合ニ在リテハ規定電壓、規定周波數及無誘導負荷ニ於テ）規定電流並其ノ二分ノ一及其ノ十分ノ一ヲ以テ試驗

二　規定電壓、規定電流及規定周波數ニ於テ力率二分ノ一ヲ以テ試驗ス但シ特ニ無誘導負荷ニ限リ使用スル計器ニ在リテハ本號ノ試驗ヲ省略ス

積算電氣計器以外ノ電氣計器ノ誤差ノ試驗ハ前項ニ準シ之ヲ行フ

第七條　積算電氣計器ノ始動電流ハ規定電壓ニ於テ（交流ノ場合ニ在リテハ規定電壓、規定周波數及無誘導負荷ニ於テ）規定電流三「アムペア」以下ノモノニ在リテハ規定電流ノ百分ノ三以下又規定電流三「アムペア」ヲ超ユルモノニ在リテハ規定電流ノ百分ノ二以下タルヘシ

第八條　電氣計器ニハ其ノ外函其ノ他適當ノ箇所ニ製造者名、番號、型ノ記號、電氣方式、電壓及容量又ハ電流竝交流ノ場合ニ在リテハ周波數ヲ表示スヘシ

第九條　電氣計器ハ鉛ヲ以テ封印シ得ル構造ヲ有シ且封印ヲ剝離セスシテ電路ニ接續シ得ル樣裝置シタルモノタルヘシ

運搬ニ際シ可動部分ノ緊束ヲ必要トスル電氣計器ニ在リテハ封印ヲ剝離セスシテ外部ヨリ之ヲ緊束シ得ル樣裝置シタルモノタルヘシ

第十條　檢定ニ合格シタル電氣計器ニハ封印ヲ爲シ其ノ檢定申請者ニ第四號書式ノ檢定合格證書ヲ交付ス

第十一條　檢定ニ合格シタル電氣計器ニ施スヘキ封印及附屬金屬片ノ趨形ハ左ノ如シ

表面

一　封印

表面

二　附屬金屬片

（輪廓內ノ數字ハ各計器ノ檢定番號ヲ表ハス）

裏面

直徑約四分

裏面

長　約八分七厘
幅　約三分五厘

（輪廓內ノ數字ハ左方ハ年右方ハ月ヲ表ハス）

第一條第二項ニ依リ提出セル電氣計器ニハ前項ノ封印及金屬片ノ外前回檢定ノ金屬片

チモ附ス

第一條第三項ニ依リ提出セル測定器ニハ第

甲ノ手數料ノ四分ノ一

丁　電壓計

イ　基本手數料　一箇ニ付　五十錢

ロ　規定電壓ニ依リ基本手數料ニ左ノ手數料ヲ附加ス

三百「ヴオルト」以下　五十錢

三百「ヴオルト」ヲ超ユルモノニ在リテハ三千「ヴオルト」以下ヲ增ス每ニ　五十錢

千「ヴオルト」以下ヲ增ス每ニ　五十錢

二　第二條ノ規定ニ依ル再檢定又ハ第三條ノ規定ニ依ル再封印ノ申請ヲ爲ストキ

甲　積算電氣計器　一箇ニ付

百「アムペア」以下　一圓

千「アムペア」以下　二圓

三千「アムペア」以下　四圓

六千「アムペア」以下　六圓

一萬「アムペア」以下　八圓

乙　指示電力計、力率計、最大負荷表示器、電流計

甲ノ手數料ノ二分ノ一

丙　電壓計　一箇ニ付

千「ヴオルト」以下　五十錢

千「ヴオルト」ヲ超ユルモノニ在リテハ三千「ヴオルト」以下ヲ增ス每ニ　五十錢

三　第十三條ノ規定ニ依ル再交付ノ申請ヲ爲ストキ

證書一通ニ付　二十五錢

前項ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼付シテ之ヲ納付スヘシ

第十五條　電氣計器ノ檢定ハ申請ニ依リ計器ノ所在地ニ於テ行フコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ申請者ハ第六條及第七條ノ試驗ヲ行フニ必要ナル設備ヲ爲シ檢定ニ要スル費用ヲ負擔スヘシ

第十六條　電氣事業者ハ第七號書式ノ帳簿ヲ備ヘ現ニ電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ノ檢定番號、檢定年月日、種類、製造者名、計器番號、格定及使用場所ヲ記載スヘシ

第十七條　電氣事業者ハ每年三月三十一日現在電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ノ箇數ヲ第八號書式ニ依リ四月三十日迄ニ朝鮮總督府遞信局長ニ屆出ツヘシ

第十八條　第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ朝鮮電氣測定令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

收入印紙　電氣計器檢定申請書　貼付シタル收入印紙ノ額　何圓何錢

一　計器ノ種類　積算電力計、積算電量計、最大負荷表示器等ノ區別

二　製造者名　何國何會社等

三　計器番號　計器製造番號

四　型式ノ承認セラレタル番號　型式ノ承認セラレタル番號

五　計器ノ型　誘導型、電動機型等ノ區別竝製造者ノ型ノ記號

六　格定　直交流ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、二線式三線式等ノ區別、電壓、電量(又ハ電流)周波數、負荷ノ性質

七　係數　一「キロワット」時ニ對スル圓板回轉數、圓板一回轉ニ要スル「ワット」時數

八　附屬器具　種類、製造者名、番號及格定ヲ記入ノコト

右朝鮮電氣測定令施行規則第一條ニ依リ電氣計器ノ檢定ヲ申請候也

住所　申請者名㊞

大正　年　月　日

朝鮮總督府遞信局長宛

注意

一　申請書ハ一計器每ニ記載ヲ要ス

一　朝鮮電氣測定令施行規則第一條第二項ノ規定ニ依リ附屬變成器ヲ提出セサル場合ニハ附屬器具ノ欄ニ其ノ旨附記スルコト

第二號書式

收入印紙　電氣計器再檢定申請書　貼付シタル收入印紙ノ額　何圓何錢

一　計器ノ種類

二　製造者名

三　計器番號

四　型式番號

五　計器ノ型

六　格定

七　係數

八　附屬器具

九　前回申請月日

右朝鮮電氣測定令施行規則第二條ニ依リ電氣計器ノ再檢定ヲ申請候也

住所　申請者名㊞

大正　年　月　日

朝鮮總督府遞信局長宛

注意

記載例ハ第一號書式ニ準據スルコト

第三號書式

收入印紙　電氣計器再封印申請書　貼付シタル收入印紙ノ額　何圓何錢

一　計器ノ種類

二　製造者名

三　計器番號

四　型式番號

五　計器ノ型

六　格定

七　係數

八　附屬器具

九　檢定合格證書番號

十　檢定番號

右朝鮮電氣測定令施行規則第三條ニ依リ電氣計器ノ再封印ヲ申請候也

住所　申請者名㊞

大正　年　月　日

朝鮮總督府遞信局長宛

注意

記載例ハ第一號書式ニ準據スルコト

一項雛形ノ金屬片ヲ附シ檢定合格證書ノ裏面ニ第五號書式ニ依リ其ノ測定器ノ種類、製造者名及番號ヲ記載ス

第十二條　檢定ノ有效期間ハ檢定合格證書ノ日附ヨリ五年トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ檢定ハ其ノ效力ヲ失フ

一　封印破損シタルトキ

二　第五條第一號又ハ第三號ニ該當セサルニ至リタルトキ

第十三條　檢定合格證書ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ第六號書式ニ依リ再交付ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十四條　第一條乃至第三條又ハ第十三條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　第一條ノ規定ニ依ル檢定ノ申請ヲ爲ストキ

甲　積算電氣計器

イ　基本手數料　一箇ニ付　二圓

ロ　規定電流及電壓ニ依リ基本手數料ニ左ノ手數料ヲ附加ス

規定電流

十「アムペア」以下　一圓

二十「アムペア」以下　二圓

五十「アムペア」以下　三圓

百「アムペア」以下　四圓

三百「アムペア」以下　六圓

五百「アムペア」以下　八圓

千「アムペア」以下　十二圓

二千「アムペア」以下　十七圓

三千「アムペア」以下　二十二圓

五千「アムペア」以下　三十圓

七千「アムペア」以下　三十八圓

一萬「アムペア」以下　五十圓

規定電壓三百「ヴオルト」ヲ超ユルモノニ在リテハ千「ヴオルト」以下ヲ增ス每ニ　一圓

乙　指示電力計、力率計　二圓

丙　電壓計

第四號書式

朝檢第　號

電氣計器檢定合格證書

檢定申請者

計器ノ種類

計器製造者

計器番號第　號

型式番號第　號

計器ノ型　型

計器ノ格定

電氣方式	流相　線式
電壓	「ヴオルト」
電流	「アムペア」
周波數	「サイクル」
負荷ノ性質	

附屬器具

檢定有效期間　自大正　年　月　日　至大正　年　月　日

本計器ハ朝鮮電氣測定令第五條ノ檢定ニ合格シタルコトヲ證ス

大正　年　月　日

朝鮮總督府遞信局　㊞

注意

記載例ハ第一號書式ニ準據スルコト

第五號書式

本計器檢定ノ際附屬變成器ノ二次回路ニ接續シタル測定器左ノ如シ

測定器	電壓計	電流計	指示電力計
製造者	、、	、、	、、
測定器番號	第　號	第　號	第　號

前記測定器ハ檢定ヲ行ハサルモノトス

朝鮮總督府遞信局　㊞

第六號書式

收入印紙　電氣計器檢定合格證書再交付申請書　貼付シタル收入印紙ノ額　何圓何錢

一　計器ノ種類

二　製造者名

三　計器番號

四　型式番號

五　計器ノ型

六　格定

七　係數

八　附屬器具

九　檢定番號

右朝鮮電氣測定令施行規則第十三條ニ依リ電氣計器檢定合格證書ノ再交付ヲ申請候也

住所　申請者名㊞

大正　年　月　日

朝鮮總督府遞信局長宛

注意

記載例ハ第一號書式ニ準據スルコト

第七號書式

計器種類　計器ノ型

檢定年月日	定型式番號	計器製造者名	格 電氣方式	格 電壓	格 電流	格 周波數	定 負荷ノ性質	使用場所	備考

注意

一　計器ノ種類每ニ口座ヲ設クヘシ

一　未檢定又ハ型式未承認ノモノハ其ノ旨備考欄ニ記載スヘシ

一　格定變更又使用場所異動ノ都度記載ヲ要スルヲ以テ相當空欄ヲ存シ置クヘシ

第八號書式

調數箇器計氣電

在現日一十三年三月正大

電氣事業者名㊞

計器種類						
型式番號	第　號					
格定	電氣方式	流相線式				
	電　壓	「ヴオルト」				
	電　流	「アムペア」				
	周波數	「サイクル」				
	負荷ノ性質	負　荷				
附屬器具						
檢定番號	第　號乃至第　號					
箇數						
備考						

●朝鮮電氣測定令施行期日及附則第二項ノ期間ニ關スル件

大正十二年十月
總令第百二十三號

朝鮮電氣測定令施行期日及附則第二項ノ期間ニ關スル件左ノ通定ム

朝鮮電氣測定令ハ大正十二年十一月十六日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮電氣測定令附則第二項ノ期間ハ前項ノ日ヨリ三年トス

●電氣事業取締規則

明治四十四年三月
總令第二十四號
改正　明治四五年四第八六號、大正七年五第四〇號、八年二第一七號

電氣事業取締規則左ノ通定ム

電氣事業取締規則

第一章　總則
第二章　許可、認可、申請及屆出
第三章　工事ノ著手、落成、檢査及使用認可證
第四章　主任技術者
第五章　工事施設、送電及記錄
第一節　通則
第二節　電燈及電力
第三節　電氣鐵道
第六章　監査、試驗、改修及停止竝許可、認可ノ失效及取消
第七章　罰則
第八章　官廳施設電氣事業
附則

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一　一般ノ需用ニ應シ電氣ヲ供給スルモノ

二　一般運送ノ用ニ供スル鐵道（軌條ヲ用ヒ動力ニ電氣ヲ使用スルモノ（鐵道及軌道ヲ合ム以下同シ）

三　前二號ノ外電氣ヲ使用又ハ供給スルモノ但シ他ヨリ電氣ノ供給ヲ受クルモノニシテ其ノ使用上ノ責任ヲ供給者ニ於テ負擔スルモノヲ除ク

第二條　本令ハ左ニ揭クルモノニ之ヲ適用セス

一　電信、電話又ハ信號ニ電氣ヲ使用スルモノ

二　一般運送ノ用ニ供スル官設鐵道ノ動力及其ノ車輛內ニ電氣ヲ使用スルモノ

三　電線路ノ施設ナクシテ車輛又ハ船舶ニ電氣ヲ使用スルモノ

四　電壓十「ヴオルト」以下ノ電氣ヲ使用スルモノ

第三條　本令ニ於テ電線ト稱スルハ電氣傳送ニ用ウル金屬體ヲ謂フ

第四條　本令ニ於テ電路ト稱スルハ發電機其ノ他ノ機械、器具、電線、大地等電流ノ通スル一全路ヲ謂フ

第五條　本令ニ於テ電氣線路ト稱スルハ屋外ニ施設スル電線及之ヲ支持シ又ハ保藏スル工作物ヲ謂フ

第六條　本令ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設シタル機械、器具、電線路及其ノ他ノ工作物ニシテ直接電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

第七條　本令ニ於テ引込線ト稱スルハ使用場所外ノ最終ノ支持物ヨリ使用ノ場所ニ達スル屋外電線ヲ謂フ

第八條　本令ニ於テ電車ト稱スルハ電動車及電氣機關車ヲ謂フ

第九條　本令ニ於テ低壓ト稱スルハ直流式ニ在リテハ三百「ヴオルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂ヒ高壓ト稱スルハ低壓ノ制限ヲ超過シ三千五百「ヴオルト」ヲ超過セサル電壓、特別高壓ト稱スルハ高壓ノ制限ヲ超過スル電壓ヲ謂フ

交流式ノ電壓ヲ表示スルニハ實效電壓ヲ以テス

第二章　許可、認可、申請及屆出

第十條　第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業ヲ經營セムトスル者ハ起業目論見書及工事設計書ヲ具シ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ電氣事業者ノ商號又ハ名稱、工事費豫算及事業上ノ收支概算ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第十一條　前條ノ起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　事業ノ目的
二　資本金
三　供給區域又ハ鐵道ノ經過地名
四　發電所、變壓所、配電所ノ位置竝其ノ位置ヨリ供給區域又ハ鐵道ニ達スル電線路ノ經過地名

前項第三號ノ供給區域及第四號ノ事項ハ別ニ縮尺ノ地圖ニ縮尺及電線路亙長ノ概數ヲ記載シタル圖面ヲ以テ表示シ又第三號ノ鐵道ノ經過地ハ縮尺二萬五千分ノ一以上ノ地圖ニ鐵道ノ位置、近傍ノ地名、他ノ鐵道ト交叉スル所アルトキハ其ノ交叉點ノ前後二町以內ニ在ル鐵道ノ位置、鐵道ノ位置ヨリ約一町以內ニ在ル架空ノ電信線、電話線、電氣信號線、電燈、電力、電氣鐵道用電線ノ位置、單線式其ノ他電路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ鐵道ノ位置ヨリ約十町以內ニ在ル地中施設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體ノ位置ヲ記載シタル圖面ヲ以テ表示スヘシ

前條ノ工事設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ第五號ノ事項ハ第一條第二號ノ電氣事業ヲ經營セムトスル者ニ限ル

一　原動力ノ種類（水力、火力ノ區別）
二　電氣方式（特別高壓、低壓ノ區別、直流式、交流式ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、三線式、三線式ノ區別等）
三　「ワット」數及最大電壓（多線式ニ在リテハ最大ノ電壓及電流ノ對地電壓又ハ二次ノ線ノ電壓ヲ加ヘタル兩線間ノ電壓及電流ノ對地電壓又ハ二次ノ線ノ最大電壓）
四　電線路ノ種類（架空線、地中線、架空電線式、架空單線式、架空複線式、架空複線式ノ區別等）
五　電氣鐵道方式（架空單線式、架空複線式、架空複線式ノ區別等）

第十二條　電氣事業ノ許可ヲ受ケタル後起業目論見書又ハ工事設計書ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係ノ書類及圖面ヲ具シ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

第十三條　電氣事業ノ許可ヲ受ケタル者ハ指定ノ期間內ニ左ノ書類ヲ具シ朝鮮總督ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ

一　工事設計明細書

二　工事費豫算書
三　落成期限（書工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成ヲ二第三各部ノ落成期限）

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　組合事業ニ在リテハ其ノ組合ニ關スル契約書謄本
二　會社ニ在リテハ其ノ登記謄本及定款謄本
三　公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ決議書

第一項ノ申請書ハ第十條ノ申請書ト同時ニ之ヲ提出スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ工事設計書ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス

朝鮮總督ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ電氣事業者ノ申請ニ依リ第一項ノ期間ヲ伸長スルコトアルヘシ

第十四條　工事設計明細書ニハ左ノ事項及圖面ヲ記載又ハ具備スヘシ

一　原動機（汽罐ノ種類、圖數、常用汽壓、馬力（蒸汽機關、瓦斯機關、水車ノ種類、圖數、馬力ノ數ヲ併記スヘシ）、回轉速度（蒸汽機關、瓦斯機關、水車ノ種類、圖數、馬力ノ數ヲ併記スヘシ）、調速機ノ種類及構造（蒸汽機關、瓦斯機關、水車ノ種類、圖數、馬力ノ數ヲ併記スヘシ）、始動機ノ種類及構造（蒸汽機關、瓦斯機關、水車ノ種類、圖數、馬力ノ數ヲ併記スヘシ）、冷却水ノ供給方法（蒸汽機關、瓦斯機關、水車ノ種類、圖數、馬力ノ數ヲ併記スヘシ）、其ノ他附屬機械ノ種類及構造（蒸汽機關、瓦斯機關、水車ノ種類、圖數、馬力ノ數ヲ併記スヘシ）

二　發電所、變壓所又ハ配電所ニ於テ機械、器具ノ裝置及接續法竝其ノ圖面

三　發電機、電動發電機、電流變式機、蓄電池及「テスター」ノ種類、箇數及「ワット」數（電流ノ種類（交流式ニ在リテハ周波數ノ單相式ニ相式、三相式等ノ區別、結線法（星形結線法又ハ三角形結線法ノ區別）及直流式ニ在リテハ單一回路、合成回路等ノ區別）、最大電壓（多線式ニ在リテハ最大ノ電壓ヲ與ル兩線間ノ電壓及電流ノ對地電壓）、回轉速度（毎分回轉數ヲ以テ表ス）、極數、容量（發電機ニ在リテハ單相式ニ在リテハ皮相容量ヲ以テ表シ三相式ニ在リテハ皮相容量及有效容量ヲ以テ表ス）、型式及製造者名）

四　變壓器ノ種類（相式（二相式、三相式等ノ區別）、結線式（星形結線式、三角形結線式、二相式、三相式等ノ區別）、冷却方法（自冷式、風冷式、水冷式、油冷式等ノ區別）、最大使用電壓、卷線ノ抵抗、漏洩リアクタンス及百分率インピーダンス）

五　電氣方式（特別高壓、高壓、低壓ノ區別、直流式、交流式、單相式、二相式、三相式等ノ區別）、線式（三線式ノ區別等）

六　電線路ノ種類及其ノ構造（架空線、地中線ノ區別、電線ノ種類及電線路相流ノ種類ノ大要）

七　電線路圖（發電所、變壓所、配電所及電線路ノ位置竝其ノ所在府ノ名稱等ヲ記入シタル縮尺二萬五千分ノ一以上ノ地圖ニ發電所、變壓所、配電所ノ種類及電線路ノ大要ヲ記載シタル縮尺二萬五千分ノ一以上ノ地圖）

八　保安裝置（開閉器（自動遮斷器ヲ含ム）、檢測ヒューズ（溶斷電流ヲ記載スヘシ）、其ノ他ノ過電流遮斷器、過電壓防止器、接地線、接地極、避雷器、其ノ他ノ保安裝置ノ種類及裝置方法）

第一條第二號ノ電氣事業ニ在リテハ前項各號ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ前項第六號ノ事項ニ關シテハ電車線ノ品質、形狀、太サ、腕金式、吊線式ノ區別等ヲモ記載スヘシ

一　電車內機械器具ノ裝置及接續法竝其ノ圖面

二　電車內電動機、蓄電池ノ種類、箇數及馬力數又ハ「ワット」數竝附屬機械器具ノ種類（他ノ種類ノ機關ニ依ルモノハ其ノ機關ノ種類、箇數及馬力數又ハ「ワット」數）、最大速度（單相式ニ在リテハ單一回路、合成回路等ノ區別ヲ、最大電壓ヲ與ル兩線間ノ電壓及電流ノ對地電壓ヲ、直流式ニ在リテハ單一回路、合成回路等ノ區別ヲ、最大電壓ヲ與ル兩線間ノ電壓及電流ノ對地電壓ヲ）、制動機ノ種類及構造（蒸汽機關、瓦斯機關、水車ノ種類、圖數、馬力ノ數ヲ併記スヘシ）、調速機ノ種類及構造（蒸汽機關、瓦斯機關、水車ノ種類、圖數、馬力ノ數ヲ併記スヘシ）、始動機ノ種類及構造（蒸汽機關、瓦斯機關、水車ノ種類、圖數、馬力ノ數ヲ併記スヘシ）、冷却水ノ供給方法（蒸汽機關、瓦斯機關、水車ノ種類、圖數、馬力ノ數ヲ併記スヘシ）、其ノ他附屬機械ノ種類及構造（蒸汽機關、瓦斯機關、水車ノ種類、圖數、馬力ノ數ヲ併記スヘシ）

三　電氣鐵道方式（架空單線式、架空複線式、架空複線式ノ區別等）

四　鐵道ノ構造（軌條ノ種類、單位重量、軌間（軌條ノ種類、單位重量、軌間ノ區別ヲ、他ノ鐵道ト連絡スル場合ニ在リテハ其ノ連絡ノ方法ヲ）、曲線半徑（最小曲線半徑ヲ）、勾配（最大勾配ヲ）、隧道（隧道ノ位置、延長、斷面ノ形狀及大サ）、橋梁（橋梁ノ種類、構造及長サ（其ノ他電氣鐵道ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ場合ニ在リテハ其ノ大地ヲ使用スル區間ノ長サ）、橋臺及橋脚ノ構造（其ノ他電氣鐵道ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ場合ニ在リテハ其ノ大地ヲ使用スル區間ノ長サ）、軌條ノ繼目板ノ種類及構造（其ノ他電氣鐵道ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ場合ニ在リテハ其ノ大地ヲ使用スル區間ノ長サ）、軌條ノ繼目ノ電氣的接續法（其ノ他電氣鐵道ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ場合ニ在リテハ其ノ大地ヲ使用スル區間ノ長サ）、軌條ノ敷設法（其ノ他電氣鐵道ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ場合ニ在リテハ其ノ大地ヲ使用スル區間ノ長サ）、軌條ノ防蝕法

事者連署ノ上朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

前項ノ譲渡ヲ終了シタルトキ又ハ第一條第三號ノ電氣事業者其ノ事業ヲ譲渡シタルトキハ當事者ヨリ遲滯ナク遞信局長官ニ届出ツヘシ

電氣事業ヲ相續シタル者ハ前項ノ規定ニ準シ届出ツヘシ

第二十八條　電氣事業ヲ譲受又ハ相續シタル者ハ譲渡人又ハ被相續人カ本令ニ依リテ有スル權利義務ヲ承繼ス

第二十八條ノ二　電氣事業者タル會社ノ合併ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條　本令ニ依リ提出スル書類及圖面中技術ニ關スルモノハ主任技術者ノ選任前ニ在リテハ擔當技術者之ニ署名捺印スヘシ其ノ主任技術者ノ選任前ニ在リテハ擔當技術者之ニ署名捺印スヘシ

第三十條　朝鮮總督、遞信局長官又ハ警務部長ハ許可又ハ認可ニ條件ヲ附シ又ハ檢査上必要ト認ムル書類及圖面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第三十一條　本令ニ依リ朝鮮總督又ハ遞信局長官ニ提出スヘキ書類及圖面ハ警務部長ヲ經由スヘシ

第三十二條　警務部長ハ前條ノ書類ニ意見ヲ附シ遞信局長官ニ提出スヘシ但シ第十條第一項ノ電氣事業許可申請書及第十三條第一項ノ工事施行認可申請書ニ限リ道長官ヲ經由スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ事業カ他ノ地方管内ニ係ルモノナルトキハ道長官ヨリ關係道長官ニ商議スヘシ

第三十三條　警務部長ハ許可、認可若ハ命令シタル事項ヲ其ノ都度遞信局長官ニ通報スヘシ

第三章　工事ノ著手、落成、檢査及使用認可竝

第三十四條　第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ指定ノ期間内ニ工事ニ著手スヘシ第十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタルトキ亦同シ

朝鮮總督又ハ警務部長ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ電氣事業者ノ申請ニ依リ前項期間ノ伸長ヲ認可スルコトアルヘシ

第三十五條　電氣事業者工事ヲ譲渡シタルトキハ其ノ譲渡人ハ遲滯ナク其ノ認可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタル官廳ニ届出ツヘシ其ノ落成シタルトキ亦同シ

第三十六條　遞信局長官又ハ警務部長ハ工事落成ノ届出アリタルトキハ吏員ヲシテ其ノ電氣工作物ヲ檢査セシメ故障ナシト認ムルトキハ電氣事業者ニ使用認可證ヲ下付スヘシ但シ檢査ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ使用認可證ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ檢査ノ結果電氣工作物ヲ不完全ナリト認ムルトキハ其ノ改修ヲ命スヘシ

第三十七條　前條ノ檢査吏員ハ檢査ノ結果危險ノ虞ナシト認ムルモノニ限リ電氣事業者ニ假使用認可證ヲ下付スルコトアルヘシ

前項假使用認可證ノ效力ハ其ノ下付ノ日ヨリ起算シ六十日以内ニ但シ其ノ期間内ト雖遞信局長官又ハ警務部長ニ於テ電氣工作物ヲ不完全ナリト認ムルトキハ其ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十五條ニ依リ届出ヲ要スル電氣工作物ハ使用認可證又ハ假使用認可證ヲ下付ヲ受ケタル非サレハ之ヲ使用スルコト

第三十六條第一項第二十一條第二項ノ電氣工作物ニ限リ其ノ落成ノ日ヨリ六十日間ヲ限リ使用認可證又ハ假使用認可證ノ下付ヲ受ケシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第四章　主任技術者

第三十九條　電氣事業者ハ工事著手前學識經驗アル主任技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

但シ第一條第三號ノ電氣事業ニシテ第十五條第二項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十條　電氣事業者主任技術者ヲ選任又ハ改任シタルトキハ遲滯ナク左ノ事項ヲ具シ届出ツヘシ

一　主任技術者ノ氏名、住所、年齢及國籍

二　學歷

三　官廳、公署又ハ會社其ノ他ノ事業ニ從事シタルトキハ其ノ勤務場所、職務ノ種類及其ノ終始ノ年月日

四　卒業又ハ修業證書ノ謄本

第四十一條　遞信局長官ハ不適任其ノ他ノ事由ニ因リ主任技術者ノ改任ヲ命スルコトアルヘシ

第四十二條　主任技術者疾病、不在其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ擔當ノ職務ヲ執ル能ハサルコト三十日以上ニ亙ルトキハ電氣事業者ハ其ノ代務者ヲ選任シ遞信局長官ニ届出ツヘシ代務者ノ行爲ニ付テハ主任技術者其ノ責ニ任ス

第五章　工事施設、送電及記錄

通則

第四十三條　電路ハ大地ヨリ絕緣スルコトヲ要ス但シ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ遞信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條　電路ニハ必要ナル場所ニ避雷裝置及開閉器ヲ設備スヘシ

第四十五條　電路ニハ漏電ヲ檢スルノ裝置ヲ爲スヘシ但シ遞信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條　電路ニ使用電流ノ爲撚氏二十度以上ノ温度ヲ增スコトナク且其ノ絕緣物ハ之カ爲變化ヲ顯ハササルモノナルコトヲ要ス

第四十七條　各電線ニハ如何ナル場合ニ於テモ電流ノ爲撚氏四十度以上ノ温度ヲ增ササル樣完全ナル自働遮斷器ヲ裝置スヘシ

各高壓電線竝電氣鐵道用各幹線ニハ發電所及變壓所ニ於テ特ニ鋭敏ナル自働遮斷器ヲ裝置スヘシ

第四十八條　架空電線ハ絕緣物ヲ以テ被覆シ且外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル樣外裝スヘシ

三百「ヴオルト」以上ノ低壓ニ使用スル架空電線ハ二重以上ノ木綿編組線ニシテ其ノ被覆物ハ常ニ耐水質絕緣性ヲ具ヘ且其ノ厚サ五厘以上ノモノ又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要ス

高壓ニ使用スル架空電線ハ護謨又ハ之ニ相等スル良好ナル絕緣物ヲ以テ被覆シ其ノ厚サ三厘五毛以上ニシテ其ノ絕緣力ハ二十四時間以上水中ニ浸シ一百「ヴオルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分時間充電ノ後撚氏十五度ニ於テ一里ニ付四十萬「オーム」以上ノモノナルコトヲ要ス

左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ前二項ニ適合セサル電線ヲ使用スルコトヲ得

一　堅牢ナル電線樣ノ絕緣物ヲ以テ被覆シ且外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル樣外裝シタルモノ又ハ之ト同等以上ノ絕緣力ヲ有スル電線ヲ使用スルトキ

二　電信線、電話線又ハ電氣信號線ト架空電線トノ間ニ堅牢ナル豫防裝置ヲ爲ストキ但シ架空電線ノ上部ニ於テ之ト交叉若ハ接近シテ電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架設ナキ場所ニ在リテハ其ノ架設ニ至ル迄此ノ裝置ヲ爲ササルコトヲ得

人家ヲ離隔シ交通稀少ナル力又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ前各項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

本條ノ規定ハ電車線ニ之ヲ適用セス

第四十九條　架空電線ハ電車線ヲ除クノ外直徑六厘五毛ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ强力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第五十條　市街地ニ限リ道路ニ建設スル架空電線路ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ工事上又ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル場所ニシテ遞信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　道路ノ兩側ニ跨ラス其ノ一側ニノミ架設スルコト

二　道路ノ一側ニ架空ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線アルトキハ他ノ一側ニ架設スルコト、若其ノ一側ニ架空ノ電燈、電力又ハ電氣鐵道用線アルトキハ之ト同側ニ架設スルコト

局長官ノ認可ヲ受ケ裸線ヲ用ウルコトヲ得

一　點檢容易ナル場所ニ施設スル電線ハ第四十八條第二項ニ規定スル電線若ハ之ト同等以上ノモノナルコト

二　點檢容易ナラサル場所、點檢シ能ハサル場所、濕氣ノ充チ易キ場所又ハ工事上已ムヲ得ス人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ハ第七十三條ニ規定スル高等絕緣電線若ハ之ト同等以上ノモノナルコト但シ點檢容易ナラサル場所ト雖モ百五十「ヴオルト」以下ノ電壓ニ限リ特別ノ方法ニ依リ施設スルトキハ第四十八條第二項ノ電線ヲ用ウルコトヲ得

前項ノ規定ハ變壓所及配電所内ニ之ヲ適用セス

第五十一條　架空電線ハ地表ヲ距ル十六尺以上トシ造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ三尺以上、其ノ上部ヲ架渉スルトキハ高壓電線ハ六尺以上、其ノ他ハ三尺以上離隔セシムヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場所ハ警務部長ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十二條　架空ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架空電線ヲ建設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ電信線、電話線又ハ電氣信號線管理者ノ承諾ヲ得タルトキ及引込線、共同引込線ニシテ工事上已ムヲ得サルトキニ限リ二尺迄ノ短縮スルコトヲ得

第五十三條　他人ニ屬スル電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉又ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ建設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場所ニシテ遞信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノ又ハ同一ノ電柱ニ架渉スルモノハ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十四條　架空ノ電信線、電話線、電氣信號線又ハ電燈、電力若ハ電氣鐵道用電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ若ハ接近シテ架空電線ヲ建設セムトスルトキハ其ノ前日迄ニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請求スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理若ハ撤去スル場合亦同シ

第五十五條　架空電線ノ分岐ハ其ノ電線ノ支持點ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ遞信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條　電柱ニハ番號ヲ記入スヘシ

高壓電線ヲ支持スル腕木又ハ碍子ハ地上ヨリ甄別シ得ル程度ニ於テ其ノ全部又ハ一部ヲ赤色ト爲スコトヲ要ス

第五十七條　坑内、隧道、橋梁等ニシテ人畜ニ危害ヲ及ホスノ虞アル場所ニ施設スル電氣工作物ニハ完全ナル危險豫防方法ヲ設ケ高壓電線ニ在リテハ特ニ之ヲ堅牢ナル管若ハ樋内ニ藏ムルカ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ設ケヘシ

第五十八條　電線ヲ藏メ若ハ之ヲ鎧裝スル爲用ウル金屬體ハ完全ニ大地ト電氣的接續ヲ爲スヘシ但シ電燈球取附用器具其ノ他之ニ類スル短少ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條　開閉器、自働遮斷器、抵抗器其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火質絕緣性ノモノナルコトヲ要ス

第六十條　變壓器、直列式弧光電燈其ノ他高壓電氣ノ通スル機械、器具ハ容易ニ人ノ觸レサル樣取附クヘシ

第六十一條　變壓器ノ一次線輪ト二次線輪トノ間ノ絕緣力ハ使用電壓ノ二倍ノ電壓ヲ以テ試驗シ三十分間以上之ニ耐フルモノナルコトヲ要ス但シ特別高壓電氣ニ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條　屋外ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水ノ函内ニ藏メ地表ヲ距ル十四尺以上ニ於テ電柱ニ取附クヘシ

石造、煉瓦造及土藏造ノ建物ノ外部ニシテ人ノ觸ルル虞ナキ場所ニ限リ前項ノ規定ニ依リ取附クルコトヲ得

危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ警務部長ノ認可ヲ受ケ前二項以外ノ場所ニ取附クルコトヲ得

第六十三條　電路ハ之ヲ檢査シ安全ト認ムルモノニ非サレハ之ニ送電スルコトヲ得ス

第六十四條　電氣事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ於ケル火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲシテ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出シムヘシ其ノ派遣員ハ警察官ノ承認ヲ受クルニ非サレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ニハ晝間ハ標旗、夜間ハ標燈ヲ携帶セシムヘシ

第六十五條　電氣事業者ハ送電中ニ火、暴風其ノ他非常ノ場合ニハ危險ノ虞アリト認ムル區域内ノ架空電線ニ對シ速ニ其ノ送電ヲ遮斷スヘシ

前項ニ依リ送電ヲ中止シタル區域内電線路ノ各要所ニハ晝間ハ標旗、夜間ハ標燈ヲ揭ケヘシ

第六十六條　遞信局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ電氣事業者ニ對シ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第六十七條　特別高壓電氣工作物竝地中電線路ノ施設制限ニ關シテハ本章ニ規定スルモノノ外別ニ定ムル所ニ依ル

第六十八條　本章ノ規定ニ依ル記錄ハ五年間之ヲ保存スヘシ

第二節　電燈及電力

第六十九條　高壓電路ノ架空部分及絕緣電路ノ地中ニ施設シタル部分ノ大地トノ絕緣力ハ一百「ヴオルト」以上ノ高壓ヲ以テ試驗シ電線ノ長サ一里ニ付前者ニ在リテハ二萬五千「オーム」、後者ニ在リテハ使用電壓一百「ヴオルト」毎ニ六十萬「オーム」ヲ下ルヘカラス

低壓電路ノ大地トノ絕緣力ハ漏洩電流チシテ最大供給電流ノ一千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス

土地ノ狀況ニ依リ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニハ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第一項及第二項ノ絕緣力ハ三月毎ニ一回之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スヘシ

第七十條　架空電線ト架空ノ電信線又ハ電氣信號線ト並行シテ建設スルトキ及直流式電燈線ヲ架空電話線ト並行シテ建設スルトキハ六尺以上、架空ノ電力線若ハ交流式電燈線ヲ架空電話線ト並行シテ建設スルトキハ十二尺以上ヲ離隔スヘシ但シ電信線、電話線又ハ電氣信號線管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ二尺迄ノ短縮スルコトヲ得

第七十一條　共同引込線ノ分岐シタル部分ハ三十間以上ト爲スコトヲ得ス且道路ヲ横斷セス人ノ容易ニ觸レサル樣屋外ニ取附クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ警務部長ノ認可ヲ受ケタルトキハ私道ニ限リ横斷スルコトヲ得

第七十二條　屋内ニ施設スル電線ハ左ノ制限ニ依ルノ外絕緣物ヲ以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル樣外裝シタルモノノ又ハ之ト同等以上ノ絕緣力ヲ有スル電線ヲ使用スルコト

第七十三條　前條ノ高等絕緣電線ハ護謨又ハ之ニ相當スル良好ナル絕緣物ヲ以テ被覆シ其ノ絕緣力ハ二十四時間以上水中ニ浸シ一百「ヴオルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分時間充電ノ後撚氏十五度ニ於テ一里ニ付一百「メグオーム」以上ナルコトヲ要ス

第七十四條　屋内ニ施設スル可撓絕緣線ハ外ノ電線ハ直徑五厘ノ圓形ノ積、可撓絕緣ノ電線ハ直徑三厘ノ圓形ノ積ヨリ小ナラサル切隙面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ强力ヲ有シ其ノ撚線ノ數ハ七本以上ナルコトヲ要ス但シ「パイプ、ペンダント」「アラケツト」其ノ他之ニ類スルモノノ内ニ藏ムル電線又遞信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條　屋内ニ施設スル電線ハ耐火耐水質ノ管若ハ樋内ニ藏メタル場合ヲ除クノ外耐火耐水質ノ碍子ヲ使用シ人ノ容易ニ觸レサル樣取附クヘシ

點檢容易ナル乾燥ノ場所ニ在リテハ二百五十「ヴオルト」以下ノ電壓ニ使用スル電線ニシテ限リ豫附木製「クリート」ヲ用ウルコトヲ得

點檢シ能ハサル場所ニ施設スル電線ニシテ金屬體ノ鎧裝又ハ被覆ナキモノハ金屬管内エ納ムヘシ

第七十六條　電線ノ天井、壁及床等ヲ貫通ス

ル部分又ハ屋内ニ於テ電信線、電話線、電氣信號線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ニ接近スルカ若ハ相互ニ交叉スル部分ハ之ヲ碍管内ニ納メ又ハ特別ノ裝置ヲ爲スヘシ

第七十七條　屋内ニ施設スル電線相互間ノ絶緣力ハ軌レモ機械、器具及附屬物ヲ合セ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス

前項ノ絶緣力ハ毎年一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スヘシ

第七十八條　第一條第一號ノ電氣事業者ハ故ナク電氣供給時間ヲ短縮シ又ハ供給スヘキ一定電壓ヲシテ百分ノ四以上ノ變動ヲ起サシムヘカラス但シ技術上已ムヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條　電氣事業者電線路ニ於テ障害アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ復舊ニ至ル迄送電ヲ中止スヘシ

第八十條　修繕其ノ他ノ原因ニ因リ一時間以上送電ヲ中止スルトキハ關係需用者ニ通知シ急遽ノ場合ヲ除クノ外之ヲ豫告スヘシ

第八十一條　屋内ニ送電スル電壓ハ直流式ニ在リテハ五百「ヴオルト」、交流式ニ在リテハ二百五十「ヴオルト」ヲ超過スヘカラス但シ此ノ制限ヲ超過シテ送電セムトスルトキハ工事方法ヲ具シ遞信局長官ニ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ハ發電所、變壓所及配電所内ニ之ヲ適用セス

第三節　電氣鐵道

第八十二條　架空電車線ニハ直徑二分五厘ノ圓形ノ硬銅線若ハ之ト同等以上ノ强力ヲ有スル電線ヲ用ヰシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十三條　歸線（現線式電氣鐵道ノ軌條又ハ帰線ニ接續スル他線）ハ軌條ノ中間若ハ外側一尺以内ニ敷設スル部分ヲ除クノ外大地ヨリ絶緣スルコトヲ要ス但シ他ニ障害ヲ及ホシ又ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ其ノ改修、撤去又ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第八十四條　第八十四條ノ場合ニ於テハ發電機ノ一極ヲ接地シタル點ノ近傍ニ二箇ノ地板ヲ埋設シ且四「ヴオルト」以下ノ電壓ヲ用キテ兩地板間ニ二「アンペア」以上ノ電流ヲ發セシムル樣之ヲ施設シ少クモ毎月一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スヘシ

前項ノ接地點ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔ツル所ニ施設シ埋設スヘキ地板ノ距離ハ十間以上ト爲スコトヲ要ス

前項ノ絶緣力ハ毎年一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スヘシ

第八十五條　第一條第一號ノ電氣事業者ハ故ナク電氣供給時間ヲ短縮シ又ハ供給スヘキ一定電壓ヲシテ百分ノ四以上ノ變動ヲ起サシムヘカラス但シ技術上已ムヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十六條　電氣事業者電線路ニ於テ障害アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ復舊ニ至ル迄送電ヲ中止スヘシ

第八十七條　電車線及之ニ接續スル電路中ノ絶緣シタル部分ノ絶緣力ハ其ノ漏洩電流鐵道一里ニ付一「アンペア」ヲ超過シ二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ直ニ電車ノ運轉ヲ中止スヘシ

高壓電路ノ架空部分及絶緣電路ノ地中ニ施設シタル部分ノ大地トノ絶緣力ニ付テハ第六十九條第一項ノ規定ヲ準用ス

土地ノ狀況ニ依リ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニハ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十八條　前條第一項ノ漏洩電流ハ毎日一回使用最大高壓ヲ用キ、前條第二項ノ絶緣力ハ毎月一回之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スヘシ

第八十九條　歸線ト金屬體トノ電氣的接續ヲ爲スノ必要アル場合ニハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後遞信局長官ニ認可ヲ申請スヘシ其ノ接續ハ最モ良好ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル樣施設シ三月毎ニ一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スヘシ

第九十條　電車線ハ十町以内ノ區劃ニ分チ非常其ノ他道路ニ故障ノ起リタル場合ニ於テ容易ニ送電ヲ遮斷シ得ル樣施設スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十一條　架空ノ電車線ニハ其ノ上部二尺以上ノ距離ニ於テ完全ニ接地シタル强力ナル金屬線ヲ架設シ若ハ他ノ適當ナル方法ヲ設ケ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト電氣的混觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スヘシ但シ電車線ノ上部ニ於テ之ト交叉若ハ接近シテ電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架設ナキ場所ニ在リテハ其ノ架設ニ至迄此ノ裝置ヲ爲ササルコトヲ得

前項ノ金屬線ハ二條以上ニシテ其ノ相互間ノ距離ハ二尺五寸以下、其ノ電車線ノ外部ニ張出スル距離ハ一尺以上ト爲スヘシ尚單線式電氣鐵道ニ在リテハ其ノ金屬線ト大地トノ抵抗ハ電車線ニ送電スル電路ノ自働遮斷器ヲシテ働作セシムルモノナルコトヲ要ス

危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十二條　電車線ニ使用スル電氣ハ直流式低壓ナルコトヲ要ス但シ遞信局長官ノ認可ヲ受ケ高壓又ハ交流式ノ電氣ヲ使用スルコトヲ得

第九十三條　電車内ニ施設スル電線ニ付テハ第七十二條乃至第七十七條ノ規定ヲ準用ス

第九十四條　電車ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外其ノ前部及後部ニ制御機ヲ設クヘシ

第九十五條　電車ハ使用前及使用開始後少クモ一年毎ニ一回電動機其ノ他ノ各部ヲ檢査シ同時ニ電氣上ノ試驗ヲ爲シ其ノ成績ヲ記錄スヘシ一年内ト雖重要ナル修繕ヲ施シタルトキ亦同シ

第九十六條　毎日運轉スル電車數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ハ之ヲ記錄スヘシ

第六章　監査、試驗、改修及停止竝許可認可ノ失效及取消

第九十七條　遞信局長官ハ吏員ヲシテ電氣工作物若ハ事業經營ノ實況ヲ監査セシメ又ハ電氣事業者ニ命シ現ニ使用シ若ハ使用セムトスル機械、器具及物品ノ見本ヲ差出サシ

メ其ノ試驗ヲ爲スコトアルヘシ

前項ノ監査ニ係ル試驗費用又ハ見本ノ運搬ニ要スル費用竝試驗ニ因リ生スル損害ハ電氣事業者ノ負擔トス

第九十八條　遞信局長官ハ電氣事業者ノ施設ニ係ル工作物ニシテ他ニ障害ヲ及ホシ又ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ其ノ改修、撤去又ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第九十九條　左ノ場合ニハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

一　指定期間内ニ第十三條工事施行認可ノ申請ヲ爲ササルトキ

二　指定期間内ニ第十三條ノ認可ヲ受ケタル工事ニ著手セサルトキ

第百條　左ノ場合ニハ朝鮮總督ハ許可又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

一　六月以上送電ヲ中止シタルトキ

二　指定期間内ニ第十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタル工事ニ著手セサルトキ

三　第十三條、第十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタル工事ヲ落成期間内ニ落成セシメサルトキ

第百一條　主任技術者ノ曠缺スルコト四月以上ニ亙ルトキハ朝鮮總督ハ其ノ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消シ又ハ其ノ電氣工作物ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第百二條　前二條ノ外電氣事業者本令ノ條項ニ違背シ又ハ本令ニ依リテ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ朝鮮總督ハ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消シ又ハ其ノ電氣工作物ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第百三條　電氣事業者使用認可證ノ下付ヲ受ケタル日ヨリ六月以内ニ其ノ電氣工作物ヲ使用セサルトキ又ハ六月以上其ノ使用ヲ中止スルトキ若ハ使用ヲ廢止シタルトキハ其ノ使用認可證ヲ下付シタル官廳ニ於テ其ノ電氣工作物ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

電氣事業者電氣事業ヲ廢止シ又ハ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消サレタル場合亦同シ

第七章　罰則

第百四條　第十條又ハ第十二條ノ許可ヲ得ス又ハ第十三條、第十五條、第十六條、第十九條若ハ第二十一條ノ認可ヲ受ケスシテ其ノ工事ニ著手シタル者、第二十七條ノ許可ヲ受ケスシテ電氣事業ヲ讓渡若ハ讓受シタル者、第三十條ノ許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタル者竝第十八條、第二十二條、第二十三條、第三十八條、第四十八條若ハ第九十二條ノ規定ニ違反シタル者ニ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五條　左ニ揭ケル者ニ科料ニ處ス

一　第十五條、第十六條、第二十條、第二十一條、第二十四條乃至第二十七條、第三十五條、第四十條又ハ第四十二條ノ屆出ヲ爲ササル者

二　第三十條ノ書類又ハ圖面ノ提出ヲ爲ササル者

三　第八十九條ノ認可ヲ受ケヘシテ同條規定ノ施設ヲ爲シタル者

四　第五十四條、第五十六條、第六十四條、第六十五條、第六十八條、第七十一條、第七十九條乃至第八十一條又ハ第八十七條ノ規定ニ違反シタル者

五　第六十九條、第七十七條、第八十五條、第八十六條、第八十八條、第八十九條、第九十五條又ハ第九十六條ノ記錄ヲ爲ササル者

第八章　官廳施設電氣事業

第百六條　官廳ニ於テ電氣事業ヲ施設セムトスルトキハ工事施行前第十五條ニ準シ書類及圖面ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ其ノ書類及圖面中ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

第百七條　前條ノ電氣事業ニ關スル電氣工作物落成シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ報告シ其ノ使用ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第百八條　第百六條ノ電氣事業ニ關シテハ第二十四條、第二十五條、第四十三條乃至第四十五條、第六十五條乃至第七十七條、第八十一條乃至第八十四條ノ規定ヲ準用ス

第百九條　前條ノ電氣事業ニ關シテハ第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十五條、第三十六條、第四十條、第四十二條、第四十六條、第四十七條、第五十條、第五十一條、第五十三條、第五十四條、第五十六條、第六十條、第六十一條、第六十三條、第六十四條、第六十六條、第六十八條、第六十九條、第七十一條、第七十三條、第七十四條、第七十六條、第七十七條、第八十一條、第八十二條、第八十四條、第八十五條、第八十六條、第八十八條、第八十九條、第九十一條、第九十二條、第九十四條、第九十五條、第九十六條、第九十七條、第九十八條、第九十九條、第百一條、第百二條、第百三條、第百五條、第百六條、第百七條、第百八條ノ規定ヲ準用ス

附　則

第百十條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第百十一條　本令施行ノ際既ニ施設シ又ハ現ニ使用スル電氣工作物ハ本令ニ依リ其ノ施設使用ヲ許可又ハ認可セラレタルモノト看做ス

前項ノ電氣工作物中本令ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ電氣事業者ハ本令施行ノ日ヨリ三年内ニ本令ノ規定ニ適合セシメ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ但シ三年ノ期間内ト雖第六十六條及第九十八條ニ依ル命令ノ效力ヲ妨ケス

第百十二條　前條ノ工作物ヲ有スル電氣事業者ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ其ノ電氣工作物ニ付第十四條第一項又ハ第二項ニ該當スル事項、改修ヲ要スル事項、改修ノ方法及期限ヲ詳記シ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

朝鮮總督ハ前項ノ改修方法ヲ指定シ又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第百十三條　本令施行前電氣事業ノ許可又ハ認可ヲ受ケタル者ニシテ未タ其ノ工事ニ著手セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ第十四條第一項又ハ第二項ニ該當スル事項ヲ詳記シ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ其ノ工事ニ著手シ未タ落成セサルモノ亦同シ

●瓦斯事業取締規則

大正九年六月
總令第九十號

瓦斯事業取締規則左ノ通定ム

瓦斯事業取締規則

第一條　本令ニ於テ瓦斯事業ト稱スルハ一般ノ需用ニ應シ導管ニ依リ燈用熱用又ハ動力用ニ供スル瓦斯ヲ供給スル事業ヲ謂フ

第二條　瓦斯事業ヲ經營セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ具シ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

一　事業者ノ商號又ハ名稱及本店ヲ設置スヘキ地

二　事業資金ノ總額

三　瓦斯ノ種類、瓦斯製造方式及瓦斯供給方式

四　供給區域

五　瓦斯製造所ノ位置

六　工事費概算及事業上ノ收支概算

前項第四號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

第三條　前條ノ許可ヲ受ケタル後同條第一項第二號乃至第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總督府ニ許可ヲ申請スヘシ

前條第一項第一號又ハ第六號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ之ヲ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

前條ノ許可ヲ受ケタル會社成立シタルトキハ直ニ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第四條　第二條ノ許可ヲ受ケタルトキハ指定ノ期間内ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類及圖面ヲ具シ朝鮮總督ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ

一　瓦斯製造所ノ周圍二町以内ノ平面圖（建設物道路等ノ狀況ヲ記載スヘシ）

二　瓦斯ノ製造及精製ニ要スル主要設備、瓦斯溜及コールタール溜ノ位置ヲ示シタル平面圖

三　瓦斯製造所建物ノ構造

四　瓦斯ノ製造及精製ニ要スル機械器具ノ構造及裝置

五　壓力制整機ノ構造及裝置

六　瓦斯溜及コールタール溜ノ構造

七　導管ノ種類、厚サ口徑及其ノ敷設方法

八　瓦斯遮斷器及獲水器ノ構造

九　導管ノ幹管枝管埋設圖（瓦斯溜及遮斷器及獲水器ノ位置ヲ示シ他ノ瓦斯管ニ接續シ其ノ他ノ地中工作物ニ關係及其ノ相互間ノ距離ヲ記入シタル縮尺圖ヲ添ヘ地中電線、水道管下水道其ノ他ノ地中工作物ノ位置及其ノ相互間ノ距離ヲ記入シタル縮尺圖）

十　瓦斯ノ最高壓力及一晝夜間ニ於ケル壓力變更ノ程度

十一　工事費豫算

年別索引

十二　竣工期限前項第三號乃至第八號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

第一項ノ認可申請ハ第二條ノ許可申請ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ得

朝鮮總督ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ瓦斯事業者ノ申請ニ依リ第一項ノ期間ヲ伸長スルコトアルヘシ

第五條　工事施行ノ認可ヲ受ケタル後前條第一項第二號乃至第八號第十號又ハ第十二號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ

前條第一項第九號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ニ認可ヲ申請スヘシ但シ需用者構內又ハ瓦斯製造所構內ニ限ル變更ハ此ノ限ニ在ラス

前條第一項第十一號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ之ヲ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第六條　導管ノ幹管又ハ枝管ヲ撤去シタルトキハ直ニ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ但シ需用者構內又ハ瓦斯製造所構內ニ限ル撤去ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　水火災其ノ他ノ原因ニ因リ瓦斯工作物ヲ滅失又ハ損壞シタル場合ニ於テ復舊又ハ修理ノ工事ヲ爲サムトスルトキハ直ニ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第八條　瓦斯事業者第四條ノ認可ヲ受ケタルトキハ指定ノ期間內ニ工事ニ著手スヘシ

朝鮮總督ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ瓦斯事業者ノ申請ニ依リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトアルヘシ

第九條　瓦斯事業者第四條又ハ第五條ノ認可ヲ受ケタル工事ニ著手シタルトキハ直ニ認可ヲ受ケタル官廳ニ屆出ツヘシ其ノ竣工シタルトキ亦同シ

第七條ニ規定スル工事竣工シタルトキハ直ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十條　前條ニ依リ屆出ヲ要スル瓦斯工作物ハ朝鮮總督府遞信局長又ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ第七條ニ規定スル工事竣工ノ場合ニ限リ竣工ノ日ヨリ六十日ヲ限リ認可ヲ受ケスシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條　左ノ場合ニハ瓦斯事業者ハ直ニ其ノ事項ヲ具シ朝鮮總督府遞信局長ニ屆出ツヘシ

一　營業所又ハ事務所ヲ設置シ又ハ變更シタルトキ

二　事業ヲ開始シタルトキ

第十二條　瓦斯事業者ハ料金其ノ他瓦斯供給ノ條件ヲ定メ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

朝鮮總督ハ公益上必要ト認ムルトキハ瓦斯事業者ニ對シ料金ノ制限其ノ他瓦斯供給ノ條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトアルヘシ

第十三條　瓦斯事業者ハ需用者ニ對シ正當ノ理由ナクシテ瓦斯ノ供給ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第十四條　瓦斯事業者ハ每事業決算期ニ於テ瓦斯事業報告書ヲ調製シ朝鮮總督府遞信局長ニ屆出ツヘシ但シ決算期ノ定メナキモノハ一年每ニ屆出ツヘシ

第十五條　瓦斯事業ニ因リ災害其ノ他故障ヲ生シタルトキ又ハ之ヲ爲瓦斯ノ供給ヲ中止シタルトキハ其ノ日時、場所、原因其ノ他必要ナル事項ヲ具シ直ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十六條　朝鮮總督ハ當該官吏ヲシテ瓦斯工作物又ハ事業經營ノ實況ヲ監查セシムルコトアルヘシ

第十七條　朝鮮總督ハ公益上必要ト認ムルトキハ瓦斯事業者ヲシテ其ノ費用ヲ以テ瓦斯工作物又ハ瓦斯ノ成分、壓力、光力若ハ熱力ニ關シ必要ナル試驗ヲ行ハシムルコトアルヘシ

第十八條　朝鮮總督ハ公益上必要ト認ムルトキハ瓦斯事業者ニ對シ瓦斯工作物ノ改修、撤去若ハ使用ノ停止ヲ命シ又ハ瓦斯ノ成分、壓力、光力若ハ熱力ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトアルヘシ

第十九條　地方長官ハ公益上必要ト認ムルトキハ瓦斯事業者ニ對シ瓦斯工作物ノ改修、撤去若ハ使用ノ停止ヲ命シ又ハ瓦斯ノ成分、壓力、光力若ハ熱力ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條　瓦斯事業者瓦斯事業ヲ讓渡サムトスルトキハ當事者連署ノ上朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

前項ノ讓渡ヲ爲シタルトキハ當事者ヨリ直ニ朝鮮總督府遞信局長ニ屆出ツヘシ瓦斯事業ヲ相續シタルトキ亦同シ

第二十一條　瓦斯事業ヲ讓受又ハ相續シタル者ハ讓渡人又ハ被相續人カ本令ニ依リテ有スル權利義務ヲ承繼ス

第二十二條　瓦斯事業ヲ經營スル會社ノ合併ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條　瓦斯事業者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非サレハ事業ヲ廢止スルコトヲ得ス

第二十四條　瓦斯事業者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ事業ノ全部又ハ一部ノ休止ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條　瓦斯事業者ハ學識經驗アル主任技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

第二十六條　瓦斯事業者主任技術者ヲ選任又ハ改任シタルトキハ直ニ履歷書ヲ添ヘ朝鮮總督府遞信局長ニ屆出ツヘシ

朝鮮總督府遞信局長ハ不適任其ノ他ノ事由ニ因リ主任技術者ノ改任ヲ命スルコトアルヘシ

第二十七條　左ノ場合ニハ瓦斯事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

一　指定ノ期間內ニ第四條ノ認可ヲ受ケタル工事ニ著手セサルトキ

二　指定ノ期間內ニ第四條ノ認可ノ申請ヲ爲ササルトキ

第二十八條　左ノ場合ニハ朝鮮總督ハ瓦斯事業ノ許可ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトアルヘシ

一　不實ノ申告ヲ爲シテ許可又ハ認可ヲ受ケタルトキ

二　六月以上瓦斯ノ供給ヲ休止シタルトキ

三　竣工期限內ニ第四條又ハ第五條ノ認可ヲ受ケタル工事竣工セサルトキ

第二十九條　前條ノ外瓦斯事業者本令又ハ本令ニ依リテ發スル命令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督ハ瓦斯事業ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第三十條　本令ニ依ル許可、認可又ハ屆出ニ關スル書類及圖面中技術ニ關スルモノニハ主任技術者之ニ署名捺印スヘシ主任技術者ノ選任前ニ在リテハ擔當技術者之ニ署名捺印スヘシ

第三十一條　朝鮮總督、朝鮮總督府遞信局長又ハ地方長官ハ許可若ハ認可ニ條件ヲ附シ又ハ必要ト認ムル書類若ハ圖面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第三十二條　本令ニ依リ朝鮮總督又ハ朝鮮總督府遞信局長ニ書類又ハ圖面ヲ提出スヘキ場合ハ同時ニ其ノ副本ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第三十三條　地方長官ハ許可、認可若ハ命令シタル事項又ハ瓦斯事業者ヨリ屆出タル事項ヲ其ノ都度朝鮮總督府遞信局長ニ報告スヘシ

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　本令ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケテ爲スヘキ事項ヲ許可若ハ認可ヲ受ケスシテ爲シ又ハ許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキ

二　不實ノ申告ヲ爲シテ許可又ハ認可ヲ受ケタルトキ

三　本令ノ規定ニ依ル監督官吏ノ命令ニ違反シタルトキ

四　第十三條ニ違反シタルトキ

第三十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　本令ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リ又ハ不實ノ屆出ヲ爲シタルトキ

二　本令ノ規定ニ依ル監查ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタルトキ

附則

本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ瓦斯事業ヲ經營スル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス其ノ現ニ使用スル瓦斯工作物ハ本令ニ依リ使用ヲ認可セラレタルモノト看做ス

前項ノ瓦斯事業者ハ本令施行ノ日ヨリ三月內ニ第二條第一項第一號乃至第五號及第四條第一項第一號乃至第十號ノ事項ヲ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

年別索引

明治三年

太政官

達 九七 大勲位菊花大綬章以下各種略綬圖式……（四）　二

明治十二年

太政官

達 四 各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規……（四）　二

明治十三年

太政官

布 三六一 舊刑法……（四）　二

明治十四年

太政官

布 六三一 褒章條例……（四）　九

明治十五年

太政官

布 三六 戒嚴令……（四）　一
布 四三 徴發令……（四）　一
達 二六 徴發事務條例……（四）　一

明治十七年

太政官

布 三二一 爆發物取締罰則……（四）　二

明治十八年

太政官

布 三五一 外國勳章佩用願規則……（四）　八

明治十九年

條約

勅令 一 日米兩國犯罪人引渡條約……（六）　三
勅令 四四 陸軍軍人軍屬進營罪處分例……（一四）　四七
勅 五一 本初子午線經度計算方及標準時ノ件……（一五）　一〇一

内閣　附賞勳局

賞告 一 勳章記章佩用心得……（四）　七

内閣

令 二三 官吏傳染病豫防救治ノ公務上感染死亡ノ手當金給與方……（三）　九六

明治二十年

勅令

勅 一〇 叙位條例……（四）　一
勅 一六 黄綬褒章臨時制定……（四）　一三
勅 三九 官吏服務紀律……（三）　一八三
勅 四二 逃亡犯罪人引渡條例……（四）　二〇二
勅 八三 陸軍准士官下士文官採用規則……（三）　一三三

明治二十一年

勅令

勅 一 勳章等級製式及大勲位菊花章頸飾製式……（四）　一
勅 七六 勳章佩用式……（四）　七

内閣

令 二一 勳章及大勲位菊花章頸飾圖樣……（四）　四

明治二十二年

法律

法 一 徴兵令……（三）　九九
法 二五 海軍軍人軍屬進營罪處分例……（四）　四一
法 三四 決闘罪ニ關スル件……（四）　一七九

勅令

勅 三八 勳等進叙ノ節同種下級ノ勳章還納方……（四）　九
勅 八四 物品會計規則……（三）　一八四

内閣　附賞勳局

令 九 勳章還納手續……（四）　九
令 一二 歳入歳出豫算概定順序……（三）　二三二
令 一九 豫定經費算出概則……（三）　二三二
訓 官吏職務外ニ公衆ニ對シ演戰又ハ敵逃スルヲ得……（三）　一八三
賞告 一 勳章記章佩用心得……（四）　七

年別索引

明治三年

太政官

布 五二 各省奏任官除服出仕達シ方……（二）　一九
布 三四七 遠地出張在勤官吏忌服中出仕方……（二）　一九
告 二 休暇日……（二）　一九
達 三一八 官員父母祭日休暇……（二）　一九

明治五年

太政官

布 一七六 僧尼服忌ノ制……（二）　一九

明治六年

太政官

布 一〇八 服忌令京家ノ制及産穢混穢廢止……（二）　一九六

明治八年

太政官

達 一〇 地方官除服出仕方……（二）　一九九
達 一一四 各廳雇員日給ノ者休暇日ニモ給額支給……（二）　八
達 一五二 不用品拂下ノトキ其ノ官廳所屬官吏ノ入札禁止……（二）　一八三

明治九年

太政官

達 二七 一日曜日休暇……（二）　一九四

明治十年

賞告　二　略章略綬佩用心得……（四）　八
大藏省
訓　六八　歲入調定濟額ニシテ翌年六月末日マテニ收入整理ヲ了セサルモノ取扱方……（一）　二四八
令　一　年額又ハ月額ノ手當金支給方……（二）　九五
訓　二二　歲入概算書樣式……（二）　二四五
明治二十三年
勅語
教育勅語……（一四）　一
法律
法　一　保管金規則……（一）　三七
法　二　軍港要港ニ關スル件……（二）　三一
法　六　裁判所構成法……（三）　一七
法　二九　民事訴訟法……（四）　一九
法　三八　水路測量標條例……（一〇）　二
法　五一　執達吏規則……（三）　九
法　五二　執達吏手數料規則……（三）　八
法　五八　電信線電話線建設條例……（一七）　一六
法　六四　商法施行條例……（一四）　一〇
法　六五　民事訴訟費用法……（一四）　一〇
法　六六　民事訴訟用印紙法……（一四）　一〇
法　八三　商事非訟事件印紙法……（一三）　九
法一〇五　軍港要港規則違犯者處分ノ件……（一三）　三
訴願法……（一三）　三
勅令
勅　一一　金鵄勳章等級製式及佩用式……（四）　三
勅　六二　試補及判任官見習竝非職休職官吏一年志願兵服役ニ關スル件……（三）　一
稅關監吏賞罰規則……（三）　一
勅二一八　判事檢事及裁判所書記制服……（三）　一
明治二十四年
勅令
勅　二六　土木工事起業者保證金ノ件……（二）　二四六
勅　二七　宿直又ハ徹夜勤務者食料及特別支具ニ關スル件……（二）　二四六
宮內省
達乙　一　有位者改姓名轉貫轉居死亡等宮內省へ屆出方……（四）　一
大藏省
訓　六八　歲入調定濟額ニシテ翌年六月末日マテニ收入整理ヲ了セサルモノ取扱方……（一）　二四八
勅　八〇一　官吏療治料給與ノ件……（四）　九五
勅令
大藏省
令　一一　收入金繰越手續……（四）　一三
訓　二五　出納官吏檢査規程……（九）　一一七
訓　三〇　檢査員休日又ハ退廳後臨檢スルモノ……（一）　八五
訓　三五　檢査ニ應スヘキ件……（一四）　二四九
明治二十六年
法律
法　七　辯護士法……（一四）　二一
法一五　出版法……（一四）　二一
勅令
勅　七　傭員俸給及傭員其ノ他ニ給スル諸手當支給方……（二）　八
官吏ノ勤續ニ關スル件……（一）　一
政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受ケタル場合命計上ノ規程……（一四）　二四
司法省
令　四一　辯護士職服……（一）　一
明治二十七年
法律
法　五一　軍用電信法……（一四）　一一
勅令
勅　一七三　金鵄勳章年金令……（四）　二四五
勅　二二　府縣社以下神社ノ神職ニ關スル件……（七）　二四
勅一七三　金鵄勳章年金令……（四）　二四五
內閣
令　一　褒章條例取扱手續……（四）　一一
令　九　勳章年金支給細則……（四）　一一
大藏省
令　二　政府第三債務者トシテ差押ラレタル債務額ノ仕拂停止仕拂執行及供託ニ關スル手續……（四）　一三
明治二十八年（開國五〇四年）
法律
法　一三　古物商取締法……（九）　一三
法　一四　質屋取締法……（九）　一七
法　二八　通貨及證券模造取締法……（四）　二九
勅令
勅　七一　傳染病豫防救治ニ從事スル官吏准官吏及傭員ノ手當支給ノ件……（二）　九五
明治二十九年
法律
法　六七　船舶檢査法……（七）　二〇三
法　六八　船舶職員法……（七）　二〇三
法八九　民法（第一編第二編第三編）……（四）　三
明治三十年
法律
法　一五　保稅倉庫法……（一）　二八
法　一六　貨幣法……（一）　三三
法　二一　國稅徵收法……（一）　一
勅令
勅　一九八　特別會計ノ第一豫備金支出ニ關スル件……（一）　二三
明治三十一年
法律
法　九　民法（第四編第五編）……（四）　七
法　一〇　法例……（一）　五
法　一一　民法施行法……（四）　四二
法　一三　人事訴訟手續法……（四）　一七

法　一四　非訟事件手續法……（四）　一五二
法　一五　競賣法……（四）　一四九
勅令
勅一二三　民法等施行期日……（四）　四五
勅三三七　憲兵條例……（二）　五九
內閣　附賞勳局
令　五　官印寸法……（五）　二
賞告　一　勳章記章褒章等受領者諸屆出手續……（四）　九
大藏省
訓　一二二　繰越計算表……（一）　二四九
明治三十二年（光武三年）
法律
法　一五　供託法……（一三）　一九
法　二四　不動產登記法……（一四）　一八四
法　三九　著作權法……（九）　一五六
法　四〇　失火ノ責任ニ關シ民法適用……（一四）　四五
法　四六　船舶法……（一七）　二四七
法　四七　船員法……（一七）　二四七
法　四八　商法……（一四）　四六
法　四九　商法施行法……（一四）　四六
法　五〇　外國人ノ署名捺印及訴訟上無資力證明方……（一四）　一六二
法　五四　印紙稅法……（一一）　三四
法　六一　關稅法……（一一）　三五
法　六三　水先法……（一七）　二八二
法　六八　外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法……（一四）　三〇四
法　七七　遺失物法……（九）　二〇四
法　八八　噸稅法……（一一）　二三
法　九五　水雜救護法……（四）　三〇
法一〇四　軍機保護法……（四）　三〇
法一〇五　要塞地帶法……（一三）　四八
勅令
勅　二八　中學校令……（一五）　四四
勅　二九　實業學校令……（一五）　四四
勅　三一　高等女學校令……（一五）　四三
勅　六二　文官分限令……（一）　一八
勅　六三　文官懲戒令……（一七）　一五二
勅　三三〇　著作權法施行期日……（九）　一八四
勅　三五七　水雜救護法施行期日……（四）　四五
勅四〇二　警察賞與規則……（四）　四五
勅四五六　公立學校職員教官其他教育ニ從事スル文官相互間轉任ニ關スル件……（四）　一四九
文部省
令　三四一　公立私立學校認定ニ關スル規則……（一四）　一四九
明治三十三年
法律
法　一三　軍人軍屬ノ遺言確認請求ニ關スル件……（一）　一九
法　一五　飲食物其ノ他ノ衞生上危險ノ物品取締ニ關スル件……（九）　一五七
法　一七　商法中署名スヘキ場合ニ關スル件……（一四）　三
法　三〇　傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金ニ關スル件……（四）　一四
法　五一　救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル件……（一）　二
法　五二　法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタルトキノ處罰ニ關スル件……（一）　一三
郵便法……（一七）　一六
法　五四　郵便爲替法……（一七）　一六
法　五五　鐵道船舶郵便法……（一七）　一六
法　五六　電信法……（一七）　一六
法　五九　鐵道營業法……（一七）　一六
法　六五　間接國稅犯則者處分法……（一七）　一六
法　六七　外國ヨリ輸入スル鹹魚燻製魚及魚粕ニ關スル件……（一一）　三四
法　八六　外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル件……（一一）　三四
法　八七　陸海軍准士官以下ノ受恩給者文官ニ任用ノ場合俸給支給方……（一二）　八六
勅　一三二　准士官以下ノ受恩給者文官ニ任用ノ場合諸給與及納金計算方……（一二）　八六
勅　一三三　救恤又ハ技術奬勵資附金ノ保管出納ノ件……（一二）　八六
勅　一三四　小學校令……（一五）　二六〇
勅　一三五　陸海軍准士官以下ノ受恩給者文官ニ任用ノ場合俸給支給方……（一二）　八六
勅　二七三　准士官以下ノ受恩給者文官ニ任用ノ場合諸給與及納金計算方……（一二）　八六
勅　三二九　救恤又ハ技術奬勵資附金ノ保管出納ノ件……（一二）　八六
勅　三四　小學校令……（一五）　二六〇
勅　六三　著作權法施行期日……（九）　一八四
勅三三〇　水雜救護法施行期日……（四）　四五
勅三五七　警察賞與規則……（四）　四五
勅四〇二　公立學校職員教官其他教育ニ從事スル文官相互間轉任ニ關スル件……（四）　一四九
勅四五六　屬シタル財產ノ引渡ニ關スル件……（四）　一四九
大藏省
令　一九　准士官以下ノ受恩給者文官ニ任用ノ場合俸給計算方……（一）　八六
諸收入收納取扱規程……（一一）　三四
出納官吏銀行又ハ一私人ニ現金保管ヲ託セシ場合ニ於テ該預金ニ對スル利子ヲ受取リタルトキ取扱方……（一一）　三四
訓　二七　五六　外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル件……（一七）　一八六
勅四〇九　相續人曠缺ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財產ノ引渡ニ關スル件……（四）　一四九
陸軍省
令　一四一　要塞地帶施行規則……（一二）　二
海軍省
令　七一　軍港要港規則……（一二）　二
令　一六　要塞地帶法施行規則……（一二）　二
遞信省
令　八九　未船檢査規程……（一七）　三三
明治三十四年
法律
法　二八一　稅關貨物取扱人法……（一）　三
勅令
勅　一四九　巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令……（四）　三
內務省
訓　一三　巡査看守退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者ヲ判任待遇以上ノ官職ニ任用ノトキ通報方ノ件……（一）　一五五
司法省
訓　六　巡査看守退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者ヲ判任待遇以上ノ官職ニ任用ノトキ通報方ノ件……（二）　一五五
文部省
令　一五　文部省直轄學校外國人特別入學規程……（一五）　九八

明治三十五年

法律

法　四九　國勢調査ニ關スル件……（五）
法　五〇　一年臨計算ニ關スル件……（一四）

勅令

勅　二八一　官國幣社及神宮神部署神職任用令…（七）

内閣

告　二　大勲位菊花章頸飾略章圖式及佩用方……（四）

明治三十六年

勅令

勅　五　海軍區……（三）
勅　六一　專門學校令……（五）
勅二八五　初級官等ノ制限ヲ受ケサル高等文官他ノ高等文官ト爲ル場合ノ官等ニ關スル件……（三）

司法省

令　七一　監獄判任待遇職員懲戒規程……（三）

文部省

令　一四一　專門學校入學者檢定規程……（二）

明治三十七年（光武八年）

法律

法　一七　記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル件……（一四）

勅令

勅　一二　鐵道軍事供用令……（三）
勅　一九　軍事郵便物ニ關スル件……（一七）
勅　三三　戰時事變ノ際巡査看守休職ニ關スル件……（一七）
勅二〇六　文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレタル者ノ俸給ニ關スル件……（三）

大藏省

訓　三　收入官吏ハ歲入歲出外現金出納ノ職務ヲ兼掌スルノ件……（一一）

陸軍省

令　三　鐵道軍事輸送規程……（九）
告　四一　恤兵金品取扱規程……（一四）

舊韓國政府

詔勅　一　陸海軍將校分限令……（一）

明治三十八年（光武九年）

法律

法　二三　郵便貯金法……（一）
法　五二　擔保附社債信託法……（一）
法　五三　鐵道抵當法……（一）
法　五四　工場抵當法……（一）
法　五五　鑛業抵當法……（一）
法　六三　外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法……（一三）
法　六六　外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル件……（一四）

勅令

勅　三一　服制ノ地質ニ關スル件……（一）
勅一六六　郵便貯金利子割合……（一）
勅一七九　政府ヨリ恩給ヲ受クル者召集中手當支給ノ件……（一）

明治三十九年（光武十年）

法律

法　三四　國債ニ關スル件……（一）
法　五一　紙幣類似證券取締法……（一）

勅令

勅一八四　朝鮮總督府及所屬官署ノ民事訴訟ニ關シ國ヲ代表スルノ件……（一）
勅二一二　行賞賜金ニ對シ特別郵便貯金及特別證券保管通帳交付ノ件……（一）
勅二五九　巡査給與令……（一）
勅二六一　加工ノ爲輸入スル物品ニ關スル關東州生產品ノ輸入稅率ニ關スル件……（一）
勅二六二　奏任及判任待遇監獄職員給與令……（一）
勅二七六　支那生產物品ノ輸入稅率ニ關スル件……（一）
勅三〇四　朝鮮、臺灣及支那等ニ在ル者ノ徵兵身體檢査ニ關スル件……（一）

統監府

令　一〇　保安規則……（一）
令　三八　朝鮮總督府及所屬官署ニ於テ徵收スル手數料ノ收入印紙ヲ以テ納付スヘキ種目……（一）
令　四〇　電報料金後納規則……（一）
告　六五　電信電話建築官吏及料金滯納者財產差押官吏證票……（一）

舊韓國政府

法　二　移民保護法……（一）
農令四二　各種物貨分折及試驗手數料規定……（一）
農令四四　移民保護法施行細則……（一）

明治四十年（光武十一年）

皇室令

皇　一　皇室典範增補……（一）

皇室令

令　二一　華族令……（一）
令　一五　宮内官分限令……（一）
令　一六　宮内官懲戒令……（一）

法律

法　五　官廳ニ於テ印刷局製造品買入レニ關スル件……（一）
法　三四　租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル件……（一）
法　四五　刑法……（一）

勅令

勅　六　公式令……（一）
勅一七七　官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件……（一）
勅二四四　月俸七十五圓未滿ノ判任官待遇者俸給ニ關スル件……（一）
勅二九一　鐵道株式會社ノ株券ヲ國債證券ニ代用ノ件……（一）

宮内省

訓　五一　雜仕小者雇用規程……（一）

統監府

告　六一　水底電線路區域……（一七）

舊韓國政府

法　一　新聞紙法……（九）
法　二　保安法……（九）
法　四　國有未墾地利用法……（一〇）

明治四十一年（隆熙二年）

法律

法　二八　監獄法……（一四）
法　二九　刑法施行法……（一四）
法　四六　陸軍刑法……（一四）
法　四七　陸軍刑法施行法……（一四）
法　四八　海軍刑法……（一四）
法　四九　海軍刑法施行法……（一四）
法　五三　公證人法……（一三）
法　六三　東洋拓殖株式會社法……（一六）

勅令

勅二一七　刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件……（一四）
勅二八七　擔保トシテ政府ニ納ムヘキ國債等ノ價格算定ニ關スル件……（一一）
勅二九一　勳章褫奪令……（一四）
勅二九二　勳章記章褒章ノ佩用取締ニ關スル件……（一四）

内閣

令　二一　勳章褫奪令施行細則……（一四）

宮内省

告　一　宮内官任用令ニ依リ學校認定……（一五）

統監府

令　一二　新聞紙規則……（九）
令　三五　第三種郵便物認可規則……（一七）
告一四八　郵便貯金ノ局待拂取扱開始……（一七）
告一五九　電話呼出地域……（一七）

舊韓國政府

勅　四一　葉錢ノ通行價格ニ關スル件……（一二）
勅　五〇　享祀釐正ニ關スル件……（七）
勅　五八　國有土石採取規則……（一五）
勅　六三　學會令……（一五）
内訓二六一　寄附金募集ニ關スル件……（一）
度訓二六四　鑛區稅、鑛產稅、砂金採取稅國有採地（管下料）臺帳調製規程……（一）
學發一〇五　學會ニ關スル件……（一）
警議甲令二　除穢規則……（一）
警告　二　除穢規則施行區域……（一）

明治四十二年（隆熙三年）

法律

法　八　登錄國債ノ擔保充用ニ關スル件……（一）
法　九　政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル件……（一）
法　二八　軌道ノ抵當ニ關スル件……（一）
法　三五　種痘法……（一）
法　三九　印紙犯罪處罰法……（一）

勅令

勅　四一　收入印紙賣捌ニ關スル件……（一）
勅一二〇　刑法施行後施行ノ命令ニ揭ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件……（一）
勅一二三　電信電話施設ニ關シ寄附ヲ受クル件……（一）
勅一八九　公證人法施行期日……（一）
勅二三六　朝鮮總督府裁判所令……（一）
勅二四三　奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄官制……（一）
勅二五一　朝鮮總督府監獄職員給與令……（一）
勅二九二　韓國軍人軍屬ノ犯罪審判ニ關スル件……（一）

文部省

告一四三　釜山公立商業專修學校ヲ徵兵令竝文官任用令ニ依リ認定……（一）

遞信省

遞令二六　外國電報規則……（一）

統監府

勅　五八　國有土石採取規則……（一五）
勅　六三　學會令……（一五）
内訓二六一　寄附金募集ニ關スル件……（一）
度訓二六四　鑛區稅、鑛產稅、砂金採取稅國有採地（管下料）臺帳調製規程……（一）
學發一〇五　學會ニ關スル件……（一）
警議甲令二　除穢規則……（一）
警告　二　除穢規則施行區域……（一）

明治四十二年（隆熙三年）

法律

法　八　登錄國債ノ擔保充用ニ關スル件……（一）
法　九　政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル件……（一）
法　二八　軌道ノ抵當ニ關スル件……（一）
法　三五　種痘法……（一）
法　三九　印紙犯罪處罰法……（一）

勅令

勅　四一　收入印紙賣捌ニ關スル件……（一）
勅一二〇　刑法施行後施行ノ命令ニ揭ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件……（一）
勅一二三　電信電話施設ニ關シ寄附ヲ受クル件……（一）
勅一八九　公證人法施行期日……（一）
勅二三六　朝鮮總督府裁判所令……（一）
勅二四三　奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄官制……（一）
勅二五一　朝鮮總督府監獄職員給與令……（一）
勅二九二　韓國軍人軍屬ノ犯罪審判ニ關スル件……（一）

文部省

告一四三　釜山公立商業專修學校ヲ徵兵令竝文官任用令ニ依リ認定……（一）

遞信省

遞令二六　外國電報規則……（一）

統監府

令　四八　監獄職員銃器携帶ニ關スル件……（一四）
令　四九　判任待遇【統監府】監獄職員ノ懲戒ニ關スル件……（一）
令　五一　因人被告人及被疑者護送規則……（一四）
令　五三　朝鮮總督府看守、朝鮮總督府女監取締給與品及貸與品規則……（一）
令　六七　年賀特別郵便規則……（一）
令　六九　郵便振替貯金規則……（一）
訓　一四　御影竝勅語謄本奉置心得……（一）
告　二二　水底電線路區域……（一）
告　七三　料金受信人拂外國新聞電報取扱局所……（一）

舊韓國政府

法　六　出版法……（九）
勅　一　陵園墓内垓宇管理守護ニ關スル件……（一〇）
勅　六八　軍部廢止、親衛府新設及之ニ附帶ノ件……（一）
令　一　武官懇給ニ關スル件……（一）
令　九　韓國銀行條例ニ定メタルモノノ外政府ノ認可ヲ受クヘキ事項ニ付命令……（一）

明治四十三年（隆熙四年）

詔書

詔　韓國ヲ帝國ニ併合ノ件……（一）
詔　前韓國皇帝ヲ册シテ王ト爲スノ件……（一）
詔　李堈及李熹ヲ公ト爲ス件……（一）
詔　王族及公族ノ稱呼……（一）
詔　王族公族ニ武官附屬ノ件……（一）

皇室令

皇　一三　宮内官内國旅費令……（一）
皇　一四　朝鮮貴族令……（一）
皇　一五　朝鮮ニ在住スル貴族ニ關スル件……（一）
皇　一六　朝鮮貴族ノ敍位ニ關スル件……（一）
皇　二二　朝鮮貴族タル有爵者大禮服制……（一）
皇　三四　李王職官制……（一）
皇　三九　朝鮮ニ於ケル李王職ノ事務及朝鮮ニ在勤スル李王職職員ニ關スル件……（一）
皇　四〇　李王職經費ノ支辨及李王歲費ノ收支監督ニ關スル件……（一）

法律

法五四　關稅定率法……（二一）五八
法五五　豫約出版法……（九）一四

勅令

勅一七　警部補ノ俸給及給與ニ關スル件……（三）八七
勅二五　郵便官署ヲシテ年金、恩給等ノ支給事務ヲ取扱ハシムル件……（四）八五
勅一二六　巡査看守療治料給助料及弔祭料給與令ヲ警部補ニ準用ノ件……（四）三
勅一三四　高等官官等俸給令……（三）六五
勅一三五　判任官俸給令……（三）八四
勅一三七　朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令……（三）八四
勅一六七　文武判任官等級令……（三）八三
勅二七四　內國旅費規則……（三）一三七
勅二七五　文官試補及見習ニ關スル件……（三）一四八
勅三一八　韓國ノ國號ヲ改メ朝鮮ト稱スル件……（一）四
勅三一九　朝鮮總督府設置ニ關スル件……（三）一
勅三二三　舊韓國軍人ニ關スル件……（三）一八二
勅三二五　朝鮮舊刑所犯ノ罪囚ニ對シ大赦ヲ行フノ件……（四）三四三
勅三二七　臨時恩賜ニ充ツル國債發行ノ件……（一一）三六四
勅三二九　臨時恩賜公債證券ニ關スル件……（一一）三六四
勅三三四　舊韓國勳章及記章ノ佩用ニ關スル件……（四）五
勅三三五　特許法等ヲ朝鮮ニ施行スルノ件……（九）（一六）一五五　一四一
勅三三六　特許法、意匠法及實用新案法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件……（一六）一六四
勅三三七　商標法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件……（一六）一八〇
勅三三八　著作權法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件……（九）一五七
勅三三九　韓國特許辨理士令ニ依ル登錄ハ特許辨理士令ニ依ル登錄ト看做スノ件……（一六）一六三
勅三四〇　入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件……（一一）二四六
勅三五四　朝鮮總督府官制……（三）一
勅三五五　朝鮮總督府中樞院官制……（三）七
勅三五七　朝鮮總督府地方官制……（三）八
勅三六二　朝鮮總督府稅關官制……（三）三九
勅三六七　朝鮮總督府營林廠官制……（三）五〇
勅三六八　朝鮮總督府醫院官制……（三）五〇
勅三七〇　朝鮮總督府勸業模範場官制……（三）五三
勅三七四　朝鮮人タル奏任官及判任官ノ增置ニ關スル件……（三）一
勅三七五　朝鮮總督府土木會議官制……（三）五
勅三八五　朝鮮總督府職員ノ交際手當ニ關スル件……（三）九五
勅三九二　朝鮮總督府及所屬官署職員ノ宿舍料ニ關スル件……（三）一〇三
勅三九六　朝鮮人タル官吏ノ特別任用ニ關スル件……（三）一四八
勅四〇六　朝鮮總督府特別會計ニ關スル件……（一一）一九八
勅四〇七　朝鮮總督府特別會計規則……（一一）一九八
勅四一二　朝鮮ニ施行スル法律ニ關スル件……（一一）（一四）（一七）一五六　三一七　一〇
勅四三八　警察官吏及消防官吏ノ功勞記章ニ關スル件……（四）一〇
勅四五五　明治二十三年法律第二號及同年法律第八十三號ヲ朝鮮ニ施行スルノ件……（一三）三

內閣

令一六　朝鮮總督府及其所屬官廳ノ執務時間ニ關スル件……（三）一九四

宮內省

令五　宮內官國旅費令施行規則……（三）一三七
令一六　李王職判任官ノ定員……（三）六三

大藏省

令二六　寄託又ハ供託ニ係ル國債ノ償還元金代リ新公債交付ニ關スル特別取扱規程……（一一）三六六
令四二　恩賜公債規程……（一一）三六五

陸軍省

達四〇　朝鮮總督府所屬官署職員ニ任セラレタル現役將校定員外所屬ニ關スル件……（三）八一

統監府

令二　刑事事件ノ證人、鑑定人、通事ニ日當旅費及止宿料支給方……（三）一三五
令二〇　出版規則……（九）一三三
令五〇　制令公布式……（一）八
令五二　條約ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ニ關スル件……（九）九四
令六一　水道上水保護規則……（一〇）七三
訓一　勳章、勳記、功記、年金證書又ハ外國勳章佩用免許證沒收ノ場合ニ於テ犯人ノ本籍戶籍吏ニ通知ノ件……（四）七
訓一七　朝鮮舊刑所犯ノ罪囚ニ對シ大赦ヲ行フノ件施行手續……（四）三四四
告一四三　郵便振替貯金ノ當座勘定口振替ヲ請求シ得ル銀行……（一七）四八
告二一五　長距離電話開始……（一七）九二

朝鮮總督府

制一　朝鮮ニ於ケル法令ノ效力ニ關スル件……（一）五
制六　朝鮮總督府判事及檢事ノ任用ニ關スル件……（三）一五一
制七　朝鮮人タル朝鮮總督府判事及檢事ノ任用ニ關スル件……（三）一五一
制八　明治四十三年制令第一號ニ依ル命令ノ區分ニ關スル件……（一）五
制一〇　犯罪即決例……（一四）三〇五
制一一　民事爭訟調停ニ關スル件……（一四）一六八
制一二　辯護士規則……（一三）一〇
制一三　會社令……（一六）五九
令一　朝鮮總督府令公文式……（一）八
令二　朝鮮總督府道令公文式……（一）八
令五　朝鮮總督府ニ提出スル願屆書經由ニ關スル件……（五）一
令八　面ニ關スル規程……（八）三三
令九　朝鮮總督府裁判所ノ名稱、位置及管轄區域……（三）四三
令一一　監獄及監獄分監ノ名稱、位置……（三）四八
令一三　朝鮮總督府監獄官制施行ノ際監獄醫等任用ノ件……（三）一八一
令一六　統監府巡查及巡查補ノ勤續ニ關スル件……（三）一八一
令一七　條約ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人勞働者ノ指定……（九）九四
令一八　朝鮮總督府遞信官署徵章、遞信日付印及郵便切手類模造取締規則……（三）一〇

令二四　朝鮮總督府旅費規則……（三）一三三
令二六　臨時恩賜金管理規則……（八）一五九
令二七　外國旅券規則……（六）八八
令三二　朝鮮總督府郵便所長任用規則……（三）一五二
令三四　朝鮮總督府遞信書記補試驗規則……（三）一六一
令四二　本府所屬官署ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル件……（一四）一六三
令六三　朝鮮ト內地、臺灣、樺太、南洋群島及滿洲間郵便規則……（一七）一九
令六六　會社令施行規則……（一六）五九
令六七　民事爭訟調停事務取扱規則……（一四）一六八
訓八　朝鮮總督府郵便局、電信局及電話局事務分掌規程……（三）三〇
訓一六　朝鮮總督府醫院事務分掌規程……（三）五一
訓二八一　出納官吏ヲ置カサル郵便局ニ關スル件……（一一）二九四
訓四六　臨時恩賜金配與ノ件……（八）一三
訓四八　外國旅券規則取扱手續……（六）八八
訓五四　國稅及國有地小作料竝地方費賦課金交付金額報告書提出ニ關スル件……（一一）二六三
訓六二　財務官吏職務執行ノ際注意ノ件……（三）一八三
訓七一　民事爭訟調停事務取扱手續……（一四）一六九
訓七二　犯罪即決例施行手續……（一四）三〇五
告九　郵便、電信及電話局所取扱事務……（三）三
告一一　振替貯金事務ニ關スル郵便物宛名記載方……（一七）四八
告一二　朝鮮總督府遞信官署徵章……（三）一一
告一六　臨時恩賜金配與ノ件……（八）一四
告二三　同一ノ旅券ヲ以テ數次往復シ得ヘキ地……（六）八八
告三八　電報規則ニ於ケル市內地域……（一七）六〇
告四〇　臨時恩賜金公債證書ヲ【韓國銀行】ニ於テ買收ノ件……（一一）三三五
告四五　朝鮮總督府稅關所屬船ノ旗章……（三）三三
警令三　集會取締……（九）六二

舊韓國政府

度訓一二　【宮內府】ヨリ特許シタル鑛山ニ對シ上納金徵收方ニ關スル件……（一一）四〇

明治四十四年

法律

法二　公共團體ニ對スル工事補助費繰越使用ニ關スル件……（一一）二七三
法一一　朝鮮ニ於ケル貨幣整理ノ爲生シタル債務移屬方ノ件……（一一）一九
法一八　朝鮮事業公債法……（一一）三六五
法三〇　朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル件……（一）五
法四六　工場法……（四）二六〇
法四八　朝鮮銀行法……（一六）三三
法五一　間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル件……（一三）七
法五二　司法事務共助法……（一三）六
法五八　租稅外諸收入金整理ニ關スル件……（一一）二四九

條約

條一二　逃亡犯罪人引渡條約……（六）二

勅令

勅二三　朝鮮ニ於テ警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シ賞與ヲ爲スノ件……（四）一
勅三六　朝鮮軍人ニ關スル件……（三）五九
勅六三　保管金規則ヲ朝鮮ニ施行スルノ件……（一一）三七七
勅一二〇　朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スル法律ニ關スル件……（一一）二四九
勅一二一　明治四十四年法律第五十八號施行規則……（一一）二四九
勅一三八　朝鮮總督府視學官特別任用令……（三）一四九
勅一六七　關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件……（一六）一八〇
勅一八八　朝鮮ニ於ケル稅關特許手數料ニ關スル件……（一一）二一五
勅一九一　警務費俸給豫算定額內ニ於テ囑託醫ヲ置クコトヲ得ルノ件……（三）二
勅二〇〇　朝鮮官有財產管理規則……（一一）二九六
勅二〇二　朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締ノ療治料給助料及弔祭料給與ニ關スル件……（四）一四
勅二〇三　朝鮮銀行法施行期日……（一六）二五
勅二六七　司法事務共助法施行期日……（一三）七
勅二六八　司法事務ノ共助ニ關スル費用竝受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル件……（一三）七
勅二七〇　陸軍補充令……（三）六八
勅二七二　明治三十三年法律第十五號及同年法律第三十號ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件……（九）（四）一〇一　一〇四
勅二八五　陸軍軍人服役令……（三）一三〇

宮內省

訓七　李王職職員ノ進退及朝鮮ニ於ケル李王職ノ事務ニ關スル件……（三）六三

大藏省

令一七　貸付金取扱規程……（一一）二五〇
令四三　朝鮮總督府特別會計規則ニ依リ同會計ニ要スル府郡歲入徵收官ノ徵收簿ハ明治三十一年大藏省訓令第十一號徵收簿ノ樣式ニ依ルノ件……（一一）一九九

陸軍省

令九　陸軍補充令施行規則……（三）七四
令一六　陸軍軍人服役令施行規則……（三）一三三

文部省

令一六　朝鮮人留學生ノ特別入學ニ關スル件……（一五）九八

朝鮮總督府

制一　海港檢疫ニ關スル件……（九）三三
制二　朝鮮總督府稅關貨物取扱人ニ關スル件……（一一）三
制三　土地收用令……（一〇）一
制五　朝鮮總督府判事懲戒令……（三）一九二
制六　漁業令……（一六）一〇五
制七　寺剎令……（七）三三
制一〇　森林令……（一〇）一五
制一一　制令ニ於テ法律ニ依ルノ規定アル場合ニ於テ其ノ法律ニ改正アリタルトキノ效力ニ關スル件……（一）五
制一三　利息制限令……（四）一六二
制一四　國稅徵收令……（一一）一
令一　郵便切手類及收入印紙賣捌規則……（一七）一五

令八　朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府巡査給與品及貸與品規則……（二）　二一
令九　郵便規則……（七）　三
令一〇　鐵道郵船郵便物市內特別取扱規則……（七）　一〇
令一一　通常郵便物市內特別取扱規則……（七）　一〇
令一三　郵便物包裝規則……（七）　一三
令一四　郵便切手類記號規則……（七）　一四
令二四　電氣事業取締規則……（七）　二〇
令二七　郵便爲替規則……（七）　二〇
令二九　朝鮮總督府郵便爲替貨物取扱人ニ關スル制令施行細則……（七）　二六
令三一　郵便貯金規則……（七）　三三
令三二　遞達郵便規則……（七）　三三
令四〇　京城中學校附屬臨時小學校教員養成所規程……（五）　七
令四二　外國郵便、外國郵便爲替及外國電信ノ取扱ニ關スル件……（七）　三五
令四六　狩獵規則……（七）　三五
令四七　間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律ニ依リ管轄權ヲ有スヘキ朝鮮總督府裁判所……（三）　八
令四九　縣賞當籤類似其ノ他投票募集等取締ニ關スル件……（九）　三五
令五二　巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令準用ニ關スル件……（四）　三
令五八　朝鮮總督府看守採用規則……（二）　三四
令六三　朝鮮總督府監獄所屬職員中奏任待遇者ノ懲戒ニ關スル件……（二）　一九
令六六　引火實物貯藏所取締規則……（九）　一四
令六七　漁業令施行規則……（九）　一〇
令六八　漁業取締規則……（一五）　一三
令七三　經學院規程……（一五）　九
令七四　森林令施行規則……（一〇）　一六
令七五　宿泊及居住規則……（九）　一四
令七六　朝鮮警察官吏官試驗規則……（四）　一二
令七九　土地收用令施行規則……（一〇）　一〇
令八〇　國有未墾地利用法施行規則……（一〇）　一〇
令八一　信用告知業取締規則……（九）　一三
令八三　寺刹令施行期日……（七）　二四
令八四　寺刹令施行規則……（七）　二四
令八六　稅關特許手數料ニ關スル件……（一一）　二五
訓六九　朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府巡査給與品及貸與品規則……（一四）　二八
訓七一　森林令施行手續……（一四）　一九
訓七三　輸移出入貨物ノ取扱ヲ爲ス場所ニ於ケル引火貨物ノ貯藏ニ關シ稅關長ト協議ノ件……（九）　一四
訓七五　驛屯土收入收納規程……（一一）　二〇
訓八一　驛屯土堰堰工事規程……（一一）　二〇
訓八二　官立學校長職務規程……（一一）　二〇
訓八三　鮮滿鐵道聯絡稅關事務ニ從事シ又ハ其ノ事務監督ノ爲出張スル稅關官吏ノ旅費額……（二）　二五
訓八四　朝鮮總督府及所屬官署文官禮式……（二）　二五
訓八七　驛屯土臺帳異動整理手續……（一一）　二〇
訓八九　朝鮮總督府監獄書類保存規程……（五）　一五
訓九三　朝鮮總督府看守採用手續……（二）　一五
內訓一五　臨時恩賜公債證書ノ讓渡又ハ質入許可稟請方……（一一）　二五
告七　指定法律學校……（一五）　八九
告九二　郵便物速達地域及速達取扱ニ要スル料金……（一七）　一二
告一一〇　食鹽ノ輸入ニ限リ其ノ手續ノ取扱ヲ開始セル監視署名稱……（一）　四
告一二三　朝鮮總督府醫院醫官醫員ノ往診又ハ看護婦ノ出張ヲ受ケムトスル者ノ負擔……（九）　八
告一二三・一二四五　一等道路及二等道路表……（一七）　一〇
訓六　漁業ニ關スル手數料ノ件……（一）　一
訓八　森林令施行期日……（一）　一
令一〇二　集金郵便振替貯金拂込規則……（一）　一
令一〇四　警備電話規則……（一）　一
令一二四　朝鮮人ノ姓名改稱ニ關スル件……（一）　一
令一二八　鴨綠江橋梁步道取締規則……（一）　一
令一二九　鴨綠江橋梁步道ニ依ル輸出入貨物取締ニ關スル件……（一）　一
令一三〇　郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ニ關スル件……（一）　一
令一三一　學校生徒學費給與竝卒業後ノ義務等ニ關スル件……（一）　一
令一三三　衞生上有害飲食物及有害物品取締規則……（一）　一
令一三四　清涼飲料水及氷雪營業取締規則……（一）　一
令一三八　窖附金品募集取締規則……（一）　一
令一三九　私設電信電話規則……（一）　一
令一四〇　官營用電信電話規則……（一）　一
令一四五　清酒ノ製造又ハ貯藏ニ關シ及其ノ他ニ付「サリチール」酸ニ限リ當分衞生上有害飲食物及有害物品取締規則第八條ノ規定ヲ適用セサル件……（一）　一
令一五六　國稅徵收令施行期日……（一）　一
令一五七　國稅徵收令施行規則……（一）　一
訓三　臨時恩賜金ノ收支ニ關スル規程……（一）　一
訓五　臨時恩賜金管理規則第三條ニ依ル銀行指定……（一）　一
訓六　海港檢疫手續……（一）　一
訓八　地方費賦課金徵收ニ要スル費用徵收方……（一）　一
訓一三　官報通牒ニ同文通牒揭載ニ關スル件……（一）　一
訓一五　朝鮮總督府遞信官署會計事務章程……（一）　一
訓一六　朝鮮總督府遞信官署物品出納規程……（一）　一
訓二七　朝鮮總督府通信官署郵便切手類及收入印紙出納規程……（一）　一
訓四二　朝鮮總督府看守及朝鮮總督府監獄看守採用規則……（一）　一
訓五一　驛屯土小作料滯納者取扱方ノ件……（一）　一
訓五八　經學院ニ關スル件……（一）　一
訓六五　留置中ノ囚人及刑事被告人ニ給與スル食料額……（一）　一
朝鮮總督府巡査【及巡査補】休暇規程……（一）　一
森林令施行手續……（一）　一
輸移出入貨物ノ取扱ヲ爲ス場所ニ於ケル引火貨物ノ貯藏ニ關シ稅關長ト協議ノ件……（九）　一四
驛屯土收入收納規程……（一一）　二〇
驛屯土堰堰工事規程……（一一）　二〇
官立學校長職務規程……（一一）　二〇
鮮滿鐵道聯絡稅關事務ニ從事シ又ハ其ノ事務監督ノ爲出張スル稅關官吏ノ旅費額……（二）　二五
朝鮮總督府及所屬官署文官禮式……（二）　二五
驛屯土臺帳異動整理手續……（一一）　二〇
朝鮮總督府監獄書類保存規程……（五）　一五
朝鮮總督府看守採用手續……（二）　一五
官吏ノ旅費額……（二）　二五
朝鮮總督府及所屬官署文官禮式……（二）　二五
驛屯土臺帳異動整理手續……（一一）　二〇
朝鮮總督府監獄書類保存規程……（五）　一五
朝鮮總督府看守採用手續……（二）　一五
訓六九　朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府巡査給與品及貸與品規則……（一）　二
訓七一　森林令施行手續……（一）　一
訓七三　輸移出入貨物ノ取扱ヲ爲ス場所ニ於ケル引火貨物ノ貯藏ニ關シ稅關長ト協議ノ件……（九）　一四
訓七五　驛屯土收入收納規程……（一一）　二〇
訓八一　驛屯土堰堰工事規程……（一一）　二〇
訓八二　官立學校長職務規程……（一一）　二〇
訓八三　鮮滿鐵道聯絡稅關事務ニ從事シ又ハ其ノ事務監督ノ爲出張スル稅關官吏ノ旅費額……（二）　二五
訓八四　朝鮮總督府及所屬官署文官禮式……（二）　二五
訓八七　驛屯土臺帳異動整理手續……（一一）　二〇
訓八九　朝鮮總督府監獄書類保存規程……（五）　一五
訓九三　朝鮮總督府看守採用手續……（二）　一五
內訓一五　臨時恩賜公債證書ノ讓渡又ハ質入許可稟請方……（一一）　二五
告七　指定法律學校……（一五）　八九
告九二　郵便物速達地域及速達取扱ニ要スル料金……（一七）　一二
告一一〇　食鹽ノ輸入ニ限リ其ノ手續ノ取扱ヲ開始セル監視署名稱……（一）　四
告一二三　朝鮮總督府醫院醫官醫員ノ往診又ハ看護婦ノ出張ヲ受ケムトスル者ノ負擔……（九）　八
告一二三・一二四五　一等道路及二等道路表……（一七）　一〇
訓六　漁業ニ關スル手數料ノ件……（一）　一
訓八　森林令施行期日……（一）　一
令一〇二　集金郵便振替貯金拂込規則……（一）　一
令一〇四　警備電話規則……（一）　一
令一二四　朝鮮人ノ姓名改稱ニ關スル件……（一）　一
令一二八　鴨綠江橋梁步道取締規則……（一）　一
令一二九　鴨綠江橋梁步道ニ依ル輸出入貨物取締ニ關スル件……（一）　一
令一三〇　郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ニ關スル件……（一）　一
令一三一　學校生徒學費給與竝卒業後ノ義務等ニ關スル件……（一）　一
令一三三　衞生上有害飲食物及有害物品取締規則……（一）　一
令一三四　清涼飲料水及氷雪營業取締規則……（一）　一
令一三八　窖附金品募集取締規則……（一）　一
令一三九　私設電信電話規則……（一）　一
令一四〇　官營用電信電話規則……（一）　一
令一四五　清酒ノ製造又ハ貯藏ニ關シ及其ノ他ニ付「サリチール」酸ニ限リ當分衞生上有害飲食物及有害物品取締規則第八條ノ規定ヲ適用セサル件……（一）　一
令一五六　國稅徵收令施行期日……（一）　一
令一五七　國稅徵收令施行規則……（一）　一
訓三　臨時恩賜金ノ收支ニ關スル規程……（一）　一
訓五　臨時恩賜金管理規則第三條ニ依ル銀行指定……（一）　一
訓六　海港檢疫手續……（一）　一
訓八　地方費賦課金徵收ニ要スル費用徵收方……（一）　一
訓一三　官報通牒ニ同文通牒揭載ニ關スル件……（一）　一
訓一五　朝鮮總督府遞信官署會計事務章程……（一）　一
訓一六　朝鮮總督府遞信官署物品出納規程……（一）　一
訓二七　朝鮮總督府通信官署郵便切手類及收入印紙出納規程……（一）　一
訓四二　朝鮮總督府看守及朝鮮總督府監獄看守採用規則……（一）　一
訓五一　驛屯土小作料滯納者取扱方ノ件……（一）　一
訓五八　經學院ニ關スル件……（一）　一
訓六五　留置中ノ囚人及刑事被告人ニ給與スル食料額……（一）　一
朝鮮總督府巡査【及巡査補】休暇規程……（一）　一
森林令施行手續……（一）　一
輸移出入貨物ノ取扱ヲ爲ス場所ニ於ケル引火貨物ノ貯藏ニ關シ稅關長ト協議ノ件……（九）　一四
驛屯土收入收納規程……（一一）　二〇
驛屯土堰堰工事規程……（一一）　二〇
官立學校長職務規程……（一一）　二〇
鮮滿鐵道聯絡稅關事務ニ從事シ又ハ其ノ事務監督ノ爲出張スル稅關官吏ノ旅費額……（二）　二五
朝鮮總督府及所屬官署文官禮式……（二）　二五
驛屯土臺帳異動整理手續……（一一）　二〇
朝鮮總督府監獄書類保存規程……（五）　一五
朝鮮總督府看守採用手續……（二）　一五
訓六九　朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府巡査給與品及貸與品規則……（一）　二
訓七一　森林令施行手續……（一）　一
訓七三　輸移出入貨物ノ取扱ヲ爲ス場所ニ於ケル引火貨物ノ貯藏ニ關シ稅關長ト協議ノ件……（九）　一四
訓七五　驛屯土收入收納規程……（一一）　二〇
訓八一　驛屯土堰堰工事規程……（一一）　二〇
訓八二　官立學校長職務規程……（一一）　二〇
訓八三　鮮滿鐵道聯絡稅關事務ニ從事シ又ハ其ノ事務監督ノ爲出張スル稅關官吏ノ旅費額……（二）　二五
訓八四　朝鮮總督府及所屬官署文官禮式……（二）　二五
訓八七　驛屯土臺帳異動整理手續……（一一）　二〇
訓八九　朝鮮總督府監獄書類保存規程……（五）　一五
訓九三　朝鮮總督府看守採用手續……（二）　一五
內訓一五　臨時恩賜公債證書ノ讓渡又ハ質入許可稟請方……（一一）　二五
告七　指定法律學校……（一五）　八九
告九二　郵便物速達地域及速達取扱ニ要スル料金……（一七）　一二
告一一〇　食鹽ノ輸入ニ限リ其ノ手續ノ取扱ヲ開始セル監視署名稱……（一）　四
告一二三　朝鮮總督府醫院醫官醫員ノ往診又ハ看護婦ノ出張ヲ受ケムトスル者ノ負擔……（九）　八
告一二三・一二四五　一等道路及二等道路表……（一七）　一〇
訓六　漁業ニ關スル手數料ノ件……（一）　一
訓八　森林令施行期日……（一）　一
令一〇二　集金郵便振替貯金拂込規則……（一）　一
令一〇四　警備電話規則……（一）　一
令一二四　朝鮮人ノ姓名改稱ニ關スル件……（一）　一
令一二八　鴨綠江橋梁步道取締規則……（一）　一
令一二九　鴨綠江橋梁步道ニ依ル輸出入貨物取締ニ關スル件……（一）　一
令一三〇　郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ニ關スル件……（一）　一
令一三一　學校生徒學費給與竝卒業後ノ義務等ニ關スル件……（一）　一
令一三三　衞生上有害飲食物及有害物品取締規則……（一）　一
令一三四　清涼飲料水及氷雪營業取締規則……（一）　一
令一三八　窖附金品募集取締規則……（一）　一
令一三九　私設電信電話規則……（一）　一
令一四〇　官營用電信電話規則……（一）　一
令一四五　清酒ノ製造又ハ貯藏ニ關シ及其ノ他ニ付「サリチール」酸ニ限リ當分衞生上有害飲食物及有害物品取締規則第八條ノ規定ヲ適用セサル件……（一）　一
令一五六　國稅徵收令施行期日……（一）　一
令一五七　國稅徵收令施行規則……（一）　一
訓三　臨時恩賜金ノ收支ニ關スル規程……（一）　一
訓五　臨時恩賜金管理規則第三條ニ依ル銀行指定……（一）　一
訓六　海港檢疫手續……（一）　一
訓八　地方費賦課金徵收ニ要スル費用徵收方……（一）　一
訓一三　官報通牒ニ同文通牒揭載ニ關スル件……（一）　一
訓一五　朝鮮總督府遞信官署會計事務章程……（一）　一
訓一六　朝鮮總督府遞信官署物品出納規程……（一）　一
訓二七　朝鮮總督府通信官署郵便切手類及收入印紙出納規程……（一）　一
訓四二　朝鮮總督府看守及朝鮮總督府監獄看守採用規則……（一）　一
訓五一　驛屯土小作料滯納者取扱方ノ件……（一）　一
訓五八　經學院ニ關スル件……（一）　一
訓六五　留置中ノ囚人及刑事被告人ニ給與スル食料額……（一）　一
朝鮮總督府巡査【及巡査補】休暇規程……（一）　一
森林令施行手續……（一）　一
輸移出入貨物ノ取扱ヲ爲ス場所ニ於ケル引火貨物ノ貯藏ニ關シ稅關長ト協議ノ件……（九）　一四
驛屯土收入收納規程……（一一）　二〇
驛屯土堰堰工事規程……（一一）　二〇
官立學校長職務規程……（一一）　二〇
鮮滿鐵道聯絡稅關事務ニ從事シ又ハ其ノ事務監督ノ爲出張スル稅關官吏ノ旅費額……（二）　二五
朝鮮總督府及所屬官署文官禮式……（二）　二五
驛屯土臺帳異動整理手續……（一一）　二〇
朝鮮總督府監獄書類保存規程……（五）　一五
朝鮮總督府看守採用手續……（二）　一五

告二六〇　漁場圖及漁具圖ノ調製心得竝樣式ノ件……（一二）　二八
告二六六　警察旗章及警察門燈竝提灯徽章ノ件……（三）　二
告二七一　森林令及森林令施行規則ニ依ル出願其ノ他ノ樣式……（一〇）　八
告二七七　寺刹令施行規則附則第三項ニ依ル住持就職認可申請書ノ樣式……（七）　一四
告二八九　電話通話區域及電話料……（一〇）　一〇
告三三八　衞生上有害飲食物及有害物品試驗方法……（九）　一〇
訓一二　宮內職員俸給支給細則……（一）　一
訓一二　陸軍軍人軍屬乘船手續……（一）　一
訓一五八　古物商ノ取締ニ關スル件……（一）　一
訓一六　質屋ノ取締ニ關スル件……（一）　一
訓一七　朝鮮民事令……（一）　一
訓一九　朝鮮不動產登記令……（一）　一
訓二一　朝鮮刑事令……（一）　一
訓二二　朝鮮監獄令……（一）　一
訓二三　朝鮮登錄稅令……（一）　一
訓二四　【朝鮮關稅令】及明治四十四年制令第二號ニ基ク訴願ニ關スル件……（一）　一
訓二五　藥品及藥品營業取締令……（一）　一
訓二六　遺失物其ノ他ノ物件ニ關スル件……（一）　一
訓二七　鐵道、輕便鐵道及軌道ノ營業ニ關スル件……（一）　一
訓二八　朝鮮輕便鐵道令……（一）　一
訓二九　司法警察事務竝令狀執行ニ關スル件……（一）　一
訓三〇　郵便、電信、電話ニ關スル滯納料金徵收規則……（一）　一
訓三一　水產組合規則……（一）　一
訓三二　漁業令施行期日……（一）　一
訓三三　朝鮮總督府稅關監吏ノ特別任用ニ關スル件……（一）　一
訓三四　朝鮮貴族ニ關スル審查委員會規則……（一）　一
訓三六　古物商取締令施行規則……（一）　一
訓三八　質屋取締ニ關スル制令施行規則……（一）　一
訓四〇　朝鮮輕便鐵道令施行規則……（一）　一
訓四一　鐵道運輸規程……（一）　一
令二九　法人及夫婦財產契約登記取締規則……（一）　一
令三〇　商業登記取扱規則……（一）　一
令三一　小商人、公告、確定日附簿及日附アル印章ニ關スル件……（一）　一
令三三　假出獄取締規則……（一）　一
令三四　朝鮮監獄令施行規則……（一）　一
令三六　朝鮮不動產登記令施行規則……（一）　一
令三八　不動產其ノ他ノ登記簿ノ謄本、抄本ノ請求等ニ關スル手數料及私製證書確定日附ノ手數料ニ關スル件……（一）　一
令四〇　警察犯處罰規則……（一）　一
令四一　死亡ノ申告ヲ爲サシテ埋葬ヲ爲シタル者等ニ關スル罰則……（一）　一
令五五　藥品及藥品營業取締令施行規則……（一）　一
令六一　海事ニ關スル分掌ニ關スル朝鮮總督府遞信局海事出張所ノ設置竝其ノ名稱、位置及分掌區域……（二）　二
令六四　朝鮮總督府遞信官署ノ出納員ニ關スル件……（一）　一
令六六　藥品及藥品營業取締令第十三條ニ依ル毒藥、劇藥ノ品目……（一）　一
令七一　法人ノ設立及監督ニ關スル規程……（一）　一
令七五　郵便ニ依リ民事訴訟書類ノ送達ヲ爲ス場合ニ於ケル送達手數料……（一）　一
令八七　健全證書交付手續……（一）　一
令九七　遺失物其ノ他ノ物件ニ關スル制令施行ニ關スル件……（一）　一
令一〇五　國有森林山野保護規則……（一）　一
令一〇六　朝鮮總督府道慈惠醫院ノ名稱及位置……（一）　一
令一〇八　衞生上有害飲食物及有害物品取締規則第九條、清涼飲料水及氷雪營業取締規則第十條ニ依ル警務總長、警務部長ノ職權中警察署長、警察分署長及警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊、憲兵分遣所ノ長ヲシテ行ハシムル事項……（一）　一
令一一二　教科用圖書檢定規程……（一）　一
令一一六　鐵道、輕便鐵道及軌道ノ營業ニ關スル件施行期日……（一）　一
令一一七　朝鮮輕便鐵道令施行規則……（一）　一
令一一八　鐵道運輸規程……（一）　一

令一九　輕便鐵道及軌道ノ建設、運輸其ノ他業務ニ關スル件……（一七）
メチールアルコホル（未精）取締規則……（九）
令一二一　墓地、火葬場、埋葬及火葬取締規則……（九）
令一二五　船舶積量測度互認……（一七）
訓一　勅語謄本頒布ノ件……（一五）
訓四　森林山野及未墾地國有私有區分標準……（一〇）
訓五　電報規則第四條第二項ニ依リ局報ヲ發送シ得ル場合……（一七）
訓七　極印使用規程……（一〇）
訓八　陸地棉栽培奬勵ニ關スル件……（一〇）
訓九　畜牛ノ改良增殖ニ關スル件……（一〇）
訓一〇　米作ノ改良奬勵ニ關スル件……（一〇）
訓一一　蠶業改良奬勵ニ關スル件……（一〇）
訓一三　朝鮮總督府警視、警部ノ地方法院支廳檢事ノ職務取扱ニ關スル件……（一四）
訓一五　刑ノ執行猶豫ニ關スル取扱規程……（一四）
訓一六　假出獄及假出場ニ關スル取扱手續……（一四）
訓二〇　朝鮮總督府遞信局事務分掌規程……（二）
訓二二　朝鮮總督府稅關事務分掌規程……（二）
訓二八　朝鮮總督府裁判所及檢事局處務規程……（五）
訓三二　郵便物通關手續……（五）
訓三六　朝鮮總督府公文書規程……（五）
訓三七　朝鮮總督府觀測所事務分掌規程……（二）
訓五六　朝鮮總督府現金取扱規程……（二）
訓五七　朝鮮關稅訴願審查委員會審查規程……（二）
訓六一　親學規程……（一）
訓七二　朝鮮、內地間ニ於テ明治四十四年勅令第二百六十八號ニ依リ受刑者及刑事被告人ヲ護送スルニ當リ相互ニ送致スヘキ地點……（一三）
內訓一　勅語謄本下附申請及奉護方ノ件……（五）
告一九〇　郵便振替貯金ノ局待拂開始……（一七）
告三九　水底電線路區域……（一七）
告二〇九　汽車中ニ在ル者ニ宛テタル電報ノ交付取扱ニ關スル件……（一七）
告二四二　明治四十三年勅令第三百九十六號第五條ニ依ル認定學校……（五）
告二六〇　メチールアルコホル（未精）取締規則中酒類ニ於ケル「メチールアルコホル」試驗方法……（九）
令一二五　船舶積量測度互認……（一七）
警令六　牛乳中ニ移行スヘキ毒藥、劇藥處方ニ關スル件……（九）
警訓甲九　朝鮮總督府巡査、巡査補撫治料、給助料及弔祭料給與ニ關スル取扱手續……（一四）
警訓甲一〇　質屋取締ニ關スル法令取扱手續……（九）
警訓甲一二　古物商取締ニ關スル法令取扱手續……（九）
警訓甲一三　牛乳營業取締規則第八條ノ適用方……（九）
警訓甲一三　衞生上有害飲食物及有害物品取締ニ關スル取扱手續……（九）
警訓甲一三　藥品及藥品營業取扱手續……（九）
警訓甲一三　藥品及藥品營業取扱手續……（九）
警訓甲一三　藥品檢查規程……（九）

大正元年

皇室令

皇一六　宮內職員ノ懲戒免除ニ關スル件……（二）

條約

條一　工業所有權相互保護ニ關スル日露條約……（六）
條八　清國ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日露條約……（六）

勅令

勅五　朝鮮人ノ（試補及）見習ニ關スル件……（一〇）
勅六　朝鮮國有森林未墾地及森林產物特別處分令……（一〇）
勅一九　休日ニ關スル件……（一）
勅二三　恩赦令……（一）
勅二四　大赦令……（一）
勅三〇　懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件……（一）
勅三六　明治三十九年法律第三十四號、同年法律第四十二年法律第八號及同年法律第九號ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（一）

勅一三　朝鮮公證令……（一二）
勅一九　國境ニ於ケル朝鮮總督府稅關出張所在勤ノ監視監吏特別任用ニ關スル件……（一）
勅二六一　交官任用令……（一）
勅二六二　任用分限又ハ官等ノ初敍陞敍ノ規定ヲ適用セサル文官ニ關スル件……（一）
勅二八三　朝鮮ニ施行スルル法律ニ關スル要塞地帶法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行ノ件……（一）
勅二八四　陸軍召集令……（一）
勅二九九　水路測量標條例ノ一部ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（一）
勅三一三　朝鮮、臺灣、樺太及關東州ニ於テ水路測量標建設ノ爲官有地ヲ使用スルノ件……（一）
勅三一五　關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書……（六）

勅令

勅一九　國境ニ於ケル朝鮮總督府稅關出張所在勤ノ監視監吏特別任用ニ關スル件……（一）
勅二六一　交官任用令……（一）
勅二六二　任用分限又ハ官等ノ初敍陞敍ノ規定ヲ適用セサル文官ニ關スル件……（一）
勅二八三　朝鮮ニ施行スルル法律ニ關スル要塞地帶法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行ノ件……（一）
勅二八四　陸軍召集令……（一）
勅二九九　水路測量標條例ノ一部ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（一）
勅三一三　朝鮮總督府濟生院規則……（二）
勅三一五　朝鮮總督府司法官試補實務修習及試驗規則……（二）
勅三一六　道路取締規則……（一〇）
勅三一七　荷車取扱規則……（九）
勅三二二　藥品巡視規則……（九）
勅三二三　沿岸貿易又ハ漁業ニ從事スル支那形日本船舶ニ關スル件……（七）
勅三四一　醫師規則……（九）
勅三四二　齒科醫師規則……（九）
勅三五五　醫生規則……（九）
勅三五六　公醫規則……（九）
勅三五七　郵便振替貯金小切手拂込規則……（一七）
勅三五八　道ノ位置、管轄區域及府郡ノ名稱、位置、管轄區域……（一）
勅三六五　朝鮮總督府濟生院規則……（二）
勅三六六　朝鮮總督府郵便所長服務規程……（二）
勅三六七　朝鮮總督府郵便所長手當金支給規程……（二）
勅三六八　朝鮮總督府及所屬官署賄料支給規程……（二）
勅三六九　經學院ノ院務ニ關スル件……（二）
勅三七〇　外國在留鮮人ノ身分取扱ニ關スル件……（四）
勅三七一　面事務所ノ位置ニ關スル件……（八）
勅三七二　朝鮮總督府官舍規程……（二）
勅三七三　朝鮮總督府會計監査規程……（二）
勅三七四　遞信業務傳習生養成規則……（二）

制七　朝鮮公證人規則……（一三）
制八　學校組合令……（八）
制一一　害蟲驅除豫防規則……（一六）
令三　私設學術講習會ニ關スル件……（一）
令一一　市街地建築取締規則……（九）
令二〇　朝鮮公證令施行規則……（一三）
令二一　京城高等普通學校附設臨時教員養成所生徒學資支給竝卒業後ノ服務義務ニ關スル件……（一五）
令三六　朝鮮總督府及所屬官署職員ノ加俸ニ關スル件……（二）
令四一　朝鮮總督府濟生院規則……（二）
令四五　朝鮮總督府司法官試補實務修習及試驗規則……（二）
令五三　道路取締規則……（一〇）
令五四　荷車取扱規則……（九）
令七四　藥品巡視規則……（九）
令九二　沿岸貿易又ハ漁業ニ從事スル支那形日本船舶ニ關スル件……（七）
令一〇〇　醫師規則……（九）
令一〇一　齒科醫師規則……（九）
令一〇二　醫生規則……（九）
令一〇三　公醫規則……（九）
令一〇七　郵便振替貯金小切手拂込規則……（一七）
令一一一　道ノ位置、管轄區域及府郡ノ名稱、位置、管轄區域……（一）
訓七　刑ノ執行停止者取締ニ關スル件……（四）
訓八　朝鮮總督府郵便所長服務規程……（二）
訓九　朝鮮總督府郵便所長手當金支給規程……（二）
訓一二　朝鮮總督府及所屬官署賄料支給規程……（二）
訓一三　經學院ノ院務ニ關スル件……（五）
訓三二　外國在留鮮人ノ身分取扱ニ關スル件……（四）
訓三五　面事務所ノ位置ニ關スル件……（八）
訓四〇　朝鮮總督府官舍規程……（二）
訓四四　朝鮮總督府會計監査規程……（二）
訓五四　遞信業務傳習生養成規則……（二）

外務省

皇室令

皇一　工業所有權相互保護ニ關スル日露條約……（六）
皇八　清國ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日露條約……（六）

朝鮮總督府

勅令

勅一　供託ニ關スル件……（一三）
勅二　土地調査令……（一〇）
勅三　銃砲火藥類取締令……（九）
勅四　租稅ニ關シ事犯アリタルトキノ處罰ニ關スル件……（一一）
勅五　銀行令……（一二）
勅七　地方費歲入收納郵便振替貯金特別取扱規則……（一七）
勅一〇　刑事判決ノ謄本、謄本及抄本ヲ求ムル者ノ手數料……（一四）
勅一三　土地調査令施行規則……（一〇）
勅二三　大正元年制令第四號第二條ノ間接國稅……（一一）
勅二四　朝鮮國有森林未墾地及森林產物特別處分令ニ依ル重要物產、緣故者製造業者及木材業者ノ資格……（一〇）
勅二五　恩赦令施行規則……（一四）
勅二六　銃砲火藥類取締令施行期日……（九）
勅二七　銀行令施行規則……（一二）
勅三八　指定供託所供託物取扱規則……（一三）
勅四〇　驛屯土特別處分令施行規則……（一一）
勅四一　煙火取締規則……（九）
勅四五　火藥類船舶輸送及貯藏規則……（九）
勅八　稅關ノ保管スル供託受領證整理方……（一一）
勅九　地方稟要市街地ノ市區改正又ハ擴張ヲ爲サムトスル場合認可ヲ受クヘキノ件……（一〇）
勅一三　自作農民ノ保護增殖ニ關スル件……（一〇）
勅一五　地方廳ニ於テ河川、堤防等ニ關スル工事施行ノ場合認可ヲ受クヘキノ件……（一〇）
訓一　朝鮮總督府報告例……（五）
訓二　森林山野ノ取締ニ關シ警察官署ヘ……（一）

訓二三　森林山野ノ管理保護ニ關シ道長官ヘ訓令……（一〇）
訓二四　驛屯土臺帳驛屯土集計簿及驛屯土名寄帳樣式……（一一）
訓二六　交通機關ノ整備ニ關シ警察官署ヘ訓令……（一七）
告一六　森林保護區、森林保護區域及森林保護員駐在所設定ノ件……（一〇）
告四七　朝鮮ニ船籍港ヲ有シ明治四十三年四月一日以後交付シタル船舶（假）國籍證書又ハ船鑑札ヲ有スル船舶ニ就キテ爲ス英吉利國外六個國ノ取扱方……（一七）
告七〇　商品陳列館觀覽時間……（一四）
告七八　京城市區改修豫定計畫路線……（一〇）
告八四　船舶ノ休暇日……（一〇）
告一一三　大正元年制令第一號ニ依ル指定供託所……（一三）
告一二四　水底電線路區域……（一三）
　　土地取容令施行期日及地域……（一〇）
　　遺失物其ノ他ノ物件取扱手續……（九）
隆訓甲一　明治四十五年總令第百十八號鐵道運輸規程第二十九條及第三十二條ニ依ル傳染病患者竝ニ同患者ト同乘シタル旅客ノ取扱方……（九）
警訓甲三　煙火取締規則取扱手續……（九）
警訓甲一五　墓地、火葬場、埋葬及火葬取締規則施行地域……（九）

大正二年

皇室令

皇五　初敍官等ノ制限ヲ受ケサル宮內高等官他ノ宮內高等官トナリ又ハ初敍官等ノ制限ヲ受ケサル高等文官初敍官等ノ制限ヲ受クル宮內高等官トナル場合ノ官等ニ關スル件……（二）

條約

條二　千九百年十二月十四日菲律賓及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關シ千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書……（六）

勅令

勅一九　國境ニ於ケル朝鮮總督府稅關出張所在勤ノ監視監吏特別任用ニ關スル件……（一）
勅二六一　交官任用令……（一）
勅二六二　任用分限又ハ官等ノ初敍陞敍ノ規定ヲ適用セサル文官ニ關スル件……（一）
勅二八三　朝鮮ニ施行スルル法律ニ關スル要塞地帶法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行ノ件……（一）
勅二八四　陸軍召集令……（一）
勅二九九　水路測量標條例ノ一部ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（一）
勅三一三　朝鮮總督府濟生院規則……（二）
勅三一五　朝鮮總督府司法官試補實務修習及試驗規則……（二）
勅三一六　道路取締規則……（一〇）
勅三一七　荷車取扱規則……（九）
勅三二二　藥品巡視規則……（九）
勅三二三　沿岸貿易又ハ漁業ニ從事スル支那形日本船舶ニ關スル件……（七）
勅三四一　醫師規則……（九）
勅三四二　齒科醫師規則……（九）
勅三五五　醫生規則……（九）
勅三五六　公醫規則……（九）
勅三五七　郵便振替貯金小切手拂込規則……（一七）
勅三五八　道ノ位置、管轄區域及府郡ノ名稱、位置、管轄區域……（一）
勅三六五　朝鮮總督府濟生院規則……（二）
勅三六六　朝鮮總督府郵便所長服務規程……（二）
勅三六七　朝鮮總督府郵便所長手當金支給規程……（二）
勅三六八　朝鮮總督府及所屬官署賄料支給規程……（二）
勅三六九　經學院ノ院務ニ關スル件……（二）
勅三七〇　外國在留鮮人ノ身分取扱ニ關スル件……（四）
勅三七一　面事務所ノ位置ニ關スル件……（八）
勅三七二　朝鮮總督府官舍規程……（二）
勅三七三　朝鮮總督府會計監査規程……（二）
勅三七四　遞信業務傳習生養成規則……（二）

訓　五五　寺刹ヨリ行政官廳ニ提出スル願届ハ本寺ヲ經由セシムル件……（七）
訓　六〇　朝鮮總督府及所屬官署船舶乘組員被服任與規程……（二）
内訓　四　小學校費國庫補助規程……（八）
内訓　五　免囚保護事業補助金下付手續……（四）
告　三　水底電線路區域……（七）
告　九　害蟲驅除豫防規則第二條第一項ニ依リ驅除豫防ノ方法……（六）
告　一四　朝鮮總督府秘關官制第一條第二項ニ依リ海港ノ檢査ヲ行フ秘關指定……（二）
告　三一五　郵便振替貯金ノ扱ヒ始……（七）
告　三五七　郵便貯金規則ニ依リ郵便官署ニ於テ取扱フ證券ノ購入、保管又ハ賣却ニ關スル料金……（七）
告　三九六　郵便振替貯金小切手拂込規則第一條ニ依ル指定銀行及指定受入郵便局所……（七）
告　三九七　水底電線路區域……（七）
告　四一一　朝鮮西岸大同江、廣梁灣及漢江ニ於ケル各航路ヲ航行スル船舶ノ注意事項……（七）
警　令五　入商營業取締規則……（九）
警訓甲二　荷車取締規則取扱手續……（九）
警訓甲三　市街地建築取締規則取扱手續……（九）
警訓甲四　乳用牛及物品檢査手續……（一）
警訓甲豎　醫師規則、齒科醫師規則及醫生規則取扱手續……（九）
警訓甲六　入商營業取締規則取扱手續……（九）

大正三年

法律

法　二六　戸籍法……（一四）
法　三四　船舶積量測度法……（七）

勅令

勅　一〇　官國幣社以下神社祭祀令……（七）
勅　四九　海上衝突豫防法ヲ朝鮮ニ施行ノ件……（七）
勅　五〇　朝鮮總督府海員審判所官制……（二）
勅　八〇　朝鮮總督府及所屬官署ノ船舶乘組員ニ食卓料支給ノ件……（一）
勅　一〇四　減刑ニ關スル件……（一）

内閣

告　六一　叙勲者等族籍氏名變更届出方……（四）

宮内省

令　一六　勅任待遇奏任待遇宮内職員ニ關スル件……（一）
令　一七　判任待遇宮内職員ノ懲戒ニ關スル件……（一）
令　一七　小者ニ時間外勤務手當給與ノ件……（一）
訓　三　雇員ノ俸給ニ關スル規程……（一）

農商務省

告　二四九　白耳義國ト工業所有權保護ニ關スル巴里同盟條約ニ加入……（一）
告　二九八　朝鮮總督府ト英國トノ間ニ特許證ノ交換ニ關スル件……（一）

朝鮮總督府

制　一　地稅令……（一）
制　二　市街地稅令……（一）
制　四　災害地地稅免除ニ關スル件……（一）
制　七　朝鮮船舶令……（一）
制　八　朝鮮船舶檢査令……（一）
制　九　朝鮮船舶職員令……（一）
制　一〇　朝鮮船舶職員令施行規則……（一）
制　一一　朝鮮水難救護令……（一）
制　一二　朝鮮船舶積量測度令……（一）
制　一四　土地調査令ニ依リ査定又ハ裁決ヲ經タル土地ノ登記又ハ證明ニ關スル件……（一）
制　一六　永代借地料ノ徴收手續……（一）
制　一七　地方法院出張所設置ニ關スル件……（一）
制　一二〇　金融組合令……（一）
制　一二一　行政執行令……（一）
制　一二三　朝鮮船舶職員令施行規則……（一）
制　一二四　朝鮮船舶檢査規則……（一）
令　二　朝鮮船舶檢査規程……（一）
令　三　朝鮮船舶積量測度令……（一）
令　四　朝鮮船舶令施行規則……（一）
令　五　朝鮮船舶令施行規則……（一）
令　六　朝鮮船舶檢査規則……（一）
令　八　朝鮮船舶檢査規程……（一）
令　一七　朝鮮船舶職員令施行規則……（一）
令　二五　朝鮮船舶職員令第二條ノ規定ニ依ル送還費用償還ノ件……（一）
令　二八　商法第五百六十二條第一項ノ海員名簿、屬具目錄、航海日誌及旅客名簿ノ書式ニ關スル件……（一）
令　三五　商法施行法第百二十二條ニ依リ潮川、港灣及沿岸小航海ノ範圍ニ關スル件……（一）
令　三七　朝鮮船舶職員令施行規則……（一）
令　四五　朝鮮總督府海員審判所事務章程……（二）
令　四六　海難其ノ他ノ事故届出ニ關スル件……（一）
令　四八　朝鮮船舶檢査規程……（一）
令　四九　朝鮮船舶檢査規程……（一）
令　五四　朝鮮船舶檢査規程……（一）
令　五五　朝鮮漁船檢査規程……（一）
令　六〇　朝鮮船舶檢査規則……（一）
令　六三　漁業ニ從事スル船舶ニ關スル件……（一）
令　六五　朝鮮船舶令施行規則……（一）
令　六六　朝鮮船舶鑑札規則……（一）
令　六七　朝鮮外國船舶檢査規則……（一）
令　六八　朝鮮船舶檢査規則……（一）
令　六九　朝鮮船舶檢査規程……（一）
令　七三　朝鮮漁船檢査規程……（一）
令　七五　朝鮮船舶檢査規則……（一）
令　七六　朝鮮船舶員令第二條ノ規定ニ依ル送還費用償還ノ件……（一）
令　七七　商法第五百六十二條第一項ノ海員名簿、屬具目錄、航海日誌及旅客名簿ノ書式ニ關スル件……（一）
令　七八　商法施行法第百二十二條ニ依リ潮川、港灣及沿岸小航海ノ範圍ニ關スル件……（一）
令　七九　朝鮮船舶職員令施行規則……（一）
令　八一　朝鮮總督府海員審判所事務章程……（二）
令　八二　海難其ノ他ノ事故届出ニ關スル件……（一）
令　八三　朝鮮船燈、信號標、救命具試驗檢定規程……（一）
令　八六　朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ信號ニ關スル件……（一）
令　八七　朝鮮船舶登記規則……（一）
令　一〇八　朝鮮總督府及所屬官署ノ船舶乘組員ニ食卓料支給ノ件……（一）
令　一一〇　減刑ニ關スル件……（一）

内閣

令　一六　勅任待遇奏任待遇宮内職員ノ懲戒ニ關スル件……（一）
令　一七　判任待遇宮内職員ノ懲戒ニ關スル件……（一）
令　二八　府制及學校組合令施行期日……（八）
令　三五　恩賜濟災救助基金管理規則……（四）
令　三七　朝鮮總督府簡易氣象觀測規程……（五）
令　四五　土地臺帳規則……（一一）
令　四六　河川取締規則……（一〇）
令　五一　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一四）
令　五四　永代借地登記規則……（一四）
令　五五　永代借地臺帳規則……（一二）
令　六〇　災害地ノ地稅又ハ市街地稅免除ニ關スル施行方……（一一）
令　六三　漁業ニ從事スル船舶ニ關スル件……（一）
令　六五　朝鮮船舶令施行規則……（一）
令　六六　朝鮮船舶鑑札規則……（一）
令　六七　朝鮮外國船舶檢査規則……（一）
令　六八　朝鮮船舶檢査規則……（一）
令　六九　朝鮮船舶檢査規程……（一）
令　七三　朝鮮漁船檢査規程……（一）
令　七五　朝鮮船舶檢査規則……（一）
令　七六　朝鮮船舶員令第二條ノ規定ニ依ル送還費用償還ノ件……（一）
令　七七　商法第五百六十二條第一項ノ海員名簿、屬具目錄、航海日誌及旅客名簿ノ書式ニ關スル件……（一）
令　七八　商法施行法第百二十二條ニ依リ潮川、港灣及沿岸小航海ノ範圍ニ關スル件……（一）
令　七九　朝鮮船舶職員令施行規則……（一）
令　八一　朝鮮總督府海員審判所事務章程……（二）
令　八二　海難其ノ他ノ事故届出ニ關スル件……（一）
令　八三　朝鮮船燈、信號標、救命具試驗檢定規程……（一）
令　八六　朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ信號ニ關スル件……（一）
令　八七　朝鮮船舶登記規則……（一）

令　一〇九　産婆試驗規則……（九）
令　一一〇　印鑑證明規則……（五）
令　一一四　醫師試驗規則……（九）
令　一一五　金融組合業務監督規程……（六）
令　一一七　金融組合登記取扱規則……（四）
令　一二〇　金融組合令施行期日……（四）
令　一二二　朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則……（一）
警　令二七　警察署ノ名稱、位置及管轄區域……（一）
令　一二九　行政執行令施行期日……（九）
令　一三〇　行政執行令施行規則……（九）
令　一三四　軍事郵便規則……（七）
令　一三六　市場規則……（一）
令　一三九　朝鮮船舶積量測度規程……（七）
令　一四〇　朝鮮船舶積量改測規則……（七）
令　一四六　永代借地料ノ徴收ニ關スル件……（一）
令　一四九　秘關監視署ノ名稱、位置及管轄區域……（二）
訓　一五　俘虜郵便爲替規則……（二）
令　一六四　氣象信號規程……（一）
令　一八一　學校組合規約準則……（四）
訓　二　秘關官吏ノ檢査服……（八）
訓　六　府、面ニ於テ發スル納稅告知書、納入告知書及府、面ニ於テ使用スル收納簿ノ樣式……（一）
訓　九　朝鮮總督府濟生院院兒從業給與金規程……（二）
訓　一五　國有、牧用又ハ公用、公共用ノ土地ニ關スル通知ノ件……（一）
訓　二二　朝鮮船舶鑑札規則施行手續……（七）
訓　二四　朝鮮水難救護令取扱手續……（四）
訓　二五　海難其ノ他ノ事故届出手續……（七）
訓　二七　學校體操教授要目……（五）
訓　二八　船舶乘組員食卓料支給ノ件……（二）
訓　四一　醫師試驗委員規程……（二）
訓　四二　朝鮮總督府及所屬官署會計事務章程……（二）
訓　四四　船舶ノ登記其ノ他ノ手續ニ關スル件……（四）
訓　五〇　朝鮮間接國稅犯則者處分令取扱手續……（九）
訓　五一　阿片煙吸食禁止ノ件……（一）
訓　五五　朝鮮船舶積量測度心得……（一）
訓　六〇　永代借地料ノ徴收手續……（一）
訓　六二　金融組合理事及理事身元保證金規程……（六）
訓　七一　牛種ノ保存及改良ニ關スル件……（一）
訓　七〇　天氣豫報、暴風警報及暴風雨標式……（六）
訓　七一　看守及女監取締勤務規程……（一）
訓　一〇一　監獄醫、教誨師、藥劑師、看守及女監取締職務規程……（一）
訓　一〇二　蔘業現業傭人規程……（一）
訓　一〇三　鹽業現業傭人規程……（一）
訓　一〇四　醫師規則第一條第一項第五號ノ外國指定……（一）
告　一四　京城中學校ニ補習科設置ノ件……（一）
告　五二　紅蔘製造ノ原料ニ充ツヘキ人蔘ノ特別耕作區域……（一）
告　六三　醫師規則第一條第一項第二號ノ醫學校指定……（一）
告　一〇〇　市街地地稅令ノ市街地……（一）
告　一〇三　在朝鮮各國居民地制度廢止ニ關スル議定書……（一）
告　一〇四　在朝鮮支那共和國居留地廢止ニ關スル協定……（一）
告　一〇八　朝鮮總督府簡易氣象觀測規程……（一）
告　一一〇　市街地建築取締規則ノ市街地及同規則第六條ノ地域……（一）
告　一一五　朝鮮ニ於ケル船舶檢査執行地……（一）
告　一一九　朝鮮總督府海員審判所位置……（一）
告　一二一　釜山地方法院ト朝鮮船舶登記規則第五十四條第二項ノ規定ニ依ル登記所ニ指定……（一）
告　一二二　朝鮮船員ノ規定ニ依ル管海官廳ノ事務ヲ行フ郵便局……（一）
告　一二九　驛屯土特別處分令ノ重要物産ノ製造業指定……（一）
告　一三五　清州外十市街地ニ於ケル元標位置竝一、二等道路表……（一）
告　一五三　地稅令第八條第一號ノ公共團體ノ地稅免除ニ關スル件……（一）
告　一八九　市街地建築取締規則第六條ノ地域……（一）
告　一九一　朝鮮ニ於ケル船舶檢査執行地……（一）
告　一九三　朝鮮總督府海員審判所位置……（一）
告　二一一　釜山地方法院ト朝鮮船舶登記規則第五十四條第二項ノ規定ニ依ル登記所ニ指定……（一）
告　二二九　朝鮮船員ノ規定ニ依ル管海官廳ノ事務ヲ行フ郵便局……（一）
告　四〇六　驛屯土特別處分令ノ重要物産ノ製造業指定……（一）
告　五七一　阿片煙吸食禁止ノ件……（一）
告　五八七　看護婦規則ニ依リ看護婦養成所指定……（九）
告　六一三　氣象信號式……（五）
訓　一〇一　鑛業警察官吏ノ職務ニ關スル件……（一）
訓　七〇　人力車取締規則……（九）
訓　七一　死亡診斷書、死體檢案書竝死産證書、死胎檢案書ニ關スル件……（九）
警　令　八　馬車取締規則……（九）
警　令一〇　按摩術、鍼術、灸術營業取締規則……（九）
警訓甲二　藥品巡視規則施行手續……（九）
警訓甲六　巡査【及巡査補】防寒被服ノ貸與區域及種類……（二）
警訓甲二〇　民事爭訟調停書類ノ送達ニ關スル件……（一）
警訓甲二六　公醫執務心得……（一）
警訓甲三〇　産婆規則取扱手續……（九）
警訓甲三五　混成酒ノ取締ニ關スル件……（九）
警訓甲四〇　人力車取締規則取扱手續……（九）
警訓甲四一　馬車取締規則取扱手續……（九）
警訓甲五五　按摩術、鍼術、灸術營業取締規則取扱手續……（九）
警　令　四　巡査【及巡査補】給與品貸與品使用期限及支給期日……（二）
警　令　五　京城市街地ニ於ケル市街地建築取締規則第四條ノ地域……（九）
警　令　六　看護婦規則ニ依リ看護婦養成所指定……（九）
警告　一　氣象信號式……（五）

大正四年

皇室令

皇　一　宮中席次令……（一）
皇　一一　宮内職員ノ懲戒免除ニ關スル件……（二）

法律

法　一八　法人ノ役員處罰ニ關スル件……（一四）
法　二四　無盡業法……（一六）
法　二六　無線電信法……（一七）

勅令

勅　一三　神宮神部署職員及神宮衞士長衞士副長衞士竝官國幣社以下神社職員ノ休職ニ關スル件……（一二）

勅　七二　官公立學校職員ノ休職ニ關スル件……（二）　一八九
勅　一八六　無線電信法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（七）　六一
勅　二〇四　大正三年臨時事件ニ關スル一時賜金交付ニ關スル件……（七）　七八
勅　二〇五　減刑ニ關スル件……（四）　三四五
勅　二〇六　懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件……（二）　一九三
勅　二〇七　出納官吏辨償責任ノ免除ニ關スル件……（二）　二九六
勅　二一五　請願ニ依ル通信施設ニ關スル件……（一二）　一七
勅　二三〇　大正四年法律第十八號ヲ朝鮮等ニ施行ノ件……（四）　三四六

文部省

令　二　文官任用令上學校認定ニ關スル件……（五）　八八
告　三三　私立善隣商業學校ヲ徴兵令竝文官任用令ニ依リ認定……（五）　八九
告　一一八　仁川公立商業專修學校ヲ文官任用令ニ依リ認定……（五）　八九

農商務省

告　二六　伯剌西爾合衆國ハ工業所有權保護ニ關スル巴里同盟條約ニ加入……（六）　八

朝鮮總督府

制　一　獸疫豫防令……（九）　三四
制　二　傳染病豫防令……（九）　三四
制　三　朝鮮重要物産同業組合令……（六）　三一
制　四　朝鮮商業會議所令……（六）　六八
制　五　朝鮮水先令……（七）　二六二
制　八　朝鮮鑛業令……（一〇）　七
令　一五　土地測量標規則……（一〇）　八八
令　二三　朝鮮不動產登記令施行期日及地域……（一四）　三〇三
令　三八　朝鮮船舶通報規則……（七）　二九四
令　四三　公證人懲戒委員會規則……（一三）　二
令　四四　朝鮮總督府島令公文式……（一）　八
令　六〇　島ノ名稱、位置、管轄區域……（一一）　一七
令　六五　土地收用令施行期日及地域……（一〇）　二
令　六八　消防組規則……（九）　一三五
令　六九　傳染病豫防令施行期日……（九）　一三五
令　七〇　傳染病豫防令施行規則……（九）　一三五
令　七一　船舶、汽車、旅客檢疫規則……（九）　三五
令　七二　清潔方法及消毒方法……（九）　四〇

勅　七四　開港取締規則……（二）　一八九
勅　一八六　無線電信法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（七）　六一
勅　二〇四　大正三年臨時事件ニ關スル一時賜金交付ニ關スル件……（七）　七八
勅　二〇五　減刑ニ關スル件……（四）　三四五
勅　二〇六　懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件……（二）　一九三
勅　二〇七　出納官吏辨償責任ノ免除ニ關スル件……（二）　二九六
勅　二一五　請願ニ依ル通信施設ニ關スル件……（一二）　一七
勅　二三〇　大正四年法律第十八號ヲ朝鮮等ニ施行ノ件……（四）　三四六

文部省

令　二　文官任用令上學校認定ニ關スル件……（五）　八八
告　三三　私立善隣商業學校ヲ徴兵令竝文官任用令ニ依リ認定……（五）　八九
告　一一八　仁川公立商業專修學校ヲ文官任用令ニ依リ認定……（五）　八九

農商務省

告　二六　伯剌西爾合衆國ハ工業所有權保護ニ關スル巴里同盟條約ニ加入……（六）　八

朝鮮總督府

制　一　獸疫豫防令……（九）　三四
制　二　傳染病豫防令……（九）　三四
制　三　朝鮮重要物産同業組合令……（六）　三一
制　四　朝鮮商業會議所令……（六）　六八
制　五　朝鮮水先令……（七）　二六二
制　八　朝鮮鑛業令……（一〇）　七
令　一五　土地測量標規則……（一〇）　八八
令　二三　朝鮮不動產登記令施行期日及地域……（一四）　三〇三
令　三八　朝鮮船舶通報規則……（七）　二九四
令　四三　公證人懲戒委員會規則……（一三）　二
令　四四　朝鮮總督府島令公文式……（一）　八
令　六〇　島ノ名稱、位置、管轄區域……（一一）　一七
令　六五　土地收用令施行期日及地域……（一〇）　二
令　六八　消防組規則……（九）　一三五
令　六九　傳染病豫防令施行期日……（九）　一三五
令　七〇　傳染病豫防令施行規則……（九）　一三五
令　七一　船舶、汽車、旅客檢疫規則……（九）　三五
令　七二　清潔方法及消毒方法……（九）　四〇

法　二〇　海底電信線保護萬國聯合條約個則……（一四）　二八〇

勅令

勅　一四　朝鮮等ニ居住スル者ノ徴兵旅費ニ關スル件……（二）　一四
勅　五六　國庫出納金端數計算法ヲ適用セサル種目……（一一）　一八三
勅　五七　國庫出納金端數計算法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ノ件……（一一）　一八三
勅　一三四　朝鮮總督府圖書館長特別任用ニ關スル件……（二）　一四八
勅　二〇〇　郵便電信電話等ニ關スル料金ノ徴收竝ニ書留郵便物ノ特別送達ニ關スル件……（一七）　一六
勅　二〇九　公共團體ノ收入及仕拂ニ關シ國庫出納金端數計算法準用ノ件……（一一）　一八三
勅　二五四　證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行期日……（一一）　一八三
勅　二五五　證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行細則……（一一）　一八三
勅　二五六　證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律實施ニ付取扱方……（一一）　一八三

文部省

告　九五　京城高等普通學校附設臨時教員養成所ヲ文官任用令ニ依リ認定……（五）　八九

朝鮮總督府

制　二　酒稅令……（一一）　四三
令　一　恩賜賑恤資金管理規則……（四）　二九
令　四　朝鮮不動產登記令施行期日及地域……（四）　三〇三
令　八　朝鮮鑛業令施行期日……（一六）　九二

勅令

勅　一四　朝鮮等ニ居住スル者ノ徴兵旅費ニ關スル件……（二）　一四
勅　五六　國庫出納金端數計算法ヲ適用セサル種目……（一一）　一八三
勅　五七　國庫出納金端數計算法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ノ件……（一一）　一八三
勅　一三四　朝鮮總督府圖書館長特別任用ニ關スル件……（二）　一四八
勅　二〇〇　郵便電信電話等ニ關スル料金ノ徴收竝ニ書留郵便物ノ特別送達ニ關スル件……（一七）　一六
勅　二〇九　公共團體ノ收入及仕拂ニ關シ國庫出納金端數計算法準用ノ件……（一一）　一八三
勅　二五四　證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行期日……（一一）　一八三
勅　二五五　證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行細則……（一一）　一八三
勅　二五六　證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律實施ニ付取扱方……（一一）　一八三

内閣

訓　一一　統計事務ニ關スル件……（五）　一四

大藏省

令　一八　印紙模造取締規則……（一一）　二七七
令　三〇　證券ノ納付ニ關スル制限……（一一）　二六四
令　三二　證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行細則……（一一）　二六五
訓　一三　證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律實施ニ付取扱方……（一一）　二六六

文部省

告　九五　京城高等普通學校附設臨時教員養成所ヲ文官任用令ニ依リ認定……（五）　八九

朝鮮總督府

制　二　酒稅令……（一一）　四三
令　一　恩賜賑恤資金管理規則……（四）　二九
令　四　朝鮮不動產登記令施行期日及地域……（四）　三〇三
令　八　朝鮮鑛業令施行期日……（一六）　九二

勅令

勅　九　朝鮮鑛業令施行規則……（一）　二八〇
令　一〇　朝鮮鑛業登錄規則……（一〇）　八二
令　一四　大正三、四年臨時事件ニ關スル一時賜金保管ノ件……（一七）　四九
令　一五　學校組合ノ事務引繼ニ關スル件……（八）　一四
令　一八　朝鮮登錄稅令施行規則……（一）　二
令　一九　朝鮮不動產登記令施行期日及地域……（一四）　三〇三
令　三二　徴兵旅費繰替支辨ニ關スル件……（一一）　一八三
令　三四　明治三十八年法律第六十六號第十條又ハ印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官沒ニ關スル件……（一一）　一八三
令　三六　藥劑師試驗規則……（一七）　二九〇
令　四一　朝鮮不動產登記令施行期日及地域……（一四）　三〇三
令　四三　水夫適任證書交付規則……（一〇）　二〇三
令　四七　朝鮮不動產登記令施行規則……（七）　二〇三
令　四九　神社ノ祭式恒例式及齋戒ニ關スル件……（七）　二〇三
令　五〇　神職任用奉務及服裝規則……（九）　一五三
令　五二　古蹟及遺物保存規則……（一）　一
令　五三　土地收用令施行期日及地域……（一四）　三〇三
令　五五　保護牛規則……（一）　一
令　五七　巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則……（一）　一
令　五九　郵便法第五十五條ノ三ノ規定ニ依ル官沒ニ關スル件……（一）　一
令　六六　國庫出納金端數計算法ニ依リ端數チ切捨ツヘキ國稅指定……（一）　一
令　六八　酒稅令施行規則……（一）　一
令　六九　朝鮮不動產登記令施行期日及地域……（一四）　三〇三
令　七七　地方土木費國庫補助規程……（八）　二七七
令　八八　小學校及普通學校教員試驗規則……（一一）　二六四
令　九七　朝鮮不動產登記令施行期日及地域……（一四）　三〇三
令　一〇二　氣象通知電報規則……（一七）　二九五
令　一〇四　明治三十三年法律第三十號第五條ノ療治料ノ件……（一四）　三〇三
訓　一　恩賜賑恤資金窮民救助規程……（四）　二九
訓　二　藥劑師試驗委員規程……（五）　三〇
訓　一二　教員心得……（一一）　二九
訓　一九　古蹟調查委員會規程……（一一）　二九
訓　三〇　古蹟及遺物ニ關スル件……（一一）　二九

大藏省

令　九　朝鮮鑛業登錄規則……（一〇）　八二
令　一〇　朝鮮總督府建築標準……（一〇）　八二
令　一一　朝鮮總督府監獄事務分掌及處務ニ關スル規程……（一一）　四九
令　一五　開港ニ於ケル港界表示ノ爲立標及浮標設置ノ件……（一七）　三〇五
令　一八　鑛業ノ出願ヲ許否スル地域及鑛物ノ種類……（一〇）　一〇五
令　一九　助產婦養成所指定……（九）　一二
令　二二　水夫適任證書交付規則第七條ノ規定ニ依リ同規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳……（一七）　二九〇
令　二四　河川取締規則第一條ニ依リ朝鮮總督府ノ許可ヲ受クヘキ河川指定……（一〇）　七四
令　二七　神社奉仕ノ行事及作法……（七）　二〇
令　二九　巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測氣象通知電報ノ記載方式及符號……（一七）　二九五
令　三〇　廢執行地……（一七）　二九五
令　三一　宿屋營業取締規則……（九）　八八
令　三二　料理屋飲食店營業取締規則……（九）　八八
令　三三　古蹟及遺物保存規則……（九）　八八
令　三四　娼妓酌婦雇娼妓置屋營業取締規則……（九）　八九
令　三五　貸座敷娼妓取締規則……（九）　八九
令　三六　娼妓健康診斷施行手續……（九）　九二
令　三七　大正五年府令第三十四號ニ依リ官沒ノ命令書樣式竝官沒物品ノ處置方……（一四）　三四六
訓　四〇　古蹟及遺物保存規則ニ依リ提出スル書類ノ經由ニ關スル件……（九）　一三五
訓　四三　朝鮮總督府建築標準……（一〇）　八二
訓　四七　朝鮮總督府監獄事務分掌及處務ニ關スル規程……（一一）　四九
告　一一五　開港ニ於ケル港界表示ノ爲立標及浮標設置ノ件……（一七）　三〇五
告　一五七　鑛業ノ出願ヲ許否スル地域及鑛物ノ種類……（一〇）　一〇五
告　一七三　巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測氣象通知電報ノ記載方式及符號……（一七）　二九五
告　三三三　廢執行地……（一七）　二九五
訓　四〇　宿舍料支給規程……（二）　一
訓　四三　看護婦規則ニ依リ看護婦養成所指定……（九）　一三
訓　四七　水底電線路區域……（一七）　七四
訓　一五三　朝鮮船舶通報ニ關スル事務ヲ取扱フ燈臺……（一七）　二九五
訓　一六三　羅老馬島海峽二箇所水底電線路區域……（一七）　七四
訓　一七四　朝鮮總督府始政記念日……（一七）　七四
訓　一九四　獸疫豫防心得……（九）　四七
訓　二〇四　晴雨計示度ヲ萬國船信號ニ依リ揭揚ノ件……（一五）　一〇五
訓　二一七　公文書ニ用フル森林樹木ノ名稱……（一〇）　五七
訓　二五四　神社寺院規則ニ依ル神社寺院創立願、同財產屆ノ樣式……（七）　三
訓　二七七　道路規則第六條第一項但書ノ府指定……（一七）　一〇〇
訓　二八二　朝鮮水先令施行規則ニ依ル管海官廳ノ事務ヲ行フ郵便局……（一七）　二八八
訓　二九六　朝鮮總督府博物館設置ノ件……（一五）　一〇五
訓　三〇五　代書業取締規則……（九）　六六
訓　三五　警察官稱呼例……（二）　一九六
訓　四〇　狩獵ノ免狀及特別許可ニ關スル取扱手續……（一七）　二七
訓　四一　警備船塗色規程……（一七）　二四四
訓　四二　行政執行令及同施行規則取扱心得……（九）　六三
訓　四四　行政執行令ニ依ル健康診斷及治療手續……（九）　六三
訓　四五　消防組規則施行ニ關スル件……（九）　二五
訓　四六　傳染病豫防手續……（九）　三六
訓　四八　檢疫委員處務規程……（九）　四二
訓　四九　犯罪ノ證據品竝留置人ノ領置品取扱方……（一一）　二四五
訓　五〇　犯罪即決言渡書ノ謄本作成ニ關スル件……（一四）　三四七
訓　六三　看護婦規則ニ依リ看護婦養成所指定……（九）　一三
訓　一六　水底電線路區域……（一七）　七四
訓　一四　朝鮮船舶通報ニ關スル事務ヲ取扱フ燈臺……（一七）　二九五
訓　一四二　羅老馬島海峽二箇所水底電線路區域……（一七）　七四
訓　一五一　朝鮮總督府始政記念日……（一七）　七四
訓　一八八　獸疫豫防心得……（九）　四七
訓　二一七　晴雨計示度ヲ萬國船信號ニ依リ揭揚ノ件……（一五）　一〇五
訓　二二七　公文書ニ用フル森林樹木ノ名稱……（一〇）　五七
訓　二五四　神社寺院規則ニ依ル神社寺院創立願、同財產屆ノ樣式……（七）　三
訓　二七七　道路規則第六條第一項但書ノ府指定……（一七）　一〇〇
訓　二八二　朝鮮水先令施行規則ニ依ル管海官廳ノ事務ヲ行フ郵便局……（一七）　二八八
訓　二九六　朝鮮總督府博物館設置ノ件……（一五）　一〇五
訓　三〇五　代書業取締規則……（九）　六六
訓　三五　警察官稱呼例……（二）　一九六
訓　四〇　狩獵ノ免狀及特別許可ニ關スル取扱手續……（一七）　二七
訓　四一　警備船塗色規程……（一七）　二四四
訓　四二　行政執行令及同施行規則取扱心得……（九）　六三
訓　四四　行政執行令ニ依ル健康診斷及治療手續……（九）　六三
訓　四五　消防組規則施行ニ關スル件……（九）　二五
訓　四六　傳染病豫防手續……（九）　三六
訓　四八　檢疫委員處務規程……（九）　四二
訓　四九　犯罪ノ證據品竝留置人ノ領置品取扱方……（一一）　二四五
訓　五〇　犯罪即決言渡書ノ謄本作成ニ關スル件……（一四）　三四七
訓　五三　古蹟及遺物保存規則ニ依リ提出スル書類ノ經由ニ關スル件……（九）　一三五

大正五年

法律

法　二　國庫出納金端數計算法……（一一）　一三
法　一〇　證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル件……（一一）　二三

大正六年

法律

法　一　軍事救護法……（四）　二三
法　二〇　戰時海上再保險法……（一五）　七〇
法　二一　工業所有權戰時法……（一五）　七一
法　二九　造船奬勵金下付停止ニ關スル件……（一七）　二四六

條約

條　一　支那ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日本瑞典條約……（六）　九

勅令

勅　九　朝鮮鑛業令施行規則……（一）　二八〇
令　一〇　朝鮮鑛業登錄規則……（一〇）　八二
令　一一　朝鮮總督府建築標準……（一〇）　八二
令　一一　朝鮮總督府監獄事務分掌及處務ニ關スル規程……（一一）　四九
令　一五　開港ニ於ケル港界表示ノ爲立標及浮標設置ノ件……（一七）　三〇五
令　一八　鑛業ノ出願ヲ許否スル地域及鑛物ノ種類……（一〇）　一〇五
令　一九　助產婦養成所指定……（九）　一二
令　二二　水夫適任證書交付規則第七條ノ規定ニ依リ同規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳……（一七）　二九〇
令　二四　河川取締規則第一條ニ依リ朝鮮總督府ノ許可ヲ受クヘキ河川指定……（一〇）　七四
令　二七　神社奉仕ノ行事及作法……（七）　二〇
令　二九　巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測氣象通知電報ノ記載方式及符號……（一七）　二九五
令　三〇　廢執行地……（一七）　二九五
令　三一　宿屋營業取締規則……（九）　八八
令　三二　料理屋飲食店營業取締規則……（九）　八八
令　三三　古蹟及遺物保存規則……（九）　八八
令　三四　娼妓酌婦雇娼妓置屋營業取締規則……（九）　八九
令　三五　貸座敷娼妓取締規則……（九）　八九
令　三六　娼妓健康診斷施行手續……（九）　九二
令　三七　大正五年府令第三十四號ニ依リ官沒ノ命令書樣式竝官沒物品ノ處置方……（一四）　三四六
訓　四〇　古蹟及遺物保存規則ニ依リ提出スル書類ノ經由ニ關スル件……（九）　一三五
訓　四三　朝鮮總督府建築標準……（一〇）　八二
訓　四七　朝鮮總督府監獄事務分掌及處務ニ關スル規程……（一一）　四九
告　一一五　開港ニ於ケル港界表示ノ爲立標及浮標設置ノ件……（一七）　三〇五
告　一五七　鑛業ノ出願ヲ許否スル地域及鑛物ノ種類……（一〇）　一〇五
告　一七三　巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測氣象通知電報ノ記載方式及符號……（一七）　二九五
告　三三三　廢執行地……（一七）　二九五

勅三七　請願令……（五）
勅四八　外國ニ駐在スル帝國ノ大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍ヲ有スル帝國船舶及其ノ船員ニ關スル職權ノ件……（七）
勅七〇　朝鮮總督府秘關鑑吏ノ賞罰ニ關スル件……（一）
勅七一　造船奬勵金下付停止ニ關スル法律ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ノ件……（七）
勅七五　拓殖調査委員會官制……（一）
勅一三二　朝鮮國有鐵道建設及改良工事費概算渡ノ件……（一）
勅一四〇　工業所有權戰時法施行期日……（一）
勅一四一　工業所有權戰時法施行令……（一）
勅一四二　工業所有權戰時法登錄令……（一）
勅一四三　工業所有權戰時法ヲ朝鮮及臺灣ニ施行ノ件……（一）
勅二〇二　小額紙幣發行ニ關スル件……（一）
勅二〇三　小額紙幣形式ノ件……（一）
勅二〇四　軍事救護法施行期日……（一）
勅二〇五　軍事救護法ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行ノ件……（一）
勅二〇六　軍事救護法施行令……（一）
勅二一七　關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル朝鮮銀行券ノ通用ニ關スル件……（一）

外務省
條一　支那ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日本瑞典條約……（六）

大藏省
令三〇　小額紙幣ノ發行鑛却及損傷紙幣ノ引換ニ關スル件……（一）

陸軍省
達四八一　軍事護法實施ニ關シ通報方……（一）

海軍省
達二四六　軍事救護法實施ニ關シ報告通報手續……（一）
告七　海軍軍人軍屬鐵道乘車竝軍需品輸送手續……（一）

告二八七　特別郵便切手臺紙貼附郵便切手ノ種類及賣捌局……（七）
告二八九　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（七）
訓甲四　拘禁中死亡者アリタルトキノ取扱方……（四）

大正七年

一　皇室典範增補……（一）

法律
二三　舊韓國貨幣ノ處分ニ關スル件……（一）
法三八　軍需工業動員法……（一）
法三九　共通法……（一）

勅令
勅七　高等試驗令……（一）
勅八八　普通試驗令……（一）
勅九　高等試驗委員及普通試驗委員官制……（一）
勅一九　朝鮮總督府獸疫血清製造所官制……（一）
勅三一　貨幣法ヲ朝鮮ニ施行ノ件……（一）
勅六〇　朝鮮臺灣關東州又ハ滿洲ニ在ル陸軍軍人ノ服役事務ニ關スル件……（一）
勅七八　朝鮮總督府林野調査委員會官制……（一）
勅一一〇　共通法ノ一部ヲ施行スル件……（一）
勅一四　戰時海上再保險金額概算渡ノ件……（一）
勅二〇四　朝鮮總督府警察官服制……（一）
勅二九五　朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令……（四）
勅三四七　監獄署教誨師及教師ノ官等等級配當ノ件……（一）
勅三五〇　公共團體ニ對スル工事補助費繰越使用ニ關スル法律ヲ朝鮮ニ施行スルノ件……（一）
勅三五七　徵兵令ニ依ル一年志願兵ニ關スル學校ノ認定及其ノ入營延期ニ關スル件……（一）
勅三五八　國勢調査施行令……（一）
勅三六六　監獄署教誨師及教師ノ休職ニ關スル件……（一）
勅三六八　軍需工業動員法ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（一）
勅三八二　傭人扶助令……（一）

勅三八八　大學令……（九）

内閣
令一　高等試驗令施行細則……（一）
令五　軍需工業動員法第十六條ノ規定ニ依ル職務執行ノ證票ニ關スル件……（一）
令一〇　動章記章又ハ褒章ヲ有スル者制服著用ノ節略綬佩用方……（一）

陸軍省
軍令陸三　師團司令部條例……（一）
軍令陸四　朝鮮軍司令部條例……（一）
令六　朝鮮臺灣關東州滿洲演習召集節閲點呼施行規則……（一）

朝鮮師團
一九師召一　第十九師團演習召集節閲點呼事務規程……（一）
朝副召一　第二十師團演習召集節閲點呼事務規程……（一）

海軍省
告三　海軍軍人軍屬減價乘船手續……（一）
告五　恤兵ノ主意ニ因リ海軍ニ寄贈スル物品ノ取扱規程……（一）
告七　恤兵品無賃運送取扱手續……（一）

文部省
令三　高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件……（一）
告一一八　私立東洋協會京城專門學校ヲ徵兵令竝文官任用令ニ依リ認定……（一）

農商務省
告一六四　戰時海上再保險法施行規則第一條ニ依ル船舶ノ期間保險ノ海上保險料率……（一）

朝鮮總督府
制一　紙幣類似證券取締ニ關スル件……（一）
制五　朝鮮林野調査令……（一）
制七　朝鮮殖産銀行令……（一）
制一六　朝鮮電信線電話線建設令……（一）
令四　肺結核豫防ニ關スル件……（一）
令六　荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル鐵道運送品等ノ公告ニ關スル件……（一）
令八五　刑事事件ニ付司法警察官カ呼出シタル鑑定人及通事ノ給與ニ關スル件……（一）
令八九　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一）
令九九　特別郵便切手臺紙貼付郵便切手ニ關スル規定……（一）
令一〇〇　軍事救護法施行細則……（一）
令一〇二　南滿洲鐵道株式會社ニ對シ府稅又ハ面賦課金ノ賦課ニ關スル件……（八）
訓一四　神社制札ノ制式……（七）
訓二三　朝鮮總督府勸業模範場事務分掌規程……（二）
訓二七　面ノ歲入歲出豫算決算竝財務ニ關スル簿書樣式……（八）
訓二九　水利組合規約準則……（一〇）
訓三四　南滿洲鐵道會社ト稅關ノ聯絡ニ關スル件……（一）
訓五一　朝鮮總督府裁判所書記課處務規程……（五）
訓二　起訴猶豫及起訴中止事件ニ關スル取扱規程……（一）
告六二　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（一）
告七三　酒稅令施行規則第三條第一項第一號ノ市街地……（一）
告九〇　朝鮮總督府博物館陳列品寄託心得……（一）
告一二四　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（一）
告二〇三　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（一）
告二一八　同上……（一）
告二二一　金銀貨幣又ハ金銀地金ヲ輸出セムトスル者ノ許可申請手續……（一）
告二四七　漁業令施行規則第三十一條ニ依ル第一種許可漁業ノ船數ノ定限……（一）
告二四九　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（一）
告二五二　鴨綠江航路ヲ航行スル船舶ノ注意事項……（一）

遞信省
令一二三　造船奬勵金下付停止ニ關スル件……（一）

農商務省
令一七　戰時海上再保險法施行規則……（一）
令二二　工業所有權戰時法施行規則……（一）
令二三　戰時海上再保險法施行規則第二十條ノ規定ニ依リ船舶ノ海上保險料率……（一）
令二三〇　造船奬勵金下付停止ニ關スル法律ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ノ件……（一）
告二三〇　戰時海上再保險法施行規則第一條ニ依ル外國貨幣ノ換算率……（一）
告二四七　戰時海上再保險法施行規則第三條ニ依リ海上保險料率……（一）
告二四八　戰時海上再保險法施行規則第四條ニ依リ船舶ニ付政府ノ引受クヘキ最高保險金額……（一）
告二六二　麻絡哥カ工業所有權保護ニ關スル巴里同盟條約ニ加入……（一）

朝鮮總督府
制一　面制……（一）
制二　朝鮮水利組合令……（一）
制一二　土地收用令施行期日及地域……（一）
制一三　朝鮮不動産登記令施行期日及郵便ニ依リ輸入又ハ移入スルノ酒稅及製造煙草ノ消費稅ニ關スル件……（一）
令二四　朝鮮不動産登記令施行期日及手形交換所指定……（一）
令二九　朝鮮不動産登記令施行期日及面制施行規則……（一）
令三四　面制ノ施行ニ關スル件……（一）
令三八　面長及面吏員服務規律……（一）
令三九　朝鮮水利組合令施行期間……（一）
令四一　朝鮮水利組合令施行規則……（一）
令四二　官立及公立學校ノ囑託教員及講師……（一）
令四九　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一）
令一〇　朝鮮不動産登記令施行期日及手形交換所指定……（一）
令一七　神祠ニ關スル件……（一）
令二一　證券ヲ以テ納付シ得ル歲入ノ種目及其ノ納付ニ關スル制限……（一）
令二二　朝鮮不動産登記令施行期日及面制施行規則……（一）
令二四　行旅病人救護費金管理規則……（一）
令三四　朝鮮不動産登記令施行期日及面制施行規則……（一）
令三八　面制ノ施行ニ關スル件……（一）
令三九　面長及面吏員服務規律……（一）
令四一　朝鮮水利組合令施行期間……（一）
令四二　朝鮮水利組合令施行規則……（一）
令四九　官立及公立學校ノ囑託教員及講師……（一）
令一〇　朝鮮不動産登記令施行期日及手形交換所指定……（一）
令一七　神祠ニ關スル件……（一）
令二一　證券ヲ以テ納付シ得ル歲入ノ種目及其ノ納付ニ關スル制限……（一）
令二二　朝鮮不動産登記令施行期日及面制施行規則……（一）
令二四　行旅病人救護費金管理規則……（一）
令三四　朝鮮不動産登記令施行期日及面制施行規則……（一）
令三八　面制ノ施行ニ關スル件……（一）
令三九　面長及面吏員服務規律……（一）
令四一　朝鮮水利組合令施行期間……（一）
令四二　朝鮮水利組合令施行規則……（一）
令四九　官立及公立學校ノ囑託教員及講師……（一）
令五一　土地收用令施行期日及地域……（一）
令五七　朝鮮不動産登記令施行期日及郵便ニ依リ輸入又ハ移入スルノ酒稅及製造煙草ノ消費稅ニ關スル件……（一）
令六五　朝鮮不動産登記令施行期日及手形交換所指定……（一）
令六九　荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル鐵道運送品等ノ公告ニ關スル件……（一）
令八五　刑事事件ニ付司法警察官カ呼出シタル鑑定人及通事ノ給與ニ關スル件……（一）
令八九　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一）
令九九　特別郵便切手臺紙貼付郵便切手ニ關スル規定……（一）
令一〇〇　軍事救護法施行細則……（一）
令一〇二　南滿洲鐵道株式會社ニ對シ府稅又ハ面賦課金ノ賦課ニ關スル件……（八）
訓一四　神社制札ノ制式……（七）
訓二三　朝鮮總督府勸業模範場事務分掌規程……（二）
訓二七　面ノ歲入歲出豫算決算竝財務ニ關スル簿書樣式……（八）
訓二九　水利組合規約準則……（一〇）
訓三四　南滿洲鐵道會社ト稅關ノ聯絡ニ關スル件……（一）
訓五一　朝鮮總督府裁判所書記課處務規程……（五）
訓二　起訴猶豫及起訴中止事件ニ關スル取扱規程……（一）
告六二　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（一）
告七三　酒稅令施行規則第三條第一項第一號ノ市街地……（一）
告九〇　朝鮮總督府博物館陳列品寄託心得……（一）
告一二四　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（一）
告二〇三　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（一）
告二一八　同上……（一）
告二二一　金銀貨幣又ハ金銀地金ヲ輸出セムトスル者ノ許可申請手續……（一）
告二四七　漁業令施行規則第三十一條ニ依ル第一種許可漁業ノ船數ノ定限……（一）
告二四九　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（一）
告二五二　鴨綠江航路ヲ航行スル船舶ノ注意事項……（一）

勅一〇　勞働者募集取締規則……（九）
勅一七　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一）
勅一八　土地收用令第二條第一項第六號ノ製鐵事業ノ範圍……（一）
勅一九　外國人渡來ニ關スル件……（九）
勅三八　書堂規則……（一）
勅四八　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一）
勅六〇　朝鮮林野調査令施行規則……（一）
勅七〇　稅關所屬曳船使用規則……（一）
勅七一　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一）
勅七八　水産製品檢査規則……（一）
勅八三　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一）
勅八四　朝鮮官有財産管理規則ニ依ル重要物産及製造業者、造船業者ノ資格……（一）
勅八五　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一）
勅八六　地方法院出張所ノ名稱、位置及事務取扱區域表……（一）
勅九五　鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ニ關スル件……（一）
勅一〇一　府又ハ府ノ區域ヲ包含スル學校組合公金受拂ノ爲ニスル郵便振替貯金特別取扱規則……（一）
勅一〇二　地稅令施行規則……（一）
勅一〇三　朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令施行規則……（一）
勅一〇四　市街地稅令施行規則……（一）
勅一〇九　工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ職工徒弟等民籍無證明ノ件……（一）
勅一一〇　金若ハ銀ヲ主タル材料トスル製品等輸出ニ關スル件……（一）
勅一二五　朝鮮總督府及所屬官署職員旅費臨時增給ニ關スル件……（一）
勅一二六　朝鮮航路標識規則……（一）
勅一二七　朝鮮總督府及所屬官署職員朝鮮內旅行ノ場合ニ於ケル臨時增給ニ關スル件……（一）
勅一二八　人事訴訟手續法第一條第三項及非訟事件手續法第二條第三項ニ依リ京城府指定……（一）
勅一二九　朝鮮總督府裁判所及檢事局書類保存規程……（一）
勅一三〇　書堂規則發布ニ關スル件……（一）
令一　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一）
令六　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一）
令七　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一）
令一四　外國人渡來ニ關スル件……（九）
令一八　書堂規則……（一）
令一九　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一）
令三八　朝鮮林野調査令施行規則……（一）
令四八　稅關所屬曳船使用規則……（一）
令五六　水産製品檢査規則……（一）
令五八　朝鮮官有財産管理規則ニ依ル重要物産及製造業者、造船業者ノ資格……（一）
令六四　朝鮮不動産登記令施行期日及地域……（一）
令六五　地方法院出張所ノ名稱、位置及事務取扱區域表……（一）
令六八　鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ニ關スル件……（一）
令七〇　府又ハ府ノ區域ヲ包含スル學校組合公金受拂ノ爲ニスル郵便振替貯金特別取扱規則……（一）
令七三　地稅令施行規則……（一）
令七八　朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令施行規則……（一）
令七九　市街地稅令施行規則……（一）
令八〇　工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ職工徒弟等民籍無證明ノ件……（一）
令八五　金若ハ銀ヲ主タル材料トスル製品等輸出ニ關スル件……（一）
令八八　朝鮮總督府及所屬官署職員旅費臨時增給ニ關スル件……（一）
令一〇〇　朝鮮航路標識規則……（一）
令一〇〇一　朝鮮總督府及所屬官署職員朝鮮內旅行ノ場合ニ於ケル臨時增給ニ關スル件……（一）
令一一〇　人事訴訟手續法第一條第三項及非訟事件手續法第二條第三項ニ依リ朝鮮林野調査令……（一）
制一　朝鮮殖産銀行令……（一）
制五　朝鮮電信線電話線建設令……（一）
制七　肺結核豫防ニ關スル件……（一）
制一六　朝鮮總督府裁判所及檢事局書類保存規程……（一）
訓一　書堂規則發布ニ關スル件……（一）
訓九　

訓一五　朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査配置及勤務規定……（二）
訓二三　朝鮮總督府刑務官練習規程……（二）
訓二九　朝鮮總督府地質調査所事務分掌規程……（二）
訓四二　外國貨物鐵道運送手續……（一四）
訓四七　朝鮮總督府統計事務取扱方……（五）
訓五四　朝鮮總督府及所屬官署職員減額旅費臨時增給ニ關スル件……（一）
訓五七　朝鮮總督府警察官服裝規則……（三）
訓五九　朝鮮林野調査令施行手續……（一〇）
告二六　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（七）
告四三　遞信局管理事務ヲ分掌スル郵便局竝其ノ受持區域……（二）
告八八　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（七）
告九六　同上……（七）
告九七　同上……（七）
告一二六　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（七）
告一五六　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（七）
告一五八　同上……（七）
告一五九　同上……（七）
告一八一　道路規則第六條第一項但書ニ依リ府指定……（七）
告一八三　朝鮮林野調査令第三條ニ依ル申告心得……（一〇）
告一九一　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（七）
告二〇三　金若ハ銀ヲ主タル材料トスル製品等ノ輸出許可申請方……（一一）
告二一三　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（七）
告二一九　金融組合令第五條第二項ノ規定ニ依ル市街地……（一三）
告二三〇　金融組合令第九條ニ依ル指定銀行……（一三）
告二三一　金融組合令第三十一條第二項但書ノ規定ニ依ル金融組合……（一三）
告二五三　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（七）
告二六六　同上……（七）
告三〇五　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（七）
訓甲二　警察官署獸醫務囑託服務心得……（一）
訓甲九　公醫ノ受持區域……（一）

大正八年

法律

法一五　公債金特別會計法……（一）
法四八　司法代書人法……（一）
法五二　地方鐵道法……（一）

勅令

勅二一　勤務演習召集演習召集及簡閲點呼ノ免除ニ付餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ帯スル者ニ關スル件……（一）
勅二三　朝鮮總督府保健技師、保健技手、敎諭及敎師ノ官等等級配當ノ件……（二）
勅一六九　朝鮮總督府及所屬官署所屬ノ船舶ノ乘組員ニ支給スル食卓料臨時增給ニ關スル件……（一三）
勅二三二　徵兵事務條例施行細則……（一三）
勅三五四　警察官署ニ拘禁セラルル者ノ食料……（四）
勅三八八　朝鮮總督府警察官講習所官制……（二）
勅三九二　朝鮮總督府道知事ノ發スル命令ニ關スル件……（一）
勅四〇二　陸海軍武官ニシテ朝鮮總督ノ官職ニ在ル者ノ分限ニ關スル件……（一）
勅四〇三　朝鮮總督府及所屬官署職員服制廢止ノ件……（一）
勅四〇八　現役憲兵下士竝兵ノ服役ニ關スル件……（一）
勅四二五　徵兵事務條例……（一）
勅四六九　朝鮮總督府道港務官等ノ服制ニ關スル件……（一）
勅四七五　一年志願兵條例……（一）
勅四七六　一年現役兵條例……（一）
勅四九二　戰役又ハ事變ニ際シ功勞アル者ニ一時賜金又ハ金銀木杯若ハ錦地ヲ賜與スル件……（四）
勅四九五　軍需調査令……（一三）

内閣

告一　勳章及記章褒章ノ佩用ニ關スル件……（四）
告二　大正八年勅令第二十一號ニ依ル職務ヲ帯スル者指定……（一三）
告一二　朝鮮神社創立竝其ノ社格……（七）
告一四　實業章略綬付與ノ件……（四）
告一七　軍需調査令ノ規定ニ依ル指定……（一三）

宮内省

令五　判任待遇宮内職員ノ臨時增俸ニ關スル件……（一三）

陸軍省

令一　朝鮮ニ於ケル演習召集簡閲點呼施行師團管區……（一三）
令二六　憲兵補規程……（一三）
令二七　朝鮮憲兵隊附憲兵下士又ハ上等兵ノ服役ニ關スル件……（一三）
令三八　徵兵事務條例施行細則……（一三）
令四九　一年志願兵條例施行細則……（一三）
令五〇　一年現役兵條例施行細則……（一三）
令五一　朝鮮、臺灣【樺太】及支那等ニ在ル者ノ徵兵身體檢査ニ關スル件……（一三）

朝鮮總督府

制四　砂糖消費稅令……（一一）
制六　印紙稅令……（一一）
制七　政治ニ關スル犯罪處罰ノ件……（一一）
制八　朝鮮財團拠當令……（一四）
制一〇一　朝鮮鹽業令……（一四）
制一一　酒稅、煙草消費稅等ノ徵收ニ關スル件……（一一）
制一四　執達吏手數料規則ニ依ル手數料及立替金增額ニ關スル件……（一三）
制一五　朝鮮阿片取締令……（一三）
令三五　砂糖消費稅令施行規則……（一一）
令三六　印紙稅令ニ依ル稅印押捺申請方ノ件……（一一）
令四四　電信電話維持依託規則……（一四）

令五三　私立病院取締規則……（九）
令五九　學校醫規則……（一五）
令六〇　學校傳染病豫防消毒方法……（九）
令六一　傳染病豫防令第二十二條ニ依ル地方公共團體ノ義務ニ關スル件……（九）
令七一　水利組合補助規程……（一〇）
令七六　大正八年制令第十一號施行ニ關スル件……（一一）
令七八　朝鮮財團拠當令及大正八年制令第九號施行期日……（一四）
令七九　朝鮮鹽業令施行期日……（一四）
令八〇　朝鮮鹽業令施行規則……（一四）
令八三　道原鹽種製造所及鹽業取締所設置ニ關スル件……（一四）
令八四　朝鮮私設鐵道及軌道拠當取扱規則……（一四）
令九七　大正八年制令第十四號施行期日……（一五）
令九八　大正八年制令第十四號施行ニ依ル執達吏ノ職務ヲ行フ者ノ手數料及立替金增額ニ關スル件……（一三）
令九九　公證手數料增額ニ關スル件……（一三）
令一〇〇　財團拠當登記取扱規則……（一四）
令一〇六　山林事務ヲ分掌スル朝鮮總督府産局山林課出張所名稱及位置……（二）
令一一〇　朝鮮阿片取締令施行期日……（九）
令一一一　朝鮮阿片取締令施行規則……（九）
令一一六　電話規則……（七）
令一一八　朝鮮總督府道森林主事特別任用規程……（二）
令一二二　朝鮮總督府遞信局海員養成所規程……（二）
令一三二　朝鮮總督府警務總長ノ命令ヲ以テ定メタル事項ニ關スル件……（一）
令一三八　道森林主事ノ服制……（三）
令一三九　朝鮮總督府道巡査ノ服制ニ關スル件……（三）
令一四八　時間外電報ノ取扱ヲ爲ササル件……（三）
令一六八　朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査警戒規程……（二）
令一七六　朝鮮總督府船舶乘組員、鐵道郵便係員、通信監視員及間接國稅ノ檢査ニ從事スル官吏ノ服制……（三）
令一八四　屠場規則……（九）
令一九三　國債募集、賣出及元利金支拂郵便振替貯金特別取扱規則……（一〇）

令一九五　朝鮮林野調査令第十二條ニ依リ召喚スル利害關係人、證人、鑑定人ノ旅費及鑑定人ノ手當支給方……（二）
令二〇三　朝鮮總督府遞信局海員養成所位置……（二）
法一五　地方鐵道法施行ニ關スル件……（一）
訓一一　朝鮮鹽業令施行事務取扱規程……（一）
訓一四　朝鮮總督府及所屬官署所屬ノ船舶乘組員ニ對スル食卓料臨時增給ニ關スル件……（一）
訓一八　朝鮮總督府巡査部長ニ關スル件……（一）
訓二三　朝鮮總督府看守及朝鮮總督府道巡査非番勤務手當及特別手當支給規則……（一）
訓三九　朝鮮總督府道巡査精勤證書授與規則……（一）
訓四五　朝鮮總督府道巡査非番勤務手當支給規則……（一）
訓四七　朝鮮總督府警察官吏鐵道乘車證發行手續……（一）
訓四九　朝鮮總督府林野調査委員會事務章程……（一）
訓五一　朝鮮林野調査令附則第二項ノ地域……（一）
告三　水底電線路區域……（一）
告八九　朝鮮鹽業令施行心得……（一）
告一四七　森林令施行規則第一條第一項但書ニ依リ指定スル國有森林及其ノ事務ヲ分掌スル朝鮮總督府林課出張所指定……（一）
告一四八　朝鮮阿片取締令附則第四項ニ依リ政府ニ於テ賣下クヘキ醫藥用阿片ノ價格竝其ノ定價……（九）
告一五〇　朝鮮阿片取締令附則第二項ノ地域ニ於ケル阿片ノ賣下及賣下阿片ノ賠償金ヲ交付スヘキ「モルヒネ」含量及賠償金額……（九）

令一九五　醫藥用阿片及製藥用ノ阿片ノ容器ニ貼附スヘキ封緘紙ノ雛形……（九）
告一八四　朝鮮殖産銀行令第二十六條ノ銀行指定……（一三）
告一八五　朝鮮總督府遞信局海員養成所位置……（二）
告一八九　牛、羊等輸入停止ノ件……（九）
告二〇〇　金融組合令第九十三條ノ二第二項ノ規定ニ依ル産業ニ關スル法人指定……（一三）
告二〇一　朝鮮阿片取締令第三條ニ依ル罌粟栽培區域……（九）
告二三八　郵便局所ノ郵便、電信、電話及郵便爲替、郵便貯金其ノ他各種ノ現金受拂取扱時間……（二）
告二五〇　郵便物ニ徵收ヲ附記スルコトヲ得ル件……（七）
告二六四　電話加入區域指定地及土地ノ區別……（七）
告二八八　稅印ノ押捺ヲ申請スヘキ府郡島指定……（一一）
訓四七　郵便貯金規則ニ依リ郵便官署ニ於テ購入及保管スヘキ證券ノ種類……（一七）
訓四八　郵便貯金規則ニ依リ郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル證券ノ種類……（一七）
訓四九　私立病院構造設備標準……（九）
訓五一　引火質物貯藏所取締規則取扱手續……（九）
警令一　行政執行令其他法令ニ依ル假領置品取扱方……（一一）
警訓甲一〇　醫藥用阿片及製藥用ノ阿片ノ容器ニ貼附スヘキ封緘紙ノ雛形……（九）

大正九年

法律

法一　平和條約ノ實施ニ伴フ流通證券及工業所有權ニ關スル件……（一六）
法六　小額紙幣發行ニ關スル件……（一一）
法一〇　恩給扶助料等ノ增額ニ關スル件……（一四）
法一一　所得稅法……（一一）
法一二　所得稅法ノ施行ニ關スル件……（一一）
法三五　朝鮮ニ於ケル國勢調査ニ關スル件……（一五）
法五〇　明治四十三年勅令第三百三十一號等廢止……（一一）
法五一　內地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅免除ニ關スル件……（一一）

法　五二　朝鮮又ハ臺灣ヨリ移出シタル物品ノ內地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル件……（一一）　一〇七
法　五三　關稅法、關稅定率法保稅倉庫法及假置場法ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件……（一一）　一〇七
法　五七　戰時海上再保險法廢止……（一二）　九三

勅令

勅　九　工業所有權戰時法ニ依ル專用權ニ關スル件……（一四）　一〇四
勅　四八　獨逸國等ニ屬スル財產管理ノ件……（一四）　一〇四
勅一〇七　混合仲裁裁判所ノ囑託ニ因リ司法裁判所ノ爲ス法律上ノ補助ニ關スル件……（一五）　一〇五
勅一二〇　王世子李垠ト方子女王トノ結婚ニヨリ惠澤ヲ施サムカ爲朝鮮人ニ對シ特ニ恩赦ヲ行フノ件……（一四）　一〇四
勅一五八　辯護士タル者ヲ判事檢事ニ任用スル場合ニ於ケル官等ニ關スル件……（一二）　九九
勅一六〇　奏任文官特別任用令……（一二）　九九
勅一七一　同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ依ル財產處理ニ關スル件……（一四）　一〇四
勅一七三　特殊權利審查會官制……（一四）　一〇四
勅一七四　特殊權利審查規程……（一四）　一〇四
勅一九〇　印紙ヲ以テスル歲入金納付ニ關スル件……（一一）　九八
勅二二二　朝鮮總督府裁判所職員服制……（一二）　一〇一
勅二六二　敎官及技術官ノ俸給ニ關スル件……（一二）　一〇一
勅二七八　恩給扶助料等ノ增額及明治二十三年勅令第二百五十四號ニ依ル休職給ノ增額ニ關スル件……（一四）　一〇四
勅二八三　戰時海上再保險法施行ニ關スル件……（一四）　一〇四
勅三〇六　關稅法等ヲ朝鮮ニ施行スルノ件……（一二）　一〇一
勅三一二　內地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅免除ニ關スル法律施行ニ關スル件……（一二）　一〇一
勅三一五　朝鮮又ハ臺灣ヨリ移出シタル物品ノ內地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル件……（一二）　一〇一
勅三五七　判任文官特別任用令……（一二）　一〇一
勅三五八　三等郵便局長等ノ任用ニ關スル件……（一二）　一〇一
勅三六二　臺灣總督府、朝鮮總督府及關東廳ノ巡査及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル件……（一二）　一〇一
勅三六七　聘用セラレタル官吏及官吏待遇者ニ關スル件……（一二）　一〇一
勅四〇五　交通至難ノ場所ニ在勤スル職員ニ手當給與ノ件……（一二）　一〇一
勅四八三　三等郵便局長等ノ給與ニ關スル件……（一二）　一〇一
勅四九七　朝鮮總督府部內臨時職員設置制……（一二）　一〇一
勅五〇九　朝鮮總督府營林廠森林主事ノ服制……（一三）　九三
勅五三二　朝鮮又ハ臺灣ニ於テ徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲ニ關スル件……（一三）　一〇二
勅五三三　擔保附社債信託法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件……（一六）　一〇八
勅五三四　同盟及聯合國ト塊地利國トノ平和條約ニ依ル財產處理ニ關スル件……（一四）　一〇四
勅五四一　朝鮮地方待遇職員令……（一四）　一〇四
勅五四五　勳勉手當給與令……（一四）　一〇四
勅五六九　司法官試補及朝鮮總督府司法官試補ニ關スル件……（一四）　一〇四
勅五七四　朝鮮總督府遞信官署現業員共濟組合ニ關スル件……（一四）　一〇四

內閣

令一四八　大正九年法律第十號施行手續……（一五）　一〇五
令一八　敍位條例施行細則……（一五）　一〇五

宮內省

令　四　王世子ニ分屬スル李王職職員ノ定員……（一二）　一〇一
令　六　宮內省外國旅費臨時增賜ノ件……（一二）　一〇一
令一五　宮內官朝鮮臺灣樺太及千島國旅費規則……（一二）　一〇一

大藏省

令　一一　大正九年勅令第四十八號ニ依ル理財產タル國債ニ關スル取扱手續……（一二）　一〇一
令一六　內國旅費規則第二條ニ依ル鐵道賃及船賃……（一二）　一〇一

內務省

令　三八一　徵兵檢查規則……（一二）　一〇一
令　三八二　朝鮮軍人俸給等級給與規程……（一二）　一〇一
達　二八　大正九年勅令第百十八號ニ依リ將校同相當官ニ任用セラレタル者ノ俸給等級給與規程……（一二）　一〇一
達　二九　朝鮮軍人臨時手當支給規則……（一二）　一〇一
達　四二　大正九年勅令第百十八號ニ依リ將校同相當官ニ任用セラレタル現役並在職中ノ豫備役、後備役ノ者ニ臨時手當支給ノ件……（一二）　一〇一

陸軍省

令一五　陸軍召募規則……（一二）　一〇一
令　五　徵兵檢查規則……（一二）　一〇一
達　二八　朝鮮軍人俸給等級給與規程……（一二）　一〇一
達　二九　大正九年勅令第百十八號ニ依リ將校同相當官ニ任用セラレタル者ノ俸給等級給與規程……（一二）　一〇一
達　四二　朝鮮軍人臨時手當支給規則……（一二）　一〇一
達　四三　大正九年勅令第百十八號ニ依リ將校同相當官ニ任用セラレタル現役並在職中ノ豫備役、後備役ノ者ニ臨時手當支給ノ件……（一二）　一〇一

陸軍部

令　一　大正七年勅令第三百五十七號第一條ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件……（一三）　八一

文部省

令一六　學生生徒兒童身體檢查規程……（一五）　一〇五
令二〇　大正九年法律第十號施行手續……（一四）　一〇四

司法省

令　七　特殊權利審查細則……（一四）　一〇四
令　八　特殊權利審查會ニ審查ニ關スル審查請求ノ書式……（一四）　一〇四
令一六　同盟及聯合國ト塊地利國トノ平和條約ノ規定ニ基ク請求ニ關スル特殊權利審查會ノ審查細則……（一四）　一〇四
令一七　同盟及聯合國ト塊地利國トノ平和條約ニ規定スル支拂ヲ求ムルタメノ特殊權利審查會ニ提出スヘキ請求ノ書式……（一四）　一〇四

遞信省

令　八〇一　大正九年法律第十號ニ依リ更正ニ係ル恩給等支給規則……（一四）　一〇四

朝鮮總督府

制　七　會社令廢止ニ關スル件……（一五）　一〇五
制　八　朝鮮私設鐵道令……（一七）　一〇七
制一一　朝鮮總督府判事ノ特別任用ニ關スル件……（一二）　一〇一

制一四　朝鮮學校費令……（八）　七一
制一五　朝鮮道地方費令……（八）　七一
制一六　朝鮮所得稅令……（一一）　七四
制一八　朝鮮噸稅令……（一一）　七四
制一九　朝鮮ニ移入スル物品ノ移入稅等ニ關スル件……（一一）　七四
制二一　朝鮮出港稅令……（一一）　七四
制二四　紅蔘專賣令……（一一）　七四
制二五　朝鮮徵發令……（一三）　七六
令　五　外國產穀物ノ海路運送費補助ニ關スル件……（一三）　七六
令　六三　私立學校規則……（一三）　七六
令二一　徵兵事務條例附屬第三項ニ依リ學校長ノ交付スル在學證明書ニ關スル規程……（一三）　七六
令　六八　同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ基ク損害申告ニ關スル件……（一四）　七八
令　八三　辯護士職服規程……（一五）　七九
令　八九　中等敎員委託生規則……（一五）　七九
令　九〇　瓦斯事業取締規則……（一五）　七九
令　九一　鄕校財產管理規則……（八）　七一
令一〇四　朝鮮學校費令施行規則……（八）　七一
令一〇五　朝鮮道地方費令施行規則……（八）　七一
令一〇七　郵便私書函使用規則……（一五）　七九
令一〇八　朝鮮總督府判事特別任用考試規則……（一二）　七七
令一一〇　驛屯土賣拂處分ニ關スル件……（一二）　七七
令一一三　林野臺帳規則……（一〇）　七四
令一一五　關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則……（一二）　七七
令一一六　保稅倉庫法施行規則……（一二）　七七
令一一七　假置場法施行規則……（一二）　七七
令一一八　朝鮮噸稅令施行規則……（一二）　七七
令一一九　朝鮮出港稅令施行規則……（一二）　七七
令一二〇　大正九年制令第十九號施行ニ關スル件……（一二）　七七
令一二一　陸接國境ニ於ケル貨物ノ輸出入ニ關スル件……（一二）　七七
令一二二　保稅地域間ノ運送通路ニ關スル件……（一二）　七七
令一二三　關稅定率法第七條第十八號ニ依リ輸入稅ヲ免除スヘキ輸出貨物ノ容器指定……（一二）　七七
令一二五　關稅法第五十三號ノ二ニ依ル關稅定率法第八條第二號ノ二ニ依リ輸入稅ヲ免除スヘキ物品指定……（一二）　七七
令一二六　大正九年法律第五十三號第四條ニ依リ米等ノ輸入稅免除ノ件……（一二）　七七
令一三三　畜牛結核病豫防ニ關スル件……（一三）　七八
令一三四　植栽又ハ接木用果樹櫻樹等ノ輸移出取締ニ關スル件……（一三）　七八
令一四〇　朝鮮總督府得稅令施行規則……（一三）　七八
令一四四　交通取締ノ勤務ニ服スル警察官吏ノ腕章……（一三）　七八
令一四八　大正九年法律第十號施行手續……（一三）　七八
令一四九　外國產穀物ノ海路運送費補助ニ關スル件廢止……（一三）　七八
令一五三　朝鮮總督府郵便所長手當金年額改正……（一三）　七八
令一六〇　刑死者ノ墳墓祭祀肖像等ノ取締ニ關スル件……（一三）　七八
令一六六　驛屯土ノ賣拂代金、貸付料及滯納金ノ使用方法並收納ニ關スル件……（一三）　七八
令一六七　紅蔘專賣令施行期日……（一三）　七八
令一六八　朝鮮總督府警察官駐在所ニ警部補配置ノ件……（一三）　七八
令一六九　道地方費豫算、繼續費及決算ニ關スル樣式……（八）　七一
訓　六九　朝鮮總督府警察官敎養規程……（一二）　七〇
訓　七〇　朝鮮總督府警察官講習所規程……（一二）　七〇
訓七一　司法警察官カ大正六年府令第八十五號ニ基キ公醫ニ死體又ハ傷害ノ鑑定ヲ命シタル場合ニ於ケル料金……（一二）　七〇
告一一二　大正九年朝鮮總督府令第五號ニ依リ運送費ヲ補助スヘキ穀物ノ積出港及補助スヘキ額……（一二）　七〇
告一二四　傳染病豫防液、同血清、流行性感冒豫防液及狂犬病豫防劑賣下規程……（九）　六九
告一二五　電話架設料……（一〇）　七〇
告一三〇　布敎規則等ニ依ル布敎屆等ノ樣式……（七）　六七
告一四五　朝鮮總督府醫院及道癘惠醫院敎養規程……（一一）　七二
告一四七　看護婦養成所指定……（九）　六九
告一七二　供託所指定……（一二）　七一

令一九五　陸軍召募規則……（一二）　七一
令　五　徵兵檢查規則……（一二）　七一
達　二八　朝鮮軍人俸給等級給與規程……（一二）　七一
達　二九　大正九年勅令第百十八號ニ依リ將校同相當官ニ任用セラレタル者ノ俸給等級給與規程……（一二）　七一
達　四二　朝鮮軍人臨時手當支給規則……（一二）　七一
達　四三　大正九年勅令第百十八號ニ依リ將校同相當官ニ任用セラレタル現役並在職中ノ豫備役、後備役ノ者ニ臨時手當支給ノ件……（一二）　七一

陸軍部

令　一　大正七年勅令第三百五十七號第一條ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件……（一三）　七二

文部省

令一六　學生生徒兒童身體檢查規程……（一五）　七四
令二〇　大正九年法律第十號施行手續……（一四）　七三

司法省

令　七　特殊權利審查細則……（一四）　七三
令　八　特殊權利審查會ニ審查ニ關スル審查請求ノ書式……（一四）　七三
令一六　同盟及聯合國ト塊地利國トノ平和條約ノ規定ニ基ク請求ニ關スル特殊權利審查會ノ審查細則……（一四）　七三
令一七　同盟及聯合國ト塊地利國トノ平和條約ニ規定スル支拂ヲ求ムルタメノ特殊權利審查會ニ提出スヘキ請求ノ書式……（一四）　七三

遞信省

令　八〇一　大正九年法律第十號ニ依リ更正ニ係ル恩給等支給規則……（一四）　七三

朝鮮總督府

制　七　會社令廢止ニ關スル件……（一五）　七四
制　八　朝鮮私設鐵道令……（一七）　七六
制一一　朝鮮總督府判事ノ特別任用ニ關スル件……（一二）　七二

道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（一七）　告二一七
畜牛結核病檢疫施行……（九）　告二一八
植栽又ハ接木用果樹、樅樹等ノ檢査又ハ消毒ヲ行フ場所及期間……（一一）　告二一九
道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（一七）　告二二〇
府制施行規則第二條ノ二及面制施行規則第六條ノ三ニ依リ府稅及面賦課金指定……（八）　告二四二
朝鮮私設鐵道令施行規則第四十八條ノ營業報告書及統計報告書竝第四十九ノ鐵道臺帳ノ樣式……（一七）　告二七五

大正十年

詔書

皇太子裕仁親王攝政ニ任ス……（一）　詔

皇室令

皇室典範第五條ニ依リ皇族ノ範圍ヲ定ム……（一）　皇一
皇室典範第十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇二
皇室典範第十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇三
皇室典範第十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇四
皇室典範第十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇五
皇室典範第十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇六
皇室典範第十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇七
皇室典範第十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇八
皇室典範第十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇九
皇室典範第十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一〇
皇室典範第十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一一
皇室典範第二十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一二
皇室典範第二十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一三
皇室典範第二十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一四
皇室典範第二十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一五
皇室典範第二十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一六
皇室典範第二十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一七
皇室典範第二十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一八
皇室典範第二十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一九
皇室典範第二十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇二〇
皇室典範第二十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇二一
皇室典範第三十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇二二
皇室典範第三十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇二三
皇室典範第三十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇二四
皇室典範第三十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇二五
皇室典範第三十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇二六
皇室典範第三十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇二七
皇室典範第三十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇二八
皇室典範第三十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇二九
皇室典範第三十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇三〇
皇室典範第三十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇三一
皇室典範第四十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇三二
皇室典範第四十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇三三
皇室典範第四十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇三四
皇室典範第四十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇三五
皇室典範第四十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇三六
皇室典範第四十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇三七
皇室典範第四十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇三八
皇室典範第四十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇三九
皇室典範第四十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇四〇
皇室典範第四十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇四一
皇室典範第五十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇四二
皇室典範第五十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇四三
皇室典範第五十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇四四
皇室典範第五十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇四五
皇室典範第五十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇四六
皇室典範第五十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇四七
皇室典範第五十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇四八
皇室典範第五十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇四九
皇室典範第五十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇五〇
皇室典範第五十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇五一
皇室典範第六十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇五二
皇室典範第六十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇五三
皇室典範第六十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇五四
皇室典範第六十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇五五
皇室典範第六十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇五六
皇室典範第六十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇五七
皇室典範第六十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇五八
皇室典範第六十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇五九
皇室典範第六十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇六〇
皇室典範第六十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇六一
皇室典範第七十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇六二
皇室典範第七十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇六三
皇室典範第七十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇六四
皇室典範第七十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇六五
皇室典範第七十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇六六
皇室典範第七十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇六七
皇室典範第七十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇六八
皇室典範第七十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇六九
皇室典範第七十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇七〇
皇室典範第七十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇七一
皇室典範第八十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇七二
皇室典範第八十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇七三
皇室典範第八十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇七四
皇室典範第八十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇七五
皇室典範第八十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇七六
皇室典範第八十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇七七
皇室典範第八十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇七八
皇室典範第八十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇七九
皇室典範第八十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇八〇
皇室典範第八十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇八一
皇室典範第九十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇八二
皇室典範第九十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇八三
皇室典範第九十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇八四
皇室典範第九十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇八五
皇室典範第九十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇八六
皇室典範第九十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇八七
皇室典範第九十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇八八
皇室典範第九十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇八九
皇室典範第九十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇九〇
皇室典範第九十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇九一
皇室典範第百條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇九二
皇室典範第百一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇九三
皇室典範第百二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇九四
皇室典範第百三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇九五
皇室典範第百四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇九六
皇室典範第百五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇九七
皇室典範第百六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇九八
皇室典範第百七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇九九
皇室典範第百八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一〇〇
皇室典範第百九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一〇一
皇室典範第百十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一〇二
皇室典範第百十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一〇三
皇室典範第百十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一〇四
皇室典範第百十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一〇五
皇室典範第百十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一〇六
皇室典範第百十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一〇七
皇室典範第百十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一〇八
皇室典範第百十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一〇九
皇室典範第百十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一一〇
皇室典範第百十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一一一
皇室典範第百二十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一一二
皇室典範第百二十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一一三
皇室典範第百二十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一一四
皇室典範第百二十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一一五
皇室典範第百二十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一一六
皇室典範第百二十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一一七
皇室典範第百二十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一一八
皇室典範第百二十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一一九
皇室典範第百二十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一二〇
皇室典範第百二十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一二一
皇室典範第百三十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一二二
皇室典範第百三十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一二三
皇室典範第百三十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一二四
皇室典範第百三十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一二五
皇室典範第百三十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一二六
皇室典範第百三十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一二七
皇室典範第百三十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一二八
皇室典範第百三十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一二九
皇室典範第百三十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一三〇
皇室典範第百三十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一三一
皇室典範第百四十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一三二
皇室典範第百四十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一三三
皇室典範第百四十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一三四
皇室典範第百四十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一三五
皇室典範第百四十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一三六
皇室典範第百四十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一三七
皇室典範第百四十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一三八
皇室典範第百四十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一三九
皇室典範第百四十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一四〇
皇室典範第百四十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一四一
皇室典範第百五十條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一四二
皇室典範第百五十一條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一四三
皇室典範第百五十二條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一四四
皇室典範第百五十三條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一四五
皇室典範第百五十四條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一四六
皇室典範第百五十五條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一四七
皇室典範第百五十六條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一四八
皇室典範第百五十七條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一四九
皇室典範第百五十八條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一五〇
皇室典範第百五十九條ニ依リ皇族ノ身位ヲ定ム……（一）　皇一五一

法律

船舶滿載吃水線法……（一七）　法二
憲兵補ノ恩給ニ關スル件……（四）　法三
朝鮮私設鐵道補助法……（一七）　法四
會計法……（一七）　法五
航空法……（一七）　法六
公有水面埋立法……（一〇）　法七
水產會法……（二六）　法八
刑事訴訟費用法……（四）　法九
陸軍軍法會議法……（四）　法一〇
朝鮮軍法會議ニ關スル件……（四）　法一一
海軍軍法會議法……（四）　法一二
刑事交涉法……（四）　法一三
陸海軍軍法會議私訴裁判噐制執行法廢止……（四）　法一四
特許法……（二六）　法一五
實用新案法……（二六）　法一六

勅令

朝鮮人ノ多數在留スル地方ヲ管轄スル領事館職員ノ特別任用ニ關スル件……（一）　勅一
朝鮮總督府事務官等ノ特別任用ニ關スル件……（二）　勅二
朝鮮總督府及其ノ所屬官署職員ノ俸給ニ關スル件……（二）　勅三
朝鮮總督府監獄職員服制……（三）　勅四
朝鮮總督府第六十八號ニ依ル恩給ノ增給ニ關スル件……（四）　勅五
朝鮮總督府專賣局官制……（二）　勅六
朝鮮陸接國境地方ニ在勤スル官吏ノ待遇ヲ受クル者、憲兵補等ノ臨時特別手當給與ニ關スル件……（二）　勅七
憲兵補ノ等級ニ關スル件……（四）　勅八
朝鮮臺灣關東州ニ於ケル官立公立學校教官ニシテ一年現役ニ服スル者ノ給與ニ關スル件……（二）　勅九
朝鮮總督府水產試驗場官制……（二）　勅一〇
朝鮮總督府裁判所職員定員令……（二）　勅一一
奏任文官及判任文官ノ優遇ニ關スル件……（二）　勅一二
朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合ニ關スル件……（四）　勅一三
關稅定率法第九條ニ依ル命令ノ件……（二）　勅一四
關稅定率法第十條ニ依ル命令ノ件……（二）　勅一五
朝鮮總督府稅關職員服制……（三）　勅一六
朝鮮總督府專賣局屬ノ特別任用ニ關スル件……（二）　勅一七
政府ヨリ賣拂フ代金ノ延納ニ關スル件……（二）　勅一八
外國旅費規則……（一）　勅四〇一
南洋郡島關東州南滿洲旅費規則……（二）　勅四〇二
特許法等改正法律施行期日……（四）　勅四五九
特許法施行令……（四）　勅四六〇
特許登錄令……（四）　勅四六一
軍事上祕密ヲ要スル實用新案並實用新案ニ關スル瘉判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄ニ關スル件……（四）　勅四六二
意匠ニ關スル瘉判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄ニ關スル件……（四）　勅四六三
商標ニ關スル瘉判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄ニ關スル件……（四）　勅四六四
特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手數料ノ件……（四）　勅四六五
辨理士法施行令……（四）　勅四六六

宮內省

勅任待遇奏任待遇宮內職員職制……（二）　令一〇
判任待遇宮內職員職制……（二）　令一一
宮內判任官等級令……（二）　令一六

外務省

日墺混合仲裁判所手續準則……（六）　告三二一

內務省

朝鮮ニ於ケル特殊財產管理ニ關スル件……（四）　令三

大藏省

外國旅費規則施行細則……（二）　令三一
南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則……（二）　令三二

陸軍省

簡閱點呼執行規則……（三）　達四四一

文部省

朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於ケル官公立中學校等ニ於テ行フ入學試驗檢定效力……（五）　令二六

陸軍文部省

私立京城鐵道學校ヲ徵兵令ニ依リ

認定……（一五）　九〇

農商務省

特許法施行規則……（一六）　令三三
實用新案法施行規則……（一六）　令三四
意匠法施行規則……（一六）　令三五
商標法施行規則……（一六）　令三六
特許法施行規則等ニ依ル請求、申請及屆出ニ關スル手數料……（一六）　令三七
特許登錄令施行規則……（一六）　令三九
實用新案ノ登錄ニ關スル件……（一六）　令四〇
意匠登錄規則……（一六）　令四一
商標登錄規則……（一六）　令四二
特許出願ニ關スル明細書及圖面調製標準……（一六）　告三一〇

遞信省

特許瘉判及瘉查書類特別取扱郵便規則……（一七）　令五三
外國郵便規則……（一七）　令五六

朝鮮總督府

朝鮮煙草專賣令……（一一）　制五
朝鮮煙草專賣令施行規則……（一一）　制六
朝鮮地方待遇職員令ニ依ル判任官待遇職員ノ待遇相當等級ニ關スル件……（一一）　令一〇
朝鮮徵發令施行規則……（一二）　令二四
齒科醫師試驗規則……（九）　令二七
官廳用無線電信電話規則……（一〇）　令三二
朝鮮煙草專賣令施行規則……（一〇）　令四九
專賣支局ノ管轄區域……（一二）　令五一
朝鮮煙草專賣令ニ依ル徵收物件ノ申告、鑑定人等ニ關スル件……（一二）　令五二
朝鮮私設鐵道補助法施行規則……（一七）　令五三
土木會議委員旅費支給ノ件……（一二）　令五六
朝鮮取引所稅令施行規則……（一二）　令五七
官立學校生徒學資給與並卒業者服務規則……（一五）　令六八
煙草專賣猥則……（一一）　令七八
學校生徒兒童身體檢查規則……（一五）　令八六
朝鮮煙草專賣令第四十七條及同第四十八條ノ交付金交付ニ關スル件……（一二）　令九〇

法律

船舶滿載吃水線法……（一七）　法二
憲兵補ノ恩給ニ關スル件……（四）　法三
朝鮮私設鐵道補助法……（一七）　法四
會計法……（一七）　法五
航空法……（一七）　法六
公有水面埋立法……（一〇）　法七
水產會法……（二六）　法八
刑事訴訟費用法……（四）　法九
陸軍軍法會議法……（四）　法一〇
朝鮮軍法會議ニ關スル件……（四）　法一一
海軍軍法會議法……（四）　法一二
刑事交涉法……（四）　法一三
陸海軍軍法會議私訴裁判噐制執行法廢止……（四）　法一四
特許法……（二六）　法一五
實用新案法……（二六）　法一六

勅令

朝鮮人ノ多數在留スル地方ヲ管轄スル領事館職員ノ特別任用ニ關スル件……（一）　勅一
朝鮮總督府事務官等ノ特別任用ニ關スル件……（二）　勅二
朝鮮總督府及其ノ所屬官署職員ノ俸給ニ關スル件……（二）　勅三
朝鮮語奬勵手當ニ關スル件……（二）　勅四
朝鮮總督府監獄職員服制……（三）　勅五
隆熙三年勅令第六十八號ニ依ル恩給ノ增給ニ關スル件……（四）　勅六
朝鮮總督府專賣局官制……（二）　勅七
朝鮮陸接國境地方ニ在勤スル官吏ノ待遇ヲ受クル者、憲兵補等ノ臨時特別手當給與ニ關スル件……（二）　勅八
憲兵補ノ等級ニ關スル件……（四）　勅九
朝鮮臺灣關東州ニ於ケル官立公立學校教官ニシテ一年現役ニ服スル者ノ給與ニ關スル件……（二）　勅一〇
朝鮮總督府水產試驗場官制……（二）　勅一一
朝鮮總督府裁判所職員定員令……（二）　勅一二
奏任文官及判任文官ノ優遇ニ關スル件……（二）　勅一三
朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合ニ關スル件……（四）　勅一四
關稅定率法第九條ニ依ル命令ノ件……（二）　勅一五
關稅定率法第十條ニ依ル命令ノ件……（二）　勅一六
朝鮮總督府稅關職員服制……（三）　勅一七
朝鮮總督府專賣局屬ノ特別任用ニ關スル件……（二）　勅一八
政府ヨリ賣拂フ代金ノ延納ニ關スル件……（二）　勅一九
外國旅費規則……（一）　勅四〇一
南洋郡島關東州南滿洲旅費規則……（二）　勅四〇二
特許法等改正法律施行期日……（四）　勅四五九
特許法施行令……（四）　勅四六〇
特許登錄令……（四）　勅四六一
軍事上祕密ヲ要スル實用新案並實用新案ニ關スル瘉判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄ニ關スル件……（四）　勅四六二
意匠ニ關スル瘉判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄ニ關スル件……（四）　勅四六三
商標ニ關スル瘉判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄ニ關スル件……（四）　勅四六四
特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手數料ノ件……（四）　勅四六五
辨理士法施行令……（四）　勅四六六

宮內省

勅任待遇奏任待遇宮內職員職制……（二）　令一〇
判任待遇宮內職員職制……（二）　令一一
宮內判任官等級令……（二）　令一六

外務省

日墺混合仲裁判所手續準則……（六）　告三二一

內務省

朝鮮ニ於ケル特殊財產管理ニ關スル件……（四）　令三

大藏省

外國旅費規則施行細則……（二）　令三一
南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則……（二）　令三二

陸軍省

簡閱點呼執行規則……（三）　達四四一

文部省

朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於ケル官公立中學校等ニ於テ行フ入學試驗檢定效力……（五）　令二六

陸軍文部省

私立京城鐵道學校ヲ徵兵令ニ依リ

大正十一年

法律

內地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件……（一）　法一〇〇
破產法……（一）　法一〇一
和議法……（一）　法一〇二
刑事訴訟法……（四）　法一八〇

勅令

會計規則……（一）　勅一
國庫ヨリ俸給ヲ受クル府縣ノ官吏

ニ對シ府縣費ヨリ旅費支出ニ關スル件……（二）　一四五
勅　六　在外研究員規程……（二）　九三
勅　九　辨理士法ヲ朝鮮及臺灣ニ施行スルノ件……（二）　一四五
勅　一九　朝鮮教育令……（二）　一四五
勅　二八　供託法中改正法律施行ニ關スル件……（二）　一四五
勅　六九　朝鮮總督府供託局官制……（二）　一四九
勅　七五　供託物ノ還付又ハ取戻ヲ請求スル場合ニ關スル件……（二）　三九
勅　七八　陸軍軍法會議法、海軍軍法會議法、刑事交渉法等ノ施行期日ニ關スル件……（二）　四八
勅　八六　陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法施行前ヨリ施行セラルル勅令中理事、主理等ノ名稱ニ關スル件……（二）　四八
勅　九八　陸軍軍法務官及海軍法務官任用令……（二）　四八
勅　一〇二　海軍軍法會議法第二項ノ規定ニ依リ除外スヘキ者ニ關スル件……（二）　四八
勅　一〇三　陸軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ニ關スル件……（二）　四九
勅　一〇四　海軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ニ關スル件……（二）　四九
勅　一五一　朝鮮總督府官制……（二）　五五
勅　一五二　朝鮮公立學校官制……（二）　五六
勅　二三五　朝鮮總督府警察官吏ノ職務應援ニ關スル件……（二）　一九
勅　三七九　朝鮮、臺灣ニ於ケル官立、公立ノ學校、樺太廳中學校、同高等女學校、又ハ南洋廳公學校ノ教員ニシテ會計事務ニ從事スル者ノ手當給與ニ關スル件……（二）　一〇一
勅　三八七　朝鮮總督府林業試驗場官制……（二）　一〇四
勅　四三一　陸軍准士官下士官ヲ判任文官ニ任用ノ件……（二）　一五七
勅　四三二　海軍准士官及下士官ヲ判任文官ニ任用ノ件……（二）　一五七
勅　四四〇　監獄官吏ノ功勞記章ニ關スル件……（二）　一七
勅　四六二　統計局官制……（二）　五二
勅　四七六　拓殖事務局官制……（二）　五二

告　二　軍需調査令ノ規定ニ依ル自動車報告規程……（二）　一四五
令　七　宮内省　大正十一年皇室令第四號施行ノ際ニ於ケル皇族ニ分屬スル宮内屬及李王職屬ノ官等ニ關スル件……（二）　九三
外務省
告　一八　日丁兩國間船舶積量測度證書互認……（二）　三九
大藏省
令　一　支出官事務規程……（二）　八六
令　二　出納官吏事務規程……（二）　八六
令　五　保管金取扱規程……（二）　八六
令　六　預金部預金取扱規程……（二）　八六
令　七　政府所有有價證券取扱規程……（二）　八六
令　八　政府保管有價證券取扱規程……（二）　八六
令　九　供託有價證券取扱規程……（二）　八六
令　一〇　日本銀行國庫金取扱規程……（二）　八六
令　一一　公立私立專門學校有價證券取扱規程……（二）　八六
令　一六　會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法竝書類ノ樣式……（二）　八六
令　二〇　會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ會計規則ノ適用ヲ要スル帳簿書類ノ樣式……（二）　八六
令　三三　一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件……（二）　八六
令　三八　歲入年度等誤謬ノ場合訂正手續……（二）　八六
令　四三　記載事項ノ訂正ニ關スル件……（二）　八六
訓　一五　會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及政府ト私人トノ債務ノ相殺アリタル場合ニ於ケル歲入徵收官ノ事務取扱方……（二）　八六
令　二　一般會計歲入徵收官……（二）　八六
達　朝鮮師團
告　一九師召一一三　第十九師團演習召集簡閱點呼事務規程……（二）　五三
遞信省
令　六一　船窓試驗規程……（二）　一四五
令　七　朝鮮總督府
制　七　朝鮮無盡業令……（二）　一四五
制　九　地稅免除ノ期間ニ關スル件……（二）　一四五
令　一　物件費拂代金延納規則……（二）　一四五
令　五　朝鮮教育令施行期日……（二）　一四五
令　六　小學校規程……（二）　一四五
令　八　普通學校規程……（二）　一四五
令　九　實業學校規程……（二）　一四五
令　一〇　高等女學校規程……（二）　一四五
令　一一　幼稚園規程……（二）　一四五
令　一三　中學校規程……（二）　一四五
令　一四　女子高等普通學校規程……（二）　一四五
令　一五　朝鮮教育令第二十五條ニ依リ國語ヲ常用スル者又ハ國語ヲ常用セサル者ノ入學ニ關スル件……（二）　一四五
令　一六　高等普通學校規程……（二）　一四五
令　一七　師範學校規程……（二）　一四五
令　二一　公立私立專門學校規程……（二）　一四五
令　二六　朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合規則……（二）　一四五
令　二八　私立學校教員ノ資格及員數ニ關スル規程……（二）　一四五
令　三四　朝鮮總督府供託局供託物取扱規則……（二）　一四五
令　三六　供託金ノ利息……（二）　一四五
令　三七　大正十一年制令第二號ノ施行前ニ爲シタル供託ニ關スル件……（二）　一四五
令　三八　供託事務取扱店……（二）　一四五
令　四一　朝鮮總督府供託局ノ名稱及位置……（二）　一四五
令　四四　在内地給費生規程……（二）　一四五
令　四七　稅關棧橋、繫船壁及船渠使用規則……（二）　一四五
令　四九　京城法學專門學校規程……（二）　一四五
令　五〇　京城醫學專門學校規程……（二）　一四五
令　五一　京城高等工業學校規程……（二）　一四五
令　五二　水原高等農林學校規程……（二）　一四五
令　五三　京城高等商業學校規程……（二）　一四五
令　五四　朝鮮公立學校職員定員規程……（二）　一四五
令　五七　朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則……（二）　一四五
令　六三　朝鮮總督府所屬官署經費渡切規則……（二）　一四五
令　六六　明治四十二年統監部令第四十六號……（二）　一四五

會計檢査院

達　一一　計算證明規程……（二）　三一

朝鮮總督府

制　七　朝鮮無盡業令……（二）　一四五
制　九　地稅免除ノ期間ニ關スル件……（二）　一四五
令　一　物件費拂代金延納規則……（二）　一四五
令　五　朝鮮教育令施行期日……（二）　一四五
令　六　小學校規程……（二）　一四五
令　八　普通學校規程……（二）　一四五
令　九　實業學校規程……（二）　一四五
令　一〇　高等女學校規程……（二）　一四五
令　一一　幼稚園規程……（二）　一四五
令　一三　中學校規程……（二）　一四五
令　一四　女子高等普通學校規程……（二）　一四五
令　一五　朝鮮教育令第二十五條ニ依リ國語ヲ常用スル者又ハ國語ヲ常用セサル者ノ入學ニ關スル件……（二）　一四五
令　一六　高等普通學校規程……（二）　一四五
令　一七　師範學校規程……（二）　一四五
令　二一　公立私立專門學校規程……（二）　一四五
令　二六　朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合規則……（二）　一四五
令　二八　私立學校教員ノ資格及員數ニ關スル規程……（二）　一四五
令　三四　朝鮮總督府供託局供託物取扱規則……（二）　一四五
令　三六　供託金ノ利息……（二）　一四五
令　三七　大正十一年制令第二號ノ施行前ニ爲シタル供託ニ關スル件……（二）　一四五
令　三八　供託事務取扱店……（二）　一四五
令　四一　朝鮮總督府供託局ノ名稱及位置……（二）　一四五
令　四四　在内地給費生規程……（二）　一四五
令　四七　稅關棧橋、繫船壁及船渠使用規則……（二）　一四五
令　四九　京城法學專門學校規程……（二）　一四五
令　五〇　京城醫學專門學校規程……（二）　一四五
令　五一　京城高等工業學校規程……（二）　一四五
令　五二　水原高等農林學校規程……（二）　一四五
令　五三　京城高等商業學校規程……（二）　一四五
令　五四　朝鮮公立學校職員定員規程……（二）　一四五
令　五七　朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則……（二）　一四五
令　六三　朝鮮總督府所屬官署經費渡切規則……（二）　一四五
令　六六　明治四十二年統監部令第四十六號……（二）　一四五

令　六七　廢止……（二）　四八
令　六八　消防手給與規則……（二）　一三三
令　七四　消防手採用規則……（二）　一三五
令　七六　漁業組合補助規則……（二）　一三六
令　七七　看護婦規則……（九）　二
令　八三　看護婦助産婦養成規程……（九）　三
令　八五　煙草耕作獎勵規則……（二）　一四六
令　八六　朝鮮無盡業令施行規則……（二）　一五三
令　無盡業法第二十九條ニ依リ朝鮮總督ノ職權ニ屬スル事項ヲ地方長官ヲシテ行ハシムル件……（二）　八
令　九〇　一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件……（二）　二四七
令　九一　薩哈嗹州派遣軍司令部所轄軍政部設置ニ係ル普通學校ノ兒童及卒業者ノ入學轉學ニ關スル件……（二）　一五
令　九九　水稻採種奬補助規程……（二）　二三
令　一〇四　米穀檢査規則……（二）　二三
令　一〇五　大豆檢査規則……（二）　六六
令　一〇七　朝鮮總督府秘關監吏ノ特別任用ニ關スル件……（二）　一五一
令　一一〇　公立幼稚園保姆ノ資格、俸給等ニ關スル件……（二）　三三
令　一一六　教育效績者選奬規程……（二）　五
令　一一九　判任官ノ待遇ヲ受クル朝鮮總督府道廳防手ノ懲戒ニ關スル件……（二）　八
令　一二三　朝鮮醫師會規則……（九）　一五三
令　一三九　關稅法、大正九年制令第十九號ノ違犯申告者賞與ニ關スル件……（二）　二二
令　一三〇　在外研究員規程施行細則……（二）　一五
令　一三一　檢疫委員及無疫檢疫委員手當及旅費支給規程……（二）　一五
令　一三二　朝鮮地方待遇職員ノ加俸及定員……（二）　一四
令　一三七　船舶精量測度互認……（二）　一四
令　一四一　朝鮮總督府及所屬官署雇員規程……（二）　一四
令　一四二　朝鮮總督府及所屬官署雇員規程ニ關シ朝鮮總督府及所屬官署雇員規程準用ノ件……（二）　一四
令　一四三　朝鮮航空試驗規程……（二）　一五
令　一四四　朝鮮造船規程……（二）　一五
令　一四五　朝鮮木船檢査規程……（二）　一五
令　一四八　朝鮮船燈信號器救命具取締規則……（二）　一七
令　一五四　朝鮮戶籍令……（二）　一五七
訓　一五六　朝鮮戶籍手數料規則……（二）　一五七
訓　一一一　朝鮮美術審査委員會規程……（二）　一七
訓　一一七　朝鮮總督府監獄職員服裝規則……（二）　一七
訓　一二二　朝鮮總督府供託局事務取扱手續……（二）　一七
訓　一二六　朝鮮總督府監獄ニ看守部長及女監部長ノ職ヲ置クノ件……（二）　一七
訓　一三五　看護婦規則取扱手續……（二）　一七
訓　一四八　關稅、噸稅及稅關雜收入取扱規程……（二）　一七
訓　一四九　府面ニ於テ徵收シタル國稅ノ納付期限……（二）　一七
訓　一五四　朝鮮總督府中樞院事務分掌規程……（二）　一七
訓　一五五　警佛船取扱規程……（二）　一七
訓　一五七　朝鮮總督府及所屬官署勤勉手當支給規則……（二）　一七
訓　一五八　朝鮮總督府中樞院事務分掌規程……（二）　一七
訓　六〇　自動車運轉手試驗施行心得……（二）　一七
訓　六一　古物商取締ニ關スル法令取扱手續……（二）　一七
訓　六六　朝鮮美術展覽會規程……（二）　一七
訓　六七　外國郵便爲替ノ交換ヲ取扱フ郵便局及其區域……（二）　一七
告　六　課金別納外國郵便物引受郵便藥品指定……（二）　一七
告　一六　渡船管理廳指定……（二）　一七
告　二八　同上……（二）　一七
告　三一　同上……（二）　一七
告　三二　同上……（二）　一七
告　三三　水底電信線路區域……（二）　一七
告　三四　朝鮮總督府供託局ノ預金取扱店……（二）　一七
告　八一　專門學校、高等普通學校及實業學校ノ位置……（二）　一七
告　九一　私立學校教員ノ資格及員數ニ關スル規程ニ依リ私立學校ノ教員タル資格ヲ有スル者指定……（二）　一七
告　九三　朝鮮語學校規則……（二）　一七
告　一〇五　朝鮮總督府圖書館官制……（二）　一七

大正十二年

皇室令

皇　一二　外國ニ出張ヲ命セラレタル者ノ渡切旅費ニ關スル件……（二）　一四五
皇　一六　宮内省恩給令……（二）　一四五

法律

法　四八一　恩給法……（二）　三五

勅令

勅　五八　鎭海要港境域……（二）　五
勅　二〇八　朝鮮總督府、臺灣總督府及關東廳ノ監獄官吏ノ功勞記章ニ關スル件……（二）　九
勅　三〇〇　陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法中時效ニ關スル規定等施行期日……（二）　四七
勅　三〇五　大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得サル費途ノ件……（二）　一九
勅　三六七　恩給法施行令……（二）　四三
勅　三六九　恩給給與規則……（二）　五一
勅　三八二　朝鮮總督府感化院官制……（二）　五二
勅　四〇五　生活必需品ニ關スル暴利取締ノ件……（九）　九
勅　四三九　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則……（二）　二五
勅　四九三　朝鮮總督府圖書館官制……（二）　二五

令　五　増額恩給中内閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續……（四）　六三
令　七　國庫ノ支辨ニ屬スル恩給中内閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ給與細則……（四）　六三
訓　一　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則ノ規定ニ依ル裁定要項通知書書式……（一一）　二三二
告　二　恩給法第九十二條第一項ノ規定ニ依ル加算ノ地域及期間……（四）　六三

宮内省

令　一二　宮内省恩給令施行規則……（四）　七四
令　一四　宮内省恩給令施行規則……（四）　七六
令　一五　宮内省恩給令第七十條乃至第七十五條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給ノ更正手續……（四）　七六

大藏省

令　三〇　恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則……（一一）　二三二

陸軍省

逓　一　豫備役後備役上長官士官准士官下士兵卒、歸休兵、補充兵又ハ一年現役兵終末試驗及第者ヲ勤務演習ノ爲ニ召集シタル場合其ノ教育主管者及勤務演習成績ノ報告並教育課目等ニ關スル件……（一二）　六七

文部省

令　一　朝鮮教育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程……（五）　一三
告　三四　朝鮮教育令ニ依ル中學校、高等普通學校、師範學校、專門學校ヲ文官任用令ニ依リ認定……（五）　一三

陸軍省　文部省

告　二四一　釜山第一公立商業學校ヲ徴兵令ニ依リ認定……（五）　九二

農商務省

令臨　六　特許登錄令第十三條ノ規定ニ依リ滅失特許原簿回復規則……（二）　一二九
令臨　七　滅失シタル實用新案原簿ノ回復ニ關スル件……（九）　三三
令臨　八　滅失シタル意匠原簿ノ回復ニ關スル件……（一六）　一二四
令臨　九　滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル件……（一六）　一二八

遞信省

令　五七　恩給法附則ニ依ル増額恩給更正規則……（四）　六三
令　九二　年金恩給支給規則……（四）　八五
令　九八　放送用私設無線電話規則……（一七）　九六

朝鮮總督府

令　一二　朝鮮水産會令……（一六）　一二九
令　一四　朝鮮公有水面埋立令……（一六）　一二九
令　二七　朝鮮ト内地、臺灣、樺太又ハ南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件……（一七）　一三一
令　三〇　朝鮮種痘令施行規則……（九）　一四四
令　三一　朝鮮電氣測定令……（一）　一
令　三五　朝鮮感化令……（一二）　一八
令　四三　市街地ノ地價改正ニ關スル件……（一二）　一八
令　四八　朝鮮ト内地、臺灣、樺太又ハ南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件……（一二）　一九
令　五五　朝鮮總督府道消防手給與品及貸與品規則……（一二）　一九
令　六一　約束郵便取扱承認規則……（一二）　一九
令　六三　府尹又ハ面長ノ管掌スル戸籍事務ノ費用負擔ニ關スル件……（一二）　一九
令　六八　朝鮮ト内地、臺灣、樺太又ハ南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件……（一二）　一九
令　七六　朝鮮總督府道消防手給與品及貸與品規則……（一二）　一九
令　八六　朝鮮總督府判任官以上ノ待遇ヲ受ケル屬託員、雇員及傭人外國旅費規程……（二）　二六
令　八七　朝鮮總督府專門學校ヲ文部省令ニ依リ指定……（二）　二六
令　九四　朝鮮總督府判任官以上ノ待遇ヲ受ケル屬託員、雇員及傭人、南洋群島、樺太及臺灣ニ出張ノ場合ノ旅費規程……（二）　二六
令　一〇三　朝鮮公有水面埋立令施行規則……（一）　一
令　一〇八　生活必需品指定……（九）　九八
令　一一〇　恩給法第一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給中朝鮮總督又ハ道知事ノ管掌ニ係ルモノノ裁定……（四）　六五
令　一一二　更正手續……（四）　六五
令　一一三　恩給法第百三條ノ規定ニ依リ裁定又ハ改定スヘキ恩給中朝鮮總督又ハ道知事ノ管掌ニ係ルモノノ裁定……（四）　六五
令　一二二　朝鮮總督府判任官以上ノ待遇ヲ受ケル屬託員、雇員及傭人外國旅費規程……（二）　二六
令　一二三　朝鮮電氣測定令施行期日及附則第二項ノ場合ニ關スル件……（七）　三〇
法　二　朝鮮電氣測定施行規則……（七）　三〇
令　一二五　朝鮮總督ノ管掌ニ係ル恩給ノ與細則……（四）　六三
訓　一五　私立學校教員資格認定……（五）　二三
令　一二八　朝鮮戸籍令施行手續……（四）　七四
訓　一九　警察官署及稅關監視署取扱ニ係ル積荷目錄送付方……（一一）　二三
訓　二四　朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府巡査給與品及貸與品規則取扱手續……（一二）　二三
訓　二七　間島、琿春安東地方ヘ出張スル者ノ旅費ニ關スル件……（一二）　二三
訓　四〇　朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所事務分掌規程……（二）　二三
訓　四二　私立學校教員資格認定委員會規程……（二）　二三
訓　四四　種痘法第八條ニ依ル符號記入方……（九）　一二
訓　五二　司法警察官執務規程……（四）　二四
訓　五五　朝鮮總督府裁判所及檢事局令狀取扱規程……（四）　二四
訓　一三三　看護婦規則ニ依リ看護婦養成所指定……（九）　三四
告　三四　セブランス聯合醫學專門學校ヲ醫師規則ニ依リ指定……（二）　三
告　九三　朝鮮總督府官報ノ發賣並廣告揭載ニ關スル件……（五）　一三
告　九四　敎科用圖書等ノ翻刻及發行ニ關スル件……（二）　三
告　九七　無線電信機ヲ裝置スル電信局所ノ呼出符號……（七）　二七
告　一〇〇　度量衡器販賣價格……（六）　二〇
告　一一一　官立師範學校生徒ノ學資及其ノ支給方法……（五）　一五
告　一一二　朝鮮民曆ノ製造並販賣ニ關スル件……（五）　一五
告　一八四　道界ニ於ケル外濱路ヲ接續スル渡船ノ管理臨指定……（七）　二四
告　一八五　船舶積量測度互認……（九）　二四
告　二三三　朝鮮總督府感化院ノ名稱、位置……（一一）　三六
專公一〇　專賣支局及出張所ノ派出所名稱……（一一）　三六

大正十三年

法律

令　二四　二項ノ場合ニ關スル件……（七）　三〇
令　一二五　朝鮮總督ノ管掌ニ係ル恩給ノ與細則……（四）　六三
令　一二八　朝鮮戸籍令施行手續……（四）　七四
訓　一五　私立學校教員資格認定……（五）　二三
訓　一九　警察官署及稅關監視署取扱ニ係ル積荷目錄送付方……（一一）　二三
訓　二四　朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府巡査給與品及貸與品規則取扱手續……（一二）　二三
訓　二七　間島、琿春安東地方ヘ出張スル者ノ旅費ニ關スル件……（一二）　二三
訓　四〇　朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所事務分掌規程……（二）　二三
訓　四二　私立學校教員資格認定委員會規程……（二）　二三
訓　四四　種痘法第八條ニ依ル符號記入方……（九）　一二
訓　五二　司法警察官執務規程……（四）　二四
訓　五五　朝鮮總督府裁判所及檢事局令狀取扱規程……（四）　二四
訓　一三三　看護婦規則ニ依リ看護婦養成所指定……（九）　三四
告　三四　セブランス聯合醫學專門學校ヲ醫師規則ニ依リ指定……（二）　三
告　九三　朝鮮總督府官報ノ發賣並廣告揭載ニ關スル件……（五）　一三
告　九四　敎科用圖書等ノ翻刻及發行ニ關スル件……（二）　三
告　九七　無線電信機ヲ裝置スル電信局所ノ呼出符號……（七）　二七
告　一〇〇　度量衡器販賣價格……（六）　二〇
告　一一一　官立師範學校生徒ノ學資及其ノ支給方法……（五）　一五
告　一一二　朝鮮民曆ノ製造並販賣ニ關スル件……（五）　一五
告　一八四　道界ニ於ケル外濱路ヲ接續スル渡船ノ管理臨指定……（七）　二四
告　一八五　船舶積量測度互認……（九）　二四
告　二三三　朝鮮總督府感化院ノ名稱、位置……（一一）　三六
專公一〇　專賣支局及出張所ノ派出所名稱……（一一）　三六
法　二　海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ關スル件……（一）　一
法　二四　贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル件……（一）　一

勅令

勅　一六　府尹郡守島司等ノ朝鮮ノ煙草專賣令犯則處分ニ關スル職權ノ件……（一）　一九四
勅　一〇三　朝鮮總督府及所屬官署ノ執務時間……（一）　一三四
勅　一〇四　京城帝國大學官制……（一）　一三四
勅　一〇五　京城帝國大學學部……（一）　一三四
勅　一六八　京城帝國大學ニ關スル件……（九）　五九
勅　一九一　大正十三年法律第二十四號ヲ朝鮮ニ施行スルノ件……（一）　一
勅　一九三　海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ關スル法律ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スル等ノ件……（一四）　二九
勅　二〇二　土耳其國ノ生産ニ係ル物品ノ稅率ニ關スル件……（一）　一〇一

内閣

告　二　恩給法施行令第十七條第一號ニ規定スル勤務……（一）　一
告　二八　内國旅費規則別表ニ定ムル甲地方ノ指定……（一）　一

大藏省

告　二九〇　朝鮮總督府專門學校ヲ文部省令ニ依リ指定……（一）　一

文部省

告　二八　新義州公立商業學校ヲ徴兵令ニ依リ認定……（一）　一

陸軍省

朝鮮總督府

制　二　私立學校用地ノ地稅又ハ市街地稅免除ニ關スル件……（一）　一
制　三　傳染病豫防令中改正……（一）　一
制　五　朝鮮司法代書人令……（一）　一
令　一八　肺ペストマ病豫防ニ關スル件……（九）　五
令　二一　京城帝國大學豫科規程……（一）　一
令　二二　私立學校用地ノ地稅又ハ市街地稅免除ニ關スル施行方ノ件……（一）　一
令　二三　司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍……（一四）　二九
令　三三　朝鮮公有水面埋立令施行規則……（一）　一
令　三六　朝鮮總督府及所屬官署ノ執務時間……（一）　一
令　三七　朝鮮總督府及所屬官署ノ休日……（一）　一
令　四五　染料ノ輸入許可ニ關スル件……（一）　一
令　四六　銃砲火藥類取締令施行規則……（九）　二
令　四七　天災事變ニ因リ租稅ヲ減免セラレタル者ノ納稅義務履行ニ關スル件……（八）　五
令　四八　時事普通其ノ他ノ事項ヲ放送シ又ハ之ヲ聽取スル爲施設スル私設無線電話ニ關スル件……（七）　九
令　五〇　傳染病指定……（九）　三
令　五三　朝鮮戸籍令ニ依ル警察官ノ職務ニ關スル件……（一四）　二九
令　六八　舍監事務ニ從事スル者ノ給スヘキ手當額及支給方法ニ關スル件……（二）　一
令　七七　朝鮮公有水面埋立令ニ依リ朝鮮總督ノ權限ニ屬スル事項中地方長官ヲシテ行ハシムルノ件……（一〇）　四
令　七九　稅關管轄區域……（一）　一
令　八六　奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄職員定員……（一）　一
令　八〇　稅關支署ノ名稱位置及管轄區域……（一）　一
令　一　朝鮮總督府警察禮式……（一）　一
訓　四　警察官操典……（一）　一
訓　九　恩給法施行令第十六條等ノ加算ヲ爲スヘキ者ノ取扱方ノ件……（四）　六
訓　一二　巡査宿舍料支給ニ關スル土地ノ等級……（二）　一
訓　一八　朝鮮總督府遞信官署現業員共濟組合財産管理規程……（四）　一九
訓　二七　銃砲火藥類取締ニ關スル取扱手續……（九）　一二六
訓　五八　内務局土木出張所屬船遞信局海事出張所所屬船警察官署所屬船及稅關所屬船相互使用ノ件……（七）　二四
告　六〇　林野臺帳規則ニ依リ林野圖ヲ以テ地籍ト看做ス地域……（一〇）　四
告　一〇二　傳染病豫防令中改正……（一）　一
告　一二〇　京城帝國大學豫科ノ位置……（一）　一
告　一六一　林野臺帳規則ニ依リテ林野ニ關スル事務ヲ取扱フ府郡島……（一〇）　五
告　一七五　郵便物特殊取扱ノ範圍……（七）　九

染料輸入制限ニ關スル該當番號及品名……（一）
産婆規則及看護婦規則ニ依ル産婆看護婦養成所ノ指定……（九）
暴風雨標竝暴風警報信號所及其ノ揭揚スル信號ノ種類……（一五）
水底電線路區域……（一七）
地稅又ハ市街地稅免除ノ私立學校指定……（一）
土地臺帳規則ニ依リ土地ニ關スル事務ヲ取扱フ地域……（一）
水產品檢查所ノ名稱及位置……（一七）
通信日附印省略ノ件……（一七）

大正十四年

法律

船舶無線電信施設法……（一七）
大藏省預金部特別會計法……（一一）
朝鮮鐵道用品資金會計法……（一一）
朝鮮醫院及濟生院特別會計法廢止ノ件……（一一）
預金部預金法……（一一）
治安維持法……（九）
關東州ノ生產ニ係ル物品ノ輸入稅免除……（一一）

條約

萬國郵便條約及最終議定書……（六）
價格表記書狀及箱物ニ關スル約定竝最終議定書……（六）
小包郵便物ニ關スル約定及最終議定書……（六）
郵便爲替ニ關スル約定……（六）
郵便振替ニ關スル約定及最終議定書……（六）

勅令

大正十四年國勢調查施行令……（五）
朝鮮鐵道用品資金會計規則……（一一）
大藏省預金部特別會計規則……（一一）
預金部資金運用規則……（一一）
鹽澤品等ノ輸入稅ニ關スル件中貴石、半貴石又ハ琥珀ノ輸入稅一部免除ニ關スル件……（一一）
朝鮮總督府鐵道局官制……（一一）
朝鮮道立醫院官制……（一一）
朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令……（一）
朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令第一條又ハ第四條ノ規定ニ依リ朝鮮總督府鐵道局ノ參事又ハ副參事ニ任用セラルル者ノ官等ニ關スル件……（一五）
朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令合ニ關スル件……（一四）
朝鮮總督府鐵道局現業員ノ共濟組合ニ關スル件……（一四）
陸軍現役將校學校配屬令……（一四）
治安維持法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（九）
朝鮮史編修會官制……（二）
大正十四年法律第五十一號ニ依ル生產品ノ製產原地證明ニ關スル件……（一一）
文部大臣所轄外ノ學校ニ陸軍現役將校ヲ配屬スルノ件……（一五）
關東州ノ生產ニ係ル物品ノ輸入稅免除ニ關スル法律ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（一一）
朝鮮陸接國境地方警備スル朝鮮總督府及所屬官署ノ職員又ハ遺族ニ一時金ヲ給スルノ件……（一一）
朝鮮神宮職員令……（一）
朝鮮總督府巡查ノ給與ニ關スル件……（一）
朝鮮神宮改稱……（一）
官幣大社朝鮮神宮鎭座祭及例祭日……（七）
朝鮮總督府鐵道官署現金受拂規則……（一一）
朝鮮總督府鐵道從事員養成所規程……（一一）
道立醫院規程……（一一）
消防署ノ名稱、位置及管轄區域ニ關スル件……（一）
京城府ニ於ケル京畿道地方費負擔ニ關スル件……（八）
朝鮮總督府觀測所ノ名稱及位置……（一一）
朝鮮總督府鐵道局現業員共濟組合規則……（四）
平安北道地方費ハ普通學校ヲ設立シ得ルノ件……（八）
染料輸入制限ニ關スル該當番號及品名……（一）
產婆規則及看護婦規則ニ依ル產婆看護婦養成所ノ指定……（九）
暴風雨標竝暴風警報信號所及其ノ揭揚スル信號ノ種類……（一五）
水底電線路區域……（一七）
地稅又ハ市街地稅免除ノ私立學校指定……（一）
土地臺帳規則ニ依リ土地ニ關スル事務ヲ取扱フ地域……（一）
水產品檢查所ノ名稱及位置……（一七）
通信日附印省略ノ件……（一七）

法律

船舶無線電信施設法……（一七）
大藏省預金部特別會計法……（一一）
朝鮮鐵道用品資金會計法……（一一）
朝鮮醫院及濟生院特別會計法廢止ノ件……（一一）
預金部預金法……（一一）
治安維持法……（九）
關東州ノ生產ニ係ル物品ノ輸入稅免除……（一一）

條約

萬國郵便條約及最終議定書……（六）
價格表記書狀及箱物ニ關スル約定竝最終議定書……（六）
小包郵便物ニ關スル約定及最終議定書……（六）
郵便爲替ニ關スル約定……（六）
郵便振替ニ關スル約定及最終議定書……（六）

勅令

大正十四年國勢調查施行令……（五）
朝鮮鐵道用品資金會計規則……（一一）
大藏省預金部特別會計規則……（一一）
預金部資金運用規則……（一一）
鹽澤品等ノ輸入稅ニ關スル件中貴石、半貴石又ハ琥珀ノ輸入稅一部免除ニ關スル件……（一一）
朝鮮總督府鐵道局官制……（一一）
朝鮮道立醫院官制……（一一）
朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令……（一）
朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令第一條又ハ第四條ノ規定ニ依リ朝鮮總督府鐵道局ノ參事又ハ副參事ニ任用セラルル者ノ官等ニ關スル件……（一五）
朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令合ニ關スル件……（一四）
朝鮮總督府鐵道局現業員ノ共濟組合ニ關スル件……（一四）
陸軍現役將校學校配屬令……（一四）
治安維持法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（九）
朝鮮史編修會官制……（二）
大正十四年法律第五十一號ニ依ル生產品ノ製產原地證明ニ關スル件……（一一）
文部大臣所轄外ノ學校ニ陸軍現役將校ヲ配屬スルノ件……（一五）
關東州ノ生產ニ係ル物品ノ輸入稅免除ニ關スル法律ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（一一）
朝鮮陸接國境地方警備スル朝鮮總督府及所屬官署ノ職員又ハ遺族ニ一時金ヲ給スルノ件……（一一）
朝鮮神宮職員令……（一）
朝鮮總督府巡查ノ給與ニ關スル件……（一）
朝鮮神宮改稱……（一）
官幣大社朝鮮神宮鎭座祭及例祭日……（七）
朝鮮總督府鐵道官署現金受拂規則……（一一）
朝鮮總督府鐵道從事員養成所規程……（一一）
道立醫院規程……（一一）
消防署ノ名稱、位置及管轄區域ニ關スル件……（一）
京城府ニ於ケル京畿道地方費負擔ニ關スル件……（八）
朝鮮總督府觀測所ノ名稱及位置……（一一）
朝鮮總督府鐵道局現業員共濟組合規則……（四）
平安北道地方費ハ普通學校ヲ設立シ得ルノ件……（八）

内閣

朝鮮神宮改稱……（一）
官幣大社朝鮮神宮鎭座祭及例祭日……（七）

大藏省

預金部預金法附則第四項ニ依リ預金部預金ヲ郵便貯金ニ振替ノ件……（一一）

陸軍省

陸軍常備團隊配備表……（八）
憲兵隊管區……（二）
陸軍現役將校配屬學校教練查閱規程……（一五）

文部省

專門學校入學者檢定規定ニ依ル資格指定……（一五）
朝鮮總督府鐵道從事員養成所ヲ文官任用令ニ依リ認定……（一五）

遞信省

外國郵便爲替規則……（一七）
佛領印度支那西貢ニ航行スル日本船舶ノ檢查ニ關スル件……（一七）
佛領印度西貢ニ航行スル日本船舶ノ檢查ニ關スル件……（一七）
萬國郵便條約ノ施行規則……（六）
價格表記書狀及箱物ニ關スル約定施行規則……（六）
小包郵便物ニ關スル約定施行規則……（六）
郵便爲替ニ關スル約定施行規則……（六）
郵便振替ニ關スル約定施行規則……（六）

朝鮮總督府

鹽澤品等ノ輸入稅ニ關スル件中貴石、半貴石又ハ琥珀ノ輸入稅一部免除ニ關スル件……（一一）
朝鮮司法代書人令施行規則……（一三）
朝鮮總督府內務局出張所名稱及位置……（二）
朝鮮總督府行政講習所規程廢止……（二）
朝鮮總督府鐵道官署現金受拂規則……（一一）
朝鮮總督府鐵道從事員養成所規程……（一一）
道立醫院規程……（一一）
消防署ノ名稱、位置及管轄區域ニ關スル件……（二）
京城府ニ於ケル京畿道地方費負擔ニ關スル件……（八）
朝鮮總督府觀測所ノ名稱及位置……（一一）
朝鮮總督府鐵道局現業員共濟組合規則……（四）

港灣其ノ他公共ノ用ニ供スル水面竝其ノ敷地ノ取締ニ關スル件……（一〇）
專門學校入學者檢定規程……（一五）
朝鮮總督府鐵道局職員旅費規則……（一一）
朝鮮船舶職員試驗規則……（一七）
測候所規程……（一五）
官立師範學校ニ於テ學資ノ一部ノ支給ヲ受ケタル卒業者及修了者ノ服務期間……（一五）
簡易國勢調查ニ關スル件……（五）
簡易國勢調查特別地域施行令……（五）
人蔘耕作奬勵規則……（一一）
植桑奬勵補助規則……（一一）
畜牛ノ移出ニ關スル件……（九）
移出牛檢疫規則……（九）
原動機取締規則……（九）
官幣大社朝鮮神宮神職俸給規則……（七）
國境地方警備職員及遺族一時金給與規定……（四）
外國電信爲替ヲ取扱フ郵便局所ニ關スル件……（七）
電報規則……（七）
新聞電報認可規則……（七）
無線電報規則……（七）
官幣大社朝鮮神宮神職服裝規則……（三）
官立師範學校ニ於テ學資ノ一部ノ支給ヲ受ケタル卒業者及修了者ノ服務期間……（一五）
簡易國勢調查ニ關スル件……（五）
簡易國勢調查特別地域施行令……（五）
人蔘耕作奬勵規則……（一一）
植桑奬勵補助規則……（一一）
畜牛ノ移出ニ關スル件……（九）
移出牛檢疫規則……（九）
原動機取締規則……（九）
官幣大社朝鮮神宮神職俸給規則……（七）
國境地方警備職員及遺族一時金給與規定……（四）
外國電信爲替ヲ取扱フ郵便局所ニ關スル件……（七）
電報規則……（七）
新聞電報認可規則……（七）
無線電報規則……（七）
官幣大社朝鮮神宮神職服裝規則……（三）
朝鮮總督府鐵道局鐵道手任用及給與規程……（二）
朝鮮總督府巡查及朝鮮總督府道巡查採用規則……（二）
官幣大社朝鮮神宮祭式……（七）
船舶職員ノ代用海技免狀使用ノ特例ニ關スル件……（七）
朝鮮ニ於ケル憲兵ノ行政警察及司法警察ニ關スル服務規程……（二）
鮮滿鐵道聯絡輸送貨物通關手續……（一）
朝鮮總督府鐵道局事務分掌規程……（一）
朝鮮總督府鐵道局會計事務章程……（一）
朝鮮總督府鐵道局物品事務規程……（一）
朝鮮總督府鐵道局屬員以下ノ現業員ノ宿舍料支給ノ件……（一）
京畿道消防手配置及勤務規程……（二）

京畿道消防手部長ニ關スル件……（一）
朝鮮總督府減額旅費規程……（一五）
朝鮮總督府鐵道局出納官吏及出納員ニ於テ手許ニ保管シ得ヘキ金額ノ件……（一一）
朝鮮總督府鐵道局勤勉手當支給規則……（一一）
朝鮮總督府鐵道局現業員共濟組合規則……（一一）
朝鮮第三條第四項ノ規定ニ依ル現業員ノ範圍……（一）
朝鮮阿片取締令取扱手續……（一）
原動機取締規則取扱手續……（一）
原動機檢查吏員及朝鮮總督府巡查及朝鮮總督府道巡查採用手續……（一）
金融組合理事服務及懲戒規程……（一）
金融組合聯合會理事長及理事服務及懲戒規程……（一）
大正十四年勅令第三百三號施行ニ關スル件……（一）
大正十四年朝鮮總督府令第四十六號ニ依リ指定港灣……（一〇）
京城醫科醫學校ヲ醫科醫師規則ニ依リ指定……（一五）
藥品及藥品營業取締令施行規則ニ依リ學校指定……（一五）
朝鮮總督府鐵道局ノ業務ニ關シ南滿洲鐵道株式會社京城鐵道局諸規定準用ノ件……（一七）
朝鮮總督府鐵道局出張所、運輸事務所及工務事務所ノ名稱、位置及所管區域……（二）
朝鮮總督府鐵道局工場ノ名稱及位置……（二）
朝鮮總督府鐵道局鐵道手ノ定員……（二）
朝鮮總督府鐵道局鐵道手ノ定員ニ關スル件……（二）
朝鮮總督府鐵道局事務章程……（一）
朝鮮總督府鐵道局會計事務章程……（一）
朝鮮總督府鐵道局物品事務規程……（一）
朝鮮總督府鐵道局屬員以下ノ現業員ノ宿舍料支給ノ件……（一）
京畿道消防手配置及勤務規程……（二）

告三四四　朝鮮阿片取締令第十七條ノ規定ニ依リ同令第四條第二項ノ規定ニ依ル「モルヒネ」含量ノ度及製藥用阿片ノ價格……（九）　三〇
專公　五　專賣支局ノ直轄出張所及派出所ノ管轄區域……（二）　三八
專公　九　朝鮮總督府專賣局出張所ノ派出所名稱、位置……（二）　三六

大正十五年

法律

法　四九　製鐵業奬勵法……（一六）　一二九
法　五一　民事訴訟法中改正……（一四）　一二四
法　六二　民事訴訟法中改正法律施行法……（一四）　一二九
法　六三　民事訴訟費用法中改正……（一四）　一三〇
法　六四　民事訴訟用印紙法中改正……（一四）　一三八
法　六五　商事非訟事件手續法中改正……（一四）　一四九
法　六六　人事訴訟手續法中改正……（一四）　一四九
法　六七　非訟事件手續法中改正……（一四）　一五〇
法　六八　競賣法中改正……（一四）　一五一
法　六九　民法中改正……（一四）　一五二
法　七〇　破產法中改正……（一四）　一五四
法　七一　外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル件中改正……（一四）　一五二
法　七二　刑事訴訟法中改正……（一四）　一五二

勅令

勅　二八　隆熙三年勅令第六十八號ニ依リ恩給ヲ受クル者ノ恩給增給及隆熙三年勅令第六十八號施行ノ際休職ト爲リタル舊韓國將校同相當官ニシテ休職期間滿了ニ因リ現役ヲ退キタル者ノ扶助金給與ニ關スル件……（四）　八四
勅　四七　京城帝國大學各部ニ於ケル講座及其ノ數……（二）　五八
勅　五一　京城帝國大學高等官俸給令……（二）　五八
勅　五三　京城帝國大學事務官、京城帝國大學司書官及京城帝國大學司書特別任用令……（二）　一八四
勅　五八　製鐵業奬勵法施行令……（一六）　一三九
勅　五九　製鐵業奬勵法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件……（一六）　一三九

大藏省

令　五　歲入徵收官ノ歲入金月計突合表證明ニ關スル件……（一）　二八

陸軍部省

告　三　京城公立商業學校ヲ徵兵令ニ依リ認定……（五）　九二
告　二七　裡里農林學校等徵兵令ニ依リ認定……（五）　九二
告　三一　仁川公立商業學校ヲ徵兵令ニ依リ認定……（五）　九二

朝鮮總督府

制　一　朝鮮農會令……（一）　二
制　二　朝鮮產業組合令……（一）　二
制　六　朝鮮度量衡令……（一）　九六
制　七　朝鮮特別緣故森林讓與令……（一）　一〇二
制　一　官幣大社朝鮮神宮神職齋戒ニ關スル件……（一）　一〇五
令　三　朝鮮農會令施行規則……（一）　一九五
令　四　朝鮮產業組合令施行規則……（一）　二一
令　七　佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ檢查ニ關スル件……（一）　二一四
令　八　佛蘭西國船舶ノ檢查ニ關スル件……（一）　二一四
令　一六　朝鮮產業組合登記取扱規則……（一）　二一四
令　二三　官幣大社朝鮮神宮會計規則……（一）　二一四
令　二四　青島鹽輸入手續……（一）　二一四
令　二五　朝鮮度量衡令施行規則……（一）　二一四
令　二九　官幣大社朝鮮神宮職員旅費規則……（一）　二一五
令　三〇　大學規程……（一）　二一五
令　三一　京城帝國大學法文學部ニ法律學科、政治學科、哲學科、史學科及文學科設置……（一）　二一五
令　三二　關稅定率法第七條第十條ニ依ルコトヲ得ヘキ私立學校……（一）　二一五
令　三三　朝鮮度量衡令施行規則第三十四條ニ依リ道知事ヲシテ檢定ヲ行ハシムル度量衡……（一）　二一五
令　三六　關稅定率法第九條施行ニ關スル件……（一）　二一五
令　三七　關稅定率法第十條施行ニ關スル件……（一）　二一五
令　四三　度量衡器及計量器構造規則……（一）　二一五
令　四四　官幣大社朝鮮神宮出仕ニ關スル件……（一）　二一五
令　四五　製鐵業奬勵法施行規則……（一）　二一五
令　四六　大正十五年制令第八號附則第三項ノ規定ニ依リ採掘ヲ繼續スルコトヲ得ル土地ニ付同附則第四項ノ規定ニ依ル出願手續……（一）　二一五
訓　一　官幣大社朝鮮神宮ニ於テ恒例トシテ行フ式及其ノ式次第竝遙拜詞、祓物及大祓詞ノ格例……（一）　二一五
訓　三　警務沿革史ニ關スル件……（一）　二一五
訓　一一　官幣大社朝鮮神宮處務規程……（一）　二一五
訓　一二　司法警察事務報告ニ關スル件……（一）　二一五
訓　一五　陸軍現役將校ノ郵屬ヲ受ケタル學校ノ教練教授要目……（一）　二一五
告　一〇　電話ニ依ル火災報知ニ關スル件……（一）　二一五
告　一九　佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ニ關スル注意事項……（一）　二一五
告　六〇　朝鮮神宮ニ於テ行ハルル祈年祭期日……（一）　二一五
告　六六　青島鹽ノ日本向臨時輸出ニ關スル日支協定……（一）　二一五
告　一一八　道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル渡船ノ管理廳指定……（一）　二一五
告　一二八　關稅定率法第七條第十號及大正九年法律第五十三號第八條ノ規定ニ依ル申請書提出ノ件……（一）　二一五

大正十五年十月四日印刷
大正十五年十月六日發行

朝鮮總督府

定價金貳拾八圓

朝鮮法令輯覽

發行所　東京市京橋區加賀町九番地　帝國地方行政學會
京城府太平通二丁目四十四番地　同朝鮮本部

發行者　株式會社帝國地方行政學會代表者　大谷仁兵衞　東京市京橋區加賀町九番地
印刷者　井田耕治　東京市京橋區加賀町九番地
印刷所　行政學會印刷所　東京府荏原郡平塚村戸越五百五番地

F#14-6